

平成18年度版

自己点検・評価報告書

平成19年3月

東海女子短期大学

はじめに

本学の設立者である神谷学園は昭和20年に創立され、岐阜高等服飾女学校として女子教育を志してきたが、社会のニーズに応え、昭和38年に岐阜県下最初の私立女子短期大学として本学を設立した。設立以来、建学の精神として「国際的視野を備え、社会性、創造性および行動力豊かな女性の育成」を基に44年を経過し、3万人を越す卒業生を教育し社会に送り出してきた。その間建学の精神を基に改革に改革を重ね、1981年には4年制大学を設立し、国際化時代をいち早く察知して神谷みゑ子学園長は海外の五つの大学と姉妹提携の盟約を結ぶにとどまらず、イギリス・ケンブリッジに語学専門学校を設立しています。本学は学園本部、東海学院大学、同大学院、第1および第2幼稚園、英国・ケンブリッジ校の7つの機関を擁し、相互に連携を強めてきている。

本学は学齢期人口の減少に伴い短期大学としての意義、役割、その方向性を絶えず検討してきたが1999年に第1回、2003年に第2回の「自己点検評価報告書」を刊行して自らの位置を確認し、進めてきたところである。今回の自己点検・評価報告書は自己点検評価委員会を開催し、私立短期大学協会・短期大学評価機構が示す10の評価領域、32の点検項目に沿って会議を重ね、点検評価を行ったものである。また教員の研究業績評価については2000年に研究業績集をまとめて刊行しているが、その後の研究業績については毎年刊行される「東海女子短期大学紀要」の巻末に一括掲載している。授業評価については平成14年以来、毎年、学生による「授業評価アンケート」を実施し、教員各位の授業改善に役立てている。またそれを基に第1回のFD委員会を開催し、今後の課題としている。これを基礎に、研究・教育・地域貢献について改革を進めてゆく計画である。

本学の運営に関してはこれら点検評価を基に教授会は学園本部の改革委員会と連携し、評議員会、理事会と緊密に連携しながら進めている。入試・広報センターやオープンキャンパスでの模擬授業を通じて高校生のダイレクトな評価を受け、生涯学習センターでの講義や実習を通じて地域社会や社会人からの高い評価をうけている。そうしたことから現在の本学の教育・研究は学生のみならず、社会人や行政からも格別な評価を受けているのである。社会性や地域貢献について本学は「あそびの森」事業に力を入れ、評価されているのもそのひとつであった。

今回 自己点検評価報告書をまとめるにあたり、理事長、事務局長、ALOの辻教学部長をはじめ、各学科の自己点検評価委員の皆さんに対して深甚なる感謝の意を表するものである。

東海女子短期大学
学長 杉山道雄

目 次

はじめに

| | |
|-------------------------|-------|
| 東海女子短期大学の特色等 | P 1 |
| I. 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標 | P 7 |
| II. 教育の内容 | P 16 |
| III. 教育の実施体制 | P 72 |
| IV. 教育目標の達成度と教育の効果 | P 104 |
| V. 学生支援 | P 133 |
| VI. 研究 | P 154 |
| VII. 社会的活動 | P 159 |
| VIII. 管理運営 | P 170 |
| IX. 財務 | P 187 |
| X. 改革・改善 | P 192 |
| 外部評価 | P 194 |

東海女子短期大学の特色等

(1) 学校法人神谷学園の沿革の概要及び東海女子短期大学の概要

本学の前身は、昭和20年開校の岐阜服装学院が、財団法人岐阜洋裁専門学院となり、本科及び研究科をもつことから始まり、36年学校法人神谷学園（理事長・神谷一三）となり、38年県内初の私学高等教育機関として、東海女子短期大学が認可された。その後学科・専攻の拡大・充実に努めて現在 4学科・2専攻・4コース・1専攻科福祉専攻、定員380名となった。この経過の概要は次の通りである。

- S. 38.1 東海女子短期大学の設立認可、家政科（入学定員50人）設置、初代学長神谷みゑ子が就任した。
- 39.1 家政科第2部（入学定員50人）増設認可される。
- 39.2 家政科第1部・第2部は中学教諭2級普通免許状（家庭）取得課程として認定された。
- 39.3 家政科第1部を被服選修（30人）、食物選修（20人）に分離した。食物選修課程が栄養士養成施設として指定された。
- 40.1 被服選修を被服課程、食物選修を食物課程に名称変更し、家政科1部（入学定員50人）を被服課程（30人→45人）、食物課程（20人→35人）とする定員増が認可された。
- 41.1 被服課程（45人→50人）、食物課程（35人→130人 栄養士100人・食物30人）の定員増が認可された。
- 英文科第1部・第2部及び初等教育科（各50人）の設置が認可された。
- 41.3 英文科第1部・第2部は中学教諭2級普通免許状、初等教育科は小学校及び幼稚園教諭2級普通免許状取得課程として認定された。
- 初等教育科が保母養成学校に認定された。
- 42.1 被服課程（50人→70人）、初等教育科（50人→80人）の定員増が認可された。
- 42.12 学科・専攻課程名及び学生定員を昭和43年4月1日より次のように変更許可。
- | 学科 | 旧専攻課程名 | 新専攻課程名 | 旧定員 | 新定員 |
|-------|--------|--------|-----|-----|
| 家政科1部 | 被服課程 | 被服専攻 | 50 | 50 |
| | 栄養士課程 | 食物栄養専攻 | 100 | 100 |
| | 食物課程 | 家政専攻 | 30 | 30 |
| 初等教育科 | | | 80 | 130 |
- 43.7 家政科1部・2部、英文科1部・2部及び初等教育科は司書教諭資格取得課程として認可された。
- 44.9 家政専攻を生活デザイン専攻へ名称変更するのが認可された。
- 47.3 東海女子短期大学附属東海第一幼稚園の設立が認可された。
- 48.1 初等教育科の児童教育学科への名称変更、及び初等教育専攻（100人）、幼児教育専攻（50人）とする専攻分離、定員増が認可された。
- 48.2 司書の科目の単位が司書講習の担当科目の単位として許可された。

- 49.1 初等教育専攻は小学校教諭2級・幼稚園教諭2級の各普通免許状、幼児教育専攻は幼稚園教諭2級普通免許状取得課程として認可された。
- 50.4 海外語学研修校として東海女子短期大学ケンブリッジ校を開設した。
- 51.3 英文科第2部の廃止が認可された。
- 53.2 東海女子短期大学附属東海第二幼稚園の設立が認可された。
- 57.1 英文学科（50人→100人）、児童教育学科（100人→150人）の定員増が認可された。
- 59.7 軽井沢研修会館が竣工した。
- 59.12 家政学科第2部の廃止が認可された。
- 60.12 期間を付して入学定員220人の増加（英文学科100、被服専攻50、食物栄養専攻50、生活デザイン20）が認可された。（平成12年3月まで）
- 61.1 栄養士養成施設の学生の定員（100人→150人）の変更が承認された。
- H.2.12 幼児教育専攻の定員（50人→100人）の定員増が認可された。
- 4.9 ホッケー場が完成した。
- 6.3 総合図書館（東海情報コミュニケーションライブラリー）が竣工した。
- 7.4 二代理事長に神谷哲郎が就任した。
- 7.10 初代学園長に神谷みゆ子が就任した。
二代学長に上野良光が就任した。
- 9.6 情報館が竣工した。
- 10.10 三代学長に高野卓哉が就任した。
- 11.4 昭和60.12.25に許可された入学定員のうち英文学科100人の定員減が認可された。
- 11.11 家政学科被服専攻を平成12年4月1日より生活学科衣生活専攻に名称変更することを許可された。
- 11.12 学科・専攻課程名及び学生定員を平成12年4月1日より次のように変更許可。
- | 学科 | 専攻課程 | 入学定員 | 収容定員 |
|------|--------|------|------|
| 生活学科 | 衣生活専攻 | 60 | 120 |
| | 住生活専攻 | 40 | 80 |
| | 食物栄養専攻 | 100 | 200 |
- 生活デザイン専攻は、平成12年4月1日募集停止。
- 11.12 生活科学専攻科が、入学定員30名、修業年限1年、平成12年4月1日に開設認可された。
- 11.12 期間を付した入学定員を次のように変更認可された。
- | 生活学科 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16年度 |
|--------|----|----|----|----|------|
| 住生活専攻 | 20 | 16 | 10 | 5 | 0 |
| 食物栄養専攻 | 28 | 20 | 14 | 7 | 0 |
- 変更年次 第1年次
変更時期 平成12年4月1日
- 12.12 人間福祉学科、入学定員80名、平成13年4月1日開設認可。
学科及び学生定員を次のように変更する。

| | | 入学定員 | 収容定員 |
|-------|--|-------|------|
| | 英文学科 | 90 | 180 |
| | 児童教育学科 初等教育専攻 | 80 | 160 |
| | 変更年次 第1年次 | | |
| | 変更時期 平成13年4月1日 | | |
| 13.2 | 英文学科を平成13年4月1日よりコミュニケーション学科に名称変更することを許可された。 | | |
| 13.3 | 人間福祉学科が介護福祉士養成施設に指定された。 | | |
| 13.4 | 四代学長に大森正英が就任した。 | | |
| 13.4 | 第1寮をスポーツ寮に変更。 | | |
| 14.4 | 生活学科衣生活専攻・住生活専攻を募集停止。生活学科食物栄養専攻を食物栄養学科に名称変更、生活学科の臨定廃止。 | | |
| 14.4 | 第2寮をスポーツ寮に変更。 | | |
| 14.12 | 専攻科福祉専攻、入学定員30名、修業年限1年、平成15年4月1日開設認可。 | | |
| 15.3 | 生活科学専攻科を廃止。 | | |
| 15.3 | 専攻科福祉専攻が介護福祉養成施設に指定された。 | | |
| 15.4 | 第3寮をスポーツ寮に変更。 | | |
| 15.6 | 保健室の移転に伴い増床及びリニューアルされる。 | | |
| 16.1 | 食物栄養学科、コミュニケーション学科、児童教育学科初等教育専攻の入学定員を平成16年4月より次のように変更することが許可された。 | | |
| | | 入学定員 | 収容定員 |
| | 食物栄養専攻 | 100 → | 80 |
| | コミュニケーション学科 | 90 → | 70 |
| | 児童教育学科 初等教育専攻 | 80 → | 50 |
| 16.7 | 5号館1階の学生食堂が「カフェテリアTOKAI」としてリニューアルされる。 | | |
| 16.10 | 7号館1階に学習支援室が設置された。 | | |
| 16.11 | 7号館5階に保育実習室「あそびの森」が竣工。 | | |
| 17.3 | 校舎のバリアフリー工事が完了した。 | | |
| | 1号館の外壁塗装工事が完了した。 | | |
| 17.4 | 食物栄養学科が栄養教諭二種免許状の取得可能な課程として認定される。 | | |
| 18.3 | 1号館1階男子トイレ及び7号館1階男子・女子トイレのバリアフリー工事が完了した。 | | |
| 18.4 | 人間福祉学科を介護福祉学科に名称変更した。 | | |
| 18.4 | 五代学長に杉山道雄が就任した。 | | |

この間の特筆すべき事項として、現理事長神谷哲郎の努力により英国教育科学省（当時）の認可を受け、英国ケンブリッジ市郊外に、語学研修校 Cambridge Academy of English を開設したことである。以降研修留学生在が派遣され、帰国後は語学力を生かして社会に貢献する人材として活躍し、その他45年以降に米国6大学との姉妹校盟約も

あり、国際交流の実績を積んでいる。また44年から学内奨学生制度がスタートし、学業・人物の優秀者やスポーツ・音楽及び美術等に特技・特芸を持つ者の入学があり、各クラブでの中心的存在として活躍し、中でも平成3.4年の全日本学生2連覇のバドミントン、平成5年から7年にかけて全日本及び大学王座優勝のホッケー両部を頂点として西日本学生・東海学生選手権での優勝実績を持つバレー、ソフトテニス、ソフトボール、スキー部を支援している。

東海情報コミュニケーション ライブラリー・情報館の2施設が竣工し、短大・大学の共用施設として、前者は図書館本来の機能に、「集う・語らう」を併せて多目的に利用できる最適空間であり、短大・四大の開催する地域への公開講座の会場としても利用され、後者はAVホール・インターネット アクセスブース・マルチメディア スタディールームに最新機器を設置して授業以外にも気楽に利用できる施設として多くの利用者を迎え、両者は回線で結ばれ文献検索を可能としている。

(2) 東海女子短期大学の所在地及び周囲

(1) 所在地

岐阜県各務原市那加桐野町2丁目 〒504-8504

TEL : 058-382-1148

FAX : 058-383-5455



(2) 位置・地勢

岐阜県各務原市は岐阜県の南部、濃尾平野の北部に位置し、南に木曾川が東西に愛知県との境となって流れる。北部と東部は、関市、加茂郡坂祝町、西は岐阜市、南西部は羽島郡笠松町、岐南町に隣接し、平成16年11月1日に羽島郡川島町と合併し、新各務原市が誕生した。

同市は、東海北陸自動車道・岐阜各務原インターから全国の高速自動車道へアクセスでき、市内にはJR高山線と名鉄各務原線、合わせて16の駅があり、それらは市電的性格をもっている。名古屋まで電車で30分、新幹線羽島駅まで車で20分、県庁まで20分という便利さである。

本学は各務原市の最西端に位置し、岐阜市には極めて近く、岐阜駅から8km（路線バスで20分）の場所に所在する。

(3) 産業・人口

各務原市の産業構造は、日本最古の飛行場（自衛隊岐阜基地）の由来から、航空機や自動車など輸送用機器の製造が中心の工業が盛んであるが、市内のあちこちに個性豊かな商店街が息づいている。

総人口は、約150,000人、世帯数約54,000世帯で、その内、外国人人口が4,200人、世帯数が約2,300を占め、地方の小都市をしては、国際化が進んでいる。

(4) 入学定員・収容定員及び学科の過去7年間（平成12年から18年）の改廃状況、入学者数、定員充足率

別表参照。

(5) 学生の出身地別人数及び割合（平成16年度から18年度）

別表参照。

I 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

(評価項目1) 建学の精神・教育理念

(1) 建学の精神

本学の建学の精神は、昭和38年当短期大学設立時から現在まで終始一貫して「広く国際的な視野に立つ社会性、創造性と行動力豊かな女性の育成」と明確に示されている。この建学の精神は、教育組織などが改組転換(p. 4～6)されながらも脈々と継承され、本学の女子教育の根幹理念となっている。

本学の建学の精神は、日本女性の高等教育確立に情熱を抱かれた本学の創始者である元 学園長 神谷みゑ子氏および元 理事長 神谷一三氏によって提唱されたものである。特に、神谷みゑ子氏は、本学設立前の昭和34年（当時の日本においては、海外旅行は一般的でなく、ごく限られた人しか出かけられなかった時代である）に、ヨーロッパ8ヶ国をいち早く研修され、その折、ヨーロッパ諸国の女性が男性と対等に生き活きと活躍している様に驚愕・感嘆するとともに、当時の日本人、特に日本女性の国際観や語学力の低さを痛感された。帰国後、元 理事長 神谷一三氏とともに、今後の教育の理想像についてさらなる研鑽を積まれた。そして、両氏は、日本が世界のリーダー国として活躍・発展するには、女性が国際的視野に立った思考力を持ち、かつ豊かな社会性および創造性を身につけた行動ができるような資質を養う事を教育理念とした高等教育機関設立が急務であることを確信され、当時の関係省庁に理解を求めながら、「広く国際的な視野に立つ社会性、創造性と行動力豊かな女性の育成」を建学の精神とした当短期大学の創立を成就された。

(2) 教育理念

上記(1)の建学の精神は、高等教育機関において次代の日本の発展を担う女性達に国際的視野に立った豊かな感性を育成することが必須であるとの崇高な理念の基に確立されている。一方、高等教育機関は、実社会のニーズに即した人材を育成することのほか、個々の学生の興味、個性、期待に適応した環境を整備・充実するという責務も担っている。

当短期大学は、建学の精神および実社会の多様なニーズに応えられる確固とした即戦力を身につけ、心豊かで知性と気品あふれる資質豊かな女性を育成することを教育の理念として明確化している。

すなわち、当短期大学では建学の精神を教育の根幹理念としながら沿革に記載のごとく時代のニーズに沿った改組を実施しながら、昭和50年には英国ケンブリッジに現理事長神谷哲郎氏の尽力によって英国教育科学省認可の語学研修校 Cambridge Academy of English (CAE) を開設、さらに最新の情報設備・機器の整備、4年制大学の併設などで、学生が個々の興味を活かしながら高い専門的知識を修得し時代のニーズに即した資格取得が出来るような環境を整えている。これによって、実社会から求められている即戦力を身につけ、心豊かで知性と気品高い女性を育成するという本学の教育理念が、学生たちの資質として確立されると考える。現在は、4学科2専攻

（食物栄養学科、コミュニケーション学科、児童教育学科初等教育専攻および幼児教育専攻、介護福祉学科（平成16年度までは人間福祉学科））および1専攻科（専攻科福祉専攻）を設置している。

なお、本学では「建学の精神」の主旨を教育に反映させるために、CAEでの海外留学・研修などを積極的に実施している。さらに、本学の開講科目中に、語学系学問を専門としない学科・専攻には外国語科目領域で“英会話研修Ⅰ”・“英会話研修Ⅱ”・“英会話研修Ⅲ”を選択科目として開講している。なお、CAE等の研修は、本学の留学生委員会とCAEの協議のもと設定されたカリキュラムを所定の期間履修し評価を受けるものである。これら各研修で取得した単位は、研修終了後、研修等の内容および評価を勘案しながら規定に沿って本学の単位として互換される（表I-1）。さらに、平成18年度においては、これらの研修の単位を卒業単位に組み入れるべく詳細な検討が当該研修を取りまとめている留学生委員会で行われているところである。

なお、これらの研修に参加できない学生のために、英国の環境に似た軽井沢に設置する本学園の研修会館を利用して外国人教授を中心とした語学研修を企画・実施している。

表 I - 1 “海外留学・研修”の種類と単位互換状況

| 留学コース（時期・期間） | | 学科名 | 平成16年度 | 平成17年度 | 平成18年度 |
|--------------------------------|--|---|---|--------|--------|
| | | | 本学との単位互換状況 | | |
| CAE留学・研修 および ヨーロッパ 研修 | 1年 春・夏・ 秋・冬 | 食物栄養学科 初等教育 幼児教育 人間福祉* ----- コミュニケーション | 15単位を上限に単位互換が可能 | | |
| | 6ヶ月 秋・冬 | 食物栄養学科 初等教育 幼児教育 人間福祉* ----- コミュニケーション | | | |
| | 3ヶ月 春・秋・冬 | 食物栄養学科 初等教育 幼児教育 人間福祉* ----- コミュニケーション | 教養科目：国際理解 2単位 外国語：英会話体験実習Ⅲ 2単位 | | |
| | 7週間研修 8月上旬～ (1週間 フリータイム 含む) | 食物栄養学科 初等教育 幼児教育 人間福祉* ----- コミュニケーション | 外国語 英会話体験実習Ⅲ 3単位 学科共通専門科目（選択科目） 英会話海外実習：2単位 | | |
| | ヨーロッパ研 修 2月・3週間 (1週間観光 旅行含む) | 食物栄養学科 初等教育 幼児教育 人間福祉* ----- コミュニケーション | 外国語 英会話体験実習Ⅰ 1単位 | | |

人間福祉*：平成18年度入学生から介護福祉学科に名称変更

(2) 教育目的もしくは教育目標の定期的な点検

教育目的もしくは教育目標は、学科・専攻の独自性を基盤に、社会的なニーズや学生の要望などを勘案しつつ多角的視野から検討され、毎年定期的に点検している。

(3) 教育目的もしくは教育目標点検に関する手続き

教育目的もしくは教育目標は、各学科・専攻毎で開催する会議にてカリキュラム内容および学生便覧記載事項などについて上記(2)が履行されているかについて検討されている。

なお、当該学科等で検討された教育目的もしくは教育目標の原案は、一般的には本学教学部教務課に提出する方法をとっている。なお、教育目的もしくは教育目標、およびこれを直接的に反映しているカリキュラム内容などについて、既存の内容に変更の必要性が生じた場合には図1に示す方法を経て点検・見直しを実施している。その概要を①～④に示す。

- ① 当該学科などは、変更原案を「教務委員会」（教務関係事項を審議する委員会）に提出する。
- ② 教務委員会は、変更原案について慎重に審議し、教務委員会としての原案を作成し、教授会に提案する。
- ③ 教授会は、この教務委員会原案について審議し、承認した事項について成案とする。
- ④ この成案は、必要に応じて各関係機関に届け出されるとともに、学内の必要書類の記載事項変更を関係部署にて行う。

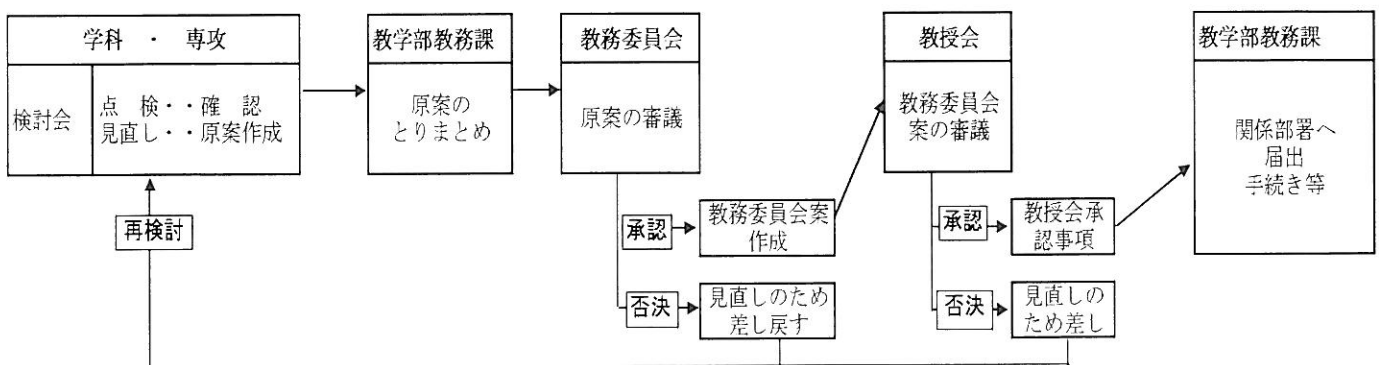


図 I-1 教育目標・目的・内容等の点検・見直しの手続き方法

(評価項目3) 教育目的・教育目標の共通理解への努力

(1) 教育目的や教育目標を全学的並びに設置する学科・専攻において学生や教職員が共有するための具体的な施策

教育目的や教育目標共有のための具体的な施策としては、学生便覧・シラバス・履

修科目一覧表などの作成、これら作成資料をガイダンスや担任指導などを通して学生に配布・解説することのほか、表3に示すような各学科・専攻が企画する講演会や講習会などの諸企画の実施などをあげることが出来る。

例えば、各学科・専攻所属の専任教職員は、前述した教育目的や教育目標共有のための具体的施策を、当該学科会議などで検討を重ねて構築している。つまり、教職員全員は、これらの作業を通して教育目的や教育目標を共有する。さらに、非常勤講師についても、各学科・専攻長は当該学科等の教育目標や依頼担当科目の位置づけ・教授目的などについて説明し担当科目のシラバス作成を依頼、着任時には学生便覧、シラバス一覧表などを配布という一連の過程を通して、教育目的や教育目標の共有化を進めている。これらの諸施策の実施により、関係する全教職員が教育目標などの情報を共有できるよう努めている。

また、これら教職員の一連の働きかけによって、学生に教育目的や教育目標が共有されていくと考える。

表 I-3 教育目的や教育目標の共有のための各学科専攻主催による施策例と年次推移
《食物栄養学科》

| | 平成 16 年度 | 平成 17 年度 | 平成 18 年度 |
|-------------|--|---|--|
| 一 年 生 | I 食の文化についての知識を深める講座 世界の料理を知ろう (1, 2 年合同) II 食品についての知識を深める講座 冷凍食品の特徴と調理特性 III 「食育」支援についての体験 ボランティアハウス コスモスの里訪問 IV 学生生活サポート 個人面接を実施し、資格・授業・目標などのサポート V・学外実習ガイダンス | I 食の文化についての知識を深める講座 世界の料理を知ろう no.1, 2 (1, 2 年合) II 食品についての知識を深める講座 <u>パンの発酵と加工技術</u> 冷凍食品の特徴と調理特性 III 「食育」支援についての体験 ボランティアハウス コスモスの里訪問 IV 学生生活サポート 個人面接を実施し、資格・授業・目標などのサポート <u>(H.16年度の2倍の回数実施)</u> V・学外実習ガイダンス | I 食の文化についての知識を深める講座 世界の料理を知ろう no.1, 2 (1, 2 年合同) II 食品についての知識を深める講座 冷凍食品の特徴と調理特性 III 「食育」支援についての体験 大洞岐協苑訪問 <u>岐阜スローライフ市民フォーラム主催「岐阜スローフードコンテスト 2006」料理コンクール参加</u> <u>食物栄養学科教員参画事業のアシスタント</u> IV 学生生活サポート 個人面接を実施し、資格・授業・目標などのサポート V・学外実習ガイダンス |

| | | | |
|-------------|--|---|--|
| 二 年 生 | <p>I 食の文化についての知識を深める講座 世界の料理を知ろう(1, 2年合同)</p> <p>II 食品についての知識を深める講座 冷凍食品の特徴と調理特性 岐阜のスローフード「きのこ」についてのアイデア料理</p> <p>IV 学生生活サポート 個人面接を実施し、資格・授業・卒業・就職のサポート・確認</p> <p>V・学外実習ガイダンス VI 栄養士養成協会認定栄養士実力試験「試験対策講座」支援 VII 栄養士養成協会認定栄養士実力試験受験</p> | <p>I 食の文化についての知識を深める講座 世界の料理を知ろう no. 1, 2(1, 2年合同)</p> <p>II 食品についての知識を深める講座 岐阜のスローフード「きのこ」についての科学とアイデア料理 <u>乳製品の栄養学と世界のチーズの歴史と試食</u> <u>パンの発酵と加工技術</u>(1, 2年合同)</p> <p>IV 学生生活サポート 個人面接を実施し、資格・授業・卒業・就職のサポート・確認(<u>H.16年度の2倍の回数実施</u>)</p> <p>V・学外実習ガイダンス VI 栄養士養成協会認定栄養士実力試験「試験対策講座」支援 VII 栄養士養成協会認定栄養士実力試験受験</p> | <p>I 食の文化についての知識を深める講座 世界の料理を知ろう no. 1, 2(1, 2年合同) <u>パティシエに学ぶケーキ作り</u></p> <p>II-1 食品についての知識を深める講座 冷凍食品の特徴と調理特性 岐阜のスローフード「きのこ」についてのアイデア料理 乳製品の栄養学と世界のチーズの歴史と試食 <u>食肉の流通・特徴の講演と部位別肉アイデア料理</u> <u>食品生産と安全の知識「HACCPと品質管理」</u></p> <p>II-2 医学領域の知識を深める講座 <u>講演会「脳神経と心-イメージの世界」</u> <u>講演会「日本人の健康を脅かす疾病と栄養特性」</u></p> <p>III「食育」支援についての体験 <u>各務原市主催「フードフェスティバル」</u> 出展 <u>岐阜県養鶏協会主催「第7回鶏卵・鶏肉コンクール」料理コンクール参加</u> <u>岐阜県食肉事業共同組合連合会主「地産食材を使った食肉創作料理」料理コンクール参加</u> <u>食物栄養学科教員参画事業のアシスタント</u> <u>各務原市特産農産物加工食品の開発</u></p> <p>IV 学生生活サポート 個人面接を実施し、資格・授業・卒業・就職のサポート・確認</p> <p>V・学外実習ガイダンス VI 栄養士養成協会認定栄養士実力試験「試験対策講座」支援 VII 栄養士養成協会認定栄養士実力試験受験</p> |
|-------------|--|---|--|

下線の企画は、新規に立ち上げ実施した企画を示す

《コミュニケーション学科》

| | 平成 16 年度 | 平成 17 年度 | 平成 18 年度 |
|---------|---|--|---|
| 一年生・二年生 | I 自主ゼミ 「日本の英字新聞を読む」 (月曜放課後) II 自主ゼミ 「映画シナリオを読む」 (土曜午後) | I 自主ゼミ 「日本の英字新聞を読む」 (月曜放課後) II 自主ゼミ 「映画シナリオを読む」 (土曜午後) III 軽井沢英語研修 夏季休業(8月)中における 本学「軽井沢研修会館」を利用 しての英語研修合宿 | I 自主ゼミ 「日本の英字新聞を読む」 (月曜放課後) II 自主ゼミ 「映画シナリオを読む」 (土曜午後) |

《児童教育学科初等教育専攻》

| | 平成 16 年度 | 平成 17 年度 | 平成 18 年度 |
|-----|----------|----------|--|
| 一年生 | | | 2年生の教育実習までに、漢字検定3級以上の合格 小学校実習事前体験(1日) |
| 二年生 | 就職対策講座 | 就職対策講座 | 就職対策講座 |

《児童教育学科幼児教育専攻》

| | 平成 16 年度 | 平成 17 年度 | 平成 18 年度 |
|-----|---|--|--|
| 一年生 | I 上級救命講習 (夏季休業時5日間実施) ※保育現場での救急救命能力を備える事を目的とする。 II 子育て支援活動「あそびの森」 ※学生ボランティアとして親子の遊びを主体的に支援。 | I 上級救命講習 (夏季休業時5日間実施) ※保育現場での救急救命能力を備えることを目的とする。 II 子育て支援活動「あそびの森」 ※学生ボランティアとして親子の遊びを主体的に支援。 | I 普通救命講習 (夏季休業時1日間実施) ※保育現場での救急救命能力を備えることを目的とする。 II 子育て支援活動「あそびの森」 ※学生ボランティアとして親子の遊びを主体的に支援する。 |
| 二年生 | I 上級救命講習 (夏季休業時5日間実施) ※保育現場で救急救命能力を備えることを目的とする。 II 子育て支援活動「あそびの森」 ※学生ボランティアとして親子の遊びを主体的に支援する。 III 保育士就職模擬試験 ※保育者としての専門知識の確認および就職に対する動機付け。 | II 子育て支援活動「あそびの森」 ※学生ボランティアとして親子の遊びを主体的に支援する。 III 保育士就職模擬試験 ※保育者としての専門知識の確認および就職に対する動機付け。 | I 普通救命講習 (夏季休業時1日間実施) ※保育現場での救急救命能力を備えることを目的とする。 II 子育て支援活動「あそびの森」 ※学生ボランティアとして親子の遊びを主体的に支援する。 III 保育士就職模擬試験 ※保育者としての専門知識の確認および就職に対する動機付け。 |

《介護福祉学科》

| | 平成 16 年度 | 平成 17 年度 | 平成 18 年度 |
|-------------|--|--|---|
| 一 年 生 | <p>I ボランティア活動 社会参加・貢献の意識高める。 現場の体験を行うことでコミュニケーション能力を高めさせる。</p> <p>II クラスアワー 教員と学生の対話の機会を図る。(担任が中心)</p> | <p>I ボランティア活動 社会参加・貢献の意識高める。 現場の体験を行うことでコミュニケーション能力を高めさせる。</p> <p>II クラスアワー 教員と学生の対話の機会を図る。(担任が中心)</p> | <p>I ボランティア活動 社会参加・貢献の意識高める。 現場の体験を行うことでコミュニケーション能力を高めさせる。</p> <p>II クラスアワー ・教員と学生の対話の機会を図る。(担任が中心) ・早期の就職に対する意識を高めさせ参加する。 (岐阜県社会福祉協議会が主催する福祉の仕事ガイダンス(年3回)に参加する。)</p> |
| 二 年 生 | I 介護福祉実習事例研究発表会 | I 介護福祉実習事例研究発表会 | I 介護福祉実習事例研究発表会 |

《専攻科福祉専攻》

| | 平成 16 年度 | 平成 17 年度 | 平成 18 年度 |
|-------------|--|---|--|
| 一 年 生 | <p>I クラスアワー 学生が企画する ・和紙人形作成 ・ナツメロを歌おう ・美顔マッサージ ・車椅子ダンス ・お菓子作り ・はぎれでの小物作り</p> <p>II 先輩との交流会 卒業生の参加を得て実習の心構えや卒後の様子を知る。 茶話会を持ち親睦を図る。</p> <p>III 人生の先輩から学ぶ お年寄りの生きてきた道を話していただき、高齢者のおもいを介護に活かす。</p> <p>IV ケース発表会 実習にて受け持った施設利用者について、介護実践を発表する。 人前で発表するマナーや実践のまとめを行う。 小冊子作成により協力することを学ぶ。</p> | <p>I クラスアワー 学生が企画する ・テーブルマナー ・ちぎりえ、ロープ人形作成 ・苔玉盆栽(卒業生指導) ・ピーズマスケット ・車椅子フオークダンス ・おやつ作り、お茶会 ・ナツメロ(カラオケ館) ・車椅子バレー、ドッジボール</p> <p>II 先輩との交流会 前年と同様。 卒業生の参加者が増える。</p> <p>III 人生の先輩から学ぶ。 83歳になってからヘルパーの資格を取得した方の前向きな生き方をお話していただき、高齢期のおもいを学ぶ。</p> <p>IV ケース発表会 前年と同様。 発表会に介護福祉学科1年生および次年度専攻科入学予定者の参加を得た。</p> | <p>I クラスアワー 学生が企画する ・苔玉盆栽、犬のぬいぐるみ ・障害設定ボーリング ・おもちゃ作り、水団を食べてみる会 ・ナツメロ(カラオケ館) ・昔のお菓子作り</p> <p>II 先輩との交流会 企画は前年度と同じであるが、卒業生は年々増え、経験を積んできた先輩からの報告に深みが出てきた。卒業後の先行きを見ることが出来る。 III 人生の先輩から学ぶ。 苦勞して生きてこられた経験を聞くことにより、高齢者のおもいを理解する。95歳の方から「夢」という字の色紙をいただき感動した。</p> <p>IV ケース発表会</p> |

(2) 教育目的や教育目標を実現し共有するための具体的な施策についての理事会や教授会での議論

本短期大学では、大学の運営および改革などの中枢事項については、評議員会および理事会で審議・決議され、学園方針として関係諸会議や委員会に伝達される。また、各学科・専攻などで構築可能な事項に関しては、所定の手続きを経て教授会に諮り、審議する方法をとるのが一般的である。

理事会や教授会の回数は決して多くはないが、前述の手続きによって各学科・専攻の教育目的や教育目標を実現し共有する施策は概ね論議出来ていると判断する。

◇ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標についての特記事項

(1) 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標達成に関する支援体制

建学の精神を培う目的で開設されている“海外研修”に参加費用面や日程等の条件で参加できない学生のために、留学生委員会の企画で、外国語系教員の協力を得て軽井沢研修会館を利用して“軽井沢語学研修”を実施している。

II 教育の内容

(評価項目1) 教育課程が体系的に編成されていること

教育課程とは、各学科・専攻の目標・特色及び取得資格に掲げる教育目標を達成するため、法の定める基準に基づいて、どのような教育内容（授業科目）を、どれだけ（単位数）、どのような方法（履修区分・年次、授業期間・方法等）で履修するかを定めたものであり、本学では、各学科・専攻ごとに授業科目が決められている。

なお、このことについては『東海女子短期大学学則（以下学則という）』第21条・第22条に次のように規定されている。

(教育課程)

第21条 教育課程は、各授業科目を教養科目・外国語科目・保健体育科目及び専門科目とし、各学科・専攻により必修・選択に分けて編成する。

2. 授業科目の種類・単位数は、各学科・専攻により、別表第1ないし第5のとおりとする。（別表掲載なし。別表については、開講表を参照）

第22条 前条に定めるもののほか、司書、司書教諭及び教職に関する科目を置く。

2. 前項に定めるものについての授業科目の種類・単位数は別表第6・第7・第8のとおりとする。（別表掲載なし。別表については、開講表を参照）

(評価項目2) 教育課程が学生の多様なニーズに応えるものとなっていること

(1) 食物栄養学科

1) 授業内容の特色

1. 社会生活と健康、栄養と健康等の基礎的な教育内容から、栄養の指導や給食の運営等の応用的な教育内容まで幅広く学び、健康の維持・増進に必要な知識を身につける。さらに、現場において直ちに役立つ栄養士の養成を目指す。
2. 健康について総合的に考えて望ましい食生活管理が実践できるように力を注ぐ。
3. 栄養士専門科目をさらに発展させた多彩な資格取得ができる。

2) 卒業の要件

食物栄養学科を卒業するために必要な修得単位数は、授業科目の区分に従い、次のとおりとする。

1. 教養科目については、10単位以上
2. 外国語科目については、2単位以上
3. 保健体育科目については、2単位以上
4. 専門科目については、48単位以上
5. 上記の合計が、62単位以上であること

3) 取得資格

1. 栄養士免許
2. 中学校教諭2種免許（家庭）
3. 栄養教諭2種免許
4. 医療秘書実務士またはフードサイエンティスト
5. 学校図書館司書教諭
6. メディカルクラーク受験資格

4) 免許・資格取得の要件並びに履修要項

1. 『栄養士免許証』取得の要件

① 資格取得の要件

- ・『栄養士免許証』を取得しようとする者は、栄養士法施行規則第9条の1（平成13年厚生労働省令第186号）に規定する「専門科目」50単位を修得しなければならない。

② 単位の履修方法

- ・『栄養士免許証』を取得するためには、次の表の本学食物栄養学科開講科目により「教養科目」10単位以上と、「保健体育科目」2単位、「外国語科目」2単位、「専門科目」50単位以上を履修すること。

表Ⅱ－1 食物栄養学科 栄養士養成課程の履修表

| 告示による教科目 | | | | 本学開設科目 | | | 備考 |
|----------|------|--------|--------|---------|--------|--------|----------|
| 系列 | 教育内容 | 単位数 | | 授業科目 | 単位数 | | |
| | | 講義又は演習 | 実験又は実習 | | 講義又は演習 | 実験又は実習 | |
| 教養科目 | | | | 歴史学 | 2 | | 10単位以上必修 |
| | | | | 日本国憲法 | 2 | | |
| | | | | 社会と自然 | 2 | | |
| | | | | 生活と化学 | 2 | | |
| | | | | 情報基礎 | 1 | | |
| | | | | 教養ゼミナール | 2 | | |
| 保健体育科目 | | | | 体育講義 | 1 | | |
| | | | | 体育実技 | | 1 | |
| 外国語科目 | | | | 英語 | 2 | | |

| | | | | | | | |
|------------------|-----------|----|-----------|---------------|--------|---|------|
| 専 門 科 目 | 社会生活と健康 | 4 | 4 | 公衆衛生学 | 2 | | 校外実習 |
| | 社会生活と健康 | 4 | | 社会福祉概論 | 2 | | |
| | 人体の構造と機能 | 8 | | 解剖生理学 | 2 | | |
| | | | | 解剖生理学実験 | | 1 | |
| | | | | 運動生理学 | 2 | | |
| | | | | 生化学 | 2 | | |
| | | | | 医療と健康 | 2 | | |
| | | | | 医療と健康 | 2 | | |
| | 食品と衛生 | 6 | | 食品学 I | 2 | | |
| | | | | 食品学実験 I | | 1 | |
| | | | 食品学 II | 2 | | | |
| | | | 食品学実験 II | | 1 | | |
| | | | 食品衛生学 | 2 | | | |
| | | | 食品衛生学実験 | | 1 | | |
| | 栄養と健康 | 8 | 10 | 基礎の栄養学 | 2 | | |
| | | | | 栄養学実験 I | | 1 | |
| | | | | ライフステージの栄養学 | 2 | | |
| | | | | ライフステージの栄養学実習 | | 1 | |
| | | | | 臨床栄養学 | 2 | | |
| | | | | 臨床栄養学実習 | | 1 | |
| 健康と食物 | | | | 2 | | | |
| 健康と食物 | | | | 2 | | | |
| 栄養の指導 | | | | 6 | 栄養指導論 | 4 | |
| | | | | | 栄養指導実習 | | 2 |
| | 栄養の情報処理実習 | | 1 | | | | |
| | 公衆栄養学概論 | 2 | | | | | |
| 給食の運営 | 4 | 10 | 給食経営管理論 | 2 | | | |
| | | | 給食管理実習 I | | 1 | | |
| | | | 給食管理実習 II | | 1 | | |
| | | | 調理学 | 2 | | | |
| | | | 調理学実習 I | | 1 | | |
| | | | 調理学実習 II | | 1 | | |

③申請に要する費用

申請手数料:5,600 円 (収入証紙) 証明書代:200 円

(注 申請手数料は、県によって異なる)

2. 中学校教諭 2 種免許状（家庭）取得の要件

① 免許取得の要件

- a) 『中学校教諭 2 種免許状』の授与を受けるためには、学校教育法第 69 条の 2 第 7 項に定める短期大学士の称号を有すること。
- b) 『中学校教諭 2 種免許状』を取得するためには、教育職員免許法施行規則第 3 条及び第 6 条に規定する「教科に関する科目」の単位 12 単位（本学は 13 単位）及び「教職に関する科目」の単位 23 単位以上を修得しなければならない。

② 単位の履修方法

- a) 教養科目については、卒業に必要な科目（日本国憲法・外国語・保健体育を含む）、単位数を履修すること。
- b) 教科・教職に関する科目については、免許教科の種類に応じ、次の表の「本学開設科目」の単位数を履修すること。
- c) 情報機器の操作に関する下記の科目を履修すること。
 「情報基礎」
 「栄養の情報処理実習」

表Ⅱ－2

【教科に関する科目】

| 法に定める科目 | 授業科目名 | 単位数 | | 備考 |
|----------------------------|---------|-----|----|------------------|
| | | 必修 | 選択 | |
| 家庭経営学 (家族関係学及び家庭経済学を含む) | 生活経営論 | 2 | | 家族関係学及び家庭経済学を含む |
| 被服学 (被服製作実習を含む) | 衣生活論 I | 2 | | 被服製作実習を含む |
| 食物学 (栄養学・食品学及び調理実習を含む) | 食品学 I | 2 | | 栄養学、食品学及び調理実習を含む |
| | 基礎の栄養学 | 2 | | |
| | 調理学実習 I | 1 | | |
| 住居学 | 住生活論 I | 2 | | |
| 保育学 (実習を含む) | 保育学 | 2 | | 実習を含む |

表Ⅱ－3

【教職に関する科目】

| 法定上の科目 | 各科目に含める必要事項 | 授業科目 | 単位数 | | 備考 |
|------------------------|--|-----------|-----|----|---|
| | | | 必修 | 選択 | |
| 教職の意義等に関する科目 | ・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） ・進路選択に資する各種機会の提供等 | 教 職 論 | 2 | | |
| 教育の基礎理論に関する科目 | ・教育の理念並びに教育に関する歴史並びに思想 ・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 | 教 育 原 理 | 2 | | 教育に関する社会的、制度的または経営的事項及び教育課程の意義及び編成の方法を含む。 |
| | ・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。） | 教 育 心 理 学 | 2 | | |
| 教育課程及び指導法に関する科目 | ・教育課程の意義及び編成の方法 | 教育課程編成論 | 1 | | |
| | ・各教科の指導法 | 家庭科教育法 | 2 | | |
| | ・道徳の指導法 | 道徳教育の研究 | 1 | | |
| | ・特別活動の指導法 | 特別活動論 | 1 | | |
| | ・教育の方法及び技術（情報機器及び機材の活用を含む。） | メディア教育論 | 1 | | |
| 生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 | ・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法 | 生 徒 指 導 論 | 2 | | 進路指導の理論及び方法を含む |
| | ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法 | 教 育 相 談 | 2 | | |
| 総合演習 | | 総合演習 | 2 | | |
| 教育実習 | | 教育実習 | 4 | | |
| | | 実習概説 | 1 | | |

③申請に要する費用

申請手数料:3,300円（収入証紙） 証明書代:200円

3. 栄養教諭 2 種免許状取得の要件

① 免許取得の要件

- a) 『栄養教諭 2 種免許状』の授与を受けるためには、学校教育法第 69 条の 2 第 7 項に定める短期大学士の称号を有すること。
- b) 栄養士法第 2 条第 1 項の規定により栄養士の免許を受けていること。
- c) 『栄養教諭 2 種免許状』を取得するためには、教育職員免許法施行規則第 3 条及び第 6 条に規定する「栄養に係る教育に関する科目」の単位 2 単位及び「教職に関する科目」の単位 18 単位以上を修得しなければならない。

② 単位の履修方法

- a) 教養科目については、卒業に必要な科目（日本国憲法・外国語・保健体育を含む）、単位数を履修すること。
- b) 教科・教職に関する科目については、免許教科の種類に応じ、次の表の「本学開設科目」の単位数を履修すること。
- c) 情報機器の操作に関する下記の科目を履修すること。
「情報基礎」
「栄養の情報処理実習」

表Ⅱ－4

【教科に関する科目】

| 法に定める科目 | 授業科目名 | 単位数 | | 備考 |
|---------|---------|-----|----|----|
| | | 必修 | 選択 | |
| 学校栄養教育論 | 学校栄養教育論 | 2 | | |

表 II - 5

【教職に関する科目】

| 法定上の科目 | 各科目に含める必要事項 | 授業科目 | 単位数 | | 備考 |
|------------------------|--|---------------|-----|----|---|
| | | | 必修 | 選択 | |
| 教職の意義等に関する科目 | <ul style="list-style-type: none"> ・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） ・進路選択に資する各種機会の提供等 | 教 職 論 | 2 | | |
| 教育の基礎理論に関する科目 | <ul style="list-style-type: none"> ・教育の理念並びに教育に関する歴史並びに思想 ・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 | 教 育 原 理 | 2 | | 教育に関する社会的、制度的または経営的事項及び教育課程の意義及び編成の方法を含む。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。） | 教 育 心 理 学 | 2 | | |
| 教育課程及び指導法に関する科目 | <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の意義及び編成の方法 | 教 育 課 程 編 成 論 | 1 | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の指導法 | 道 徳 教 育 の 研 究 | 1 | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・特別活動の指導法 | 特 別 活 動 論 | 1 | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・教育の方法及び技術（情報機器及び機材の活用を含む。） | メ デ ィ ア 教 育 論 | 1 | | |
| 生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法 | 生 徒 指 導 論 | 2 | | 進路指導の理論及び方法を含む |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法 | 教 育 相 談 | 2 | | |
| 総 合 演 習 | | 総 合 演 習 | 2 | | |
| 栄 養 教 育 実 習 | | 栄 養 教 育 実 習 | 1 | | |
| | | 実 習 概 説（栄 養） | 1 | | |

③申請に要する費用

申請手数料:3,300円（収入証紙） 証明書代:200円

4. 『医療秘書実務士』の資格取得に関する履修要項

①資格取得の要件

- ・日本医療福祉実務教育協会『医療秘書実務士』の資格を取得しようとする者は、当該教育指定校資格認定規程（平成10年1月7日施行）による単位を修得しなければならない。

②単位の履修方法

- ・『医療秘書実務士』の資格を取得するためには、次の表に記載されている科目の単位を履修すること。

表Ⅱ－6

| 科 目 名 | 単位数 | 備 考 |
|-----------------|-----|-------------------------|
| 英 語 | 1 | |
| 社 会 福 祉 概 論 | 2 | |
| 解 剖 生 理 学 | 2 | |
| 臨 床 栄 養 学 | 2 | |
| 栄 養 指 導 論 | 2 | |
| 公 衆 衛 生 学 | 2 | |
| 情 報 基 礎 | 1 | |
| 医 療 と 健 康 | 2 | |
| 医 療 事 務 総 論 | 2 | |
| 医 療 事 務 演 習 | 1 | 学則第26条の卒業要件の単位数に算入できない。 |
| 医 療 秘 書 実 務 | 2 | |
| 医 療 秘 書 実 務 実 習 | 1 | |

③ 申請に要する費用

認定料:7,000 円

5. 『フードサイエンティスト』の資格取得に関する履修要項

①資格取得の要件

- ・食品科学教育協議会『フードサイエンティスト』の資格を取得しようとする者は、食品科学教育協議会運営細則（平成14年6月15日改正）に規定する単位を修得しなければならない。

②単位履修方法

- ・『フードサイエンティスト』の資格を取得するには、次の表に記載されている科目の単位を履修すること。

表II-7

| 科 目 名 | 単位数 |
|-------------------------|-----|
| 食 品 学 I | 2 |
| 食 品 学 実 験 I | 1 |
| 食 品 学 II | 2 |
| 食 品 学 実 験 II | 1 |
| 食 品 衛 生 学 | 2 |
| 食 品 衛 生 学 実 験 | 1 |
| 基 礎 の 栄 養 学 | 2 |
| 栄 養 学 実 験 I | 1 |
| 調 理 学 実 習 I | 1 |
| 食 品 の 加 工 と 品 質 管 理 | 2 |
| 食 品 の 加 工 と 品 質 管 理 実 習 | 1 |
| 食 の 安 全 性 | 2 |
| 食 品 の 分 析 | 1 |
| 課 題 研 究 | 1 |

③申請に要する費用

認定料:4,000円

6. 学校図書館司書教諭の資格取得の要件

① 受講資格の前提条件

- ・教職員免許状取得もしくは見込みの者とする。

② 資格取得の要件

- ・学校図書館司書教諭の資格を取得しようとする者は、『学校図書館司書教諭講習修了証書』の授与を受けなければならない。
- ・『学校図書館司書教諭講習修了証書』の授与を受けるためには、学校図書館司書教諭講習規程（昭和29年8月6日文部省令第21号）（平成11年4月1日改正）に規定する所要の単位を、10単位以上修得しなければならない。

③ 単位の履修方法

- ・『学校図書館司書教諭の資格』を取得するためには、次の表に記載される5科目10単位を履修すること。

表Ⅱ－8

| 科 目 名 | 単 位 数 |
|--------------|-------|
| 学校経営と学校図書館 | 2 |
| 学校図書館メディアの構成 | 2 |
| 学習指導と学校図書館 | 2 |
| 読書と豊かな人間性 | 2 |
| 情報メディアの活用 | 2 |
| 最低修得単位数 | 10 |

- ④ 『司書資格』と併せて取得する場合は、次の左欄に掲げる2科目について、右欄に掲げる科目と単位が司書教諭講習科目に相当する科目とみなされる。

表Ⅱ－9

| 司 書 科 目 | 司書教諭講習科目 |
|----------------------------|-------------------|
| 資料組織概説（2単位） 図書館資料論（2単位） | 学校図書館メディアの構成（2単位） |

⑤ 規程改正とこれに伴う経過装置

改正前の学校図書館司書教諭講習規程の規定に基づく講習において一部の科目の単位を修得した者は、これに相当する改正後の規定する科目を修得したものとみなすことができる。詳細については教務課の説明を受ける。

⑥ 申請に要する費用

申請手数料:350円（収入証紙） 証明書代・郵送代:590円

5) 食物栄養学科の教育課程

表II-10 平成18年度入学生 食物栄養学科 開講・履修登録表(教養・専門科目)

東海女子短期大学

| 科目名 | コード | 教 授 者 | 単 位 | | 資格との関係 | | | | 開講時期及び単位数 | | | | 備 考 | |
|---------------|----------|-------|---------------|----|--------|----|----|----|-----------|----|------|------|----------------|--|
| | | | 必修 | 選択 | 卒業 | 出願 | アド | 中級 | 英級 | 司教 | 1年前期 | 1年後期 | | 2年前期 |
| 教 養 科 目 | 歴史学 | 9602 | 今井(香) | 2 | | | | | | 2 | | | | 1 10 単 位 以 上 必 修 1 |
| | 日本国憲法 | 9609 | 佐賀 | 2 | | | | 中 | ● | | | | 2 | |
| | 社会と自然 | 9616 | 寺嶋 | 2 | | | | | | | | | 2 | |
| | 生活と化学 | 9618 | 寺嶋 | 2 | | | | | | 2 | | | | |
| | 情報基礎 | 9620 | 吉川・小池 | 1 | ☆ | | | 英 | ● | 1 | | | | |
| | 教養セミナー | 9633 | 安藤・木戸(久) | 2 | | | | | | 2 | | | | |
| | 国際理解 | 9632 | | 2 | | | | | | | | | | |
| コンソーシアム共同授業 I | **** | | 2 | | | | | | | | | | CAE1+月間研修参加に該当 | |
| 外 国 語 | 英語 | 9301 | M.Borja・大野(佳) | 2 | | ☆1 | | 英 | ● | 1 | ○ | 1 | ○ | |
| | 英会話体験実習Ⅰ | 9309 | | 1 | | | | | | | | | | CAE1・OAA研修参加者に認定 |
| | 英会話体験実習Ⅱ | 9310 | | 2 | | | | | | | | | | CAE3+月間研修参加者に認定 |
| | 英会話体験実習Ⅲ | 9311 | | 3 | | | | | | | | | | CAE7通研研修参加者に認定 |
| 保 体 育 | 体育講義 | 9401 | 伊藤・尾崎 | 1 | | | | 英 | ● | | | 1 | ○ | 1年後期後半 |
| | 体育実技 | 9402 | 伊藤・尾崎 | 1 | | | | 英 | ● | 1 | ○ | | | 1年前期～後期前半 |
| | | | 小 計 | 4 | 21 | | | | | | | | | |
| | | | 合 計 | 25 | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|---------------|-------|-----------|----|----|----|---|---|---|------|---|------|------|------|--|
| 専 門 科 目 | 公衆衛生学 | 13125 | 壁 | 2 | ◎ | ☆ | | ● | | | | | 2 | ○ | |
| | 社会福祉概論 | 13144 | 曾我 | 2 | ◎ | ☆ | | ● | | | | | 2 | | |
| | 解剖生理学 | 13101 | 成瀬 | 2 | ◎ | ☆ | | ● | | | 2 | ○ | | | |
| | 解剖生理学実技 | 13102 | 大森(正) | 1 | ◎ | | | ● | | | | | 1 | | 227 |
| | 運動生理学 | 13145 | 壁 | 2 | ◎ | | | ● | | | | | | 2 | |
| | 生化学 | 13104 | 寺嶋 | 2 | ◎ | | | ● | | | | | 2 | | |
| | 医療と健康 | 13146 | 大野(佳) | 2 | ◎ | ☆ | | ● | | | | | | 2 | |
| | 食品学Ⅰ | 13147 | 山澤 | 2 | ◎ | | △ | 中 | ● | | 2 | ○ | | | |
| | 食品学実習Ⅰ | 13148 | 山澤 | 1 | ◎ | | △ | ● | | | | | 1 | | 227 1年後期後半～2年前期前半 |
| | 食品学Ⅱ | 13149 | 山澤 | 2 | ◎ | | △ | ● | | | | 2 | | | |
| | 食品学実習Ⅱ | 13150 | 山澤 | 1 | ◎ | | △ | ● | | | | | 1 | | 227 2年前期後半 |
| | 食品衛生学 | 13134 | 洋本 | 2 | ◎ | | △ | ● | | | | | 2 | | |
| | 食品衛生学実習 | 13124 | 今井(律) | 1 | ◎ | | △ | ● | | | | | | 1 | 227 |
| | 基礎的栄養学 | 13151 | 鷺見(孝) | 2 | ◎ | | △ | 中 | ● | | 2 | ○ | | | |
| | 栄養学実習Ⅰ | 13152 | 山澤 | 1 | ◎ | | △ | ● | | | | | | 1 | 227 |
| 専 門 科 目 | ライフステージの栄養学 | 13153 | 鷺見(孝) | 2 | ◎ | | | ● | | 2 | ○ | | | | |
| | ライフステージの栄養学実習 | 13154 | 藤吉 | 1 | ◎ | | | ● | | | | | | 1 | 227 |
| | 臨床栄養学 | 13117 | 白木 | 2 | ◎ | ☆ | | ● | | | | 2 | | | |
| | 臨床栄養学実習 | 13118 | 尾木 | 1 | ◎ | | | ● | | | | | 1(2) | 1(1) | 227 |
| | 健康と食物 | 13155 | 宮部 | 2 | ◎ | | | ● | | | | | 2 | | |
| | 栄養指導論 | 13115 | 平光 | 4 | ◎ | ☆2 | | ● | | 2 | ○ | 2 | ○ | | |
| | 栄養指導実習 | 13143 | 平光・尾木 | 2 | ◎ | | | ● | | 1(2) | | 1(2) | | | 227 1年前期227-1年後期327 18時-19時227-2年前期327 栄養の情報処理実習の一環として |
| | 栄養の情報処理実習 | 13156 | 尾木 | 1 | ◎ | | 中 | ● | | | | 1 | | | |
| | 公衆栄養学概論 | 13157 | 平光 | 2 | ◎ | | | ● | | | | | | | 2 |
| | 給食経営管理論 | 13159 | 尾木 | 2 | ◎ | | | ● | | | | | 2 | | |
| | 給食管理実習Ⅰ | 13126 | 平光・尾木 | 1 | ◎ | | | ● | | | | 1(2) | | 1(1) | 327 栄養指導実習と同時開講 |
| | 給食管理実習Ⅱ | 13137 | | 1 | ◎ | | | ● | | | | | | 1 | 校外実習 |
| | 調理学 | 13139 | 鷺見(孝) | 2 | ◎ | | | ● | | 2 | ○ | | | | |
| | 調理学実習Ⅰ | 13140 | 鷺見(孝) | 1 | ◎ | | △ | 中 | ● | 1 | | | | | 227 1年前期前半 |
| | 調理学実習Ⅱ | 13135 | 鷺見(孝) | 1 | ◎ | | | ● | | | | 1 | | | 227 1年前期後半～後期前半 |
| 専 門 科 目 | 食品の加工と品質管理 | 13160 | 黒川 | 2 | | | △ | | | | | | 2 | | 227 2年前期前半 |
| | 食品の加工と品質管理実習 | 13161 | 黒川 | 1 | | | △ | | | | | | 1 | | 227 2年前期後半 |
| | 和洋菓子のクッキング | 13168 | 本間・鷺見(孝) | 1 | | | | | | 1 | | | | | 227 1年前期後半 |
| | 生活学概論 | 10115 | 須田 | 2 | | | | 中 | | | | | | 2 | |
| | 保育学 | 10116 | 山田 | 2 | | | | 中 | | | | | 2 | | |
| 専 門 科 目 | 衣生活論Ⅰ | 10122 | 増実 多治見 | 2 | | | | 中 | | 2 | | | | | 227 1年前期前半 137 |
| | 住生活論Ⅰ | 10119 | 古見 | 2 | | | | 中 | | | | | 2 | | 算中講義 |
| | 食の安全性 | 13167 | 川本 | 2 | | | △ | | | | | | 2(2) | | 227 2年前期前半 |
| | 食品の分析 | 13164 | 川本 | 1 | | | △ | | | | | | 1(2) | | 227 2年前期後半 |
| | 課題研究 | 13165 | 黒川 | 1 | | | △ | | | | | | | 1 | 227 △は認定研修を含む |
| 学校栄養教育論 | 13169 | 森・佐々木 | 2 | | | | ● | | | | | 2 | | | |
| コンソーシアム共同授業Ⅱ | **** | | 2 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 小 計 | 16 | 54 | | | | | | | | | | |
| | | | 合 計 | 70 | | | | | | | | | | | |

表 II - 11 平成18年度入学生 食物栄養学科 開講・履修登録表(資格科目)

東海女子短期大学

| 科目名 | コード | 教授者 | 単位 | | 資格との関係 | | | | | 開講時期及び単位数 | | | | 備考 | | |
|----------|-------|-----|----|----|--------|----|-----|----|----|-----------|------|------|------|----|------|-------------|
| | | | 必修 | 選択 | 卒業 | 医療 | フード | 中教 | 採教 | 専教 | 1年前期 | 1年後期 | 2年前期 | | 2年後期 | |
| 医療事務総論 | 73015 | 早川 | | 2 | | ☆ | | | | | 2 | | | | | メディカルクラーク科目 |
| 医療事務演習 | 73016 | 早川 | | 1 | | ☆ | | | | | 1 | | | | | メディカルクラーク科目 |
| 医療秘書実務 | 73013 | 村木 | | 2 | | ☆ | | | | | | | 2(1) | | | |
| 医療秘書実務実習 | 73017 | | | 1 | | ☆ | | | | | | | 1(1) | | | 夏季休暇中履修予定 |
| 小計 | | | 0 | 6 | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | | | | 6 | | | | | | | | | | | | |

| 科目名 | コード | 教授者 | 単位 | | 資格との関係 | | | | | 開講時期及び単位数 | | | | 備考 | | |
|----------|-------|-------|----|----|--------|----|-----|----|----|-----------|------|------|------|----|------|------------------|
| | | | 必修 | 選択 | 卒業 | 医療 | フード | 中教 | 採教 | 専教 | 1年前期 | 1年後期 | 2年前期 | | 2年後期 | |
| 総合演習 | 40118 | 神谷(真) | | 2 | | | ◎ | | | | | | | 2 | | |
| 教職論 | 40113 | 生島 | | 2 | | | ◎ | | | 2 | | | | | | |
| 教育原理 | 40114 | 生島 | | 2 | | | ◎ | | | | 2 | | | | | |
| 教育心理学 | 40102 | 神谷(か) | | 2 | | | ◎ | | | | 2 | | | | | |
| 家庭科教育法 | 40105 | 夫馬 | | 2 | | | ◎ | | | | 2 | | | | | |
| 道徳教育の研究 | 40106 | 倉角 | | 1 | | | ◎ | | | | | 1 | | | | |
| 特別活動論 | 40108 | 滝 | | 1 | | | ◎ | | | | | | 1 | | | |
| 教育課程編成論 | 40121 | 今井(昌) | | 1 | | | ◎ | | | 1 | | | | | | 授業期間を前半 後半に分けて開講 |
| メディア教育論 | 40122 | 今井(昌) | | 1 | | | ◎ | | | 1 | | | | | | |
| 生徒指導論 | 40109 | 生島 | | 2 | | | ◎ | | | | | | | | 2 | |
| 教育相談 | 40116 | 石井 | | 2 | | | ◎ | | | | | | | | 2 | |
| 教育実習 | 40117 | | | 4 | | | ◎ | | | | | | ④ | | | 2年の5～6月実習予定 |
| 実習概説 | 40112 | 倉角 | | 1 | | | ◎ | | | | 1 | | | | | |
| 栄養教育実習 | 40119 | | | 1 | | | ◎ | | | | | | | | ① | 2年の11月実習予定 |
| 実習概説(栄養) | 40120 | 佐々木 | | 1 | | | ◎ | | | | | | 1 | | | |
| 小計 | | | 0 | 25 | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | | | | 25 | | | | | | | | | | | | |

| 科目名 | コード | 教授者 | 単位 | | 資格との関係 | | | | | 開講時期及び単位数 | | | | 備考 | | |
|--------------|-------|-----|----|----|--------|----|-----|----|----|-----------|------|------|------|----|------|----------|
| | | | 必修 | 選択 | 卒業 | 医療 | フード | 中教 | 採教 | 専教 | 1年前期 | 1年後期 | 2年前期 | | 2年後期 | |
| 学校経営と学校図書館 | 60009 | 村瀬 | | 2 | | | | | ■ | ② | | | | | | 1年夏季集中講義 |
| 学校図書館メディアの構成 | 60010 | 虎玉 | | 2 | | | | | ■ | | | ② | | | | 2年夏季集中講義 |
| 学習指導と学校図書館 | 60011 | 虎玉 | | 2 | | | | | ■ | | | | | 2 | | 2年冬季集中講義 |
| 読書と豊かな人間性 | 60012 | 岡崎 | | 2 | | | | | ■ | | ② | | | | | 1年春季集中講義 |
| 情報メディアの活用 | 60013 | 村瀬 | | 2 | | | | | ■ | | | | ② | | | 2年夏季集中講義 |
| 小計 | | | 0 | 10 | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | | | | 10 | | | | | | | | | | | | |

(2) コミュニケーション学科

1) 授業内容の特色

<英語コミュニケーションコース>

英語によるコミュニケーション能力を重視したカリキュラムを展開。特に、外国人教師と日本人教師がチームを組んで行う授業では、「聞く」・「話す」を主体とし、徹底的に「使える英語」の習得を目指す。

<情報コミュニケーションコース>

コンピュータ・ネットワークをコミュニケーションのツールとして活用するために必要な知識・技能を習得するためのカリキュラムを展開。コンピュータ・リテラシーに加えて、メディア論・法律についても考えることを重視する。

2) 卒業の要件

コミュニケーション学科を卒業するために必要な修得単位数は、授業科目の区分に従い、次のとおりとする。

1. 教養科目については、10 単位以上
2. 外国語科目については、2 単位以上
3. 保健体育科目については、2 単位以上
4. 専門科目については、48 単位以上
5. 上記の合計が、62 単位以上であること

3) 取得資格

1. 司書資格
2. ビジネス実務士
3. 情報処理士

4) 免許・資格取得の要件並びに履修要項

1. 司書資格取得の要件

① 資格取得の要件

- ・『司書資格証』を取得しようとする者は、図書館法（昭和 25 年 4 月 30 日法律第 118 号）及び同法施行規則（昭和 25 年 9 月 6 日文部省令第 27 号）（平成 9 年 4 月 1 日改正）に規定する所要の単位を 20 単位以上修得しなければならない。

② 単位の履修方法

- ・『司書資格証』を取得するためには、次の表に記載されている 15 科目 24 単位の履修すること。

表II-12

| 本 学 開 設 科 目 | |
|-----------------|-------|
| 科 目 名 | 単 位 数 |
| 生 涯 学 習 論 | 1 |
| 図 書 館 概 論 | 2 |
| 図 書 館 経 営 論 | 1 |
| 図 書 館 サ ー ビ ス 論 | 2 |
| 情 報 サ ー ビ ス 概 説 | 2 |
| レファレンスサービス演習 | 2 |
| 情 報 検 索 演 習 | 2 |
| 図 書 館 資 料 論 | 2 |
| 専 門 資 料 論 | 1 |
| 資 料 組 織 概 説 | 2 |
| 資 料 組 織 演 習 | 2 |
| 児 童 サ ー ビ ス 論 | 1 |
| 資 料 特 論 | 1 |
| 情 報 処 理 演 習 | 1 |
| 図 書 館 演 習 ・ 実 習 | 2 |
| 最 低 修 得 単 位 数 | 24 |

2. 『ビジネス実務士』資格認定に関する履修要項

①資格取得の要件

- ・『ビジネス実務士』の称号を得ようとする者は、全国大学・短期大学実務教育協会の定める単位を修得しなければならない。

②単位の履修方法

- ・『ビジネス実務士』の資格を取得するには、次の表に記載されている科目の単位を履修すること。

表Ⅱ－13

| 科 目 名 | 単位数 | 備 考 |
|-----------------|-----|-----|
| 生 活 と 経 済 | 2 | |
| 異文化間コミュニケーション | 2 | |
| 日 本 語 表 現 | 2 | |
| 人 間 関 係 論 | 2 | |
| 情 報 処 理 (演 習) | 2 | |
| 英 会 話 | 2 | |
| 海 外 通 信 | 2 | |
| 情 報 処 理 概 論 | 2 | |
| ビ ジ ネ ス 実 務 総 論 | 2 | |
| ビ ジ ネ ス 実 務 演 習 | 2 | |
| 簿 記 会 計 学 | 2 | |

③申請に要する費用

認定料:5,000 円

3. 『情報処理士』資格認定に関する履修要項

①資格取得の要件

- ・『情報処理士』の称号認定を得ようとする者は、全国大学・短期大学実務教育協会の定める単位を修得しなければならない。

②単位の履修方法

- ・『情報処理士』の資格を取得するには、次の表に記載されている科目の単位を履修すること。

表Ⅱ－14

| 科 目 名 | 単位数 | 備 考 |
|-----------------|-----|-----|
| 異文化間コミュニケーション | 2 | |
| 海 外 事 情 | 2 | |
| 日 本 語 表 現 | 2 | |
| 人 間 関 係 論 | 2 | |
| 情 報 処 理 (演 習) | 2 | |
| 情 報 処 理 概 論 | 2 | |
| コンピュータ・リテラシーⅠ | 2 | |
| プログラム言語Ⅰ | 2 | |
| 簿 記 会 計 学 | 2 | |
| 事 務 管 理 | 2 | |
| プログラム言語Ⅱ | 2 | |

③申請に要する費用

認定料:5,000円

5) コミュニケーション学科の教育課程

表 II - 15 平成18年度入学生 コミュニケーション学科 開講・履修登録表

東海女子短期大学

| 科目名 | コード | 教授者 | 単位数 | 資格との関係 | | 開講時期及び単位数 | | | | 備考 |
|-------------|------|------------|-----|--------|----|-----------|------|------|------|----------------------|
| | | | | 必修 | 選択 | 1年前期 | 1年後期 | 2年前期 | 2年後期 | |
| 歴史学 | 9602 | 今井(秀) | 2 | | | | | | 2 | 集中講義 1つ単位以上必修 |
| 文学 | 9603 | 木戸(久) | 2 | | | 2 | | | | |
| 日本国憲法 | 9609 | 佐賀 | 2 | | | 2 | | | | |
| 社会と自然 | 9616 | 神谷(真) | 2 | | | 2 | | | | |
| 生活科学 | 9619 | 寺嶋 | 2 | | | | | 2 | | |
| 生活と経済 | 9622 | 須田 | 2 | ☆ | | | | 2 | | |
| コンファーム共同授業Ⅰ | **** | | 2 | | | | | 2 | | |
| 外国語 | 9308 | B.Johnston | 2 | | | 1 | 1 | | | 英語コミュニケーションは仏語の履修も必修 |
| 英語 | 9301 | 辻 | 2 | | | 1 | 1 | | | 情報処理Ⅰの履修も英語の履修も必修 |
| 体育講義 | 9401 | 小林(和)・尾藤 | 1 | | | | 1 | ○ | | 1年後期後半 |
| 体育実技 | 9402 | 小林(和)・尾藤 | 1 | | | | 1 | ○ | | 1年前期から1年後期前半 |
| 小計 | | | 2 | 18 | | | | | | |
| 合計 | | | 20 | | | | | | | |

| 科目名 | コード | 教授者 | 単位数 | 資格との関係 | | 開講時期及び単位数 | | | | 備考 |
|----------------------|-------|------------|-----|--------|----|-----------|------|------|------|-------------------|
| | | | | 必修 | 選択 | 1年前期 | 1年後期 | 2年前期 | 2年後期 | |
| コミュニケーション論 | 20147 | 下内 | 2 | | | 2 | ○ | | | |
| 異文化間コミュニケーション | 20135 | 下内 | 2 | ☆ | ● | | | 2 | ○ | |
| 海外事情 | 20149 | 大野(佳) | 2 | | ● | | | | 2 | ○ |
| 日本語表現 | 20143 | 木戸(久) | 2 | ☆ | ● | | | 2 | ○ | |
| 人間関係論 | 20141 | 杉本 | 2 | ☆ | ● | | | | | 2 |
| 職場の心理学 | 20151 | 岩野 | 2 | | ● | | | | 2 | ○ |
| 情報処理(演習) | 20146 | 杉山(喜)・小池 | 2 | ☆ | ● | 1 | ○ | 1 | ○ | |
| 世界の英語 | 20148 | B.Johnston | 2 | | | | | | | 2 |
| 日本文化論 | 20138 | 大野(佳) | 2 | | | | | | | 2 |
| 基礎英作文Ⅰ | 20152 | 下内 | 2 | | | 1 | 1 | | | 英語コミュニケーションコースは必修 |
| 英会話 | 20154 | M.Borja | 2 | ☆ | | 1 | 1 | | | |
| 海外通信 | 20136 | 辻 | 2 | ☆ | | 2 | | | | |
| インターネット・イングリッシュ | 20167 | M.Borja | 2 | | | | | | 2 | |
| 英米文化論 | 20168 | J.Williams | 2 | | | | | | | 2 |
| 行動科学入門 | 20156 | 川崎 | 2 | | | 2 | | | | |
| 情報処理概論 | 20144 | 今井(昌) | 2 | ☆ | ● | | | | 2 | |
| コンピュータリテラシーⅠ | 20157 | 今井(昌) | 2 | | ● | 1 | 1 | | | |
| 情報科学概論 | 20158 | 高野 | 2 | | | | | | 2 | |
| ビジネス実務総論 | 70601 | 吉田 | 2 | ☆ | | | | | 2 | |
| ビジネス実務演習 | 70602 | 村木 | 2 | ☆ | | | | | 1 | 1 |
| 簿記会計学 | 70604 | 川崎 | 2 | ☆ | ● | | | | 1 | 1 |
| 事務管理 | 70103 | 熊崎 | 2 | | ● | | | | 2 | |
| プログラム言語Ⅰ | 20159 | 長縄(謙) | 2 | | ● | 1 | 1 | | | |
| プログラム言語Ⅱ | 70119 | 長縄(謙) | 2 | | ● | | | 1 | 1 | |
| マイクロソフトオフィススペシャリスト一般 | 20165 | 古川 | 2 | | | 1 | 1 | | 1 | |
| マイクロソフトオフィススペシャリスト上級 | 20166 | 小池 | 2 | | | | | 1 | 1 | |
| オフキャンパスワークショップ | 20162 | | 2 | | | 2 | | | | 夏季・春季休暇中 |
| 英会話海外実習 | 20120 | | 2 | | | | | | | CAE語学研修 |
| コンファーム共同授業Ⅱ | **** | | 2 | | | | | | | |
| 小計 | | | 14 | 44 | | | | | | |
| 合計 | | | 58 | | | | | | | |

【英語コミュニケーションコース】

| 科目名 | コード | 教授者 | 単位数 | 必修 | 選択 | 1年前期 | 1年後期 | 2年前期 | 2年後期 | 備考 |
|------------|-------|------------|-----|----|----|------|------|------|------|----|
| コミュニケーションⅠ | 21031 | 下内・M.Borja | 2 | | | 1 | ○ | 1 | ○ | |
| コミュニケーションⅡ | 21032 | 辻・M.Borja | 2 | | | | | 1 | ○ | 1 |
| コミュニケーションⅢ | 21025 | 下内 | 2 | | | | | 2 | | |
| トピック・スタディ | 21033 | M.Borja | 2 | | | | 2 | | | |
| 観光英語 | 21027 | M.Borja | 2 | | | | | 1 | 1 | |
| 英語音声学 | 21034 | 下内 | 2 | | | 2 | ○ | | | |
| 基礎英作文Ⅱ | 21029 | M.Borja | 2 | | | | | 1 | ○ | 1 |
| 英語リーディングⅠ | 21035 | J.Williams | 2 | | | 1 | ○ | 1 | ○ | |
| TOEIC対策講座 | 21036 | 辻 | 2 | | | | 2 | | | |
| 映画の英語 | 21037 | 下内 | 2 | | | | | | | 2 |
| 小計 | | | 10 | 10 | | | | | | |
| 合計 | | | 20 | | | | | | | |

【情報コミュニケーションコース】

| 科目名 | コード | 教授者 | 単位数 | 必修 | 選択 | 1年前期 | 1年後期 | 2年前期 | 2年後期 | 備考 |
|------------------|-------|-------|-----|----|----|------|------|------|------|----|
| 情報ネットワーク入門 | 22028 | 今井(昌) | 2 | | | | | | 2 | |
| 情報整理法 | 22029 | 長縄(謙) | 2 | | | | | | 2 | |
| 情報メディア論 | 22030 | 高野 | 4 | | | 2 | 2 | | | |
| ビジネスとコミュニケーション | 22031 | 大野(佳) | 2 | | | | | 2 | | |
| ビジネスと法律 | 22034 | 川崎 | 2 | | | | | | 2 | |
| システム・アドミニストレーターⅠ | 22035 | 高野 | 2 | | | 1 | 1 | | | |
| システム・アドミニストレーターⅡ | 22036 | 高野 | 2 | | | | | 2 | | |
| セキュリティ・システム論Ⅰ | 22037 | 高野 | 2 | | | | | | 2 | |
| 小計 | | | 0 | 18 | | | | | | |
| 合計 | | | 18 | | | | | | | |

| 科目名 | コード | 教授者 | 単位数 | 必修 | 選択 | 1年前期 | 1年後期 | 2年前期 | 2年後期 | 備考 |
|--------------|-------|-------|-----|----|----|------|------|------|------|------------------|
| 図書館概論 | 50018 | 首藤 | 2 | | | ○ | 2 | | | |
| 図書館資料論 | 50002 | 小林(純) | 2 | | | | | 2 | | |
| 情報サービス概論 | 50019 | 小林(純) | 2 | | | | | | 2 | |
| レファレンスサービス演習 | 50020 | 小林(純) | 2 | | | | | | 2 | |
| 資料組織概論 | 50021 | 堤玉 | 2 | | | | | | 2 | |
| 資料組織演習 | 50022 | 堤玉 | 2 | | | | | | 2 | |
| 図書館サービス論 | 50023 | 堤玉 | 2 | | | | | | 2 | |
| 児童サービス論 | 50024 | 岡崎 | 1 | | | ○ | | | | 1年夏季集中講義 |
| 資料特論 | 50025 | 小林(純) | 1 | | | | | 1 | | 採集期間を前半・後半に分けて開講 |
| 専門資料論 | 50028 | 小林(純) | 1 | | | | | 1 | | |
| 情報検索演習 | 50026 | 小林(純) | 2 | | | | | | 2 | 2年夏季集中講義 |
| 図書館経営論 | 50027 | 堤玉 | 1 | | | ○ | 1 | | | 1年夏季集中講義 |
| 生涯学習論 | 50029 | 生島 | 1 | | | ○ | 1 | | | 1年夏季集中講義 |
| 情報処理演習 | 50030 | 松尾(良) | 1 | | | | | 1 | | 1年冬季集中講義 |
| 図書館演習・実習 | 50031 | 堤玉 | 2 | | | | | | 2 | 2年夏季集中講義 |
| 小計 | | | 0 | 24 | | | | | | |
| 合計 | | | 24 | | | | | | | |

(3) 児童教育学科 初等教育専攻

1) 授業内容の特色

<体育コース>

- 1.子どもたちと一緒にふれあうことを前提において、運動教材の練習や指導法を学ぶ。
- 2.体力の向上や健康の保持増進に関しての知識と理論を持った、体育・スポーツの指導者を養成する。
- 3.職場や地域社会で活躍できる、実技指導や助言ができる質の高いリーダーを目指す。

<心理コース>

- 1.小学校、あるいは幼稚園教諭としての資質を磨くとともに、家庭や社会における人間関係のあり方を学ぶ。
- 2.人間理解に役立つ心理学的技法を習得する。
- 3.自己表現技術を向上させる手話技法を学ぶ。

2) 卒業の要件

児童教育学科初等教育専攻を卒業するために必要な修得単位数は、授業科目の区分に従い、次のとおりとする。

- 1.教養科目については、10 単位以上
- 2.外国語科目については、2 単位以上
- 3.保健体育科目については、2 単位以上
- 4.専門科目については、48 単位以上
- 5.上記の合計が、62 単位以上であること

3) 取得資格

- 1.小学校教諭 2 種免許
- 2.幼稚園教諭 2 種免許
- 3.学校図書館司書教諭
- 4.ビジネス実務士
- 5.レクリエーション・インストラクター（体育コースのみ取得可能）

4) 免許・資格取得の要件並びに履修要項

1.小学校教諭 2 種免許状及び幼稚園教諭 2 種免許状取得の要件

①免許取得の要件

- a) 『小学校教諭 2 種免許状』の授与及び『幼稚園教諭 2 種免許状』の授与を併せて受けるためには、学校教育法第 69 条の 2 第 7 項に定める短期大学士の称号を有すること。
- b) 『小学校教諭 2 種免許状』を取得するためには、教育職員免許法施行規則第 2 条及び第 6 条に規定する「教科に関する科目」の単位 4 単位及び「教職に関する科目 I」の単位 33 単位以上を修得しなければならない。

②単位の履修方法

- a) 教養科目については、卒業に必要な科目（日本国憲法・外国語・保健体育を含む）、単位数を履修すること。
- b) 教科・教職に関する科目については、次の表の「本学開設科目」の単位数を履修すること。
- c) 『小学校教諭2種免許状』及び『幼稚園教諭2種免許状』を併せて取得するためには、上記単位のほか「教職に関する科目H」の単位8単位（本学は10単位）以上を修得しなければならない。
- d) 情報機器の操作に関する科目（「教育情報処理Ⅰ」）を履修すること。

表Ⅱ－16

【教科に関する科目】

| 法に定める科目 | 授業科目名 | 単位数 | | 備 考 |
|---------|---------------|-----|----|---|
| | | 必修 | 選択 | |
| 国 語 | 国 語 学 概 論 | | 2 | ・小二種免許は、左記9科目のうちから2科目4単位以上選択必修 ・幼二種免許は、国語・算数・生活・音楽・図画工作・体育から2科目4単位以上選択必修 |
| 算 数 | 数 学 | | 2 | |
| 生 活 | 生 活 科 学 | | 2 | |
| 音 楽 | 音 楽 | | 2 | |
| 図 画 工 作 | 美 術 工 芸 | | 2 | |
| 体 育 | 生 涯 ス ポ ー ツ 論 | | 2 | |
| 理 科 | 自 然 科 学 | | 2 | |
| 家 庭 | 家 政 学 | | 2 | |
| 社 会 | 社 会 科 学 | | 2 | |

表 II - 17

【教職に関する科目 I】

| 法定上の科目 | 各科目に含める必要事項 | 授業科目 | 単位数 | | 備考 | |
|-----------------|--|---|-----------|---|---|----------------|
| | | | 必修 | 選択 | | |
| 教職の意義等に関する科目 | ・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） ・進路選択に資する各種機会の提供等 | 教 職 論 | 2 | | | |
| 教育の基礎理論に関する科目 | ・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 | 教 育 原 理 | 2 | | 教育に関する社会的、制度的または経営的事項及び教育課程の意義及び編成の方法を含む。 | |
| | ・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。） | 教 育 心 理 学 | 2 | | | |
| 教育課程及び指導法に関する科目 | ・教育課程の意義及び編成の方法 | | | | 教育原理に含む | |
| | ・各教科の指導法 | 音 楽 科 教 育 法 国 語 科 教 育 法 体 育 科 教 育 法 画 工 作 科 教 育 法 社 会 科 教 育 法 算 数 科 教 育 法 理 科 教 育 法 家 庭 科 教 育 法 生 活 科 教 育 法 | | 2 2 2 2 2 2 2 2 2 | ・教科教育法9科目の内6科目12単位以上選択必修（音楽・図画工作・体育の指導法の内2科目以上必修） | |
| | ・道徳の指導法 | 道 徳 教 育 の 研 究 | 1 | | | |
| | ・特別活動の指導法 | 特 別 活 動 論 | 1 | | | |
| | ・教育の方法及び技術（情報機器及び機材の活用を含む。） | 教 育 の 方 法 と 技 術 | 2 | | | |
| | 生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 | ・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法 | 生 徒 指 導 論 | 2 | | 進路指導の理論及び方法を含む |
| | | ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法 | 教 育 相 談 | 2 | | |
| 総 合 演 習 | | 総 合 演 習 | 2 | | | |
| 教 育 実 習 | | 教 育 実 習（小） | 4 | | | |
| | | 実 習 概 説 | 1 | | | |

表 II - 18

【教職に関する科目Ⅱ】

| 法に定める 科目 | 各科目に含める 必要事項 | 授 業 科 目 | 単位数 | | 備 考 |
|------------------------------------|------------------|---------------|-----|----|-----|
| | | | 必修 | 選択 | |
| 教育課程及び 指導法に関する 科目 | ・各教科の指導法 | 保育内容の指導法 健康 | 1 | 1 | |
| | | 保育内容の指導法 人間関係 | 2 | | |
| | | 保育内容の指導法 環境 | 2 | | |
| | | 保育内容の指導法 言葉 | 2 | | |
| | | 保育内容の指導法 表現 | 1 | 1 | |
| 生徒指導、教 育相談及び進 路指導等に関 する科目 | ・幼児理解の理論 及び方法 | 幼 児 理 解 | 2 | | |
| 教 育 実 習 | | 教 育 実 習 (幼) | | 1 | |

※ただし、幼稚園教諭2種免許のみの取得はできない。

③申請に要する費用

申請手数料:3,300円（収入証紙） 証明書代:200円

2. 学校図書館司書教諭の資格取得の要件

① 受講資格の前提条件

- ・教職員免許状取得もしくは見込みの者とする。

② 資格取得の要件

- ・学校図書館司書教諭の資格を取得しようとする者は、『学校図書館司書教諭講習修了証書』の授与を受けなければならない。
- ・『学校図書館司書教諭講習修了証書』の授与を受けるためには、学校図書館司書教諭講習規程（昭和29年8月6日文科省令第21号）（平成11年4月1日改正）に規定する所要の単位を、10単位以上修得しなければならない。

③ 単位の履修方法

- ・『学校図書館司書教諭の資格』を取得するためには、次の表に記載される5科目10単位を履修すること。

表Ⅱ-19

| 科 目 名 | 単 位 数 |
|--------------|-------|
| 学校経営と学校図書館 | 2 |
| 学校図書館メディアの構成 | 2 |
| 学習指導と学校図書館 | 2 |
| 読書と豊かな人間性 | 2 |
| 情報メディアの活用 | 2 |
| 最低修得単位数 | 10 |

- ④ 『司書資格』と併せて取得する場合は、次の左欄に掲げる2科目について、右欄に掲げる科目と単位が司書教諭講習科目に相当する科目とみなされる。

表Ⅱ-20

| 司 書 科 目 | 司書教諭講習科目 |
|----------------------------|-------------------|
| 資料組織概説（2単位） 図書館資料論（2単位） | 学校図書館メディアの構成（2単位） |

⑤ 規程改正とこれに伴う経過装置

改正前の学校図書館司書教諭講習規程の規定に基づく講習において一部の科目の単位を修得した者は、これに相当する改正後の規定する科目を修得したものとみなすことができる。詳細については教務課の説明を受ける。

⑥ 申請に要する費用

申請手数料:350円（収入証紙） 証明書代・郵送代:590円

3. 『ビジネス実務士』資格認定に関する履修要項

①資格取得の要件

- ・『ビジネス実務士』の称号を得ようとする者は、全国大学・短期大学実務教育協会の定める単位を修得しなければならない。

②単位の履修方法

- ・『ビジネス実務士』の資格を取得するには、次の表に記載されている科目の単位を履修すること。

表Ⅱ-21

| 科 目 名 | 単位数 | 備 考 |
|-----------------------|-----|---|
| 人 間 関 係 論 | 2 | |
| 教 育 情 報 処 理 I | 2 | |
| 言 語 表 現 法 (日 本 語 表 現) | 2 | |
| 数 学 | 2 | |
| ボ ラ ン テ ィ ア 活 動 | 2 | |
| 生 活 と 経 済 | 2 | |
| ビ ジ ネ ス 実 務 総 論 | 2 | 学則第26条の卒業要件の単位数に算入できない。 (但し、「社会心理学」心理学コースは卒業要件の単位数に算入できる。) |
| ビ ジ ネ ス 実 務 演 習 | 2 | |
| 社 会 心 理 学 | 2 | |
| 簿 記 会 計 学 | 2 | |
| 情 報 処 理 I | 2 | |

③申請に要する費用

認定料:5,000円

4. 『レクリエーション・インストラクター』資格認定に関する履修要（体育コースのみ）

①資格取得の要件

- ・『レクリエーション・インストラクター』の資格認定を得ようとする者は、日本レクリエーション協会の定める資格取得のための単位（4単位）を修得しなければならない。

②単位の履修方法

- ・『レクリエーション・インストラクター』の資格を取得するには、次の表に記載されている科目の単位を履修すること。

表Ⅱ-22

| 科 目 名 | 単位数 | 備 考 |
|--------------|-----|-------------------------|
| レクリエーション概論 | 2 | 学則第26条の卒業要件の単位数に算入できない。 |
| レクリエーション実技 | 1 | |
| レクリエーション現場実習 | 1 | |

③申請に要する費用

公 認 料： 5,000 円

基本登録料： 6,500 円（最初の有効期限が2年間のため既定額の半額）

資格登録料： 1,500 円（最初の有効期限が2年間のため既定額の半額）

事務手数料： 500 円

年 会 費： 2,000 円（1年間分の会費）

合 計 15,500 円

5) 児童教育学科 初等教育専攻の教育課程

表 II - 23 平成18年度入学生 児童教育学科 初等教育専攻 開講・履修登録表(全コース共通科目)

東海女子短期大学

| 科目名 | コード | 教授者 | 単位 | | 資格との関係 | | | | 開講時期及び単位数 | | | | 備考 | |
|---------------|------------|------|----------|----|--------|----|----|----|-----------|------|------|------|----------------|----------------|
| | | | 必修 | 選択 | 小免 | 功免 | 司教 | ビジ | 1年前期 | 1年後期 | 2年前期 | 2年後期 | | |
| 教育科目 | 歴史学 | 9602 | 今井(秀) | 2 | | | | | | | | 2 | | 10単位以上必修 |
| | 日本国憲法 | 9609 | 佐賀 | 2 | | ○ | | | | | | 2 | ○ | |
| | 物理の世界 | 9611 | 安藤 | 2 | | | | | | | | 2 | | |
| | 生活と化学 | 9618 | 寺嶋 | 2 | | | | | | | | 2 | | |
| | 生活と経済 | 9622 | 須田 | 2 | | | | | | | | 2 | | |
| | 自然と人間 | 9617 | 今井(秀) | 2 | | | | | | | | 2 | | |
| | 教育ゼミナール | 9633 | 寺嶋 安藤 | 2 | | | | | | | | 2 | | |
| 国際理解 | 9632 | | 2 | | | | | | | | 2 | | CAE3+月研修参加者に認定 | |
| コンソーシアム共同授業 I | **** | | 2 | | | | | | | | | | | |
| 外国語 | 英語 | 9301 | 大野(佳) | 2 | | ○ | | | 1 | ○ | 1 | ○ | | |
| | 中国語 | 9305 | 片岡 | 2 | | | | | | | | 1 | 1 | |
| | 英会話体験実習 I | 9309 | | 1 | | | | | | | | | | CAE3+月研修参加者に認定 |
| | 英会話体験実習 II | 9310 | | 2 | | | | | | | | | | CAE3+月研修参加者に認定 |
| 英会話体験実習 III | 9311 | | 3 | | | | | | | | | | CAE7週間研修参加者に認定 | |
| 保健体育 | 体育講義 | 9401 | 小林(和)・尾藤 | 1 | | ○ | | | | | 1 | ○ | | 1年後期後半 |
| | 体育実技 | 9402 | 小林(和)・尾藤 | 1 | | ○ | | | 1 | ○ | | | | 1年前期から1年後期前半 |
| | 小計 | | 6 | 24 | | | | | | | | | | |
| | 合計 | | 30 | | | | | | | | | | | |

| 科目名 | コード | 教授者 | 単位 | | 資格との関係 | | | | 開講時期及び単位数 | | | | 備考 | | |
|----------------|--------------|-------------|-------------|----|--------|----|----|----|-----------|------|------|------|----|------------------|-----------|
| | | | 必修 | 選択 | 小免 | 功免 | 司教 | ビジ | 1年前期 | 1年後期 | 2年前期 | 2年後期 | | | |
| 専門科目 | 国語 国語学概論 | 30101 | 木戸(久) | 2 | | | | | | | | 2 | | | |
| | 音楽 音楽 | 30158 | 熊沢・藤田(亜) | 2 | | | | | | 2 | | | | | |
| | 体育 生涯スポーツ論 | 30151 | 尾藤 | 2 | | | | | | | | | 2 | 体育コース必修 | |
| | 図工 美術工芸 | 30159 | 松下 | 2 | | ○ | | | | | | | | | |
| | 算数 数学 | 30160 | 安藤 | 2 | | | | | | ☆ | | 2 | | 心理学1-3必修 | |
| | 生活 生活科学 | 30110 | 寺嶋 | 2 | | | | | | | | 2 | | | |
| | 理科 自然科学 | 30108 | 安藤 | 2 | | | | | | | | 2 | | | |
| | 家庭 家政学 | 30109 | 須田 | 2 | | | | | | | | 2 | | | |
| | 社会 社会科学 | 30106 | 今井(秀) | 2 | | | | | | | | 2 | | | |
| | 教育情報処理 I | 30114 | 梶 | 2 | | ○ | | | ☆ | 1 | ○ | 1 | ○ | | 通年で受講すること |
| | 一般心理学 | 30117 | 西原 | 2 | | | | | | | | 2 | | | |
| | 言語表現法(日本語表現) | 30157 | 木戸(久) | 2 | | | | | | ☆ | | | 2 | | |
| | 人間関係論 | 30111 | 石井 | 2 | | | | | | ☆ | | | 2 | | |
| | ボランティア活動 | 30161 | 大森(由) | 2 | | | | | | ☆ | | 2 | | 介護等体験 | |
| | 教職論 | 30162 | 生真 | 2 | | ○ | | | | | | 2 | | | |
| | 教育原理 | 30163 | 谷口 | 2 | | ○ | | | | | | 2 | | | |
| | 教育心理学 | 30119 | 西原 | 2 | | ○ | | | | | | 2 | | 歴史・制度・教育課程の意義を学ぶ | |
| | 教育の方法と技術 | 30164 | 今井(真) | 2 | | ○ | | | | | | | 2 | | |
| | 総合演習 | 30165 | 安藤・生真・木戸(久) | 2 | | ○ | | | | | | 2 | | | |
| 児童に関する専門科目 I | 30122 | 生真 | 1 | | ○ | | | | | | 1 | | | | |
| 特別活動論 | 30123 | 松尾(由) | 1 | | ○ | △ | | | | | 1 | | | | |
| 生徒指導論 | 30124 | 生真 | 2 | | ○ | | | | | | 2 | | | | |
| 教育相談 | 30166 | 瀧地山 | 2 | | ○ | | | | | | 2 | | | | |
| 幼児理解 | 30167 | 奥村 | 2 | | ○ | △ | | | | | 2 | | | | |
| 教育実習(小) | 30126 | | 4 | | ○ | | | | | | | 4 | | | |
| 実習 実習概説 | 30147 | 倉角 | 1 | | ○ | | | | | | 1 | | | | |
| 音楽 | 30129 | 大森(由) | 2 | | | | | | | | 2 | | | | |
| 体育 | 30131 | 小林(和)・奥村・尾藤 | 2 | | | | | | | | 2 | | | | |
| 教育科目 I | 30130 | 松下 | 2 | | | | | | | | | 2 | | | |
| 国語 | 30128 | 木戸(久) | 2 | | | | | | | | | 2 | | | |
| 算数 | 30133 | 安藤 | 2 | | | | | | | | | 2 | | | |
| 生活 | 30136 | 谷口 | 2 | | | | | | | | | 2 | | | |
| 社会 | 30132 | 倉角 | 2 | | | | | | | | 2 | | | | |
| 理科 | 30134 | 安藤 | 2 | | | | | | | | | 2 | | | |
| 家庭 | 30135 | 矢馬 | 2 | | | | | | | | | 2 | | | |
| コンソーシアム共同授業 II | **** | | 2 | | | | | | | | | | | | |
| | 小計 | | 2 | 69 | | | | | | | | | | | |
| | 合計 | | 71 | | | | | | | | | | | | |

| 科目名 | コード | 教授者 | 単位 | 資格との関係 | 開講時期 | 単位数 | 備考 |
|------------|-------|-------|----|--------|------|-----|------------|
| 実習 教育実習(幼) | 30127 | | 1 | | 1 | 1 | 1年の2月に実習予定 |
| 健康 | 30168 | 桑原・三塚 | 2 | △1 | 1 | 1 | 通年で受講すること |
| 人間関係 | 30169 | 瀧地山 | 2 | △ | 2 | | |
| 環境 | 30170 | 倉角 | 2 | △ | | | 2 |
| 音楽 | 30171 | 木戸(久) | 2 | △ | | | 2 |
| 表現(美術) | 30172 | 須田 | 1 | | | | 1 |
| 表現(音楽) | 30173 | 熊沢 | 1 | △1 | | | 1 |
| 小計 | | | 0 | 11 | | | |
| 合計 | | | 11 | | | | |

| 科目名 | コード | 教授者 | 単位 | 資格との関係 | 開講時期 | 単位数 | 備考 |
|--------------|-------|-----|----|--------|------|-----|----------|
| 学校経営と学校図書館 | 60009 | 村瀬 | 2 | | ■ | 2 | 1年夏季集中講義 |
| 学校図書館メディアの構成 | 60010 | 尾玉 | 2 | | ■ | | 2年夏季集中講義 |
| 学芸指導と学校図書館 | 60011 | 尾玉 | 2 | | ■ | | 2年冬季集中講義 |
| 読書と豊かな人間性 | 60012 | 岡崎 | 2 | | ■ | 2 | 1年春季集中講義 |
| 情報メディアの活用 | 60013 | 村瀬 | 2 | | ■ | | 2年夏季集中講義 |
| 小計 | | | 0 | 10 | | | |
| 合計 | | | 10 | | | | |

| 科目名 | コード | 教授者 | 単位 | 資格との関係 | 開講時期 | 単位数 | 備考 |
|----------|-------|-----|----|--------|------|-----|----|
| ビジネス実務総論 | 70601 | 下目 | 2 | | ☆ | | 2 |
| ビジネス実務演習 | 70602 | 藤崎 | 2 | | ☆ | | 1 |
| 社会心理学 | 70603 | 杉本 | 2 | | ☆ | | 2 |
| 簿記会計学 | 70604 | 川崎 | 2 | | ☆ | | 1 |
| 情報処理 I | 70605 | 古川 | 2 | | ☆ | | 2 |
| 小計 | | | 0 | 10 | | | |
| 合計 | | | 10 | | | | |

表Ⅱ-24

平成18年度入学生 児童教育学科 初等教育専攻 開講・履修登録表(各コース専門科目)

【体育コース】

東海女子短期大学

| 科目名 | コード | 教授者 | 単位 | | 資格との関係 | | | | | 開講時期及び単位数 | | | | 備考 | |
|-----------|--------------|-------|----------------|----|--------|----|----|----|----|-----------|------|------|------|----|--------|
| | | | 必修 | 選択 | 小免 | 幼免 | 司教 | レク | ビジ | 1年前期 | 1年後期 | 2年前期 | 2年後期 | | |
| 体育コース専門科目 | スポーツ経営学(行政官) | 31319 | 奥村 | 2 | | | | | | | | | 2 | ○ | |
| | スポーツ指導論 | 31310 | 奥村 | 2 | | | | | | | | 2 | ○ | | |
| | スポーツ生理学(医学系) | 31320 | 渡辺 | 2 | | | | | | 2 | ○ | | | | |
| | 体育学演習 | 31309 | 渡辺 | 1 | | | | | | ① | ○ | | | | 夏季集中講義 |
| | 実技Ⅰノトレーニング | 31321 | 小林(和) | 4 | | | | | | 1 | ○ | | | | |
| | 実技Ⅰノダンス | 31322 | 熊谷 | | | | | | | 1 | ○ | | | | |
| | 実技Ⅰノユニオック | 31323 | 小林(和) | | | | | | | | 1 | ○ | | | |
| | 実技Ⅰノスキー | 31324 | 天野・伊藤・藤原・小林(和) | | | | | | | | ① | ○ | | | 春季集中講義 |
| | 実技Ⅱノバドミントン | 31325 | 尾藤 | 4 | | | | | | | | 1 | ○ | | |
| | 実技Ⅱノバレーボール | 31326 | 伊藤 | | | | | | | | | 1 | ○ | | |
| 実技Ⅱノゴルフ | 31327 | 小林(和) | | | | | | | | | | | 1 | ○ | |
| 実技Ⅱノホウクリン | 31328 | 藤原 | | | | | | | | | | | | 1 | ○ |
| 小計 | | | 15 | 0 | | | | | 3 | 4 | 4 | 4 | | | |
| 合計 | | | 15 | | | | | | | | 15 | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------|--------------|-------|---------------|---|---|--|--|--|---|---|--|---|--|--|-----------------------|
| レクリエーションエデュケーション | レクリエーション概論 | 71001 | 野村(敏) | 2 | | | | | * | | | 2 | | | |
| | レクリエーション実技 | 71005 | 藤原 誠 野村(敏)・長縄 | 1 | | | | | * | 1 | | | | | 通年で受講すること |
| | レクリエーション現場実習 | 71006 | 藤原 野村(敏)・長縄 | 1 | | | | | * | | | ① | | | 市町村レク協会等参加・教育実習参加者に認定 |
| | 小計 | | | 0 | 4 | | | | | | | | | | |
| 合計 | | | 4 | | | | | | | | | | | | |

【心理学コース】

| 科目名 | コード | 教授者 | 単位 | | 資格との関係 | | | | | 開講時期及び単位数 | | | | 備考 | |
|------------|-------|-------|-------|----|--------|----|----|----|----|-----------|------|------|------|----|---|
| | | | 必修 | 選択 | 小免 | 幼免 | 司教 | レク | ビジ | 1年前期 | 1年後期 | 2年前期 | 2年後期 | | |
| 心理学コース専門科目 | 家族心理学 | 31610 | 岩館 | 2 | | | | | | | | | 2 | ○ | |
| | 社会心理学 | 31611 | 杉本 | 2 | | | | | | * | | | | 2 | ○ |
| | 児童心理学 | 31613 | 羽地山 | 2 | | | | | | | | 2 | ○ | | |
| | 青年心理学 | 31614 | 滝田 | 2 | | | | | | | 2 | ○ | | | |
| | 音楽療法 | 31627 | 大森(由) | 2 | | | | | | 2 | ○ | | | | |
| | 臨床心理学 | 31616 | 神谷(か) | 2 | | | | | | | | 2 | ○ | | |
| | 心理学概論 | 31622 | 神谷(か) | 2 | | | | | | 2 | ○ | | | | |
| 小計 | | | 14 | 0 | | | | | | 4 | 2 | 4 | 4 | | |
| 合計 | | | 14 | | | | | | | | 14 | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|------|-------|----|---|---|--|--|--|--|---|---|--|--|--|--------------|
| 手話 | 手話概論 | 74001 | 佐橋 | 2 | | | | | | 2 | | | | | |
| | 手話演習 | 74002 | 佐橋 | 1 | | | | | | | 1 | | | | ※2科目とも受講すること |
| | 小計 | | | 0 | 3 | | | | | | | | | | |
| 合計 | | | 3 | | | | | | | | | | | | |

(4) 児童教育学科 幼児教育専攻

1) 授業内容の特色

- 1.基礎的科目の修得により、生命観、モラル・権利意識、社会人としての教養を身につける。
- 2.専門科目の修得により、責任感、教育力、自己表現力、福祉の理解、共感等保育者としての専門性を培う。
- 3.技能科目の修得により自信を持って保育する能力を育成する。また、個性も伸ばす。

2) 卒業の要件

児童教育学科幼児教育専攻を卒業するために必要な修得単位数は、授業科目の区分に従い、次のとおりとする。

- 1.教養科目については、10 単位以上
- 2.外国語科目については、2 単位以上
- 3.保健体育科目については、2 単位以上
- 4.専門科目については、48 単位以上
- 5.上記の合計が、62 単位以上であること

3) 取得資格

- 1.幼稚園教諭 2 種免許
- 2.保育士資格
- 3.司書資格

4) 免許・資格取得の要件並びに履修要項

1.幼稚園教諭 2 種免許状取得の要件

①免許取得の要件

- a) 『幼稚園教諭 2 種免許状』を授与されるためには、学校教育法第 69 条の 2 第 7 項に定める短期大学士の称号を有すること。
- b) 『幼稚園教諭 2 種免許状』を取得するためには、教育職員免許法施行規則第 2 条及び第 6 条に規定する「教科に関する科目」の単位 4 単位以上及び「教職に関する科目」の単位 27 単位以上を修得しなければならない。

②単位の履修方法

- a) 教養科目については、卒業に必要な科目（日本国憲法・外国語コミュニケーション・保健体育・情報基礎）、単位数を履修すること。
- b) 教科・教職に関する科目については、次の表の「本学開設科目」を履修すること。

表 II - 25

【教科に関する科目】

| 法に定める科目 | 授業科目名 | 単位数 | | 備考 |
|---------|--------|-----|----|----------------------------|
| | | 必修 | 選択 | |
| 国語 | 国語 | | 2 | 国語・幼児美術・幼児体育から1科目2単位以上選択必修 |
| 音楽 | 幼児音楽 I | 2 | | |
| 図画工作 | 幼児美術 | | 2 | |
| 体育 | 幼児体育 | | 2 | |

表 II - 26

【教職に関する科目 I】

| 法定上の科目 | 各科目に含める必要事項 | 授業科目 | 単位数 | | 備考 |
|-----------------------------|--|------------------|-----|----|---|
| | | | 必修 | 選択 | |
| 教職の意義等に関する科目 | ・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、サービス及び身分保障等を含む。） ・進路選択に資する各種機会の提供等 | 教職論 | 2 | | |
| 教育の基礎理論に関する科目 | ・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 | 教育原理 | 2 | | 教育に関する社会的、制度的または経営的事項及び教育課程の意義及び編成の方法を含む。 |
| | ・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。） | 発達心理学 | 2 | | |
| 教育課程及び指導法に関する科目 | ・教育課程の意義及び編成の方法 | | | | 教育原理に含む |
| | ・各教科の指導法 | 保育内容の指導法 健康 | 2 | | |
| | | 保育内容の指導法 人間関係 | 2 | | |
| | | 保育内容の指導法 環境 | 2 | | |
| 保育内容の指導法 言葉 | | 2 | | | |
| 保育内容の指導法 表現 | | 2 | | | |
| ・教育の方法及び技術（情報機器及び機材の活用を含む。） | 教育の方法と技術 | 2 | | | |
| 生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 | ・幼児理解の理論及び方法 ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法 | 臨床心理学 | 2 | | |
| 総合演習 | | 保育総合演習 | 2 | | |
| 教育実習 | | 教育実習（幼） | 4 | | |
| | | 実習概説 | 1 | | |

③申請に要する費用

申請手数料:3,300円（収入証紙） 証明書代:200円

2.保育士資格取得の要件

①資格取得の要件

- ・『保育士証』を取得しようとするものは、児童福祉法施行規則第39条の2第1項第3号（平成13年厚生労働省告示198号）に規定する「教養科目」8単位以上（うち外国語（演習）2単位及び体育に関する講義及び実技それぞれ1単位を含む）と「必修科目」50単位及び「選択必修科目」10単位（保育実習ⅡまたはⅢを含む）以上修得しなければならない。

②単位の履修方法

- ・『保育士証』を取得するためには、次の表の「本学開設科目」により「教養科目」（日本国憲法・外国語・保健体育を含む）14単位以上と、「必修科目」50単位及び「選択必修科目」10単位以上履修すること。

表Ⅱ-27

【教養科目】

| 告示による教科目 | | | | 本学開設科目 | | |
|------------------|-----------------|------|----------|---------|------|------|
| 系列 | 教科目 | 授業形態 | 単位数 | 授業科目 | 授業形態 | 単位数 |
| 教 養 科 目 | 外国語、体育 以外の科目 | 不問 | 6以上 | 物理の世界 | 講義 | 2 |
| | | | | 歴史学 | 講義 | 2 |
| | | | | 自然と人間 | 講義 | 2 |
| | | | | 日本国憲法 | 講義 | 2 |
| | | | | 情報基礎 | 講義 | 2 |
| | | | | 経済学 | 講義 | 2 |
| | | | | 教養ゼミナール | 講義 | 2 |
| 外国語 | 演習 | 2以上 | 英語（児童英語） | 演習 | 2 | |
| 体 育 | | 講義 | 1 | 保健体育講義 | 講義 | 1 |
| | | 実技 | 1 | 保健体育実技 | 実技 | 1 |
| 最低修得単位数 | | | 10単位以上 | 最低修得単位数 | | 12単位 |

表 II - 28

【必修科目】

(必修：平成13年厚生労働省告示198号)

| 告示による教科目 | | | | 本学開設科目 | | | |
|------------------------------|----------|----------|-------|--------------|------|-----|----|
| 系列 | 教科目 | 授業形態 | 単位数 | 授業科目 | 授業形態 | 単位数 | |
| 保理解の 本質・目的 に関する 科目の | 社会福祉 | 講義 | 2 | 社会福祉 | 講義 | 2 | |
| | 社会福祉援助技術 | 演習 | 2 | 社会福祉援助技術 | 演習 | 2 | |
| | 児童福祉 | 講義 | 2 | 児童福祉 | 講義 | 2 | |
| | 保育原理 | 講義 | 4 | 保育原理 | 講義 | 4 | |
| | 養護原理 | 講義 | 2 | 養護原理 | 講義 | 2 | |
| | 教育原理 | 講義 | 2 | 教育原理 | 講義 | 2 | |
| 保理解の 対象の 科目 | 発達心理学 | 講義 | 2 | 発達心理学 | 講義 | 2 | |
| | 教育心理学 | 講義 | 2 | 教育心理学 | 講義 | 2 | |
| | 小児保健 | 講義 実習 | 5 | 小児保健 | 講義 | 4 | |
| | | | | 小児保健実習 | 実習 | 1 | |
| | 小児栄養 | 演習 | 2 | 小児栄養 | 演習 | 2 | |
| | 精神保健 | 講義 | 2 | 精神保健 | 講義 | 2 | |
| 家族援助論 | 講義 | 2 | 家族援助論 | 講義 | 2 | | |
| 保理解の 内容・方法 の 科目の | 保育内容 | 演習 | 6 | 保育内容の指導法人間関係 | 演習 | 1 | |
| | | | | 保育内容の指導法 言葉 | 演習 | 1 | |
| | | | | 保育内容の指導法 環境 | 演習 | 1 | |
| | | | | 保育内容の指導法 健康 | 演習 | 1 | |
| | | | | 保育内容の指導法 表現 | 演習 | 1 | |
| | | | | 保育内容の総論 | 演習 | 1 | |
| | 乳児保育 | 演習 | 2 | 乳児保育 | 演習 | 2 | |
| 障害児保育 | 演習 | 1 | 障害児保育 | 演習 | 1 | | |
| 養護内容 | 演習 | 1 | 養護内容 | 演習 | 1 | | |
| 基礎 技能 | 基礎技能 | 演習 | 4 | 幼児音楽 I | 演習 | 2 | |
| | | | | 幼児美術 | 演習 | 1 | |
| | | | | 幼児体育 | 演習 | 1 | |
| 保育 実習 | 保育実習 | 実習 | 5 | 保育実習 I | 実習 | 4 | |
| | | | | 保育実習指導 | 演習 | 1 | |
| 総合 演習 | 総合演習 | 演習 | 2 | 保育総合演習 | 演習 | 2 | |
| 最低修得単位数 | | | 50 | 最低修得単位数 | | | 50 |

表Ⅱ-29

【選択必修科目】

| 通知による教科目 | | | | 本学開設科目 | | |
|--|-------|------|------------------------|------------------|------|--------|
| 系列 | 教科目 | 授業形態 | 単位数 | 授業科目 | 授業形態 | 単位数 |
| 目的の本質解・ 解に関する科目 の理解に関する 内容・方法科目 基礎技能 | | | 17 単 位 以 上 | 保育計画論 | 講義 | 2 |
| | | | | 臨床心理学 | 演習 | 2 |
| | | | | 保育実践活動 | 演習 | 2 |
| | | | | 保育内容研究Ⅰ 幼児版Ⅰ画 | 演習 | 1 |
| | | | | 保育内容研究Ⅱ 発表活動 | 演習 | 2 |
| | | | | 保育内容研究Ⅲ オペレッタ | 演習 | 2 |
| | | | | 幼児音楽Ⅱ | 演習 | 2 |
| | | | | 幼児音楽Ⅲ | 演習 | 2 |
| | | | | 幼児美術 | 演習 | 1 |
| | | | | 幼児体育 | 演習 | 1 |
| 保育 実習 | 保育実習Ⅱ | 実習 | 〔 2 〕 | 保育実習Ⅱ | 実習 | 2 |
| | 保育実習Ⅲ | 実習 | | 保育実習Ⅲ | 実習 | 2 |
| 合 計 | | | 19単位以上 | 最低修得単位数 | | 10単位以上 |

③申請に要する費用

登録料:4,200円（収入証紙） 証明書代:200円

3. 司書資格取得の要件

① 資格取得の要件

- ・『司書資格証』を取得しようとする者は、図書館法（昭和25年4月30日法律第118号）及び同法施行規則（昭和25年9月6日文部省令第27号）（平成9年4月1日改正）に規定する所要の単位を20単位以上修得しなければならない。

② 単位の履修方法

- ・『司書資格証』を取得するためには、次の表に記載されている15科目24単位の履修すること。

表II-30

| 本 学 開 設 科 目 | |
|-----------------|-------|
| 科 目 名 | 単 位 数 |
| 生 涯 学 習 論 | 1 |
| 図 書 館 概 論 | 2 |
| 図 書 館 経 営 論 | 1 |
| 図 書 館 サ ー ビ ス 論 | 2 |
| 情 報 サ ー ビ ス 概 説 | 2 |
| レファレンスサービス演習 | 2 |
| 情 報 検 索 演 習 | 2 |
| 図 書 館 資 料 論 | 2 |
| 専 門 資 料 論 | 1 |
| 資 料 組 織 概 説 | 2 |
| 資 料 組 織 演 習 | 2 |
| 児 童 サ ー ビ ス 論 | 1 |
| 資 料 特 論 | 1 |
| 情 報 処 理 演 習 | 1 |
| 図 書 館 演 習 ・ 実 習 | 2 |
| 最 低 修 得 単 位 数 | 24 |

5) 児童教育学科 幼児教育専攻の教育課程

表 II - 31 平成18年度入学生 児童教育学科 幼児教育専攻 開講・履修登録表

東海女子短期大学

| 科目名 | コード | 教授者 | 単位 | 資格との関係 | | | | 開講時期及び単位数 | | | | 備 考 | | |
|------------|------|----------------|----|--------|----|----|-----|-----------|------|------|------|-----|---------------------------------------|----------------|
| | | | | 必修 | 選択 | 幼免 | 保育士 | 1年前期 | 1年後期 | 2年前期 | 2年後期 | | | |
| 経済学 | 9101 | 神谷(真) | 2 | | | | | | | | | | 10 単 位 以 上 必 修 ! | |
| 歴史学 | 9602 | 今井(秀) | 2 | | | | | | | | | | | |
| 日本国憲法 | 9609 | 佐藤 | 2 | ○ | △ | | | | | 2 | ○ | 2 | | |
| 物理の世界 | 9611 | 安藤 | 2 | | | | | | | | | 2 | | |
| 情報基礎 | 9620 | 松原(良) | 2 | ○ | | | | 1 | 1 | | | | | |
| 自然と人間 | 9617 | 寺嶋・安藤 | 2 | | | | | | | | | 2 | | |
| 教養セミナー | 9833 | 安藤 神谷(真)・須田 寺嶋 | 2 | | | | | 2 | | | | | | |
| 国際理解 | 9832 | | 2 | | | | | | | | | | | |
| プログラム共同授業Ⅰ | **** | | 2 | | | | | | | | | | | CAE3ヶ月研修参加者に認定 |
| 英語 | 9301 | 大野(佳)・下内 | 2 | | ○ | △ | | 1 | ○ | 1 | ○ | | | |
| 英会話体験実習Ⅰ | 9309 | | 1 | | | | | | | | | | CAE3-02h 研修参加者に認定 | |
| 英会話体験実習Ⅱ | 9310 | | 2 | | | | | | | | | | CAE3ヶ月研修参加者に認定 | |
| 英会話体験実習Ⅲ | 9311 | | 3 | | | | | | | | | | CAE7週間研修参加者に認定 | |
| 保健体育講義 | 9401 | 小林(和)・津辺 | 1 | | | ○ | △ | | | 1 | ○ | | 1年後期後半 | |
| 保健体育実技 | 9402 | 安藤 小林(和)・津辺 | 1 | | | ○ | △ | | | 1 | ○ | | 1年前期から1年後期前半 | |
| 小計 | | | 6 | | | | | | | | | | | |
| 合計 | | | 28 | | | | | | | | | | | |

| 科目名 | コード | 教授者 | 単位 | 資格との関係 | | | | 開講時期及び単位数 | | | | 備 考 | |
|------------|-----------|----------------|----|--------|----|----|-----|-----------|------|------|------|-----|----------------------------|
| | | | | 必修 | 選択 | 幼免 | 保育士 | 1年前期 | 1年後期 | 2年前期 | 2年後期 | | |
| 教壇論 | 32175 | 三羽 | 2 | | | ○ | | | | 2 | | | |
| 教育原理 | 32157 | 年真 | 2 | | | ○ | △ | | | | | 2 | |
| 発達心理学 | 32127 | 神谷(か) | 2 | | | ○ | △ | | | | | 2 | |
| 健康Ⅰ | 32176 | 大野・奥村・伊藤 | 1 | | | ○ | | 1 | | | | | |
| 人間関係 | 32190 | 茶屋・三羽 | 2 | | | ○ | △ | | | 1 | | 1 | |
| 音楽 | 32191 | 長谷部 | 2 | | | ○ | △ | 1 | 1 | | | | |
| 保育内容の環境 | 32192 | 杉山(久) | 2 | | | ○ | △ | 1 | 1 | | | | |
| 指導法 | 32181 | 若杉・藤田 | 1 | | | ○ | △ | | | | | 1 | |
| 表現Ⅰ | 32182 | 藤田(美)・大江・戸松 | 1 | | | ○ | | 1 | | | | | |
| 表現Ⅱ | 32177 | 大野・奥村・伊藤 | 1 | | | ○ | | | | 1 | | | |
| 教育の方法と技術 | 32184 | 杉山(善)・杉原 | 2 | | | ○ | | | | | | 2 | |
| 臨床心理学 | 32185 | 須地山 | 2 | | | ○ | ▲ | | | | | 2 | |
| 保育総合演習 | 32168 | 幼児教育専攻全教員 | 2 | | | ○ | △ | | | 2 | ○ | | 2ヵ月 |
| 実習環境 | 32151 | 杉山(真) | 1 | | | ○ | | | | | | 1 | 幼稚園実習事前・事後指導を含む |
| 教育実習(幼) | 32138 | 杉山(真) | 4 | | | ○ | | | | | | 4 | 前期1年2月 後期2年6月 |
| 音楽 | 32169 | 大森(由)・他 | 2 | | | ○ | △ | 1 | 1 | | | | |
| 図画工作 | 32121 | 若杉・高島 杉山(真) | 2 | | | △ | ▲ | 1 | 1 | | | | |
| 体育 | 32161 | 藤原・小林(和)・三橋 | 2 | | | ○ | ▲ | 1 | 1 | | | | 1 |
| 国語 | 32186 | 木戸(久) | 2 | | | ○ | ▲ | | | | | | 1 |
| 社会福祉 | 32193 | 森川(洋) | 2 | | | △ | | 2 | ○ | | | | |
| 社会福祉援助技術 | 32194 | 曾我・田部 | 2 | | | △ | | | | | | 1 | 1 |
| 児童福祉 | 32104 | 長嶋(良) | 2 | | | △ | | | | 2 | | | |
| 保育原理 | 32150 | 須地山・松尾(由) | 4 | | | △ | | 2 | ○ | 2 | ○ | | |
| 児童心理学 | 32195 | 長嶋(良) | 2 | | | △ | | 2 | | | | | |
| 教育心理学 | 32142 | 神谷(か) | 2 | | | △ | | 2 | | | | | |
| 小児保健 | 32109 | 野村(博) | 4 | | | △ | | 2 | ○ | 2 | ○ | | |
| 小児保健実習 | 32110 | 真路(智)・矢島・梶見(夕) | 1 | | | △ | | | | 1 | | | |
| 小児栄養 | 32112 | 曾我部 | 2 | | | △ | | | | | | | 2 |
| 精神保健 | 32111 | 森川(士) | 2 | | | △ | | | | | | | 2 |
| 家族援助論 | 32196 | 宮本 | 2 | | | △ | | | | | | | 2 |
| 乳児保育 | 32197 | 市川 | 2 | | | △ | | 1 | 1 | | | | 2 |
| 養護内容 | 32115 | 井上(智) | 1 | | | △ | | | | | | 1 | |
| 障害児保育 | 32198 | 須地山・島田 | 1 | | | △ | | | | | | | 1 |
| 保育内容総論 | 32145 | 藤原・三羽 | 1 | | | △ | | | | | | | 1 |
| 保育実習指導 | 32199 | 杉山(真) | 1 | | | △ | | | | 1 | | | |
| 保育実習Ⅰ | (保) 32146 | 杉山(善) | 2 | | | △ | | | | 2 | | | 保育実習事前・事後指導を含む 1年春休み2週間 |
| 保育実習Ⅱ | (保) 32147 | 杉山(善) | 2 | | | △ | | | | 2 | | | 2年夏休み10日間 |
| 保育実践活動 | 32200 | 若杉・藤田(美)・長谷部 | 2 | | | ▲ | | | | | | 1 | ○ |
| 保育計画論 | 32201 | 藤原 | 2 | | | ▲ | | | | 1 | ○ | 2 | |
| 保育内容研究Ⅰ | 32202 | 若杉 | 1 | | | ▲ | | | | | | 2 | |
| 保育内容研究Ⅱ | 32203 | 若杉・藤田(美) | 2 | | | ▲ | | | | | | 1 | |
| 保育内容研究Ⅲ | 32204 | 藤原 | 2 | | | ▲ | | | | | | 2 | 同時開講 2ヵ月 |
| 音楽 | 32170 | 藤田 他 | 2 | | | ▲ | | | | | | 2 | |
| 幼児音楽Ⅱ | 32174 | 大江 他 | 2 | | | ▲ | | | | 1 | | 1 | |
| 保育実習Ⅱ | (保) 32148 | | 2 | | | ▲ | | | | 1 | | 2 | |
| 保育実習Ⅲ | (保) 32149 | | 2 | | | ▲ | | | | | | 2 | 選択必修 11月2週間 |
| 保育セミナーⅠ | 32188 | 幼児教育専攻全教員 | 1 | | | | | | | | | 1 | ○ |
| 保育セミナーⅡ | 32189 | 幼児教育専攻全教員 | 1 | | | | | | | | | 1 | ○ |
| プログラム共同授業Ⅱ | **** | | 2 | | | | | | | | | | |
| 小計 | | | 18 | | | | | | | | | | |
| 合計 | | | 91 | | | | | | | | | | |

(注)保育士資格を取得するためには、保育士必修科目に加え保育士選択科目(保育実習Ⅱ・Ⅲは除く)のうち、8単位以上取得しなければならない。

| 科目名 | コード | 単位 | 資格との関係 | 開講時期及び単位数 | 備 考 |
|--------------|-------|----|--------|-----------|-----------------------------|
| 図書館概論 | 50018 | 2 | | | |
| 図書館資料論 | 50002 | 2 | | 2 | |
| 情報サービス概論 | 50019 | 2 | | 2 | |
| レファレンスサービス演習 | 50020 | 2 | | | 2 |
| 資料組織概論 | 50021 | 2 | | | 2 |
| 資料組織演習 | 50022 | 2 | | | 2 |
| 図書館サービス論 | 50023 | 2 | | | 2 |
| 図書館サービス論 | 50024 | 1 | | | |
| 資料特論 | 50025 | 1 | | 1 | 1年夏季集中講義 夏季期間前半・後半に分けて開講 |
| 専門資料論 | 50028 | 1 | | 1 | |
| 情報検索演習 | 50026 | 2 | | | 2年夏季集中講義 |
| 図書館経営論 | 50027 | 1 | | 1 | 1年夏季集中講義 |
| 生涯学習論 | 50029 | 1 | | 1 | 1年夏季集中講義 |
| 情報処理演習 | 50030 | 1 | | 1 | 1年冬季集中講義 |
| 図書館実習・実習 | 50031 | 2 | | | 2年夏季集中講義 |
| 小計 | | 0 | | | |
| 合計 | | 24 | | | |

(5) 介護福祉学科

1) 授業内容の特色

- 1.福祉職業に従事する専門職として、また社会人として必要な、豊かな人間性と幅広い教養を身につける。
- 2.対人的業務である介護福祉士の役割発揮に役立つ心理科目を履修し、心のケアの方法を学ぶ。
- 3.介護保険に関する事務処理に対応するため、介護保険実務士の資格取得を目指す。

2) 卒業の要件

介護福祉学科を卒業するために必要な修得単位数は、授業科目の区分に従い、次のとおりとする。

- 1.教養・外国語・保健体育科目から8単位以上
- 2.専門科目については70単位以上
- 3.上記の合計が78単位以上であること

ただし、専門科目中必修に指定されている学科目は、1科目が欠けても卒業できない。

3) 取得資格

- 1.介護福祉士
- 2.介護保険実務士

4) 免許・資格取得の要件並びに履修要項

1.介護福祉士資格取得の要件

①資格取得の要件

- ・『介護福祉士資格証』を取得しようとするものは、社会福祉士介護福祉学校職業能力開発校等養成施設指定規則第7条（昭和62年厚生省令第50号亘最終改正平成11年H月28日厚生省令第106号）に規程する単位を修得しなければならない。

②単位の履修方法

- ・『介護福祉士資格証』を取得するには、次の表に記載されている科目の単位を履修すること。

表II-32

| 介護福祉士養成施設等の 指定規則に定める科目 | 時間数 | 本学授業科目 | | |
|---------------------------|-------|---|-----------------|------------------|
| | | 授業科目の名称 | 単位数 | 時間数 |
| 基礎分野 人間とその生活の理解 | 120 | 人間関係論 日本国憲法 生活と経済 生活と文化 情報基 養ゼミナール コンソーシアム共同授業Ⅰ 英語Ⅰ 英会話海外研修Ⅰ スポーツと健康 スポーツ実習 | 8単位 以上 必修 | 150 |
| 社会福祉概論 | 60 | 社会福祉概論Ⅰ 社会福祉概論Ⅱ | 2 2 | 30 30 |
| 老人福祉論 | 60 | 老人福祉論Ⅰ 老人福祉論Ⅱ | 2 2 | 30 30 |
| 障害者福祉論 | 30 | 障害者福祉論 | 2 | 30 |
| リハビリテーション倫 | 30 | リハビリテーション論 | 2 | 30 |
| 社会福祉援助技術 | 30 | 社会福祉援助技術 | 2 | 30 |
| 社会福祉援助技術演習 | 30 | 社会福祉援助技術演習 | 1 | 30 |
| レクリエーション活動援助法 | 60 | レクリエーション活動援助法Ⅰ レクリエーション活動援助法Ⅱ | 1 1 | 30 30 |
| 老人・障害者の心理 | 60 | 老人・障害者の心理Ⅰ 老人・障害者の心理Ⅱ | 2 2 | 30 30 |
| 家政学概論 | 60 | 家政学概論Ⅰ 家政学概論Ⅱ | 2 2 | 30 30 |
| 家政学実習 | 90 | 家政学実習Ⅰ 家政学実習Ⅱ | 1 1 | 30 60 |
| 医学一般 | 90 | 医学一般Ⅰ 医学一般Ⅱ 医学一般Ⅲ | 2 2 2 | 30 30 30 |
| 精神保健 | 30 | 精神保健 | 2 | 30 |
| 介護概論 | 60 | 介護概論Ⅰ 介護概論Ⅱ | 2 2 | 30 30 |
| 介護技術 | 150 | 介護技術Ⅰ 介護技術Ⅱ 介護技術Ⅲ | 2 2 1 | 60 60 30 |
| 形態別介護技術 | 150 | 形態別介護技術Ⅰ 形態別介護技術Ⅱ 形態別介護技術Ⅲ | 2 2 1 | 60 60 30 |
| 介護実習 | 450 | 介護実習Ⅰ 介護実習Ⅱ 介護実習Ⅲ | 2 4 4 | 90 180 180 |
| 介護実習指導 | 90 | 介護実習指導Ⅰ 介護実習指導Ⅱ 介護実習指導Ⅲ | 1 1 1 | 30 30 30 |
| 合計 | 1,650 | | 70 | 1,680 |

③申請に要する費用

登録料:9,000円(収入印紙) 手数料:4,050円(証明書代)

2. 『介護保険実務士』資格認定に関する履修要項

①資格取得の要件

・『介護保険実務士』の称号認定を得ようとする者は、日本医療福祉実務教育協会の定める単位を修得しなければならない。

②単位の履修方法

・『介護保険実務士』の資格を取得するには、次の表に記載されている科目の単位を履修すること。

表Ⅱ－33

| 科 目 名 | 単位数 | 備 考 |
|---------------------|-----|-----|
| 社 会 福 祉 概 論 I | 2 | |
| 老 人 ・ 障 害 者 の 心 理 I | 2 | |
| 医 学 一 般 I | 2 | |
| 介 護 概 論 I | 2 | |
| 介 護 技 術 I | 2 | |
| デ ー タ 処 理 演 習 | 1 | |
| 介 護 事 務 総 論 | 2 | |
| 介 護 事 務 演 習 | 1 | |

③申請に要する費用

認定料:7,000 円

5) 介護福祉学科の教育課程

表 II - 34 平成18年度入学生 介護福祉学科 開講・履修登録表

東海女子短期大学

| 科目名 | コード | 教授者 | 単位 | | 資格との関係 | | | 開講時期及び単位数 | | | | 備考 | |
|------|---------------|------|----------|----|--------|---------|--------|-----------|------|------|------|----|-----------------|
| | | | 必修 | 選択 | 介護福祉士 | 介護保険実務士 | 社会福祉主事 | 1年前期 | 1年後期 | 2年前期 | 2年後期 | | |
| 教養科目 | 人間関係論 | 9627 | 神谷(か) | 2 | | | | 2 | | | | | 8単位以上必修 |
| | 日本国憲法 | 9609 | 佐藤 | 2 | | | | | 2 | | | | |
| | 生活と経済 | 9622 | 須田 | 2 | | | | | | | | 2 | |
| | 生活と化学 | 9618 | 寺嶋 | 2 | | | | | | | 2 | | |
| | 情報基礎 | 9620 | 今井(昌) | 1 | | | | | | | 1 | | |
| | 教養ゼミナール | 9633 | 寺嶋・木戸(久) | 2 | | | | | | | | 2 | |
| | コンソーシアム共同授業 I | **** | | 2 | | | | | | | | | |
| 外国語 | 英語 | 9301 | 大野(佳) | 2 | | | | 1 | ○ | 1 | ○ | | GAF3-0の履修者加算に認定 |
| | 英会話体験実習 I | 9309 | | 1 | | | | | | | | | |
| 保健体育 | スポーツと健康 | 9403 | 桑原 | 1 | | | | | | 1 | | | 1年後期後半 |
| | スポーツ実習 | 9404 | 桑原 | 1 | | | | 1 | | | | | 1年前期から1年後期前半 |
| 合計 | | | 2 | 16 | | | | | | | | | |

| 科目名 | コード | 教授者 | 単位 | | 資格との関係 | | | 開講時期及び単位数 | | | | 備考 | | |
|----------------|------------------|----------|-------------|----|--------|---------|--------|-----------|------|------|------|-----|---------|---------------|
| | | | 必修 | 選択 | 介護福祉士 | 介護保険実務士 | 社会福祉主事 | 1年前期 | 1年後期 | 2年前期 | 2年後期 | | | |
| 介護福祉士資格専門科目 | 社会福祉概論 I | 90001 | 森川(洋) | 2 | ◎ | ☆ | ◇ | 2 | ○ | | | | | 8単位以上必修 |
| | 社会福祉概論 II | 90002 | 森川(洋) | 2 | ◎ | | ◇ | | | 2 | ○ | | | |
| | 老人福祉論 I | 90003 | 曾我 | 2 | ◎ | | ◇ | | 2 | ○ | | | | |
| | 老人福祉論 II | 90004 | 曾我 | 2 | ◎ | | ◇ | | | 2 | ○ | | | |
| | 障害者福祉論 | 90005 | 森川(洋) | 2 | ◎ | | ◇ | | 2 | ○ | | | | |
| | リハビリテーション論 | 90006 | 大塚 | 2 | ◎ | | ◇ | | | | 2 | ○ | | |
| | 社会福祉援助技術 | 90007 | 森川(洋) | 2 | ◎ | | ◇ | | 2 | ○ | | | | |
| | 社会福祉援助技術演習 | 90008 | 森川(洋) | 1 | ◎ | | | | | 1 | ○ | | | |
| | レクリエーション活動援助法 I | 90009 | 三橋 | 1 | ◎ | | | | | | 1 | ○ | | |
| | レクリエーション活動援助法 II | 90010 | 三橋 | 1 | ◎ | | | | | | | 1 | ○ | |
| | 老人・障害者の心理 I | 90011 | 岩鏡 | 2 | ◎ | ☆ | | | 2 | ○ | | | | |
| | 老人・障害者の心理 II | 90012 | 岩鏡 | 2 | ◎ | | | | | 2 | ○ | | | |
| | 家政学概論 I | 90013 | 増栄 古見 | 2 | ◎ | | ◇ | | 2 | ○ | | | | |
| | 家政学概論 II | 90014 | 本間・須田 | 2 | ◎ | | ◇ | | | 2 | ○ | | | |
| | 家政学実習 I | 90015 | 本間・増栄 | 1 | ◎ | | | | | 1 | ○ | | 237 | |
| | 家政学実習 II | 90016 | 本間・古見 | 1 | ◎ | | | | | | 1 | ○ | | |
| | 医学一般 I | 90017 | 小木曾 | 2 | ◎ | ☆ | ◇ | | 2 | ○ | | | | |
| | 医学一般 II | 90018 | 小木曾 | 2 | ◎ | | ◇ | | | 2 | ○ | | | |
| | 医学一般 III | 90019 | 小木曾 | 2 | ◎ | | ◇ | | | | 2 | ○ | | |
| | 精神保健 | 90020 | 井上(真) | 2 | ◎ | | | | 2 | ○ | | | | |
| | 介護概論 I | 90021 | 木戸(美) | 2 | ◎ | ☆ | ◇ | | 2 | ○ | | | | |
| | 介護概論 II | 90022 | 木戸(美) | 2 | ◎ | | ◇ | | | 2 | ○ | | | |
| | 介護技術 I | 90023 | 木戸(美)・佐分 塩谷 | 2 | ◎ | ☆ | | | 2 | ○ | | | 237 | |
| | 介護技術 II | 90024 | 真鍋(智) 塩谷 | 2 | ◎ | | | | | 2 | ○ | | 237 | |
| | 介護技術 III | 90025 | 佐分 真鍋(智) | 1 | ◎ | | | | | | 1 | ○ | | |
| | 形態別介護技術 I | 90035 | 木戸(美) | 2 | ◎ | | | | | 2 | ○ | | 237 | |
| | 形態別介護技術 II | 90037 | 佐分 | 2 | ◎ | | | | | | 2 | ○ | 237 | |
| | 形態別介護技術 III | 90038 | 木戸(美) | 1 | ◎ | | | | | | 2 | ○ | 237 | |
| | 介護実習 I | 90029 | 木戸(美) | 2 | ◎ | | | | | ② | ○ | | | |
| | 介護実習 II | 90030 | 木戸(美) | 4 | ◎ | | | | | | 4 | ○ | | |
| | 介護実習 III | 90031 | 木戸(美) | 4 | ◎ | | | | | | | (4) | ○ | |
| | 介護実習指導 I | 90032 | 木戸(美) 佐分 | 1 | ◎ | | | | | 1 | ○ | | | |
| | 介護実習指導 II | 90033 | 佐分 木戸(美) | 1 | ◎ | | | | | | 1 | ○ | | |
| 介護実習指導 III | 90034 | 佐分 木戸(美) | 1 | ◎ | | | | | | | 1 | ○ | | |
| 専門関連科目 | 卒論ゼミナール | 91001 | 森川(洋) | 2 | | | | | | | 1 | 1 | 8単位以上必修 | |
| | 家族心理学 | 91002 | 亀田 | 2 | | | | | | | 2 | | | |
| | 臨床心理学 | 91003 | 神谷(か) | 2 | | | | | | | | 2 | | |
| | カウンセリング論 | 91004 | 石井 | 2 | | | | | | | | 2 | | |
| | ケアマネージメント論 | 91005 | 佐分 | 2 | | | | | | | 2 | | | |
| | 地域福祉論 | 91006 | 曾我 | 2 | | | | | | | | 2 | | |
| | 児童福祉論 | 91007 | 長埜(良) | 2 | | | | | | | | 2 | | |
| | レクリエーション実技 | 91008 | 桑原 | 2 | | | | | | | | 2 | | |
| | ボランティア論 | 91009 | 森川(洋) | 2 | | | | 2 | | | | | | |
| | データ処理演習 | 91010 | 今井(昌) | 1 | | ☆ | | | | | | 1 | | |
| | 介護事務概論 | 91013 | 早川 | 2 | | ☆ | | | | | 2 | | | |
| | 介護事務演習 | 91011 | 早川 | 1 | | ☆ | | | | | | 1 | | |
| | 音楽療法 | 91012 | 大森(由) | 2 | | | | | | | | 2 | | |
| | 医療福祉士養成講座 | 91014 | | 1 | | | | | | (1) | | | | 初級調査福祉士受験資格科目 |
| コンソーシアム共同授業 II | **** | | 2 | | | | | | | | | | | |
| 小計 | | | 62 | 27 | | | | | | | | | | |
| 合計 | | | 89 | | | | | | | | | | | |

(6) 専攻科 福祉専攻

1) 授業内容の特色

専攻科とは、保育士の資格を持つ学習者が、さらに介護福祉士としての資格をめざすために設けられた1年課程である。通常、介護福祉士の資格を取得するには、2年間の養成過程を修了する必要があるが、保育士の養成校を卒業し、資格を所持した学習者であれば指定科目の単位を習得するだけで取得可能。卒業後すぐに現場で活躍できる即戦力を養成する。介護・福祉の専門技術だけでなく、その背景にある人間理解を深めるための科目が充実。カウンセリング論、音楽療法、レクリエーション実技など个性的かつ多彩なカリキュラムにより、高齢者や障害者を多面的に支援することをめざしている。

2) 修了の要件と取得できる資格

専攻科福祉専攻の教育課程は、次頁に示す介護福祉士資格専門科目と専門関連科目の2区分があり、介護福祉士資格専門19科目34単位の開設科目すべてと、専門関連10科目18単位の開設科目のうち4単位以上の修得が修了要件となっている。修了者は介護福祉士の資格が取得できることになる。

また、選択科目として開設されている専門関連科目のうち「医療の基礎」「データ処理演習」「介護事務総論」「介護事務演習」の4科目の単位を修得すれば、介護保険実務士の資格が取得できる。

なお、専攻科福祉専攻は介護福祉士の資格取得が修了要件になっているため、「介護実習」が必修になる。7月後半から「介護実習1」(2週間)が始まり、翌年3月の修了までに計8週間の実習を体験することになる。実習についての詳細は「介護実習指導」の授業や実習要項等で示される。

申請に要する費用は、次に示すとおりである。

介護福祉士：登録料 9,000 円 手数料 4,050 円

介護保険実務士：認定料 7,000 円

3) 専攻科 福祉専攻の教育課程

表Ⅱ-35 平成18年度入学生 専攻科 福祉専攻 開講・履修登録表

東海女子短期大学

| 科目名 | コード | 教授者 | 単位 | | 資格との関係 | | 開講時期及び単位数 | | 備 考 |
|------------|-------|-------------|----|----|-----------|-----------|-----------|----|---------------|
| | | | 必修 | 選択 | 介護 福祉士 | 介護福祉 士 | 秋開 | 春開 | |
| 老人福祉論Ⅰ | 93001 | 曾根 | 2 | | ◎ | | 2 | ○ | |
| 老人福祉論Ⅱ | 93002 | 曾根 | 2 | | ◎ | | | 2 | ○ |
| ボランティア論 | 93003 | 大塚 | 2 | | ◎ | | | 2 | ○ |
| 老人障害者の心理 | 93004 | 近藤 | 2 | | ◎ | ☆ | 2 | ○ | |
| 福祉学概論 | 93005 | 酒井 津田 藤木 占原 | 2 | | ◎ | | | 2 | ○ |
| 福祉学実習Ⅰ | 93006 | 本校 | 1 | | ◎ | | 1 | ○ | 227 |
| 福祉学実習Ⅱ | 93007 | 増家 小見 酒田 | 1 | | ◎ | | | 1 | ○ |
| 介護概論Ⅰ | 93008 | 本保 | 2 | | ◎ | ☆ | 2 | ○ | |
| 介護概論Ⅱ | 93009 | 本保 | 2 | | ◎ | ☆ | | 2 | ○ |
| 介護技術Ⅰ | 93010 | 本保 | 2 | | ◎ | ☆ | 2 | ○ | 227 |
| 介護技術Ⅱ | 93011 | 本保 | 2 | | ◎ | ☆ | | 2 | ○ |
| 形態別介護技術Ⅰ | 93012 | 大塚 葉 | 2 | | ◎ | | 2 | ○ | 227 |
| 形態別介護技術Ⅱ | 93013 | 長谷 | 2 | | ◎ | | | 2 | ○ |
| 形態別介護技術Ⅲ | 93014 | 大塚 葉、長谷 | 1 | | ◎ | | | 1 | ○ |
| 形態別介護技術Ⅳ | 93015 | 真鍋 道、佐藤 | 1 | | ◎ | | | 1 | ○ |
| 介護実習Ⅰ | 93016 | 本保 他 | 2 | | ◎ | | 2 | ○ | 第1段階:2時間 |
| 介護実習Ⅱ | 93017 | 本保 他 | 3 | | ◎ | | 3 | ○ | 第2段階:3時間/週を2回 |
| 介護実習Ⅲ | 93018 | 本保 他 | 3 | | ◎ | | 3 | ○ | 第3段階:4時間 |
| 介護実習指導Ⅰ | 93019 | 本保 | 1 | | ◎ | | 1 | ○ | |
| 介護実習指導Ⅱ | 93020 | 本保 | 1 | | ◎ | | | 1 | ○ |
| カウンセリング論 | 94001 | 石井 | | 2 | | | | 2 | |
| ケアマネジメント論 | 94002 | 長谷 | | 2 | | | | 2 | |
| 地域福祉論 | 94003 | 曾根 | | 2 | | | | 2 | |
| 音楽療法 | 94004 | 大塚 白 | | 2 | | | 2 | | |
| レクリエーション実技 | 94005 | 森渡 | | 2 | | | | 2 | 227 |
| ボランティア論 | 94006 | 森田 洋 | | 2 | | | 2 | | |
| 実務の基礎 | 94007 | 赤上 真 | | 2 | | ☆ | 2 | | |
| アーク処理施設 | 94008 | 杉山 真 | | 1 | | ☆ | 1 | | |
| 介護事務総論 | 94010 | 栗田 | | 2 | | ☆ | 2 | | |
| 介護事務実習 | 94009 | 栗田 | | 1 | | ☆ | | 1 | |
| 小計 | | | 34 | 16 | | | | | |
| 合計 | | | 50 | | | | | | |

(7) 留学制度

1) イギリス・ケンブリッジ校留学 (CAE 留学)

本学直営の海外研修施設である Cambridge Academy of English (CAE) における研修であり、留学期間は現地の家庭にホームステイする。イギリスにおいて専門分野の見聞が広められるだけでなく、現地での習慣、文化、歴史等も生活の中で自然に吸収することが可能である。また、下記プログラムに参加する場合は、授業は全て公欠扱いとなる。

1. 留学期間について

表 II - 36

| プログラム名 | 留学期間 | 対象 | 担当部署 |
|----------|--|-----|------------------------------|
| 1年留学 | 2006年3月25日出発～2007年3月18日帰国 | 全学科 | 担当者 研究室 学生課 (第2事務局) |
| 6ヵ月留学 | 2006年9月23日出発～2007年3月18日帰国 | | |
| 3ヵ月留学(春) | 2006年3月25日出発～6月18日帰国 | | |
| 3ヵ月留学(秋) | 2006年9月23日出発～12月17日帰国 | | |
| 3ヵ月留学(冬) | 2007年1月2日出発～3月18日帰国 | | |
| 7週間研修 | 2006年7月29日出発～9月17日帰国 | | |
| ヨーロッパ研修 | 2007年2月～3月の3週間 ※2週間のCAE語学研修と1週間のヨーロッパ観光旅行 | | |

2. 留学にかかる諸費用について

表 II - 37

| プログラム名 | 1年留学 (52週間) | 6ヵ月留学 (26週間) | 3ヵ月留学 | | 7週間研修 (CAE6週間 7-9月1週間) | ヨーロッパ研修 (CAE2週間 観光旅行1週間) |
|---|----------------------|--------------------|--------------------|--------------------|------------------------------|---|
| | | | (春・秋) (12週間) | (冬) (11週間) | | |
| 正規授業料 | £9,915 | £4,830 | £2,520 | £2,310 | £1,731 | £440 |
| 東海女子 特別授業料 | £3,305 677,525円 | £1,610 330,050円 | £840 172,200円 | £770 157,850円 | £577 118,285円 | £147 30,135円 |
| ホームステイ代 (朝夕2食付) 1週間=£100 予約金=£50 | £5,250 1,076,250円 | £2,650 543,250円 | £1,250 256,250円 | £1,150 235,750円 | £750 153,750円 | £250 51,250円 |
| 合計 | 約1,753,775円 | 約873,300円 | 約428,450円 | 約393,600円 | 約272,035円 | 約380,000円 (往復渡航費と 1週間の観光 旅行代を含む) |
| 往復渡航費 | 約200,000円～240,000円 | | | | | |
| 昼食代・雑費等 | 1週間 約11,000円 | | | | | |

①この金額は【£1=205円】で計算してある。(レート変動の可能性有り)

②上記の金額については改訂することがある。

③1年留学は1年間休学、6ヵ月留学は半年間休学になるため「在籍料」を支払わなければならない。

(8) 学生の履修態度・学業への意欲等について（各学科長・専攻長・専攻科長の見解）

1) 食物栄養学科

一部に態度・意欲のない学生はいるが、全体として、とても素晴らしい状況と考えている。授業以外の各種プログラムに対しても積極的に取り組む学生が多く、毎年、学生の資質は向上している。

2) コミュニケーション学科

コミュニケーション学科は、現在、2コース制で各1クラス。そして、1クラスの学生数が20名前後と、担任の目が届きやすい状況にあり、アットホームな雰囲気クラス運営がなされている。それゆえ、概ね履修態度にあまり問題はみうけられないが、毎年、1～2名、自己中心的な問題行動をとる学生もいることは事実で、担任間で継続的な指導を実施している。

3) 児童教育学科 初等教育専攻

担当科目数が比較的多いため、学生の欠席、遅刻を含め履修態度を把握している。また、担任から適時、情報を得ている。

4) 児童教育学科（幼児教育専攻）

幼児教育専攻では、毎年95%以上の学生が幼稚園教諭Ⅱ種免許と保育士資格を卒業と同時に取得する現状にある。そのためか、専門科目の受講態度・学習意欲等については一部の学生を除いて概ね誠実に取り組んでいる。しかし、クラス(一クラス34～38名)で一割程度の学生の受講態度に、私語や携帯電話のメールチェックなど問題が見受けられる。こういった問題のある受講態度に対しての学生指導については、専攻スタッフ全員が共通認識を持って厳しく対処している。また、講義内容についても現代の学生気質・資質を考慮し、教員各自が研究を重ね学習意欲の喚起を図っている。その成果は徐々にではあるが浸透し、受講姿勢・学習意欲の改善に反映している。

5) 介護福祉学科

介護福祉学科においては、全員が介護福祉士を資格を取得するという目的意識をもって入学してきており、必修科目が多く配置された時間割にも十分理解し、ほとんどの学生は、意欲をもって学習していると言える。

6) 専攻科（福祉専攻）

本専攻科は短期大学をすでに卒業し、介護福祉士の資格を取得する目的で入学しているので、目的意識が明白である。短期大学を卒業後社会に出て、何年か現場経験を積んでから、介護福祉士の資格取得のために職場を捨てて入学してきた学生は、特に勉学意欲が旺盛であり、履修態度も真剣である。しかし社会に出ず、短大から専攻科に進学してきた学生の中には、介護福祉士の資格取得をめざして強い意志のもと進学した者はよいが、保育士としての就職ができなくてやむを得ず進学した者もあり、彼女たちの履修態度には問題がある。18年度は問題学生が若干名いたが、介護福祉実習を重ねていく中で、次第に意識が高まり、修了時には資格取得に真剣になった。1年間の短い在学期間ではあるが、態度の変化には著しいものがあった。

(評価項目3) 授業内容、教育方法及び評価方法が学生に明らかにされていること

シラバス（授業計画）冊子は、入学時ガイダンスにおいて全学生に配付され、学生は事前に授業内容を熟知して講義にのぞんでいる。特に、選択科目においてシラバスの果たす役割は大きい。また、本学のHP上からも、シラバスを閲覧できるように配慮されている。

下記にその一部を掲載するが、授業の概要を示す十分な内容を有し、また学生に理解しやすい表現になっているかについても、各担当教員が内容入力をWeb上で入力・確認・編集ができる「SKY-Syllabus」ツールを活用することにより実現している。

「講義概要」「シラバス」項目の他にも「成績評価方法」「テキスト」「出版社」等の項目も明示できるようになっている。

表II-38

| |
|--|
| 講義概要 |
| 本講義は、教育実践の場（教育現場）において役立つ教え方（方法論）及びメディア活用も含めた技術的側面について探求する。その具体的内容については、次（シラバス）に示すとおりである。 |
| シラバス |
| 1. 教育方法の理論① 2. 教育方法の理論② 3. 教育実践の分析：ケースⅠ 4. 教育実践の分析：ケースⅡ 5. 教育実践の分析：ケースⅢ 6. グループングによる授業実践：ロールプレイⅠ 7. グループングによる授業実践：ロールプレイⅡ 8. グループングによる授業実践：ロールプレイⅢ 9. グループングによる授業実践：相互評価 10. 教育メディアの分類 11. 教育メディアの役割 12. 教育メディアの有効利用：伝統的メディアの有効活用 13. 教育メディアの有効利用：情報機器の有効活用 14. 教育メディアの有効利用：プレゼンテーション技術 |
| 成績評価方法 |
| レポート4本及び期末筆記試験による総合評価による。 |
| テキスト_題名 |
| 『教育の方法・技術』 |
| 著者名 |
| |
| 出版社 |
| D-Sites.com |
| 価格 |
| 1,900円 |
| 備考 |
| |

(評価項目4) 授業内容、教育方法に改善への努力がみられること

(1) 学生による授業評価の実施

平成3年の大学審議会答申「大学教育の改善について」とその後の法令等改正を鑑み、本学においても自己点検・評価の組織的な導入の必要性から平成4年度に「自己評価等検討委員会」を設置した。次に示すのはその学内規定である。

表 II - 39

自己評価等検討委員会規程

(目 的)

第 1 条 本学の教育目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自己点検及び評価を実施し、もって教育研究水準の向上を図るものとする。

(設 置)

第 2 条 前条の目的を達成するために、自己評価等検討委員会（以下、検討委員会という）を設置する。

(組 織)

第 3 条 検討委員会は、次の各号に掲げる教職員をもって組織する。

- (1) 理事長
- (2) 学 長
- (3) 副学長
- (4) 専攻科長・学科長及び一般教養・専攻の主任並びに図書館長、事務局長、事務局各部長及び教学部から選出された教職員1名とする。

(委 嘱)

第 4 条 検討委員会の委員は、主任教授会の議を経て学長が委嘱する。
2. 委員の任期は1年とする。

(運 営)

第 5 条 学長は必要に応じて検討委員会を招集しその議長となる。
2. 必要に応じて関係教職員を出席させることができる。
3. 検討委員会には、必要に応じて専門部会を設けることができる。
4. 議案の作成・審議の記録は、教学部に属する委員が当たる。

(審議事項)

第 6 条 検討委員会は、次の各号に掲げる事項を審議し、教授会に提案する。
(1) 自己点検・評価項目の設定
(2) 点検・評価項目の具体的実施方法と体制の整備
(3) 評価結果に基づく改善案の作成（短期）
(4) 21世紀の展望に立つ将来構想案の作成（長期）
(5) その他本学に関する重要な事項

付 則 1. この規程は、平成4年5月1日より施行する。

付 則 2. 平成 8 年 4 月 1 日一部改正

付 則 3. 平成 12 年 4 月 1 日一部改正

付 則 4. 平成 15 年 4 月 1 日一部改正

付 則 5. 平成 16 年 7 月 7 日一部改正

平成 17 年度に自己評価等検討委員会は全学的な授業改善、教育研究活動の改善のために第 1 回「学生による授業評価アンケート」を実施した。下記は、17 年度前期に実施したアンケート用紙の実際である。

表Ⅱ-40

| 授業についてのアンケート | | 2005 年度前期 | | | |
|--|--|-----------------------|----------------------------|--|---------------------------------|
| <p>このアンケートは、皆さんがよりよい授業を受けられるように、教員が授業改善の資料とするものです。ご協力をお願いします。ボールペン等で記入してください（鉛筆・シャープペン不可）。</p> <p style="text-align: right;">（東海女子短期大学 自己評価等検討委員会）</p> | | | | | |
| 授業科目名 _____ | | 曜日・時限 _____ | | 担当教員名 _____ | |
| | | あ て は ま る | や あ て は ま る | あ ま り あ て は ま ら な い | あ て は ま ら な い |
| ⅠA 授業内容について（全科目共通） | | | | | |
| 1. 授業の内容はわかりやすかった。 | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. 関心が持てるような授業内容だった。 | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. この授業で用いられた配布資料、視聴覚教材、テキストは役に立った。 | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⅠB 授業内容について（4～6は実験・実習・実技系の科目のみ記入） | | | | | |
| 4. この授業によって実技や技能が身についた。 | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5. 実習の目的に照らして、設備・機器などは適切であった。 | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 6. 安全性についての説明や配慮がされていた。 | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| Ⅱ 授業の進め方について | | | | | |
| 7. 先生の話が聞き取りやすかった。 | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 8. 板書の仕方や OHP 使用など、内容理解への配慮があった。 | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 9. 学生が質問や意見を述べられるような配慮があった。 | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 10. 先生は授業がスムーズに進むように配慮していた。 | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 11. 先生の熱意が感じられた。 | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| Ⅲ あなた自身について | | | | | |
| 12. この授業をまじめに受けた。 | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 13. 私語や携帯電話などで、周囲に迷惑をかけたことは無かった。 | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 14. この授業を意欲的に学ぼうとした。 | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| Ⅳ 総合評価について | | | | | |
| 15. 総合的に判断して、この授業は満足できた。 | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ▽ 意見・感想・要望があればお書きください。 | | | | | |
| | | | | | |

回収されたアンケートは、本学教学部教務課が集計にあたり、集計結果は個々の担当教員に下記に示した形式の個表として配付・フィードバックされ、以降の教育改善に利活用するように促している。

表 II - 41

授業についてのアンケート集計結果

科目名 ***論 授業形態 講義・演習 回答数 2
 曜日・時限 月1 担当教員名 東海太郎

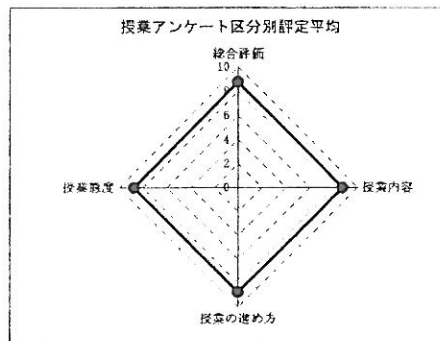
| 区分 | アンケート項目 | 回答 | | | | | 評点 (10点法) |
|-------------------|-------------------------------------|-------|---------|------------|---------|-----|--------------|
| | | あてはまる | ややあてはまる | あまりあてはまらない | あてはまらない | 無回答 | |
| 共通 授業内容 実技等 | 1. 授業の内容はわかりやすかった。 | 1 | 1 | | | | 2 8.8 |
| | 2. 関心が持てるような授業内容だった。 | 1 | 1 | | | | 2 8.8 |
| | 3. この授業で用いられた配布資料、視聴覚教材、テキストは役に立った。 | 1 | 1 | | | | 2 8.8 |
| | 4. この授業によって実技や技能が身についた。 | 1 | 1 | | | | 2 8.8 |
| | 5. 実習の目的に照らして、設備・機器などは適切であった。 | 1 | | | | 1 | 10.0 |
| | 6. 安全性についての説明や配慮がされていた。 | 1 | | | | 1 | 10.0 |
| 授業の 進め方 | 7. 先生の話が聞き取りやすかった。 | 1 | 1 | | | | 2 8.8 |
| | 8. 板書の仕方やOHP使用など、内容理解への配慮があった。 | 1 | 1 | | | | 2 8.8 |
| | 9. 学生が質問や意見を述べられるような配慮があった。 | 1 | 1 | | | | 2 8.8 |
| | 10. 先生は授業がスムーズに進むように配慮していた。 | 1 | 1 | | | | 2 8.8 |
| | 11. 先生の熱意が感じられた。 | 1 | 1 | | | | 2 8.8 |
| 学生 自身 | 12. 私語や携帯電話などで、周囲に迷惑をかけたことは無かった。 | 1 | 1 | | | | 2 8.8 |
| | 13. 課題は期限内にしっかり提出した。 | 1 | 1 | | | | 2 8.8 |
| | 14. 予習・復習をしっかりとした。 | 1 | 1 | | | | 2 8.8 |
| | 15. わからない点は積極的に解決する努力をした。 | 1 | 1 | | | | 2 8.8 |
| 総合 | 16. 総合的に判断して、この授業は満足できた。 | 1 | 1 | | | | 2 8.8 |
| 計 | | 13 | 13 | 0 | 0 | 0 | — 8.8 |

※ 講義・演習系授業は、アンケート項目4～6を計から除いてあります

アンケート区分別評定平均 (10点法)

| 区分 | 評定平均 |
|--------------------------|------|
| IA 授業内容について (全科目共通) | 8.8 |
| IB 授業内容について (実技・実験・実習のみ) | |
| II 授業の進め方について | 8.8 |
| III あなた自身(学生の授業態度)について | 8.8 |
| IV 総合評価について | 8.8 |

※ 講義・演習系授業は、アンケート項目4～6を集計から除いてあります



※ 授業内容：講義系 = IA, 実技系 = AVERAGE (IA + IB)

※ アンケート項目1～13,15…「あてはまる」10点、「ややあてはまる」7.5点、「あまりあてはまらない」2.5点、「あてはまらない」0点で計算。

※ アンケート項目14…「あてはまる」0点、「ややあてはまる」2.5点、「あまりあてはまらない」7.5点、「あてはまらない」10点で計算。

ちなみに、17年度における専任教員の平均値および非常勤教員平均値は以下に示すとおりであった。

表Ⅱ-42

専任教員平均

| アンケート 回答数 平均 | アンケート区別評定平均 (10点法) | | | | |
|--------------------|--------------------|--------------------|-----------|-------------------|---------|
| | 1. 授業内容 | | 2. 授業の進め方 | 3. 学生自身 (授業態度) | 4. 総合評価 |
| | (全科目共通) | (実技・実験・ 実習科目のみ) | | | |
| 94.8 | 8.3 | 9.3 | 8.5 | 8.7 | 8.6 |

表Ⅱ-43

非常勤教員平均

| アンケート 回答数 平均 | アンケート区別評定平均 (10点法) | | | | |
|--------------------|--------------------|--------------------|-----------|-------------------|---------|
| | 1. 授業内容 | | 2. 授業の進め方 | 3. 学生自身 (授業態度) | 4. 総合評価 |
| | (全科目共通) | (実技・実験・ 実習科目のみ) | | | |
| 25.8 | 8.2 | 8.9 | 8.2 | 8.5 | 8.3 |

(2) 授業改善 (FD 活動) への組織的取り組み

平成10年10月、大学審議会は「各大学は、個々の教員の教育内容・方法の改善のため、全学的にあるいは学部・学科全体で、それぞれの大学等の理念・目標や教育内容・方法についての組織的な研究・研修 (FD) の実施に努めるものとする」という、いわゆる FD 活動への取り組みを促進する答申を行った。本学においては、それへの取り組みの第一歩として、というより「FD」とはいかなるものかを問うために、翌年、当時、名古屋大学教育学部長であった日比裕氏に講演を依頼し、当時危惧されていた「短期大学の生き残り戦略」も含め学習会を実施した。これには、併設大学である東海女子大学 (平成19年4月より「東海学院大学」に改名) 教職員も参加した。それ以降、各セクションにおいて個々のFDへの取り組み、単発的な組織的取り組み (例えば、情報系教員数名によるFD教材共同開発プロジェクト:『ビジュアルテキスト』の開発・制作・出版等) は見受けられたが、全学的に共通した活動内容の理解と関心を深めること、また、組織的な体制を確立して活動を促進する基盤形成に取り組む、ということにはなかった。

平成18年度に入り、教育改革に造詣の深い新学長をむかえたこともあり、新たに全学的なFDへの取り組みを図る機運が高まっていった。そして同年12月、ほぼ全教員出席のもと、「第1回FD講習会」が開催された。講習会の次第・内容は以下に示すものであった。

1. 授業改善の取り組みについて（講師：学長 杉山道雄）
 - 1) 文部科学省の調査意向
 - 2) これまでの取り組みについて
 - 3) 本学での授業アンケートについて
2. 学生の授業態度（特に私語対策）について
 - 1) 以下の現状報告があった。
 - ・非常勤講師より「私語が多いので、何とかならないか」と言われた。
（教室を替え、席順を決めた。）
 - ・私語だけでなく、携帯電話、化粧道具、鏡等を使用する。
（必要に応じて、説教するが、なかなか効き目がない）
 - ・授業を始める前に約束させている事があるので、私語はない。
（聞くこと。聞くことが出来なければ退出勧告）
（他人に迷惑をかけないこと）
（毎回、席順を決めている）
（巡回している）
（学生の話し合う時間を設ける）
 - ・非常勤講師より、下記学生の対処方法を問われた。
（携帯電話を、授業中に堂々と使う）
（板書をとらないで、携帯電話の内蔵カメラを使用する）
（毎回、20分程遅れて来る学生がいる）
（質問を受けても、答えられない）
 - 2) 各教員より以下の提案があった。
 - ・席決めをする等、何かルールを決める必要があるのではないかと（複数提案）。
 - ・学生とのコミュニケーションの為に、クラス写真があった方が良い。
（入学時の写真は関係する教員に必要なに応じて配付しているが、2年生になってからの写真も必要ではないか。名前と顔が一致すれば、注意がしやすくなり、効果もあるのではないかと）

これまで、全学的な授業改善や教育研究活動の改善のための施策は自己評価等検討委員会に一元的にゆだねられてきた。しかしながら、現実的には自己評価等検討委員会の構成メンバーは他の委員会や学科運営等、兼務業務が多岐にわたっており、これまでに蓄積されたデータの詳細にわたる分析や今後の講習会・学習会等企画立案に向けて果たして実働していけるかどうかは不確定な現況にあると考えられる。これから先は、もう少し若手教員も構成員に加わった小回りのきく「FD委員会」などの実働部隊をその配下に形成しながら、短期定期的なFD活動を実現していく必要性があろう。

(3) 担当授業に関する教員間の意思疎通・協力体制について（各学科長・専攻長・専攻科長の見解）

1) 食物栄養学科

教科日間での重複、主な教授項目等を話し合い、可能な限り教員間で調整している。なお、非常勤教員に対しては、担当依頼当初に教科内容の説明をし、シラバス作成を依頼している。

2) コミュニケーション学科

日本人教員（専任）の内、事務職兼任教員が2名いるため全員そろってのオフライン会議が設けにくく、したがって、学科長が各教員個別に連絡・調整・意見交換を行っている。また、外国人教員に関しては担当教員を2名固定し、この2名により連絡を密にとるよう努力している。さらに、非常勤講師については、授業内容の相談・学生の授業態度等の情報を学科長に直接フィードバックするよう配慮している。

3) 児童教育学科 初等教育専攻

専攻会議を定期的に行っている。また、教務委員会などの情報は、文書で回覧したりE-mail で送信して共有している。とりわけ、E-mail では研究室・自宅・出張先（国内・海外）にて絶えずチェックしている。

4) 児童教育学科（幼児教育専攻）

幼稚園教諭・保育士養成を目標に、目的的人間像として、「自己教育の可能性を拓く保育者」の育成を掲げ、専攻教員が共通認識を持って目標達成に資する授業研究・改善に取り組んでいる。また、兼任教員に関してもクラス担任の担当や実習の訪問指導・大学祭研究発表の支援等に深く関わり、幼児教育専攻教員としてなんら変わる事のない職務を共有しており、意思の疎通や協力体制については問題ないと考える。

5) 介護福祉学科

専任教員においては、月1～2回の学科会議の中で盛んに意志の疎通を行っている。兼任講師（非常勤講師）においては、専門科目（介護）においては教員間で時間をとって行われている。しかし他教科については、あまり打合せが行われていないのが現状である。今年度は、新年度が始まる前に、介護福祉学科の打合せ会を行ない意志の疎通を行う予定である。

6) 専攻科（福祉専攻）

科目間の連携や協働が必要であることを実感しているが、個々の科目内での到達目標に向っているだけで精一杯なのが現状である。今後、科目間の連携や協働ができるよう検討を始めている。それには非常勤教員の協力も必要であるため、19年度には打ち合わせ会を開催し、意思疎通を図っていく予定である。

◇ 教育の内容についての特記事項

本学では、平成18年度より本学ホームページ[※]上において、各学科・専攻・専攻科毎に「学びのポイント」「ピックアップ講義」を考察・選抜し、その実際の様相をふまえて一般公開している。特記事項として以下に掲げる。

(※ <http://www.leoplanning.co.jp/tokaiwjc/home/home.html>)

1) 食物栄養学科



1. 学びのポイント

表 II - 44

| 専門知識・技能を学ぶ | 即戦力を養う | 興味と個性を伸ばす |
|--|---|---|
| <p>栄養士は時代のニーズに対応できる専門知識が求められます。本学科では健康について考えながら、人体の構造と機能、栄養と健康、食品と衛生などについて興味深く吸収できるカリキュラムを設置しています。</p> | <p>本学科で取得できる資格等は、栄養士、中学校教諭免許、医療秘書実務士、フードサイエンティスト、メディカルクラーク受験資格です。単に資格取得のための授業ではなく、社会に出たときに学んだ知識が活かせるよう指導し、現場に即した授業を展開しています。</p> | <p>栄養士が活躍できる場は、多方面に広がっています。本学科では、資格を組み合わせることで、学生の興味や個性に沿った学習が可能になるよう配慮したカリキュラム編成を導入しています。</p> |

2. ピックアップ講義

表 II - 45

| | | |
|--|--|---|
|  |  |  |
| <p>解剖生理学・実験</p> | <p>ライフステージの栄養学・実習</p> | <p>給食経営管理論・実習</p> |
| <p>生命現象が、生体組織・器官の働きによって成りたっていることを理解し、同時に生命への畏敬、自分が今、生きていることへの感謝の念などを体得。本校ではドクターの指導のもと解剖実験などを行い、医学的知識を習得していきます。</p> | <p>乳幼児期から老年期までのさまざまな体の変化に応じて、健康の保持、増進のために適切な食物摂取が必要であることを学びます。さらに、社会的な変化や精神面をふまえながら、労働、スポーツ、ストレスなどと栄養の関わりについても理解を深めます。</p> | <p>学生や職員を対象に、栄養バランスのとれた100人分の給食を献立作成から盛り付け、供食、片づけ作業まで、衛生管理に留意しながら調理し、販売します。摂取量の調査や嗜好調査、残菜調査も行い、栄養士の実践面で役立つ知識と経験を身につけます。</p> |

2) コミュニケーション学科

<英語コミュニケーションコース>

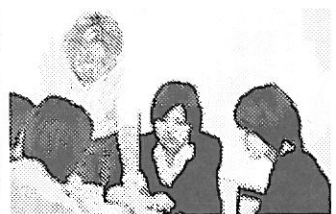
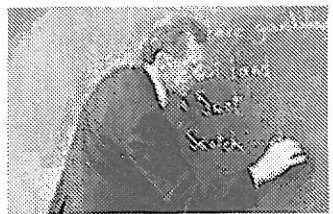

1. 学びのポイント

表 II - 46

| 使える英語を習得 | 幅広い表現力を学ぶ | 英語を使う楽しさを知る |
|--|--|---|
| <p>外国語を学ぶうえで、読み・書きもさることながら“話せる”ようになることが最も楽しい目標といえます。本コースでは、細かな文法にこだわるのではなく、英語によるコミュニケーションがとれるようになることに主眼をおいた授業を展開します。</p> | <p>イキイキとしたコミュニケーションをとるために、ボディランゲージや擬音語、擬態語などの習得を目的としたカリキュラムも充実。英米人講師がリードし、日本人講師がフォローするペア・ティーチングを採用し、ナマの表現を体得します。</p> | <p>授業のテーマには、海外のファッションや音楽、旅行などさまざまなトピックスが取り上げられます。そのテーマについて英語で自分の考えを伝える楽しさを実感しながら、外国文化に対する理解と興味を深めていきます。</p> |

2. ピックアップ講義

表 II - 47

| | | |
|---|--|---|
|  |  |  |
| <p>コミュニケーションタイプ・イングリッシュ</p> | <p>トピック・スタディ</p> | <p>世界の英語</p> |
| <p>英米人講師と日本人講師によるペア・ティーチングで、英語理解を深めます。授業は英語で進められますが、どうしても理解できない点などは日本人講師がフォローします。最初は緊張していた学生たちもこうした授業を経験することで、英語を話すことに慣れ、英語で自己表現できるようになります。</p> | <p>世界で起きている出来事や、外国と日本の違いなどを題材にして、フリートーク形式で行います。英米人である講師と自分の考え方の違いや、クラスメートとの意見の違いなどから、一つのテーマに対するさまざまな視点があることを理解しながら、グローバルな視野を広げていきます。</p> | <p>アメリカで使われている英語、ヨーロッパで使われている英語、アジアで使われている英語など、ひと口に「英語」といってもそれぞれに特徴があります。世界にさまざまな英語が存在していることを学ぶと同時に、日本人が使っている英語の実態を知り、自分の英語力アップへとつなげます。</p> |

コミュニケーション学科では、毎年1名の「CAE（前掲）英語特別奨学生」を選定。語学力・品行に長けた学生を、学園側が英国までの往復渡航費と CAE 授業料全額を負担し語学研修留学を推奨している。

<情報コミュニケーションコース>

1. 学びのポイント

表 II - 48

| メジャーな資格を取得 | インターンシップ | 英語の習得 |
|--|--|--|
| <p>これからの情報社会で活躍するうえで不可欠ともいわれるシス・アド(初級)、マイクロソフト オフィス スペシャリスト等の主だった資格取得をめざします。これらの知識や技術は即戦力となり、就職するうえでもメリットとなるため、毎年多くの学生が複数の資格取得にトライしています。</p> | <p>希望者にはメディア関連の企業で職場体験の場が与えられます。社会に出る前に現場を知ること、仕事へのイメージが明確となり、目的意識をしっかりと持てるようになります。また、卒業までにやっておくべき課題などを確認する機会にもなります。</p> | <p>情報処理とともに、今後ますます必要性が高まるコミュニケーション手段に英語があります。本コースでは学生の意志を尊重した選択制を採用入れることで、情報関連の授業と同時に充実した英語の授業を受けられるシステムとなっています。</p> |

2. ピックアップ講義

表 II - 49

| | | |
|--|--|---|
|  |  |  |
| <p>シス・アド(初級)</p> | <p>情報ネットワーク入門</p> | <p>情報メディア論</p> |
| <p>情報処理の中核を担うシステム・アドミニストレーターになるための国家資格をめざします。高度な専門知識が求められる資格試験も現場経験の豊富な講師陣がしっかりアシスト。通常の授業のなかで無理なく仕事に役立つ知識を蓄積していくことができます。</p> | <p>日進月歩で進化するネットワーク社会で活躍するために、インターネットの仕組みを理解し、ソフト・ハードともにメール機能に関する知識を基礎から応用まで徹底的に習得。授業で得た知識や技術を、社会に出てすぐに活躍できる即戦力へと高めていきます。</p> | <p>ハードを中心に周辺機器の使用法・仕組みを学び、情報ネットワーク上のインターフェイスへの理解を深めます。一見難しそうですが、知れば知るほどおもしろい。そんな身近な題材から始めるので、学生たちは時間が過ぎるのを忘れるほど夢中になって課題に取り組んでいます。</p> |

3年前より開始した「インターンシップ(科目名『オフキャンパスワークショップ』、コミュニケーション学科共通)」は年を追う毎に受講生も増加し、エントリー企業の業種もNPO 法人等、多岐にわたってきている。

3) 児童教育学科 初等教育専攻

< 体育コース >

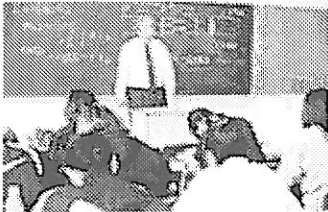
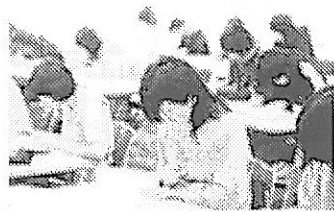
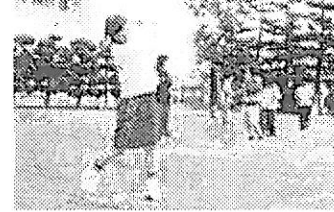
1. 学びのポイント

表 II - 50

| 小学校教諭・幼稚園教諭の免許取得 | レクリエーション・インストラクターの資格取得 | 世代に応じた体育指導を理解 |
|---|---|---|
| <p>本学は、2年間で小学校と幼稚園の教諭免許が同時に取得できる短大としても知られています。系列校での教育実習の機会にも恵まれ、子どもの心と体を深く理解できる体育教員の養成機関として地域社会から厚い信頼を集めています。</p> | <p>高齢化が進む現代にあって、健康とスポーツを指導できる人材が一般社会のなかで求められるようになりました。そこで活躍するのが、レクリエーション・インストラクターです。本コースの学生の多くがこの資格の取得をめざしています。</p> | <p>体育というと、学校の授業の一つと思いがちですが、本校では中・高年者や障害者も視野に入れたスポーツ指導、健康指導を学び、さまざまな世代に対応できる体育のスペシャリスト養成に力を入れています。</p> |

2. ピックアップ講義

表 II - 51

| | | |
|---|--|--|
|  |  |  |
| <p>スポーツ生理学</p> | <p>スポーツ指導論</p> | <p>実技 I・II</p> |
| <p>人が心身ともに健康であるための正しい管理法を身につけ、小学校の教師に必要な知識や技能を習得。理論と実践の繰り返しにより、体育の理想形を体感していきます。と同時に、授業を通して、子どもたちの心身の成長を見守る責任とやりがいをも具体的に学びとっていきます。</p> | <p>子どもに限らず、働き盛りの大人や高齢者など、さまざまな世代にわたる人々の体力の維持・増進を指導できる能力と知識を習得。遊びを取り入れながら健康へと導く指導法など、指導される側の心理も深く理解したうえで、指導の技術を磨いていきます。</p> | <p>レクリエーション・インストラクターに深くかかわる生涯スポーツを理解し、実践します。ゴルフやボウリングなど世代を超えて楽しめるスポーツの指導、提案などについても学び、教えられる側の心理を踏まえた指導法を身につけます。</p> |

<心理学コース>

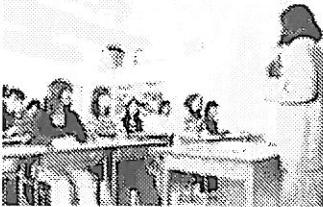
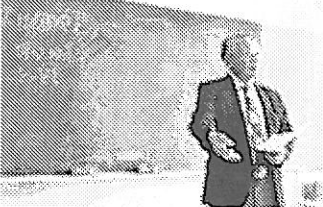

1. 学びのポイント

表 II - 52

| 小学校教諭・幼稚園教諭の 免許取得 | 豊富なカリキュラム | 理論と実践を同時に習得 |
|---|--|---|
| <p>本学は、2年間で小学校と幼稚園の教諭免許が同時に取得できる短大としても知られています。系列校での教育実習の機会にも恵まれ、子どもの心と体を深く理解できる体育教員の養成機関として地域社会から厚い信頼を集めています。</p> | <p>人の心を理解するには、多面的なアプローチが求められます。子どもであれば、児童心理学のみならず、家族心理学、社会心理学を踏まえた考察が必要となるのです。本コースでは多彩なカリキュラムにより、人の心を広く深く理解していきます。</p> | <p>心理学は実用の学。何よりも自分自身の役に立つものでなければなりません。また、曖昧でとらえどころのないものだけに、それを支える理論が必要です。本コースでは、習得した理論を実生活や実践の場で体験し、自分のものにしていきます。</p> |

2. ピックアップ講義

表 II - 53

| | | |
|--|--|--|
|  |  |  |
| <p>児童心理学</p> | <p>臨床心理学</p> | <p>手話概論</p> |
| <p>子どもを理解し、環境とのかかわりの中でその成長を支えるためには、どうしたらよいか。そのテーマについて、小学校実習や幼稚園実習で出会った子どもの姿を通して実践的、心理学的に学習。子どもたちから信頼される教育者の育成をめざします。</p> | <p>ストレス社会と呼ばれる現代を健康で積極的に生き抜くためにはどうしたらよいか。実際に役立つ心理学により、学生自らが成長できるテーマを取り上げます。また、人間について広く深く考察することで、子どもの指導や福祉の現場などで人間関係を築く基礎を養います。</p> | <p>聴覚障害者のみならず、来るべき超高齢社会を前に、手話言語が注目を集めています。本コースでは、自己表現技術を向上させる手話技法を学び、障害者や高齢者の心が理解できる人材の育成をめざします。将来の進路として福祉分野を選択する学生も多数輩出しています。</p> |

4) 児童教育学科 幼児教育専攻



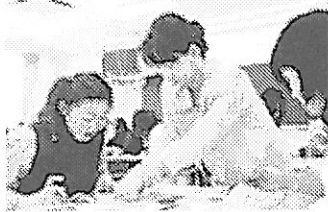
1. 学びのポイント

表 II - 54

| 考える力の育成 | コミュニケーション能力の育成 | ピアノの弾きうたい |
|--|--|---|
| <p>自己教育の可能性を広げる人材育成をめざし、保育者としての専門的知識・技能・態度を養い、さまざまな困難や課題にも積極的に取り組む意欲を養います。幼稚園など実際の現場で子どもたちと触れ合う機会もふんだんに設けられています。</p> | <p>保育者としての知識・技能の獲得はもちろんのこと、実際に現場（幼稚園・保育所・施設等）に立った時、子どもや保護者に適切な助言ができる自己表現能力・コミュニケーション能力を高めることに力を注いでいます。</p> | <p>保育者をめざすには、ピアノの弾きうたいが不可欠です。本学では、入学するまでピアノの演奏経験がない学生にも能力に応じた個人レッスンを実施。子どもたちに楽しい音楽を提供できるよう、指導しています。</p> |

2. ピックアップ講義

表 II - 55

| | | |
|---|---|---|
|  |  |  |
| <p>保育実践活動</p> | <p>保育原理</p> | <p>保育総合演習</p> |
| <p>ペープサート劇を制作し、オープンキャンパス・大学祭など多くの人が集まる場を利用して発表。こうした実践活動を通して、自己表現能力を育成するほか、「音楽」「図画工作」など日ごろ履修している実技科目の成果を披露します。</p> | <p>保育者に求められるのは、子どもと一緒に遊ぶことで、子どもの心を理解することです。その保育内容や方法の原理、またその基盤にある保育の定義や保育に求められるもの、子ども観についてその変遷とともに学び、実践に役立てていきます。</p> | <p>1年生後期から卒業まで継続してゼミ方式の講義が実施されます。ここでは、主体的学習やフィールドワークに力を入れ、専門的な研究に取り組んでいきます。親の子育てを支援できる保育者への第一歩です。</p> |

5) 介護福祉学科

1. 学びのポイント

表 II - 56

| 介護福祉士の資格取得 | 介護施設での実習 | 社会福祉の歴史と現状の理解 |
|---|---|---|
| <p>学内、学外での授業、実習を重ね、卒業時には無試験で介護福祉士の国家資格が取得できます。目標は、プロ意識と豊かな人間性を兼ね備えた福祉のスペシャリストの育成です。</p> | <p>2年間で合計450時間の実習を実施。授業で学んだ理論に基づき現場で介護技術を高めていきます。また、高齢者や障害者との生きたコミュニケーションを体験し、社会に求められる福祉のスペシャリストとしての素養を育成します。</p> | <p>介護保険導入の経緯と現状、福祉における今後の課題などについてしっかり把握し、問題意識を持った学習態度を育みます。こうした姿勢が、次世代の福祉を担うプロフェッショナルの素養へと結実していきます。</p> |

2. ピックアップ講義

表 II - 57

| | | |
|--|---|---|
|  |  |  |
| <p>介護実習指導</p> | <p>介護技術</p> | <p>社会福祉援助技術</p> |
| <p>実際の介護実習の前には、ここで実習に関する基礎的学習及び基本的態度を習得し、現場にのぞみます。学外の福祉施設などで実施される介護実習は、2年間で合計450時間。現場で技術とコミュニケーション能力を磨きます。</p> | <p>介護技術の習得は介護福祉士の前提条件です。学内には、介護技術を学ぶための特殊浴槽や介護ベッドなどの施設が充実し、納得のいくまで練習できます。また、介護される側の立場を体験し、よりよい介護とまなにかを考えます。</p> | <p>介護福祉実践の場で必要な社会援助技術の方法及び内容について学ぶとともに、他の専門職種とのチームワークの重要性及びチームメンバーとして求められる資質について理解。また、介護保険法の居宅サービス計画及び施設サービス計画の意義・概要について学びます。</p> |

6) 専攻科 福祉専攻

1. 学びのポイント

表 II - 58

| 介護福祉士資格の取得 | 幅広いカリキュラム | 8週間の介護実習 |
|--|--|--|
| <p>保育士として培ってきた「人の成長・発達の理論」をベースに、「障害」「老化」というライフステージにいる人々を総合的に理解するための知識を習得。また、それらの人たちが前向きに生活していくための具体的な支援の方法を身につけます。</p> | <p>介護・福祉の専門技術だけでなく、その背景にある人間理解を深めるための科目が充実。カウンセリング論、音楽療法、レクリエーション実技など個性のかつ多彩なカリキュラムにより、高齢者や障害者を多面的に支援することをめざします。</p> | <p>1年間のうち8週間は、福祉施設での実習を経験。現場に出る前には、学内の充実した施設で十分な実技訓練を受けます。実際の介護場面を体験することで、授業で学んだ知識と技術を具体的に体得し、応用する能力を身につけることができます。</p> |

2. ピックアップ講義

表 II - 59

| | | |
|--|---|--|
|  |  |  |
| <p>医療の基礎</p> | <p>家政学実習</p> | <p>介護実習</p> |
| <p>人体の基本的構造・機能とこれらの病的状態など、介護福祉士として知っておかなければならない医学知識を習得。また、代表的な疾患と介護業務とのかわり、健康保持に必要な基本的知識のほか、医療従事者に必要な法律についても理解を深めます。</p> | <p>「食」の側面から高齢者・障害者の生活を支援するための知識や技能を習得。高齢者の年齢や障害の程度を踏まえた「食べやすく」「おいしい」食事を効率的に作ることを目標に、衛生・栄養・嗜好に関する基礎的な理論を学び、実習へと反映させます。</p> | <p>介護福祉の実践者として習得した知識や技術を実際の施設や地域で応用し、利用者の日常生活の援助や支援を総合的にできる能力を養います。期間は年間8週間。実際の介護場面で、利用者と触れ合いながら、知識と技術を具体的に体得していきます。</p> |

Ⅲ 教育の実施体制

(評価項目 1) 教員組織等が整備されていること

(1) 設置する学科・専攻は、短期大学設置基準の教員数の規定(教授数を含む)を充足しているか。

定員380名に対する短期大学設置基準の最低必要教員数は39名であるが、本学では、平成18年度教員数は特任教授1名を含み41名であり、十分な充足と考える。学科別の必要教員数は、専任教員表のとおりであり、各学科とも定員に対する短期大学設置基準必要専任教員数および教員免許法上の必要専任教員の配置および栄養士養成施設、保育士養成施設、介護福祉士養成施設として厚生労働省基準による必要教員、助手の配置については、適正な整備がなされている。

尚、栄養士法施行規則により食物栄養学科の助手3名のうち管理栄養士を2名配置することと規定されているが、本学では規定通り2名の管理栄養士有資格者が配置されている。

表Ⅲ-1 専任教員等の人数

平成18年5月1日現在

| 学科名・専攻名 | 専任教員数 | | | | 設置基準で定める教員数 | | 助手 (ハ) | 備考 |
|-------------|--------|-----|----|----|-------------|-----|-----------|------|
| | 教授 | 助教授 | 講師 | 計 | (イ) | (ロ) | | |
| 食物栄養学科 | 3 | 0 | 2 | 5 | 5 | | 3 | 学長含む |
| コミュニケーション学科 | 3 | 1 | 2 | 6 | 5 | | 0 | |
| 児童教育学科 | 初等教育専攻 | 2 | 2 | 0 | 4 | 4 | 0 | |
| | 幼児教育専攻 | 7 | 1 | 3 | 9 | 8 | 0 | |
| 専攻科福祉専攻 | | | | | | | | |
| 介護福祉学科 | 2 | 1 | 4 | 7 | 7 | | 0 | |
| 小計 | 17 | 5 | 11 | 33 | 29 | | 3 | |
| (ロ) | 3 | 1 | 1 | 5 | | 5 | | |
| 合計 | 20 | 6 | 12 | 38 | 29 | 5 | 3 | |

[注意]

1. 上記の(イ)とは短期大学設置基準第22条別表第1のイに定める学科の種類に応じて定める専任教員数をいう。
2. 上表の(ロ)とは設置基準第22条別表第1のロに定める短期大学全体の入学定員に応じて定める専任教員数をいう。
3. 上表の助手とは、助手として発令されている教職員を言う。
4. 上表の(ハ)とは、助手以外の者で短期大学全体もしくは学科等の教育研究活動に直接従事する教職員(事務職員を除く)をいう(例えば副手、補助職員、技術職員など)。

(2) 教員は学位、教育実績、研究業績、制作物発表、その他の経歴等、短期大学の教員にふさわしい資格と資質を有しているか。

本学教員の学位、教育実績、研究業績、制作物発表、その他の社会的活動等は、各教員の個人調書に記載された通りである。各学科に必要な教育課程に基づき、授業科目の設定がなされているが、それらを効果的に展開する教員の配置がなされており、分野別に様々な業績となっている。

音楽や絵画といった個性ある分野を担当する著名な教員や、教員自身が選手やコーチとして国際大会等での活躍はもとより、国際的に活躍する選手を輩出しているバドミントン部やホッケー部を始めとしたスポーツ活動の指導等、また、詳細については後述するが、行政・商工業・教育機関・文化団体との交流を始め外部機関から委託された委員や依頼された講演会・研修会講師、公開講座等の各種講座を通じて地域社会への貢献・活動をしている教員の業績については本学の特色でもあり、教員としてふさわしい資質の向上につながっている。

(3) 教員の採用、昇任はその選考基準等が整備され適切に行われているか。

本学に於ける教員の採用については、就業規則および学園の教職員任用規程に定められており、この規程に基づいて組織される委員会等にて審議され、教授会に提案の上、承認後、教職員の任用となり、理事長が任命する。

また、任期を定めて任用される教員「任期付教員」に関する規程があり、雇用契約を毎年度行うことになっている。

主任教授会規程には、「教職員の人事に関すること」の審議事項があり、毎年度の人事に関する昇任・昇格・異動・採用等を含み、教授会に提案する為の原案作成がなされる。

教員の昇任・昇格については、所属学科長の推薦書および教育研究業績に基づいて検討がなされる。

また、職員については、学園に対する功績、貢献度、勤務態度等が評価される。このように、教職員人事については慎重に審議がなされている。

昇任・昇格については、学校法人の大学教員選考特別委員会規程、学園の教員選考内規が整備されており、教員の採用および昇任の選考はこの内規による選考基準に基づき行われている。

また、昇任については、給与規程にも定められており、本学に於いては教員の採用・昇任に対する規程の整備がなされ、適切に運用されているといえる。

(4) 教員の年齢構成はバランスが取れているか。

表Ⅲ-2 専任教員等の年齢構成表（短期大学全体で作成）

平成18年4月1日現在

| 教員数(38) | 年齢ごとの専任教員数(講師以上) | | | | | | | 助手等の |
|---------|------------------|-------|-------|-------|-------|------|------|------|
| | 70以上 | 60～69 | 50～59 | 40～49 | 30～39 | 29以下 | 平均年齢 | 平均年齢 |
| | 1 | 3 | 18 | 10 | 6 | 0 | 49.7 | 26.7 |
| 割合 | 2.6% | 7.9% | 47.4% | 26.3% | 15.8% | 0.0% | | |

〔注意〕

上表の助手等とは、助手に加えて助手以外の者で教育研究活動に直接従事する教職員（副手、補助職員、技術職員など）を含む。

本学教員の年齢構成は表の通りである。50歳以上は57.9%となっており、50歳代の占める割合が多く、40歳代は26.3%、30歳代は15.8%、29歳以下が0%と少なく、決してバランスの取れた構成とはいえない。

(5) 教員は、(a) 授業担当、(b) 研究活動、(c) 学生指導、(d) その他教育研究上の業務に意欲的か。

(a) 授業担当

教員の勤務に関する細則には「授業担当時間数は、原則として週6コマとする。但し、東海女子大学と兼務する場合は、その数を含める。」と示されており、各教員は所属する各学科のカリキュラムに基づき編成された開講表・時間割にそって、専門領域、分野を担当している。シラバスには教員の特色を生かした専門性と工夫が織り込まれ、半期15時間（15コマ）の授業計画がなされている。教員は教務課による時間割作成にも協力的で、当然本務を優先にした考えのもとに、計画がされている。

また、学科内では、教員間での連携や協力による授業展開も行なわれており、これは本学の特色のひとつにもなっている。例えば、幼児教育専攻の保育ゼミナールや保育実践活動等である。

(b) 研究活動

教員の研究活動は、それぞれの教員の専門性により、様々な分野に広がっている。学会発表にも積極的に出掛け、研鑽に努めていると思われる。また、研究費獲得のため、科学研究費補助金の応募には教職員を挙げて力を入れている。

本学には、教員が個人の専門分野における研究活動の一環として、学会およびそれに類似する会に出席、希望する研究発表、セミナー参加に対して、年3回を上限とする助成が規程に定められており、国内における活動については、ほとんど

の教員がこれを有効に活用している。また、海外での活動についても同様に規程で補助がなされており、研究分野に応じたテーマについて発表、参加をする教員が多数いる。

このように、本学教員の研究業績は国内にとどまらず海外にも投稿され、学会誌、紀要等に発表されている。また、研究業績や教員の教育研究活動等については、本学発行の紀要に毎年一覧としてまとめられている。

また、本学独自の学術研究発表を年1回実施しており、そのレベルは高く評価されるべきものであろう。

(c) 学生指導

学生指導については、各クラス担任と教学部が常に連携しながら、教学に関する業務に携わっている教学部にて対応しており、特に単位履修・修得に関するものを教務課、日常生活に関するものについては学生課がその任にあっている。

学生の指導に関しては学生生活委員会が設置されており、委員会では学生の課外活動や行事、学生の課外研修（国内語学研修、スキー研修等）、学生の奨学・援助に関すること、健康管理に関すること、その他学生の福利厚生および指導に関することについて検討し、学生生活の支援や協力をするために、委員長を中心に意欲的に、熱心な取り組みがなされている。最近の主な委員会活動としては、学内全面禁煙実施が決定されたことに係わる禁煙パトロールである。委員が分担して学内をパトロールし、学生指導にあっている。

また、学内には学生サービスの一環として、学生生活をよりよくするため、大学のシステムや学内環境など、大学への要望や提案等、様々な意見を吸い上げるために意見箱が設置されており、その投書に対しては的確な判断のもと回答がなされており、その対応策は学生課の前に設置してある掲示板に掲示され情報公開がなされている。

また、本学には学生駐車場が完備されており、無届けの自家用車についての管理指導も定期的実施しているが、これは交通マナー向上の呼び掛けと相まって、学生の総合的なマナー向上指導にもつながっていると考える。

先にも述べたが、本学の特色のひとつであるスポーツ活動は、地方の小規模大学でありながら大変盛んであり、そのサポート体制は充実しているといえる。スポーツ部員に対してはクラブ顧問がその指導にあっており、全てのクラブ活動計画や結果は学生課にて集約されていて、教育後援会の総会の場において報告がされ保護者対応もなされている。

学生達の活躍はウェブサイトにも大会ごとに発信され、功績を褒め称えるための学長表彰も定められている。

学生の指導については、厳しくも暖かい配慮が行き届き、学生生活が有意義に過ごせるような環境作りがなされているといえよう。

(6) 助手、補助職員等が確保され、教育活動等に機能しているか。

本学には、食物栄養学科に3人の助手が配置され、関係科目についての実験・実習補助や授業の補助にあたっている。

特筆されるべき点は、助手と学生の自主的取り組みによるコラボレーションでスローフード研究がなされていることである。人参、紫イモ、キムチといったスローフードを材料として、クッキーやジャム、ピザ等にチャレンジ、試作品・加工品を作り製品化への研究に取り組んでいる。

この自主的取り組みの姿勢が学生指導の要になっており、ここでの助手の働きは、本学においては、なくてはならない存在となっている。（学科長 談）

また、県との連携により、附属幼稚園の園児とふれあって、幼稚園教員の協力を得ながら、「幼児期の食育を考える」をテーマに研究活動を行っている。これらの活動は「食育フォーラムぎふ」で発表がなされることになっている。

（7）教育実施にあたる責任体制は確保されているか。

学則第一条の目的達成に必要な研究および教授内容の充実ならびに運営を円滑に推進する為に主任制度に関する内規が定められている。

主任を専攻科長、学科長、専攻主任、コース主任と呼称し、それぞれの学科・専攻・コースにおける教学に関する事項ならびに関連する業務を整理するとともに、学科・専攻・コース間の連絡調整をはかっている。

また、学生と常にコミュニケーションをとり、学生生活上の諸問題（学習・学生生活・進路に関する事）について個人的な相談に応ずるとともに適切な指導助言を与えることができるよう、講師以上の専任教員の中から各クラスにつき1名をクラス担任として選出している。教学に関する業務については教学部長がその任にあたり、部下とともに遂行している。

以上のことから教育実施にあたる責任体制の確保はできていると考えられる。

（評価項目2） 教育環境が整備・活用されていること

（1）短期大学が保有する校地の面積は設置基準の規定を充足しているか。また校地は教育環境として適切に整備されているか。

校地は岐阜県各務原市の北西端、岐阜市との境界近くに位置している。図書館および本学園が経営し隣接する東海女子大学とはブリッジにより接続され、徒歩での移動が容易となっている。また、本学校舎から車で約10分の場所にある岐阜市芥見にホッケーグラウンドを有している。

表Ⅲ-3 校舎・校地一覧表

平成 18 年 5 月 1 日現在

| | 収容定員 | 校舎 | | | 校地 | | |
|----------------------|--------|--------|---------|--------|---------|--------------------|---------|
| | | 基準面積 | 現有面積 | 差異 | 基準面積 | 現有面積 | 差異 |
| 東海女子短期大学 | 790人 | 8,050㎡ | 17,882㎡ | 9,832㎡ | 7,900㎡ | 15,055㎡ | 7,155㎡ |
| 〃 体育館 | | | 2,588㎡ | | | | |
| 東海女子大学 | 1,040人 | 7,106㎡ | 11,079㎡ | 3,973㎡ | 10,400㎡ | 67,268㎡ (図書館含む) | 56,868㎡ |
| 〃 体育館 | | | 2,967㎡ | | | | |
| その他共用 (図書館) | | | 4,385㎡ | | | | |
| その他共用 (ホッケーグラウンド) | | | 0㎡ | | | 26,518㎡ | |
| 計 | | | 38,901㎡ | | | 108,841㎡ | |

(2) 短期大学が保有する校舎の面積は設置基準の規定を充足しているか。また校舎は授業や学生生活のために常に整備され快適な環境となっているか。

敷地内の校舎等建物は 17,882.34 ㎡であり、全ての教室や研究室等に空調設備が設置されている。

設置基準第 31 条の規定による基準面積

東海女子短期大学

ア. 設置基準第 31 条別表第三イによる同一分野に属する学科の収容定員の百人までの欄の基準校舎面積が最大である分野の学科

○食物栄養学科 (収容定員: 160 人) 2,350 ㎡

○児童教育学科 (収容定員: 300 人)

および専攻科福祉専攻 (収容定員: 30 人) 3,100 ㎡

イ. 上記ア以外の分野に属する学科

○コミュニケーション学科 (収容定員: 140 人) 1,300 ㎡

○介護福祉学科 (収容定員: 160 人) 1,300 ㎡

計 (収容定員: 790 人) 8,050 ㎡

表Ⅲ-4 講義室・演習室等の校舎面積

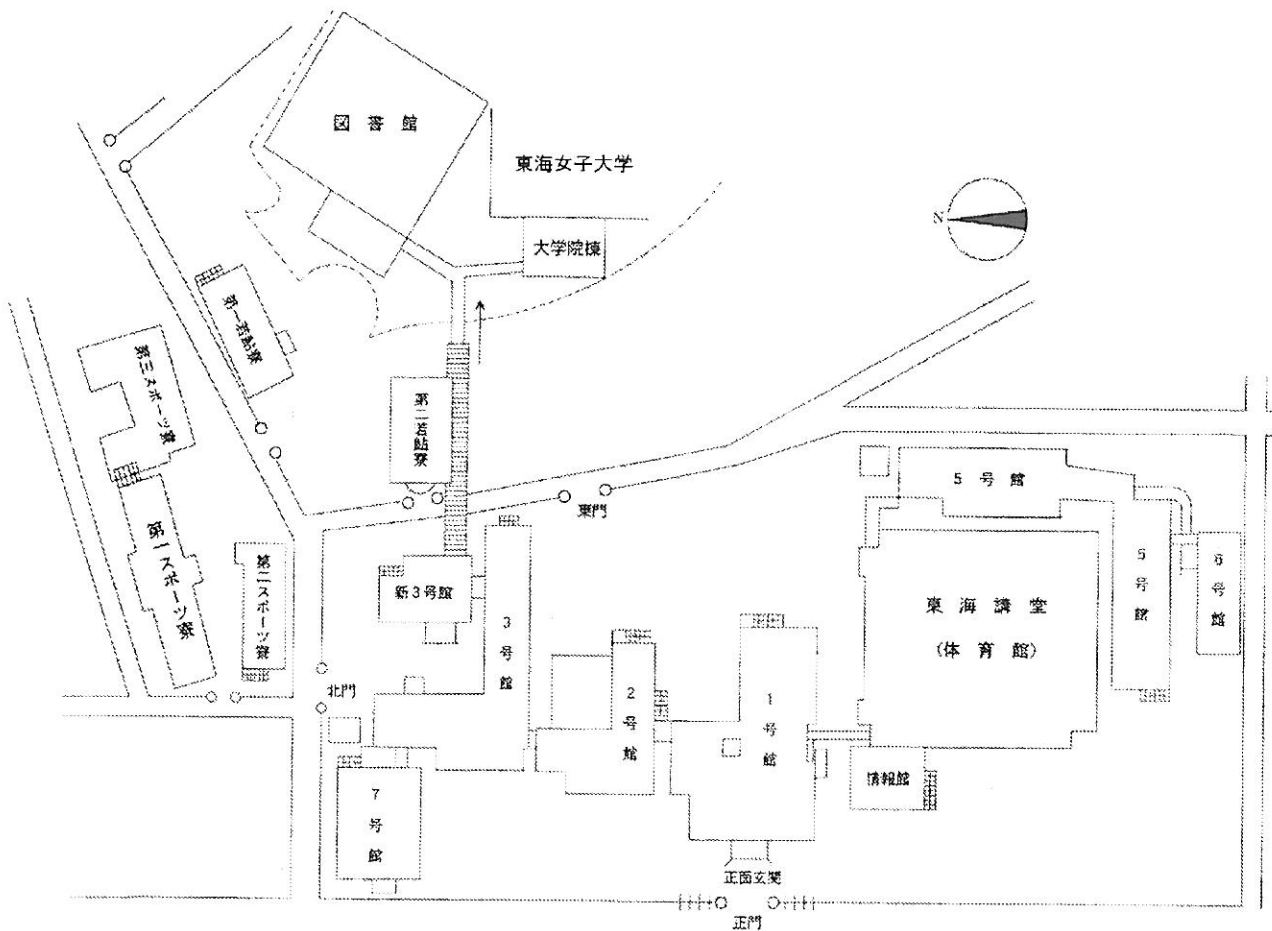
平成 18 年 5 月 1 日現在

| 室名 | 室数 | 総面積 (㎡) | 備考 |
|--------------|----|------------|----|
| (1号館) | | | |
| 中講義室(121) | 1 | 180.00 | |
| 大講義室(131) | 1 | 270.00 | |
| ピアノレッスン室 | 3 | 37.50 | |
| 音楽教室(133) | 1 | 80.00 | |
| 中講義室(134) | 1 | 185.00 | |
| 講義室(141) | 1 | 68.00 | |
| 理化学実験室(142) | 1 | 123.00 | |
| 講義室(143) | 1 | 68.00 | |
| 講義室(144) | 1 | 123.00 | |
| 食品化学実験室(152) | 1 | 150.00 | |
| 講義室(153) | 1 | 68.00 | |
| 研究室 | 6 | 195.00 | |
| その他 | 24 | 1045.50 | |
| 廊下等 | | 1,446.95 | |
| 計 | | 4,039.95 | |
| (2号館) | | | |
| 介護実習室(211) | 1 | 322.62 | |
| 介護教室(213) | 1 | 83.00 | |
| 入浴実習室(212) | 1 | 124.25 | |
| LL視聴覚教室 | 1 | 105.00 | |
| 介護普通教室 | 1 | 161.00 | |
| 講義室(231) | 1 | 104.00 | |
| 音楽教室(232) | 1 | 83.00 | |
| 講義室(233) | 1 | 83.00 | |
| 介護研究室 | 1 | 32.00 | |
| 研究室 | 1 | 20.00 | |
| 音楽研究室 | 1 | 32.00 | |
| その他 | 3 | 90.00 | |
| 廊下等 | | 226.32 | |
| 計 | | 1466.19 | |
| (3号館) | | | |
| 調理実験室(312) | 1 | 192.00 | |
| 階段教室(313) | 1 | 64.00 | |
| 調理実習室(321) | 1 | 165.00 | |
| 講義室(322) | 1 | 64.00 | |
| 介護普通教室 | 1 | 73.00 | |
| 大学美術室(331) | 1 | 128.00 | |
| 大学美術室(332) | 1 | 64.00 | |
| 被服実習室(334) | 1 | 92.00 | |
| 調理研究室 | 2 | 59.00 | |
| 介護研究室 | 1 | 32.00 | |
| 研究室 | 1 | 26.00 | |
| その他 | 13 | 380.00 | |
| 廊下等 | | 629.00 | |
| 計 | | 1,968.00 | |
| (新3号館) | | | |
| 集団給食室 | 1 | 328.00 | |
| 検収室 | 1 | 50.00 | |

III 教育の実施体制

| | | | |
|-----------------|----|----------|--|
| 食品加工室 | 1 | 95.00 | |
| 講義室(326) | 1 | 95.00 | |
| ホスピタリティルーム(341) | 1 | 185.00 | |
| 研究室 | 5 | 96.00 | |
| 研究室 | 3 | 140.00 | |
| その他 | 9 | 199.00 | |
| 廊下等 | | 794.50 | |
| 計 | | 1,982.50 | |
| (5号館) | | | |
| 美術室(511) | 1 | 203.00 | |
| 礼法室 | 1 | 58.00 | |
| ピアノ練習室・ピアノレッスン室 | 30 | 283.00 | |
| 美術室(521) | 1 | 81.00 | |
| 油絵教室(534) | 2 | 81.00 | |
| 音楽教室(531、532) | 2 | 160.00 | |
| 音楽室(541) | 1 | 120.00 | |
| 美術研究室1・2 | 1 | 50.00 | |
| 音楽研究室 | 3 | 90.00 | |
| その他 | 8 | 476.00 | |
| 廊下等 | | 912.00 | |
| 計 | | 2,514.00 | |
| (6号館) | | | |
| 研究室 | 8 | 167.00 | |
| その他 | 13 | 289.00 | |
| 廊下等 | | 209.60 | |
| 計 | | 665.6 | |
| (7号館) | | | |
| 講義室(721) | 1 | 138.00 | |
| 講義室(722) | 1 | 138.00 | |
| 講義室(723) | 1 | 65.00 | |
| 演習室(751) | 1 | 110.00 | |
| 保育実習室(752) | 1 | 166.00 | |
| 講義室(761) | 1 | 138.00 | |
| 講義室(762) | 1 | 138.00 | |
| 講義室(771) | 1 | 69.00 | |
| 講義室(781) | 1 | 138.00 | |
| 講義室(782) | 1 | 138.00 | |
| 講義室(741) | 1 | 138.00 | |
| 講義室(742) | 1 | 138.00 | |
| 講義室(731) | 1 | 138.00 | |
| 講義室(732) | 1 | 138.00 | |
| 講義室(733) | 1 | 65.00 | |
| 心理演習室 | 1 | 58.00 | |
| 研究室 | 12 | 339.00 | |
| その他 | 7 | 794.10 | |
| 廊下等 | | 1,069.00 | |
| 計 | | 4,115.10 | |
| (情報館) | | | |
| DBS ルーム | 1 | 110.00 | |
| MMS ルーム | 1 | 122.00 | |
| OAS ルーム | 1 | 122.00 | |
| 遠隔教育ホール | 1 | 92.00 | |
| インターネットアクセスブース | 1 | 61.00 | |

| | | | |
|----------------|---|-----------|----------------|
| インターネットラボ（研究室） | 2 | 61.00 | |
| スタジオラボ研究室 | 1 | 60.00 | |
| その他 廊下等 | 4 | 107.00 | |
| 計 | | 1,131.00 | |
| 合計 | | 17,882.34 | |
| （体育館） | | 2,588.28 | 研究室2室（78.5㎡）含む |



校舎配置図

校舎の整備については、毎日の清掃および不備がないかの確認の他、平成16年度から平成18年度にかけて下記のような校舎改装等工事を実施し整備に努めている。

○平成16年度

- ・学生食堂リニューアル工事
- ・保育実習室「あそびの森」開設（間伐材による遊具を導入）
- ・1号館1階女子トイレのバリアフリー工事および、各所段差解消スロープ設置工事
- ・1号館外壁塗装工事

○平成 17 年度

- ・ 集団給食実習室 スチームコンベクションオーブンの設置
- ・ 1号館 1階男子トイレおよび7号館 1階男子・女子トイレのバリアフリー工事
- ・ 1号館屋上キュービクルおよび1号館～5号館高圧ケーブル改修工事
- ・ 1号館および体育館 暖房用ボイラー工事（若鮎寮からの蒸気ボイラー移設含む）
- ・ テニスコートの整備（オムニコート of 芝張り替え 2面）

○平成 18 年度

- ・ テニスコートの整備（オムニコート of 芝張り替え 1面）
- ・ 情報館 1階 DBS ルームのパソコン更新
- ・ 722 教室 プロジェクター・DVD およびスクリーン設置
- ・ 1号館屋上～1階電機室高圧ケーブル改修
- ・ 1号館井戸水系統 揚水ポンプおよび動力分電盤の改修
- ・ 1号館屋上 暖房用ボイラーの更新
- ・ 1号館暖房用 蒸気配管の改修
- ・ 学生食堂 厨房改修工事

※ その他、ピアノ 65 台の調律を毎年実施しているほか、キャンパス内の環境整備として樹木の剪定を毎年実施している。

（3）それぞれの授業を行うにふさわしい講義室、演習室、実験・実習室を十分に用意しているか。

1号館には大人数が収容できる講義室を始め、実験室、ピアノ練習室等。2号館は介護実習室、LL教室、ピアノ練習室等。3号館、新3号館には調理実習室や集団給食室、ホスピタリティルーム、被服構成室。5号館には音楽や美術に適した教室を整備。また、各館に配置されている講義室の他、7号館には40名および90名収容の講義室が各階に整備されており、それぞれの授業を行うにふさわしい施設を用意している。学科ごとの状況は下記のとおりである。

○食物栄養学科

栄養士養成施設として必要な専用の講義室、実験室および実習室ならびに給食実習室（実習食堂を備える）、更衣室を有しており、施設の配置および構造は、教育上、保健衛生上および管理上適切なものとなっている。また、教育上必要な機械、器具、標本および模型を有しており、栄養士法施行規則に掲げる機械および器具も教育上必要な数を満たしており、十分に用意していると考えられる。

○コミュニケーション学科

コミュニケーション学科において授業で使用する機会の多い情報館各室およびLL教室等は、それぞれの分野を学ぶに際して不足のないように整備され、また、その時々

に求められている機器を適切に導入するように努めており、十分に用意していると考えられる。

○児童教育学科

講義室、演習室、実験室、実習室、ピアノレッスン室等は、教員養成課程および保育士養成施設として必要な基準を満たしている。また、地域貢献や地域との密着をねらいとした幼児教育専攻による「あそびの森」を有しており、授業を行うにふさわしい施設を十分に用意していると考えられる。

○介護福祉学科および専攻科福祉専攻

介護福祉士養成施設として必要な普通教室、介護実習室、入浴実習室、家政実習室等の条件を満たしており、十分に用意していると考えられる。

なお、平成16年度および平成17年度には学内のバリアフリー工事を実施し、障害者への対応のみならず学生への教材としても役立っている。

※ これまで学生の各種研修時に使用していた軽井沢研修会館（土地1650㎡ 建物330㎡）については、最近の使用頻度を考慮した結果、平成18年度より学外の施設を使用していく方向に切り替えた。

（４）情報機器を設置するパソコン教室、マルチメディア教室、LL教室、学生自習室等は整備されているか。

パソコン室は情報館内に4教室（DBSルーム、インターネットアクセスブース、MMSルーム、OASルーム）あり、それぞれ41台、8台、22台、43台のパソコンが整備されている。また、MMSルームはマルチメディアに対応するようキーボード、タブレット、デジタルカメラ、Webカメラ等が整備されている。情報館内のパソコンは全てLANで接続され、特にDBSルームのパソコンについてはギガビットイーサネット接続されており、大容量データの利用を円滑に行えるようになっている。また、情報館6階の遠隔教育ホールにおいてはパソコン40台分の有線LAN以外に無線LANも整備されており、様々な用途への使用が可能となっている。前述の教室以外にも学習支援室に1台、就職資料室に3台のパソコンが学生用に整備されている。

平成18年度前期まではOSにWindowsXPを使用したパソコンがOASルームしかなく、OASルームの稼働率は非常に高いものになっていたが、平成18年8月にDBSルームのパソコンを更新し41台のパソコン全てにWindowsXPが導入されたため、OASルームだけでなく今後はDBSルームにも稼働率が分散していくものと思われる。

平成18年度には新3号館4階にホスピタリティルームを設置。カウンターや事務机、応接セットの他、畳敷きのスペースも用意し、実践を通じて学生のホスピタリティやマナーを養うための整備を実施している。

LL教室には英会話の練習に最適なカセットテープの再生機器が各机に備え付けられ

ており、β・VHSのビデオデッキおよびOHCが備え付けられているほか、DVDデッキの再生機器も接続可能としている。また、映像音声とも様々な入出力を切り替えて使用できる機器を備え付けている。

その他にもパソコン・映像を使用した講義に対応するため液晶プロジェクター・ビデオ・DVD等AV機器を整備した教室がある。

表Ⅲ-5 パソコン設置教室およびLL教室の授業での使用状況(1週間あたりのコマ数)
平成18年5月1日現在

| | 平成16年度 | | 平成17年度 | | 平成18年度 | |
|---------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 |
| DBSルーム | 7/20 35% | 8/20 40% | 6/20 30% | 5/20 25% | 5/20 25% | 4/20 20% |
| MMSルーム | 0/20 0% | 1/20 5% | 1/20 5% | 4/20 20% | 3/20 15% | 1/20 5% |
| OASルーム | 12/20 60% | 16/20 80% | 15/20 75% | 16/20 80% | 16/20 80% | 16/20 80% |
| 遠隔教育ホール | 7/20 35% | 5/20 25% | 7/20 35% | 11/20 55% | 8/20 40% | 15/20 75% |
| LL教室 | 6/20 30% | 5/20 25% | 4/20 20% | 5/20 25% | 7/20 35% | 7/20 35% |

(5) 授業用の機器・備品についてその整備システムが確立しているか。また、それぞれの授業を行うための機器・備品は十分に備わっているか。

授業用の機器・備品は使用する講義室・実習室などの利用状況から検討し、授業などに支障のないように整備をしている。

表Ⅲ-6 授業用の機器・備品等が設置されている教室

平成18年5月1日現在

| | | |
|-------------|-----|---|
| プロジェクター設置教室 | 7室 | 221教室、LL(222)教室、722教室、DBSルーム、MMSルーム、OASルーム、遠隔教育ホール(他 貸出用2台) |
| ビデオデッキ設置教室 | 32室 | 131教室、133教室、134教室、141教室、144教室、211教室、213教室、221教室、222教室、321教室、334教室、ホスピタリティルーム(341)、531教室、532教室、541教室、721教室、722教室、723教室、731教室、732教室、733教室、741教室、742教室、743教室、751教室、761教室、762教室、771教室、781教室、782教室、DBSルーム、遠隔教育ホール(他 貸出用1台) |

| | | |
|--------------|------|---|
| DVD 設置教室 | 6 室 | 221 教室、ホスピタリティルーム(341)、722 教室、DBS ルーム、MMS ルーム、遠隔教育ホール（他 貸出用 1 台） |
| OHC 設置教室 | 5 室 | 221 教室、LL(222)教室、ホスピタリティルーム(341)、DBS ルーム、遠隔教育ホール（他 貸出用 1 台） |
| スクリーン設置教室 | 13 室 | 121 教室、131 教室、134 教室、221 教室、LL(222) 教室、231 教室、322 教室、743 教室、771 教室、DBS ルーム、MMS ルーム、OAS ルーム、遠隔教育ホール（他 貸出用 1 台） |
| パソコン設置教室 | 4 室 | DBS ルーム、インターネットアクセススペース、MMS ルーム、OAS ルーム |
| 無線 LAN 設置教室 | 1 室 | 遠隔教育ホール |
| 調理実習室 | 2 室 | |
| 集団給食実習室 | 1 室 | |
| 実験室 | 2 室 | 理化学実験室、食品化学実験室 |
| ピアノレッスン室・練習室 | 48 室 | その他 131 教室、133 教室、134 教室、531 教室、532 教室、541 教室、体育館等にもピアノ設置 |
| 美術室 | 4 室 | |
| 介護実習室 | 1 室 | |
| 入浴実習室 | 1 室 | |
| 被服構成室 | 1 室 | |

（6）短期大学が保有する校地と校舎は学生や教職員の安全性に配慮しているか。また障害者に対応したものとなっているか。

障害者への対応としては、スロープ、階段手摺り、障害者用トイレ、エレベーターが整備されている。校舎の耐震性診断については今後の検討としている。

平成 16 年度より土足を解禁し学生等の利便性を向上させたほか、不要になった下駄箱を撤去することにより、大変明るく利用しやすい出入り口となっただけでなく、災害時等における安全性の向上にも役立っている。

学生の休息場所としては、7号館1階に学生ホールが整備され、机41脚と椅子160脚のほか、テレビ2台および飲料の自動販売機を備えている。就職課、就職資料室、学習支援室と隣接しているため、学生の積極的な自己啓発を促すことにも役立っている。また、学生食堂として5号館1階にカフェテリアTOKAIが設置されており、平成16年度にリニューアル工事を実施したこともあり非常に好評を得ている。

環境整備の一環として毎年 樹木の剪定を実施しており、緑に囲まれた環境を維持

しつつ、台風等の際の安全性も確保でき、また、スズメバチやイラガ等の発生も最小限に抑えることができている。

(7) 適切な広さの運動場、体育館を有しているか。

運動場等施設についてはテニスコート 3 面の他、体育館西側の芝生部分には鉄棒・ハンドボールゴール・ゴルフ練習用の防球ネットがあり多目的に使用している。また、岐阜市芥見にはホッケーグラウンドを有している。なお、テニスコートについては平成 17 年度および平成 18 年度にオムニコート 3 面分の芝張替整備を実施し、授業およびクラブ活動に活用している。

体育館は鉄筋一部 3 階建ての 2,588.28 m²で、1 階に体育アリーナ、クラブ部室、シャワー室を、2 階には研究室 2 室およびシャワー室を配する構造である。また、6 号館 1 階にはトレーニングルームを配している。

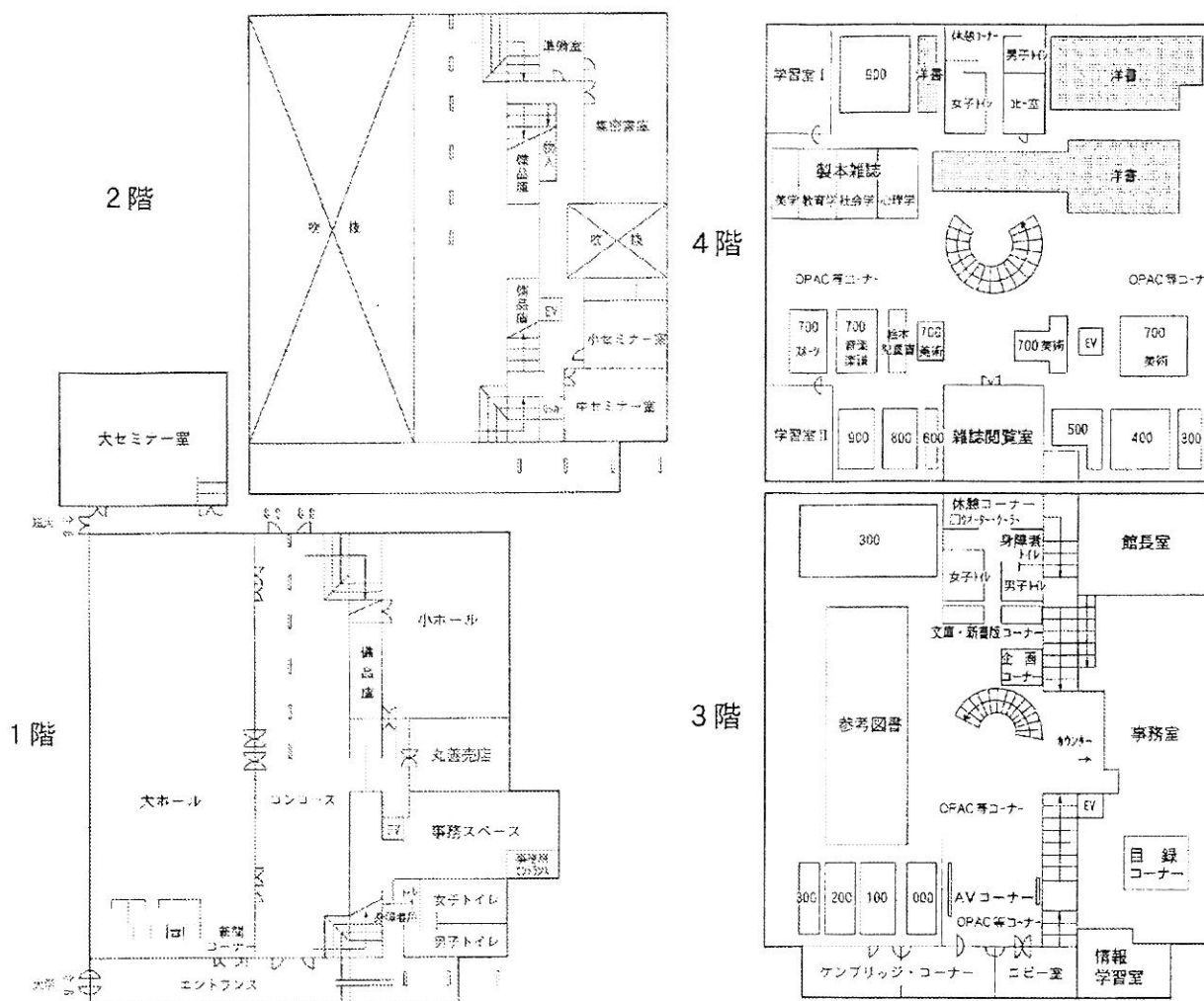
(評価項目 3) 図書館もしくは学習資源センター等が整備されていること

(1) 図書館(以下、学習資源センター等を含む)の蔵書数、学術雑誌数、AV資料数および座席数等は、在籍学生数に比し適当か。

表Ⅲ-7 図書館蔵書数一覧

| | | |
|------------|-----------------------|-------------|
| 蔵書数 | 約214,000冊(内洋書52,000冊) | H.18.3.31現在 |
| 学術雑誌数 | 約3,600種(内洋雑誌520種) | 〃 |
| AV資料数 | 約6,000点 | 〃 |
| 座席数 | 341席 | 〃 |
| 在籍学生数(短大生) | 642人 | H.18.4.1現在 |

在籍学生数(短大生)1人あたりの蔵書数は330冊強、学術雑誌数は5.6冊、AV資料数は9.3点、座席数は2人に1席の数を有し、ほぼ十分に準備、整備されていると考えられる。また共用館として大学の学生数は591人で合計1,233人となり、4人に1席の利用が可能となっている。大学図書館の中でも十分な座席数を有していると考えられる。



図書館配置図

(2) 図書館の広さは充分であり、その環境は適切に整備されているか。また蔵書数の増加等、将来に備えたものとなっているか。

表 8 図書館施設一覧

| | | |
|------------------|----------|---|
| 施設面積 (専有延床面積) | 4,734㎡ | H.18.3.31現在 |
| 1F | 大ホール | 多目的利用(講演、コンサート、展示等) 新聞閲覧、ミキシングルーム、ステージ |
| | 大セミナー室 | 主に講義用、講演、公開講座、研究会等 視聴覚資料室として利用(PC、AV機器等) |
| 2F | 中・小セミナー室 | グループ学習用、講義、会議、ゼミ用等 |
| | 書庫 | 雑誌バックナンバー、ウィーディング資料等 |

| | | |
|-------------|-----------------------|---|
| 3F | 開架閲覧室 カウンター 事務室 | 0類～377の分類資料を併架 新刊、話題図書、推薦図書コーナー、 コピー室（コピー機2台）、トイレ、その 他 |
| | AVコーナー | 検索用端末機6台、AV機器8台 |
| | ケンブリッジ・ コーナー | イギリス留学関係資料・写真等展示、 ビデオ視聴可能テレビ1台 |
| | 情報学習室 | 検索用端末機7台（主にグループ学習用） |
| 4F | 開架閲覧室 | 378～9類和書、0類～9類洋書を併架 検索用端末機4台、コピー室（コピー機2 台）、 トイレ |
| | 雑誌閲覧室 | 一般・学術用雑誌を併架 |
| | 学習室Ⅰ・Ⅱ | グループ学習用、講義用 |
| その他 | 1F荷解き室 | 雑誌バックナンバー、保存新聞 |
| | 1F丸善売店 | テキスト、文房具等 |
| | 図書館南中庭 | 藤棚下自由会話席 テーブル13台、椅子52席 |
| 年間増加冊数（短大分） | 約1,500冊 | 毎年ほぼ同数を増加 |

図書館の施設は贅沢な独立館を有し、特に1階大ホールは“集う、語らう”ゆったりとくつろぐスペースになっている。一般新聞、スポーツ新聞、専門（教育、官報、英字等）を閲覧することができ、多目的に利用できる施設として、昼食時には軽音楽を聴きながら食事を楽しむことができる。設営を変えることで、講演、コンサート、展示、キャンパス見学説明会、研究会意見交換会、映写会（暗幕スクリーン）などに利用されている。

大セミナー室は、パソコン、プロジェクター、AV機器、スクリーンなどを設置し、講義、講演、公開講座、生涯学習、研究会、ガイダンス等機器を使用した幅広い利用が中心の施設となっている。

3階、4階の開架閲覧室はOPAC検索、インターネット検索が可能な端末機とビデオ、DVD、CD等が視聴できるブースを設置している。3階の同じ階には銀行カウンター様式のオープンな事務室があり、学生、教職員のパソコン検索支援、レファレンス等、迅速に対応をしている。また、学生のみならず、学外からのHPにより検索可能なシステムを有し、学生の学習支援を行う環境を整備している。また、全ての図書館施設において、エントランスから4階まで、大ホール、大セミナー室等も障害者に配慮し、車椅子の利用も可能にしている。

年間増加冊数は、約1,500冊（短大分）、共用館として大学の増加冊数も約1,500冊で、合計約3,000冊の図書を受け入れている。主に学生、教職員の学部、学科、コース等講義用として、学習用、研究用資料を中心に、教養書、リクエスト資料等幅広い資

料を収集し利用に供している。また、学部等の改組にあわせ、資料配分を考慮した収集を行っている。

利用率の下がった古い資料、年間等のバックナンバーをウイーディングすることで、新鮮な資料の併架を心がけている。

(3) 年間の図書(以下、学術雑誌、AV資料等を含む)購入予算は充分か。また購入図書選定システムや廃棄システムは確立しているか。

平成18年度の図書購入予算は840万円(短大分)となっている。(大学予算は1,085万円)経費節減、削減傾向のなか、食物栄養、コミュニケーション、介護福祉の各学科と児童教育学科(初等教育専攻、幼児教育専攻)、および「教養教育関係」と図書館分(前記に含まれない図書資料を中心として配分)の平均資料購入予算は約40万円、平均雑誌・追録購入予算は約35万円、視聴覚資料購入予算は約12万円となっている。また、図書館において、新規図書購入、継続図書購入(基本資料)、非常勤教員用、学生リクエスト用、事務職員用、課金、製本雑誌用として、約56万円の予算執行学を配分している。学科の垣根を越えた資料の注文、充実させたい科目の資料については、適宜図書館の予算で対応をしている。

図書購入選定システムとしては、学科、専攻等に係る研究・教育用資料、講義に関連する学生推薦資料用として、学科の教員(非常勤教員を含む)が中心となって選定を行っている。また、図書館では、カウンターにおいて①学生利用が多く、資料が不足している図書、②学科等で補えない統計、便覧、年鑑、法規、職員録等、③改訂版等が出版された図書、④公務員資格問題集、各種資格関連問題集等、⑤新書版、文庫本、⑥社会的に話題になっている図書等を選定し図書館資料の充実をはかっている。

他方、図書資料の廃棄については、年度末に教職員長期貸出図書等の点検、更新を行い、3年間に渡って紛失・亡失している不明図書を基本的に廃棄の対象としている。また、学生の延滞図書についても、3年間紛失・亡失している不明図書に対して廃棄をしている。さらに、返却図書、書架整理中に見つかった補修、整備不能図書についても適宜廃棄をしている。すべて台帳から抹消し、除籍台帳に明記する処理を行っている。また、今日では相互貸借、文献複写対応の利用が進み、利用が極めて減った資料、新聞の縮刷版等(現在日経テレコン導入)についても、適宜廃棄する手続きをとっている。図書の購入、選書、廃棄伺い(事務的なもの以外)等については、図書館委員会では審議し、教授会にて報告・了承を得ることになっている。

(4) 図書館には学生が利用できる参考図書、関連図書は十分に備えられているか。

表Ⅲ-9 参考図書数

| | | |
|-------|----------|----------------|
| 参考図書数 | 約13,000冊 | H. 18. 3. 31現在 |
|-------|----------|----------------|

参考図書は、主に百科事典、各種専門辞典・事典、年鑑、統計、図鑑、書誌、目録、地図、便覧、法規、白書類、職員録等、一般的な基本参考図書と学科、専攻に必要な参考図書を購入している。また、出版者別、改訂版等、最新の図書を購入するよう心がけている。継続的に購入している参考図書が中心となっている。さらに、電子媒体の参考資料についても、紙媒体とあわせて購入するようにしている。しかし、紙媒体資料が廃刊された参考図書については、電子媒体の資料を購入している。今日、電子媒体と一体化された参考図書の利用が目立つ。その上、インターネットによる検索が主流になり、利用は減少傾向にある。購入を心がけているものの、全蔵書に対し約6%にすぎない。

参考図書は基本的な蔵書構成を心がけているが、カウンターでの利用者のニーズにより購入する方針ももうけている。

(5) 司書数、司書の能力、図書検索システムなどを含む、図書館のサービス体制は充分か。

司書の数（短大職員）は3名（内非常勤1名含む）。共用館として大学所属の職員の司書の数は2名（内非常勤1名）で計5名となっている。司書の能力については、事務分掌を作成し、基本的に主たる責任者を決定し、他の各業務には副となることで、すべての業務に参加しサービスにあたる体制を確認している。また、各種の協議会に参加することで、図書館の現状把握と業務に関する研修に努め、能力向上を目指している。さらに、月1回の館員打ち合わせ会において、報告事項、審議事項、その他の内容で全員が周知し、業務、サービスにあたる体制を強化している。

平成6年9月に大学・短大の共用館として統合され、それ以来図書館のシステムとしてLUINASを導入している。その後、平成8年に学術情報センター（現・国立情報科学研究所）のNACSISに参画した。専門分野の研修に参加し、NACSIS-CATの体制は整備され、能力的にも手作業の基礎の上にコンピュータシステム両方の能力が生かされている。さらにNACSIS-ILLの研修に参加し、相互貸借、文献複写業務がスムーズに行え、利用サービスの向上をはかっている。検索サービスとして学生、教職員に対し、パソコンによる新生用OPAC検索利用者講習会、卒論・レポート作成等のための文献検索講習会、有料データベース講習会など、図書館職員全員で年間を通し実施をしている。また、紀要類については、毎年データベース化を行い、オンライン検索によるサービスを行っている。

(6) 学生の図書館利用を活発にするための努力は行っているか。

独立館として大学・短大の附属共用館は、大学の敷地内にあるため、短大の学生はブリッジを通過して隣接する大学に行き図書館を利用することになる。一番の懸念材料である“図書館が遠いから利用しない”という理由を受けて利用促進策を検討している。

①新入生ガイダンス時に図書館ツアーを盛り込み、図書館をPRする、②魅力ある図書コーナーの設置（映画、テレビドラマ化図書などの話題図書コーナー＝あらすじ写真入り解説書付）、③教員による学科推薦図書、著書のコーナー、④図書館メール便の設置（HP上、設置の用紙に要望、意見などを書いて投函、その後回答して掲示）、⑤リクエスト資料用紙の設置、⑥注文後の連絡板（注文中・整理済・貸出中等）、⑦年4回の「図書館ニュース」の発行（短大事務室、掲示板等各所に設置しアピール）、⑧一般女性誌、製本外雑誌のリサイクル等により図書館に目を向けてもらう努力を行っている。その結果、平成17年度の館外貸出状況は、平成16年度に比し281人、524冊（短大生）となり、確実に利用者が増加している。図書館は楽しい資料、興味のある資料を提供してくれると認識されてきており、今後ますます広報に力を入れようと検討を行っている。

(7) 学内外への情報発信、他の図書館との相互利用活動など、図書館活動は活発か。

学内における情報発信としては、①入学時の図書館ガイダンス、ツアー、②図書館の各施設利用申込書の配布、メール案内、受付、③パソコンによる各種検索講習会の案内、④「図書館ニュース」の各所への設置と掲示、⑤キャンパス見学会の配付資料、⑥パソコンによりデータベースライアルなど教員への案内等、メール、配付資料、掲示により案内、発信を行っている。学外への発信は地元広報誌への記事、広告掲載や各務原市立中央図書館への地域開放と利用案内を発信している。岐阜県図書館との相互貸借などを行っている。大学図書館間では、相互貸借、文献複写協定を結んでいることから、パソコンを介してすべての処理を行っている。また、直接的には各種図書館協議会へ参加することで連携、協力をとっている。身近なところでは、岐阜県大学図書館協議会、私立短期大学東海・北陸地区図書館協議会、私立短期大学図書館協議会、私立大学図書館東海地区協議会、東海地区大学図書館協議会等に参加することで研修、情報発信を行い、相互利用活動を推進している。平成17年度は東海地区図書館協議会の幹事校として活動し、また、平成18年度は私立短期大学東海・北陸地区図書館協議会の会長校として活動、連携をとっている。協議会との連携、協力は利用活動、奉仕活動の違いを知ることができ多に参考にしている。

(その他) 第三者の評価

本学は平成11年度以降、地域開放、一般開放をしている。平成17年度の学外者の利用状況は183人／445冊で、昨年度に比し34人／74冊の増加、入館者数は1,349人で昨年

度に比し383人増加している。この傾向は今後ますます顕著になると考えられる。このことにより、大学図書館としての更なるサービス体制の強化が必要になる。

利用者の意見

- ① 広く、静かで学習に身が入る（社会福祉士試験勉強中の利用者）。
- ② 近隣でそばの大学図書館が利用でき、多いに満足している。
- ③ 公共図書館では予約が殺到する本も、余裕で借りられるのでありがたい。
- ④ 絵本が充実しているので、子どもと一緒に毎週来ています。
- ⑤ 公開講座で利用し、施設のりっぱさに驚きです。
- ⑥ 公開講座、生涯学習登録者に自動的に「利用者カード」を発行してもらえると聞いた、改めて登録する手間があるとは思わなかった。
- ⑦ 大学図書館は少し敷居が高い感じがする。

など

平成 16 年度～平成 18 年度における図書館自己評価について

(1)資料購入費総予算

表Ⅲ-10 資料購入費総予算

(単位：円)

| | 大学 | 短大 | 合計 |
|-------------|------------|-----------|------------|
| 平成 16～18 年度 | 10,850,000 | 8,400,000 | 19,250,000 |

(平成 16 年度～18 年度は、各年度同額予算)

平成 16・17・18 年度における図書館の予算配分は、毎年大学 1,085 万円、短大は 840 万円である。図書館全体としての「資料購入費総予算」は 1,925 万円の執行額で運用している。

※ 大学と短大の予算の格差については議論の対象となっているが、現状では特に問題なく執行されている。

(2)資料購入費区分

1) 大学区分

表Ⅲ-11 大学区分資料購入費

(単位：円)

| | 図書・視聴覚資料 (教員用ほか) | 雑誌・追録 | 製本雑誌 | オンライン データベー ス導入費等 | 計 |
|--------|---------------------|-----------|---------|-------------------------|------------|
| 平成16年度 | 6,575,000 | 2,675,000 | 200,000 | 1,400,000 | 10,850,000 |
| 平成17年度 | 6,280,000 | 2,970,000 | 200,000 | 1,400,000 | 10,850,000 |
| 平成18年度 | 6,695,000 | 2,375,000 | 180,000 | 1,200,000 | 10,850,000 |

大学の総予算に対する資料購入費の内訳において、「図書・視聴覚資料費」は教員1人あたり@105,000円(学科推薦図書は別枠)ほか、特任・非常勤教員・事務職員・学部学生リクエスト資料費、新規・継続資料費、CAE資料の総額を配分している。また、学部の改組(文学部・子ども学科)などにより、変更、見直しをしている。

「雑誌・追録費」については、洋雑誌の年間購読料の高額化、学部学科の見直しなどにより雑誌購入予算を絞り込んでいる。そのため、学会誌を中心とした「製本雑誌費」も減少している。年々費用対効果を検討して配分を行っている。

※平成18年度は、例年教員個人枠での未執行者が多く、資料配分に偏りが生じること、高額資料、学部全体での共通資料の購入がしやすいことなどの理由で、教員個人枠に、学部学生用(30万円)の推薦資料予算を加算することで、資料を購入しやすい配分とした。この配分は委員会で承認され執行されている。

※学部学科資料、学生研究・学習用、教養資料、教員研究用資料、推薦資料等、全般的にわたっての執行額とし、配分に心がけた。

注：CAE：Cambridge Academy of English(イギリス・ケンブリッジ校)

2) 短大区分

表Ⅲ-12 短大区分資料購入費

(単位：円)

| | 図書 (教員用ほか) | 視聴覚資 料 | 雑誌・追録 | 製本雑誌 | 課金ほか | 計 |
|--------|---------------|-----------|-----------|---------|---------|-----------|
| 平成16年度 | 4,120,000 | 237,000 | 3,834,000 | 118,000 | 91,000 | 8,400,000 |
| 平成17年度 | 4,217,000 | 900,000 | 3,063,000 | 110,000 | 110,000 | 8,400,000 |
| 平成18年度 | 4,356,000 | 986,000 | 2,819,000 | 89,000 | 150,000 | 8,400,000 |

短大の総予算に対する資料購入費の内訳において、「図書購入費」は、学科・部局別(8区分)と、非常勤教員・事務職員、新規・継続資料購入費の総額を配分している。

短大は大学のように、個人資料購入費をあてず、学科単位での配分としている。

「雑誌・追録購入費」は、大学同様、学科内での見直し、専門教員の変更、学生のアンケート希望（絞り込み）によるもので減少傾向にある。「製本雑誌」も雑誌購入の減少に伴い減額している。

「視聴覚資料購入費」の扱いも大学と異なり、学科枠からはずし、別予算を組んでいる。図書予算からの支出が多いため別枠で区分をしているが、ビデオ・DVDなどAV資料の購入が増加傾向にある。

- ※ カリキュラム内容、学習、研究に準じた資料購入、教員研究資料、推薦資料等、一般的な購入方法は大学と同等の考え方で執行している。
- ※ 教員推薦図書については、平成18年度は個人単位とせず、学科、専攻単位で推薦することが、委員会で承認され準備している。

(3) 資料購入費執行状況

1) 大学資料購入費執行額

表Ⅲ-13 大学資料購入費執行額

(単位：円)

| | 大学 | 差引額 | 比率 |
|-------------|-----------|-----------|-------|
| 平成16年度 | 7,892,031 | 2,957,969 | 72.7% |
| 平成17年度 | 8,196,979 | 2,653,021 | 75.5% |
| 平成18年度(前期分) | 2,295,729 | 8,554,271 | 21.1% |

(平成18年度においては、決算期前に付き、前期分の提示)

大学の「資料購入費執行額」は、1,085万円の予算額に対し、平成16年度は約7割強の789万円、平成17年度も8割ちかくの820万円が執行された。平成18年度にあっては、現在2割が執行されているにすぎない。(11月22日現在)しかし、決算期には、例年とほぼ同額が執行されると予測される。

- ※ 個人枠@105,000円を全く執行しない教員の予算が問題となっている。そのため、資料が偏って収集される、執行しない個人費用を学科でどのように扱うかなどの点を検討することになっている。そのため、図書館がどのように補充して、資料の充実をはかっていくかが問題となる。
- ※ 各教員の複本購入が問題となり、学部・学科で対策を検討することになっている。

2) 短大資料購入費執行額

表Ⅲ-14 短大資料購入費執行額

(単位：円)

| | 短大 | 差引額 | 比率 |
|----------------|-----------|-----------|-------|
| 平成 16 年度 | 6,801,177 | 1,598,823 | 81.0% |
| 平成 17 年度 | 7,826,585 | 573,415 | 93.2% |
| 平成 18 年度 (前期分) | 3,532,641 | 4,867,359 | 42.0% |

(平成 18 年度は決算期前に付き、前期分の提示)

短大の「資料購入費執行額」は、840 万円の予算額に対し、平成 16 年度は約 8 割の 680 万円、平成 17 年度は約 9 割の 783 万円が執行された。平成 18 年度は、現在 4 割の執行状況となっている。(11 月 29 日現在) 短大においても、決算期には例年とほぼ同額が執行されると予測される。

- ※ 学科、専攻単位での執行のため、図書館委員が掌握し、資料購入にあたっているが、基本的に購入に意欲的な教員とそうでない教員との差が目立つ。
- ※ 大学同様、研究室への新刊の長期貸出が多く、学生に対して、その利用が少なくなる傾向があり、学科で検討してもらうことになっている。

3) 大学・短大合計資料購入費執行額

表Ⅲ-15 大学・短大合計資料購入費執行額

(単位：円)

| | 大学 | 短大 | 執行額合計 | 差引額 |
|----------------|-----------|-----------|------------|------------|
| 平成 16 年度 | 7,892,031 | 6,801,177 | 14,693,208 | 4,556,792 |
| 平成 17 年度 | 8,196,979 | 7,826,585 | 16,023,564 | 3,226,436 |
| 平成 18 年度 (前期分) | 2,295,729 | 3,532,641 | 5,828,370 | 13,421,630 |

(平成 18 年度は、決算期前に付き、前期分の提示)

図書館全体としての「資料購入費執行額」は、1,925 万円の総予算に対し、平成 16 年度は約 8 割の 1,470 万円、平成 17 年度も 8 割の 1,600 万円が執行された。平成 18 年度にあつては、約 3 割の執行状況となっている。(11 月 29 日現在) しかし、大学も短大も例年通りの執行が予想される。

- ※ 差引額 (残金) については、次年度の持ち越し、予算額使い切りではなく、学園本部へ返金している。そのため、図書館資料以外の備品、システムなど、図書館施設の充実に転用できないか要望が出ているが、今後の検討課題である。
- ※ 大学と短大の資料購入費の格差が議論となっているが、現状で執行することで了承されている。

(4) 年間資料受入状況

1) 大学年間資料受入状況

表Ⅲ-16 大学年間資料受入状況

| 大学 | 和書 | 洋書 | 計(冊) | 視聴覚資料 (点数) | 雑誌・新聞 (種数) |
|-------------|-------|----|-------|---------------|---------------|
| 平成16年度 | 1,407 | 48 | 1,455 | 27 | 136 |
| 平成17年度 | 1,448 | 51 | 1,499 | 83 | 167 |
| 平成18年度(前期分) | 556 | 7 | 563 | 11 | 143 |

(平成18年度は、決算期前に付き、前期分の提示)

2) 短大年間資料受入状況

表Ⅲ-17 短大年間資料受入状況

| 短大 | 和書 | 洋書 | 計(冊) | 視聴覚資料 (点数) | 雑誌・新聞 (種数) |
|-------------|-------|----|-------|---------------|---------------|
| 平成16年度 | 1,477 | 43 | 1,520 | 87 | 175 |
| 平成17年度 | 1,428 | 34 | 1,462 | 27 | 168 |
| 平成18年度(前期分) | 981 | 10 | 991 | 47 | 122 |

(平成18年度は、決算期前に付き、前期分の提示)

3) 大学・短大年間資料受入状況(合計)

表Ⅲ-18 大学・短大年間資料受入状況(合計)

| | 和書 | 洋書 | 計(冊) | 視聴覚資料 (点数) | 雑誌・新聞 (種数) |
|-------------|-------|----|-------|---------------|---------------|
| 平成16年度 | 2,884 | 91 | 2,975 | 114 | 311 |
| 平成17年度 | 2,876 | 85 | 2,961 | 110 | 335 |
| 平成18年度(前期分) | 1,537 | 17 | 1,554 | 58 | 267 |

(平成18年度は、決算期前に付き、前期分の提示)

4) 大学・短大年間製本雑誌・寄贈図書受入状況（合計）

表Ⅲ-19 大学・短大年間製本雑誌・寄贈図書受入状況（合計）

| | 製本雑誌 | | 計 | 寄贈図書 | | 計 |
|--------|------|----|-----|------|----|-----|
| | 和書 | 洋書 | | 和書 | 洋書 | |
| 平成16年度 | 128 | 31 | 159 | 400 | 5 | 405 |
| 平成17年度 | 113 | 27 | 140 | 321 | 1 | 322 |
| 平成18年度 | 118 | 24 | 142 | 49 | 0 | 49 |

（平成18年度は、年度末整理に付き、前期分の提示）

大学の「年間図書受入状況」は、平成16・17年度とも、ほぼ平均1,470冊前後で推移している。短大も、平均1,490冊前後の増加冊数で、合わせて平均2,960冊を受け入れていることになる。平成18年度もほぼ、例年同様の受入傾向と予測される。

「視聴覚資料」については、年間約110本が整備されている。ビデオ・DVDなどのAV資料が中心である。「雑誌・新聞」については、ほとんどが年間契約、継続購入、学会誌・洋雑誌（前年度払い）での処理で、冊数ではなく年間受入種数となる。現在300数種を購入している。「雑誌・新聞」のうち新聞は、全国紙、地方紙、専門紙、スポーツ紙など16種を受け入れている。「製本雑誌」は学会誌を中心に製本をしている。

「寄贈図書」は、教員寄贈図書、出版者寄贈図書が中心である。また、政府、行政の寄贈刊行物も受け入れている。

- ※ 図書と視聴覚資料については、費用対効果を検討し見直しをはかっている。また、雑誌については、図書館総合管理とすることで学生の利用に供している。さらに、学術雑誌以外で製本しない雑誌については、教員、学生にリサイクルすることで還元している。相対的に著作権の理解も促している。
- ※ バックナンバー、旧版については、ウイーディングし、書庫へ保存し、利用があれば開架図書と同等の利用に供している。
- ※ 「製本雑誌」については、論文等の利用の多い専門誌を開架し利用に供している。また「寄贈図書」の内、教員執筆図書に関しては、コーナーに設置し利用促進に役立てている。

(5) 図書館利用状況

1) 年間入館者数について

表Ⅲ-20 年間入館者数

(単位：人)

| | 開館日数 | 学生 | 教職員 | 学外者 | 計 | 1日平均 |
|--------|------|--------|-------|-------|--------|-------|
| 平成16年度 | 266日 | 29,935 | 2,611 | 966 | 33,512 | 125.9 |
| 平成17年度 | 265日 | 30,965 | 2,474 | 1,349 | 34,788 | 131.3 |
| 平成18年度 | 213日 | 25,094 | 1,985 | 922 | 28,001 | 131.5 |

(平成18年度は平成19年1月20日現在数)

入館者については、大学・短大の区別が不可能のため、合計人数による。また、毎夕1時間の延長と、土曜日3時までの開館も加算して算出している。

年間入館者数は、平成16・17年度平均でみると、学生約3万人強、教職員約2,500人強、学外者約1,200人が利用をしている。1日平均128人の利用となる。

※ 短大から遠方のため、話題図書、魅力あるコーナー設置により、年々入館者が増加傾向にある。

※ 新入生図書館ガイダンス、在学生図書館ツアーなどにより、アピールをしている。

※ 学生リクエスト資料を積極的に購入していることにより、AV資料の視聴、注文図書の利用、雑誌の購読利用などが増加している。

※ 地域開放、一般開放の実施により、学外者の利用が増加傾向にある。そのため、公共図書館との相違など理解に努めている。

2) 年間館外貸出利用状況

① 大学館外貸出利用状況

表Ⅲ-21 大学館外貸出利用状況

| 年度 | 大学学生全体 | | 教職員 | | 計 | | 1日平均 | |
|----|--------|-------|-----|-------|-------|-------|------|------|
| | 人数 | 冊数 | 人数 | 冊数 | 人数 | 冊数 | 人数 | 冊数 |
| 16 | 2,226 | 4,371 | 389 | 3,959 | 2,615 | 8,330 | 9.8 | 31.3 |
| 17 | 2,245 | 4,483 | 625 | 5,338 | 2,870 | 9,821 | 10.8 | 37.1 |
| 18 | 3,592 | 2,827 | 561 | 1,641 | 4,153 | 4,468 | 19.5 | 21.0 |

(平成18年度は平成19年1月20日現在数)

大学の学生は、人間関係学部(心理・人間関係)、文学部(英米文化・美学美術史・総合文化/人間関係・総合福祉)、研究科目等履修正)、大学院生の総数である。

学生の貸出数は、平成 16 年度が約 4,300 冊に対し、約 2,200 人の利用で、1 日平均 16.4 冊、8.4 人の利用である。平成 17 年度は約 4,500 冊に対し、約 2,300 人の利用で、1 日平均 17.0 冊、8.5 人の利用になっている。

教職員の利用は、長期貸出分を含み、平成 16 年度は約 4,000 冊に対し、約 390 人の貸出で、1 日平均 14.8 冊、1.5 人の利用である。平成 17 年度は、約 5,300 冊に対し、約 630 人の利用で、1 日平均 20.1 冊、2.4 人の利用である。表の 1 日平均は、学生と教職員の平均値で示している。

②短大館外貸出利用状況

表Ⅲ-22 短大館外貸出利用状況

| 年度 | 短大学生全体 | | 教職員 | | 計 | | 1 日平均 | |
|----|--------|-------|-----|-------|-------|-------|-------|------|
| | 人数 | 冊数 | 人数 | 冊数 | 人数 | 冊数 | 人数 | 冊数 |
| 16 | 705 | 1,398 | 199 | 3,142 | 904 | 4,540 | 3.4 | 17.1 |
| 17 | 986 | 1,922 | 353 | 3,597 | 1,339 | 5,519 | 5.1 | 20.8 |
| 18 | 891 | 1,752 | 290 | 893 | 1,181 | 2,645 | 5.5 | 12.4 |

(平成 18 年度は平成 19 年 1 月 20 日現在数)

短大の学生は、食物栄養学科、コミュニケーション学科、児童教育学科（幼児教育・体育・心理）、人間福祉学科、専攻科福祉、科目等履修生の総数である。

学生の貸出数は、平成 16 年度は約 1,400 冊に対し、約 700 人の貸出で、1 日平均 5.3 冊、2.7 人の利用である。平成 17 年度は約 1,900 冊に対し、約 990 人の貸出で、1 日平均 7.3 冊、3.7 人の利用となった。表の 1 日平均は、学生と教職員の平均値である。

③大学・短大館外貸出利用状況

表Ⅲ-23 大学・短大館外貸出利用状況（合計）

| 年度 | 大学・短大 学生全体 | | 教職員 | | 合計 | | 1 日平均 | | 学外者 | |
|----|---------------|-------|-----|-------|-------|--------|-------|------|-----|-----|
| | 人数 | 冊数 | 人数 | 冊数 | 人数 | 冊数 | 人数 | 冊数 | 人数 | 冊数 |
| 16 | 2,931 | 5,769 | 588 | 7,101 | 3,519 | 12,870 | 6.6 | 24.2 | 149 | 371 |
| 17 | 3,231 | 6,405 | 978 | 8,935 | 4,209 | 15,340 | 8.0 | 29.0 | 183 | 445 |
| 18 | 4,483 | 4,579 | 851 | 2,534 | 5,334 | 7,113 | 25.0 | 33.4 | 252 | 750 |

(平成 18 年度は平成 19 年 1 月 20 日現在数)

大学と短大の「年間館外貸出総数」は、平成 16 年度は、約 5,800 冊に対し、約 2,900 人の貸出となり、1 日平均 21.7 冊、11.0 人である。平成 17 年度は、約 6,400 冊に対し、約 3,200 人の貸出となり、1 日平均 24.2 冊、12.2 人となった。

教職員は平成 16 年度が、約 7,100 冊、590 人の貸出で、1 日平均 26.8 冊、2.2 人である。

平成 17 年度は、約 8,900 冊、980 人の貸出で、1 日平均 33.7 冊、3.7 人の利用である。

表の 1 日平均は、学生と教職員の平均値である。さらに、学外者の貸出については、平成 16 年度が、約 370 冊、約 150 人で、1 日平均 1.4 冊、0.6 人の利用である。平成 17 年度は、約 450 冊、約 180 人で、1 日平均 1.7 冊、0.7 人の利用があった。

学生、教職員、学外者についても、年々増加傾向にある。

※ 平成 16 年度より 17 年度、18 年度（途中集計）と、すべての項目において増加しているのは、図書館職員が日頃からアイデアを出し合いサービスに心がけている結果と思われる。現在更なる利用者向上のための計画を準備中である。

※ 教員の貸出は研究室への長期貸出が中心で、100 冊を上限としているが、教員注文による新刊の貸出が問題となっている。学生には新刊が行き渡らない、学生自身から“新しい資料がない”との意見が聞かれ、今後、学科会などで対策を検討してもらうことになっている。

※ 学外者に対しては、教員・学生の利用に問題が生じないように、貸出を制限する、規制をするなどの対策を講じ、利用してもらえる範囲内のサービスとしている。また、貸出カード作成時の身分証の提示など、個人情報にも細心の注意を払い、気持ちよく利用してもらうよう心がけている。

3) 教員への公用貸出（長期）資料点検・更新

教員への研究室長期貸出については、年度末 3 月に各自教員により、「公用貸出（長期）資料点検報告」「公用貸出（長期）資料期間更新願」を実施している。

大学教員に対しては、2 月末までの提出、短大教員には 1 月末の提出で毎年実施し、返却・更新手続きを行っている。

※ 100 冊以上にならないよう返却を促すとともに、紛失・又貸しなどがいないか厳守するように努めている。

※ 新規購入資料については、長期貸出ではなく短期貸出とし、できるだけ学生の利用に供する方向で検討してもらっているが、教員自身の意識改革そのものが、今後の課題である。

4) 年間図書館利用者講習会

表Ⅲ-24 年間図書館利用者講習会

| | 回数 | 大学 | | 短大 | | 計 |
|----------|----|-----|----|-----|----|-----|
| | | 学生 | 教員 | 学生 | 教員 | |
| 平成 16 年度 | 14 | 87 | 8 | 81 | 2 | 178 |
| 平成 17 年度 | 11 | 70 | 7 | 49 | 3 | 129 |
| 平成 18 年度 | 27 | 173 | 15 | 137 | 4 | 329 |

(平成 18 年度は平成 19 年 1 月 20 日現在数)

「図書館利用者講習会」は、コンピュータを使って資料を探すために利用講習を行っている。A コース（初心者向け O P A C 利用）と B コース（卒論・修論・レポート作成のための文献検索）により開催している。年間を通じての開催で、表は A・B コース合計数を表している。

- ※ 大学・短大共、資料をうまく探せない初心者のために、大学図書館の資料の探し方を指導しているが、A コースは短大受講生が中心となる。大学は卒論等のために B コースを受講する学生が多い。
- ※ 平成 18 年度が途中集計にあっても増加しているのは、大学・短大共、情報室への出張指導を開催したことにあると考えられる。
- ※ メニューの追加（国立情学研究所の C i N i i / G i N i i）などの論文情報サービス指導を行ったためと考えられる。今後もできるだけ、学生・教員の支援を行っていきたい。

5) 年間情報サービス利用状況

①参考事務（レファレンス）処理件数

表Ⅲ-25 参考事務（レファレンス）処理件数

| | 学内 | 学外 | | 計 |
|----------|-----|----|----|---|
| | | 受付 | 依頼 | |
| 平成 16 年度 | 459 | 7 | 0 | 7 |
| 平成 17 年度 | 385 | 4 | 5 | 9 |
| 平成 18 年度 | 465 | 3 | 2 | 5 |

(平成 18 年度は平成 19 年 1 月 20 日現在数)

②相互利用（文献複写件数）

表Ⅲ-26 相互利用（文献複写件数）

| | 学外へ依頼 | | 計 | 学外から 依頼 |
|----------|-------|-----|-------|------------|
| | 学生 | 教職員 | | |
| 平成 16 年度 | 702 | 170 | 872 | 272 |
| 平成 17 年度 | 1,068 | 249 | 1,317 | 862 |
| 平成 18 年度 | 652 | 187 | 839 | 805 |

（平成 18 年度は平成 19 年 1 月 20 日現在数）

③相互利用（紹介状発行件数）

表Ⅲ-27 相互利用（紹介状発行件数）

| | 発行 | | 計 | 受理 |
|----------|----|-----|---|----|
| | 学生 | 教職員 | | |
| 平成 16 年度 | 1 | 3 | 4 | 1 |
| 平成 17 年度 | 2 | 5 | 7 | 0 |
| 平成 18 年度 | 2 | 2 | 4 | 0 |

（平成 18 年度は平成 19 年 1 月 20 日現在数）

④相互利用（相互貸借件数）

表Ⅲ-28 相互利用（相互貸借件数）

| | 貸出 | 借受 | | 計 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| | | 学生 | 教職員 | |
| 平成 16 年度 | 48 | 15 | 38 | 53 |
| 平成 17 年度 | 107 | 25 | 95 | 120 |
| 平成 18 年度 | 94 | 10 | 38 | 48 |

（平成 18 年度は平成 19 年 1 月 20 日現在数）

情報サービス利用状況は、大学・短大の件数の総計である。今日、大学図書館では、相互利用協定により、文献複写、相互貸借が盛んに行われている。そのため、大学への館長名による紹介状は不要の大学が多くなった。年々、学外からの依頼件数が文献複写においては、平成 17 年度は平成 16 年度の 4 倍である。また、学外への貸出も 2.3 倍と増加傾向にある。学外へ依頼している件数も、文献複写においては、平成 17 年度は平成 16 年度の 1.5 倍、相互貸借においては、2.3 倍である。お互いにリソースシェ

アリングで協力している現状を示している。平成 18 年度においては、途中集計であるが、同様に推移するものと思われる。

- ※ 年々、情報サービスの利用は増加傾向にある。しかし、大学図書館では N I I（国立情報学研究所）に参画していることもあり協力体制が定着しているため、学生・教員のサービス促進に心がけるよう、更なる努力が必要となる。
- ※ 学外者に対しては、このサービスは実施していない。

(6)委員会について

1) 図書館委員会

大学——各学部学科から 1 名計 4 名＋図書館長（委員長）・図書館事務室職員
 短大——各学科から 1 名計 6 名＋図書館長・図書館事務室職員
 委員長——大学（図書館長）・短大（委員より互選）2 年任期
 （学則第 6 条の 2 に係る規程）

2) 図書館連絡協議会

図書館長＋大学事務局長＋短大図書館委員長＋その他事務担当者
 （学則第 41 条に係る規程）

3) 選書委員会

現在は図書館委員会の委員において、おおむね選書についての確認、調整をしている。内規等の明記はない。

- ※ 「図書館委員会」については、大学・短大合同で開催してはどうかの議論が出ているが、現状では、予算配分の相違により、今後の検討課題となっている。
- ※ 「図書館委員会」は年 2 回程度の開催にとどまっている。会で提案された検討項目を持ち帰り、学科、学部、専攻等で調整している。開催頻度においては、今後の課題となるが、現状では異論はない。
- ※ 「図書館連絡協議会」は、特に大学・短大において検討しなければならない議題についてのみ開催される。平成 16～18 年度にかけては、開催されていない。
- ※ 「選書委員会」については、今後内規も含め、明確な選書方針を検討する必要があるかもしれないが、今後の課題である。
- ※ 選書については、現在大学・短大共、図書館委員を通してカリキュラム、研究・学習、教養書、必読図書等について、各教員からの注文を中心に購入をしている。しかし、教員の注文については、専門の偏りが懸念され、図書館として、幅広く購入するよう心がけている。
- ※ 注文方法については、大学はネットにより注文を受付けている。短大においては、LAN の環境が整っている教員が中心であるため、従来の注文票での注文も受付けている。
- ※ 学生のリクエストについては、「メール便」ポストの設置により、注文票で受け付け、図書館掲示板（本館大学・短大専用）にて処理をしている。未整理図書については途中経過を掲示して案内している。

まとめ

平成16年度より学生の図書館利用促進を目標にサービスを実施するよう、図書館職員全員で検討してきた。新刊図書コーナー、話題図書の提供、「図書館ニュース」の発行、情報検索指導の強化、ガイダンス、ツアーの実施などにより、明らかに入館者、貸出数が増加している。今後はさらに利用しやすい環境整備に向けて努力する必要がある。

◇ 教育の実施体制についての特記事項

(1)以上の評価項目以外に教育の実施体制について努力している事項。(例えば、外国人教員の採用、授業の公開、学習評価活動など)

①外国人教員の採用

専任講師として、米国籍の男性教員が1名在籍しており、主にコミュニケーション学科の授業を担当している。ここでは、円滑なコミュニケーション能力を実現させる為に、特に外国人教師と日本人教師がチームを組んで行う授業(T・T)を行っており、コース専門科目「コミュニケーション・イングリッシュ」に於いては少人数教育が行われ、英語によるコミュニケーション能力を重視したカリキュラムが展開されている。

②授業評価活動

自己点検評価の一環として、学生の授業アンケートや満足度調査は、教員の授業改善を目的として、平成14年度より常勤講師および非常勤講師を対象として実施してきている。

この集計結果は個々の教員に還元されているが、授業評価の目的である教員自身の授業能力、教授力、指導技術能力、教育技術の改善と向上、さらに今後の個々の教員の教育の場で反映されることにより、魅力に富んだ授業展開が望まれ、期待されるものである。

F、Dについては、自己評価等検討委員会で検討がなされることになっており、F、D研修会が学長を講師として行われたところである。

IV 教育目標の達成度と教育の効果

(評価項目1) 単位認定について

本学における単位認定は、各学科・専攻・コースの時間割に従った受講登録から始まる。受講するに当たって「開講・履修登録表」で卒業・免許・諸資格取得に必要な科目を知って受講科目を決定し、学修計画を立て、計画的な学修の姿勢を確立するのが第一段階である。それを理解し新年度の当初の、二年間の受講の計画表（開講・履修登録表）に記入し、一部はクラス担任に提出し、もう一部は自分で大切に保管する。

その後、学修計画に基づいて、学年の前期・後期に受講登録を「受講カード」によって行う。「受講カード」は、選択科目のみの登録であり、必修科目はコンピュータで自動登録される。講義内容の細部については「シラバス（授業計画）」で詳細に説明してあるので、よく読み、見落とさないようにする。1科目の授業時数は15回が学期ごとに実施される。出席の義務については、授業時数に対して2/3以上出席しなければ、単位認定資格を失うことになる。但し、学長が適当と認めて許可する対外行事、スポーツの公式試合等は学生課、就職においては就職課、実習などについては、教務課に申し出て公欠届出用紙をもらい認印を受けた後、欠席した授業の担当教員に提出し、出席扱いとして考慮してもらう。但し、公欠が多い場合は補講もある。

休講については、科目担当教員が、やむを得ない事由により講義を休講する場合は、教務課の掲示板に掲示する。授業が休講になった時、またその他の事由で特に必要とするときには補講を行う。その場合は原則としては補講期間又は土曜日に行うが、平常の空き時間に行うことがある。

単位の認定方法については、筆記、レポート、実技、作品などにより行われる。また出席状況等も参考にされる。各科目の評価方法については、シラバスの「成績評価方法」欄に示してある。期末の定期試験を受講した後の単位不認定者（不可）に対して、再試験を実施する。

(1) 単位認定の状況表

単位認定の状況は、表IV-1～表IV-8に示すとおりである。

表IV-1 食物栄養学科の単位認定の状況

(平成17年度卒業生)

| 種別 | 授業科目名 | 授業形態 | 履修人員 | 主な単位認定の方法 | 単位取得状況 | | | 最終の評価 | | | |
|-----|-------|------|------|-----------|--------|----|-----|-------|------|------|----|
| | | | | | 本試 | 再試 | 計 | 優 | 良 | 可 | 不可 |
| 教養科 | 歴史学 | 講義 | 59 | 期末試験 | 100 | 0 | 100 | 52.2 | 40.7 | 6.8 | 0 |
| | 日本国憲法 | 講義 | 58 | 定期試験 | 100 | 0 | 100 | 25.8 | 55.2 | 19.0 | 0 |
| | 社会と自然 | 講義 | 58 | レポート提出 | 100 | 0 | 100 | 46.5 | 32.8 | 20.7 | 0 |

IV 教育目標の達成度と教育の効果

| | | | | | | | | | | | |
|---------|---------------|----|-----------|--------------|------|-----|------|------|------|------|-----|
| 目 | 生活と化学 | 講義 | 58 | レポート提出 | 100 | 0 | 100 | 24.5 | 34.5 | 41.4 | 0 |
| | 情報基礎 | 講義 | 57 | 出題する課題提出 | 100 | 0 | 100 | 87.7 | 12.3 | 0 | 0 |
| | 教養ゼミナール | 講義 | 58 | レポート提出 | 100 | 0 | 100 | 87.9 | 10.4 | 1.7 | 0 |
| | 国際理解 | | 0 | — | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 外国語 | 英語 | 講義 | 59 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 31.0 | 30.2 | 38.8 | 0 |
| | 英会話体験実習Ⅰ | 実習 | — | — | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 英会話体験実習Ⅱ | 実習 | — | — | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 英会話体験実習Ⅲ | 実習 | — | — | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 保健体育 | 体育講義 | 講義 | 59 | 筆記試験 | 98.3 | 1.7 | 100 | 64.0 | 20.7 | 13.6 | 1.7 |
| | 体育実技 | 実技 | 59 | 活動状況・レポート | 100 | 0 | 100 | 77.6 | 19.0 | 3.4 | 0 |
| 栄養士資格科目 | 公衆衛生学 | 講義 | 59 | 定期試験 | 100 | 0 | 100 | 74.6 | 25.4 | 0 | 0 |
| | 社会福祉概論 | 講義 | 59 | レポート課題 | 100 | 0 | | 28.8 | 35.6 | 35.6 | 0 |
| | 解剖生理学 | 講義 | 59 | レポート・筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 40.7 | 55.9 | 3.4 | 0 |
| | 解剖生理学実験 | 講義 | 59 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 93.2 | 6.8 | 0 | 0 |
| | 運動生理学 | 講義 | 59 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 52.5 | 22.0 | 25.4 | 0 |
| | 生化学 | 講義 | 59 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 61.0 | 25.4 | 13.6 | 0 |
| | 医療と健康 | 講義 | 59 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 81.4 | 16.9 | 1.7 | 0 |
| | 食品学Ⅰ | 講義 | 59 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 44.1 | 54.2 | 1.7 | 0 |
| | 食品学実験Ⅰ | 実験 | 59 | レポート課題 | 98.3 | 1.7 | 100 | 84.7 | 13.6 | 0 | 1.7 |
| | 食品学Ⅱ | 講義 | 59 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 84.7 | 15.3 | 0 | 0 |
| | 食品学実験Ⅱ | 実験 | 59 | レポート課題 | 100 | 0 | 100 | 94.9 | 5.1 | 0 | 0 |
| | 食品衛生学 | 講義 | 59 | 小テスト・レポート・試験 | 100 | 0 | 100 | 64.4 | 13.6 | 22.0 | 0 |
| | 食品衛生学実験 | 実験 | 59 | レポート | 100 | 0 | 100 | 94.9 | 0 | 5.1 | 0 |
| | 基礎の栄養 | 講義 | 59 | 定期試験 | 100 | 0 | 100 | 59.3 | 32.2 | 8.5 | 0 |
| | 栄養学実験Ⅰ | 実験 | 59 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 93.2 | 1.7 | 5.1 | 0 |
| | ライフステージの栄養学 | 講義 | 59 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 61.0 | 27.1 | 11.9 | 0 |
| | ライフステージの栄養学実習 | 実習 | 59 | 献立作成課題・試験 | 96.6 | 3.4 | 100 | 25.4 | 42.4 | 32.2 | 0 |
| | 臨床栄養学 | 講義 | 59 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 40.7 | 25.4 | 33.9 | 0 |
| | 臨床栄養学実習 | 実習 | 59 | 課題レポート・定期試験 | 98.3 | 1.7 | 100 | 42.4 | 39.0 | 16.9 | 1.7 |
| | 健康と食物 | 講義 | 59 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 88.1 | 6.8 | 5.1 | 0 |
| | 栄養指導論 | 講義 | 118 | 筆記試験 | 99.2 | 0.8 | 100 | 48.3 | 25.4 | 26.3 | 0 |
| | 栄養指導実習 | 実習 | 59 | 筆記試験 | 98.3 | 1.7 | 100 | 71.2 | 22.0 | 5.1 | 1.7 |
| | 栄養の情報処理実習 | 実習 | 59 | 実習課題の提出 | 100 | 0 | 100 | 83.1 | 5.1 | 11.9 | 0 |
| | 公衆栄養学概論 | 講義 | 59 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 76.3 | 16.9 | 6.8 | 0 |
| | 給食経営管理論 | 講義 | 59 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 39.0 | 40.7 | 20.3 | 0 |
| | 給食経営管理実習Ⅰ | 実習 | 59 | 課題レポート・試験 | 98.3 | 1.7 | 100 | 74.6 | 8.5 | 15.3 | 1.7 |
| | 給食経営管理実習Ⅱ | 実習 | 58 | 校外実習の評価 | 100 | 0 | 100 | 41.4 | 56.9 | 1.7 | 0 |
| 調理学 | 講義 | 59 | 小テスト・定期試験 | 100 | 0 | 100 | 45.8 | 20.3 | 33.9 | 0 | |

IV 教育目標の達成度と教育の効果

| | | | | | | | | | | | |
|--|--------------|----|----|------------|------|-----|------|------|------|------|-----|
| | 調理学実習Ⅰ | 実習 | 59 | 実習記録ノート・試験 | 100 | 0 | 100 | 35.6 | 61.0 | 3.4 | 0 |
| | 調理学実習Ⅱ | 実習 | 59 | 実習記録ノート・試験 | 100 | 0 | 100 | 66.1 | 33.9 | 0 | 0 |
| | 食品の加工と品質管理 | 講義 | 52 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 96.2 | 0 | 3.8 | 0 |
| | 食品の加工と品質管理実習 | 実習 | 26 | 課題レポート・試験 | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 |
| | 調理学実習Ⅲ | 実習 | 21 | 課題提出・実習態度 | 95.3 | 4.7 | 100 | 61.9 | 28.5 | 4.8 | 4.8 |
| | 生活経営論 | 講義 | 12 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 |
| | 保育学 | 講義 | 14 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 71.4 | 28.6 | 0 | 0 |
| | 衣生活論Ⅰ | 講義 | 16 | レポート・作品の提出 | 100 | 0 | 100 | 25.0 | 56.2 | 18.0 | 0 |
| | 住生活論Ⅱ | 講義 | 14 | 小論文形式試験 | 23.7 | 0 | 23.7 | 6.8 | 8.5 | 8.5 | 0 |
| | 食の安全 | 講義 | 17 | 課題レポート・試験 | 100 | 0 | 100 | 94.1 | 5.9 | 5.9 | 0 |
| | 食品の分析 | 実験 | 17 | レポート課題 | 100 | 0 | 100 | 76.5 | 11.8 | 11.8 | 0 |
| | 課題研究 | 実習 | 17 | 課題レポート・試験 | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 |

表Ⅳ-2 コミュニケーション学科(英語コミュニケーションコース)の単位認定の状況

(平成17年度卒業生)

| 種別 | 授業科目名 | 授業形態 | 履修人員 | 主な単位認定の方法 | 単位取得状況 | | | 最終の評価 | | | |
|-------|---------------|------|-------------|---------------|--------|-----|-----|-------|------|------|----|
| | | | | | 本試 | 再試 | 計 | 優 | 良 | 可 | 不可 |
| 教養科目 | 歴史学 | 講義 | 7 | 期末試験 | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 |
| | 文学 | 講義 | 12 | 課題提出・定期試験 | 100 | 0 | 100 | 41.7 | 33.3 | 25.0 | 0 |
| | 日本国憲法 | 講義 | 12 | 定期試験 | 100 | 0 | 100 | 25.0 | 58.3 | 16.7 | 0 |
| | 社会と自然 | 講義 | 10 | レポート提出自己点検テスト | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 |
| | 生活科学 | 講義 | 7 | レポート提出 | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 |
| | 生活と経済 | 講義 | 12 | レポート・平常点 | 100 | 0 | 100 | 66.7 | 33.3 | 0 | 0 |
| | コンソート共同授業Ⅰ | — | 0 | — | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 外国語 | 仏語 | 演習 | 24 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 45.8 | 29.2 | 25.0 | 0 |
| | 英語 | 講義 | 0 | 平常点・筆記試験 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 保健体育 | 体育講義 | 講義 | 12 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 83.3 | 16.7 | 0 | 0 |
| | 体育実技 | 実技 | 12 | レポート・活動状況 | 100 | 0 | 100 | 75.0 | 25.0 | 0 | 0 |
| 必修科目 | コミュニケーション論 | 講義 | 12 | 筆記60点・出席等 | 100 | 0 | 100 | 0 | 25.0 | 75.0 | 0 |
| | 異文化間コミュニケーション | 講義 | 12 | 筆記60点・出席等 | 100 | 0 | 100 | 16.7 | 16.7 | 66.6 | 0 |
| | 海外事情 | 講義 | 12 | 平常点・筆記・課題 | 100 | 0 | 100 | 33.3 | 66.7 | 0 | 0 |
| | 日本語表現 | 講義 | 12 | 出席・課題・試験 | 100 | 0 | 100 | 50.0 | 33.3 | 16.7 | 0 |
| | 人間関係論 | 講義 | 12 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 41.7 | 58.3 | 0 | 0 |
| | 職場の心理学 | 講義 | 12 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 50.0 | 33.3 | 16.7 | 0 |
| | 情報処理(演習) | 演習 | 24 | 総合演習課題実技 | 100 | 0 | 100 | 95.8 | 4.2 | 0 | 0 |
| 世界の英語 | 講義 | 6 | レポート・試験総合評価 | 100 | 0 | 100 | 0 | 0 | 0 | 0 | |

IV 教育目標の達成度と教育の効果

| | | | | | | | | | | | | |
|--------------|------------|-----------------|----|-----------|-----------|-----|-----|------|------|------|------|---|
| | | 日本文化論 | 講義 | 0 | 定期試験・出席等 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 学科共通 選択科目 | 専門科目 | 基礎英作文Ⅰ | 講義 | 24 | 筆記60点・出席等 | 100 | 0 | 100 | 41.7 | 37.5 | 20.8 | 0 |
| | | 英会話 | 講義 | 24 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 33.3 | 37.5 | 29.2 | 0 |
| | | 海外通信 | 講義 | 12 | 課題・筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 16.7 | 33.3 | 50.0 | 0 |
| | | インターネット・イングリッシュ | 講義 | 5 | | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 |
| | | 英語ローディングⅠ | 講義 | 23 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 56.5 | 39.1 | 4.4 | 0 |
| | | 行動科学入門 | 講義 | 3 | 出席等・筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 66.7 | 33.3 | 0 | 0 |
| | | 情報処理学概論 | 講義 | 12 | 平常点・レポート | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 |
| | | コンピュータ・リテラシーⅠ | 講義 | 12 | 作品（プログラム） | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 |
| | | 情報科学概論 | 講義 | 12 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 91.7 | 8.3 | 0 | 0 |
| | | ビジネス実務総論 | 講義 | 12 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 58.3 | 25.0 | 16.7 | 0 |
| | | ビジネス実務演習 | 演習 | 24 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 37.5 | 37.5 | 25.0 | 0 |
| | | 簿記会計学 | 講義 | 24 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 75.0 | 25.0 | 0 | 0 |
| | | 事務管理 | 講義 | 12 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 |
| | | プログラム言語Ⅰ | 技術 | 24 | 検定試験・レポート | 100 | 0 | 100 | 87.5 | 4.2 | 8.3 | 0 |
| | | プログラム言語Ⅱ | 技術 | 24 | 定期試験 | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 |
| | | マイクロプロセッサ/応用一般 | 講義 | 16 | 模擬試験・レポート | 100 | 0 | 100 | 87.5 | 12.5 | 0 | 0 |
| | | マイクロプロセッサ/応用上級 | 講義 | 8 | 模擬試験・レポート | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 |
| | | オプティマル・ネットワーク | 講義 | 4 | 研修先の評価 | 100 | 0 | 100 | 50.0 | 50.0 | 0 | 0 |
| 英会話海外実習 | | 1 | | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 | | |
| コース 専門科目 | コミュニケーションⅠ | 講義 | 23 | 筆記試験 | 91.3 | 8.7 | 100 | 43.5 | 21.7 | 26.1 | 8.7 | |
| | コミュニケーションⅡ | 講義 | 0 | 筆記試験 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | コミュニケーションⅢ | 講義 | 8 | 試験（60点）出席 | 100 | 0 | 100 | 0 | 100 | 0 | 0 | |
| | トピック・スタディ | 講義 | 24 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 66.7 | 33.3 | 0 | 0 | |
| | 観光英語 | 講義 | 13 | 筆記試験 | 76.9 | 0 | 100 | 76.9 | 23.1 | 0 | 0 | |
| | 英語音声学 | 講義 | 24 | 試験（60点）出席 | 91.7 | 8.3 | 100 | 33.3 | 29.2 | 29.2 | 8.3 | |
| | 基礎英作文Ⅱ | 講義 | 12 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 | |
| | 英語リーディングⅡ | 講義 | 11 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 36.4 | 63.6 | 0 | 0 | |

表Ⅳ-3 コミュニケーション学科(情報コミュニケーションコース)の単位認定の状況

(平成17年度卒業生)

| 種別 | 授業科目名 | 授業形態 | 履修人員 | 主な単位認定の方法 | 単位取得状況 | | | 最終の評価 | | | |
|----|-------|------|------|-----------|--------|----|-----|-------|------|------|----|
| | | | | | 本試 | 再試 | 計 | 優 | 良 | 可 | 不可 |
| 教養 | 歴史学 | 講義 | 10 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 |
| | 文学 | 講義 | 8 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 50.0 | 37.5 | 12.5 | 0 |
| | 日本国憲法 | 講義 | 10 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 20.0 | 80.0 | 0 | 0 |

IV 教育目標の達成度と教育の効果

| | | | | | | | | | | | |
|------------------------|------------------------|----|-----------|--------------|-----|------|-----|------|------|------|------|
| 科目 | 社会と自然 | 講義 | 10 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 |
| | 生活科学 | 実技 | 3 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 |
| | 生活と経済 | 講義 | 10 | レポート・出席 | 100 | 0 | 100 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | コンソーシアム共同授業Ⅰ | 講義 | 0 | — | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 外国語 | 仏語 | 講義 | 0 | 期末試験 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 英語 | 講義 | 20 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 25.0 | 35.0 | 40.0 | 0 |
| 保健体育 | 体育講義 | 講義 | 10 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 90.0 | 10.0 | 0 | 0 |
| | 体育実技 | 講義 | 10 | 実技試験 | 100 | 0 | 100 | 30.0 | 60.0 | 10.0 | 0 |
| 必修科目 | コミュニケーション論 | 講義 | 10 | 試験60%・出席等 | 100 | 0 | 100 | 10.0 | 50.0 | 40.0 | 0 |
| | 異文化間コミュニケーション | 講義 | 10 | 試験60%・出席 | 100 | 0 | 100 | 10.0 | 30.0 | 60.0 | 0 |
| | 海外事情 | 講義 | 10 | 出席・レポート | 100 | 0 | 100 | 30.0 | 40.0 | 30.0 | 0 |
| | 日本語表現 | 講義 | 10 | 試験4回・出席課題 | 100 | 0 | 100 | 40.0 | 50.0 | 10.0 | 0 |
| | 人間関係論 | 講義 | 10 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 60.0 | 30.0 | 10.0 | 0 |
| | 職場の心理学 | 講義 | 10 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 40.0 | 40.0 | 20.0 | 0 |
| | 情報処理(演習) | 演習 | 20 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 |
| 講義 講義 講義 選択科目 | 世界の英語 | 講義 | 1 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 |
| | 日本文化論 | 講義 | 0 | 定期試験・出席等 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 基礎英作文Ⅰ | 講義 | 6 | レポート・試験60%出席 | 100 | 0 | 100 | 33.3 | 50.0 | 16.7 | 0 |
| | 英会話 | 講義 | 16 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 6.2 | 50.0 | 43.8 | 0 |
| | 海外通信 | 講義 | 10 | 筆記試験・課題 | 90 | 10.0 | 100 | 40.0 | 0 | 50.0 | 10.0 |
| | インターネット・イングリッシュ | 講義 | 0 | 期末試験 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 英米文化論 | 講義 | 0 | 期末試験 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 行動科学入門 | 講義 | 3 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 |
| | 情報処理学概論 | 講義 | 9 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 |
| | コンピュータ・リテラシーⅠ | 講義 | 20 | レポート・製作 | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 |
| | 情報科学概論 | 講義 | 10 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 90.0 | 10.0 | 0 | 0 |
| | ビジネス実務総論 | 講義 | 10 | 出席・試験 | 100 | 0 | 100 | 80.0 | 10.0 | 10.0 | 0 |
| | ビジネス実務演習 | 演習 | 20 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 20.0 | 35.0 | 45.0 | 0 |
| | 簿記会計学 | 講義 | 20 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 80.0 | 10.0 | 10.0 | 0 |
| | 事務管理 | 演習 | 10 | 出席・試験 | 100 | 0 | 100 | 90.0 | 10.0 | 0 | 0 |
| | プログラム言語Ⅰ | 講義 | 20 | レポート・試験・出席 | 100 | 0 | 100 | 95.0 | 0 | 5.0 | 0 |
| | プログラム言語Ⅱ | 講義 | 20 | レポート・試験・出席 | 100 | 0 | 100 | 95.0 | 0 | 5.0 | 0 |
| | マイクロソフト・オフィス・スペシャリスト一般 | 講義 | 20 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 55.0 | 35.0 | 10.0 | 0 |
| | マイクロソフト・オフィス・スペシャリスト上級 | 講義 | 17 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 58.8 | 23.6 | 17.6 | 0 |
| | オフキャンパス・ワークショップ* | 講義 | 4 | 研修先の評価 | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 |
| 英会話海外実習 | 講義 | 1 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 | |
| 情報初ワーク入門 | 講義 | 0 | 定期試験 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 情報整理法 | 講義 | 0 | 試験60%・出席等 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |

IV 教育目標の達成度と教育の効果

| | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|------------------|----|----|----------|-----|---|-----|------|------|------|---|
| コ ー ス 専 門 | 情報メディア論 | 講義 | 7 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 |
| | ビジネスとコミュニケーション | 講義 | 3 | 出席・筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 66.7 | 33.3 | 0 | 0 |
| | ビジネスと法律 | 講義 | 9 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 66.7 | 22.2 | 11.1 | 0 |
| | システム・アオミニストレーター | 講義 | 18 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 55.6 | 5.6 | 38.8 | 0 |
| | システム・アオミニストレーターⅡ | 講義 | 7 | 平常点・筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 14.3 | 28.6 | 57.1 | 0 |
| | セキュリティ・システム論Ⅰ | 講義 | 8 | 平常点・筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 62.5 | 37.5 | 0 | 0 |

表4 児童教育学科初等教育専攻（体育コース）の単位認定の状況

（平成17年度卒業生）

| 種別 | 授業科目名 | | 授業形態 | 履修人員 | 主な単位認定の方法 | 単位取得状況 | | | 最終の評価 | | | |
|------------------|----------|---------|------|------|-----------|--------|-----|-----|-------|------|------|-----|
| | | | | | | 本試 | 再試 | 計 | 優 | 良 | 可 | 不可 |
| 教 養 科 目 | 歴史学 | | 講義 | 21 | 期末試験 | 100 | 0 | 100 | 76.2 | 23.8 | 0 | 0 |
| | 日本国憲法 | | 講義 | 22 | 定期試験 | 100 | 0 | 100 | 28.6 | 47.6 | 23.8 | 0 |
| | 物理の世界 | | 講義 | 13 | レポート提出 | 100 | 0 | 100 | 84.6 | 7.7 | 7.7 | 0 |
| | 生活と科学 | | 講義 | 7 | レポート提出 | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 |
| | 生活と経済 | | 講義 | 19 | 出題する課題提出 | 100 | 0 | 100 | 87.7 | 12.3 | 0 | 0 |
| | 自然と人間 | | 講義 | 5 | レポート提出 | 100 | 0 | 100 | 87.9 | 10.4 | 1.7 | 0 |
| | 教養ゼミナール | | 講義 | 22 | レポート提出 | 100 | 0 | 100 | 95.5 | 0 | 4.5 | 0 |
| | 国際理解 | | 講義 | 0 | — | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 外 国 語 | 英語 | | 講義 | 41 | 筆記試験 | 97.7 | 2.3 | 100 | 24.4 | 9.9 | 63.4 | 2.3 |
| | 中国語 | | 講義 | 0 | — | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 英会話体験実習Ⅰ | | 実習 | 0 | — | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 英会話体験実習Ⅱ | | 実習 | 0 | — | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 英会話体験実習Ⅲ | | 実習 | 0 | — | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 保 健 体 育 | 体育講義 | | 講義 | 22 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 |
| | 体育実技 | | 実技 | 22 | 実技試験 | 100 | 0 | 100 | 95.5 | 4.5 | 0 | 0 |
| 専 門 科 目 | 国語 | 国語学概論 | 講義 | 0 | 課題・筆記試験 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 音楽 | 音楽 | 講義 | 6 | 授業中の習得状況 | 100 | 0 | 100 | 33.3 | 66.7 | 0 | 0 |
| | 体育 | 生涯スポーツ論 | 講義 | 22 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 95.5 | 4.5 | 0 | 0 |
| | 図工 | 美術工芸 | 講義 | 5 | 作品提出 | 100 | 0 | 100 | 80.0 | 20.0 | 0 | 0 |
| | 算数 | 数学 | 講義 | 15 | レポート | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 |
| | 生活 | 生活科学 | 講義 | 3 | 課題研究の提出 | 100 | 0 | 100 | 66.7 | 33.3 | 0 | 0 |
| | 理科 | 自然科学 | 講義 | 3 | レポート | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 |
| | 家庭 | 家政学 | 講義 | 1 | レポート | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 |

IV 教育目標の達成度と教育の効果

| | | | | | | | | | | | | | |
|------------|-----------------|----------|----|----|-----------|-------------|-----|-----|------|------|------|------|---|
| 教職に関する専門科目 | 社会 | 社会科学 | 講義 | 0 | 筆記試験 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | 教育情報処理 I | | 演習 | 44 | 実技試験 | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 | |
| | 一般心理学 | | 講義 | 0 | 筆記試験 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 言語表現法 (日本語表現) | | 講義 | 10 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 40.0 | 50.0 | 10.0 | 0 | |
| | 人間関係論 | | 講義 | 10 | レポート | 100 | 0 | 100 | 90.0 | 10.0 | 0 | 0 | |
| | ボランティア活動 | | 講義 | 22 | 介護等体験 | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 | |
| | 教職論 | | 講義 | 21 | レポート | 100 | 0 | 100 | 47.7 | 33.3 | 19.0 | 0 | |
| | 教育原理 | | 講義 | 21 | 筆記・レポート | 100 | 0 | 100 | 42.9 | 47.6 | 9.5 | 0 | |
| | 教育心理学 | | 講義 | 21 | 小テスト・筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 14.3 | 0 | 85.7 | 0 | |
| | 教育の方法と技術 | | 講義 | 22 | レポート4本筆記 | 100 | 0 | 100 | 95.5 | 4.5 | 0 | 0 | |
| | 総合演習 | | 講義 | 22 | レポート | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 | |
| | 道徳教育の研究 | | 講義 | 22 | レポート | 100 | 0 | 100 | 50.0 | 36.4 | 13.6 | 0 | |
| | 特別活動論 | | 講義 | 22 | 筆記・レポート | 100 | 0 | 100 | 77.3 | 13.6 | 9.1 | 0 | |
| | 生徒指導 | 生徒指導論 | | 講義 | 22 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 90.9 | 9.1 | 0 | 0 |
| | | 教育相談 | | 講義 | 22 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 22.7 | 27.3 | 50.0 | 0 |
| | | 幼児理解 | | 講義 | 22 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 42.1 | 47.4 | 10.5 | 0 |
| | 実習 | 教育実習 (小) | | 実習 | 22 | 実習校の評価 | 100 | 0 | 100 | 45.5 | 50.0 | 4.5 | 0 |
| | | 実習概説 | | 講義 | 21 | 課題レポート提出 | 100 | 0 | 100 | 57.1 | 33.4 | 9.5 | 0 |
| | 教科教育法 | 音楽 | | 演習 | 10 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 40.0 | 60.0 | 0 | 0 |
| | | 体育 | | 実技 | 22 | 実技試験 | 100 | 0 | 100 | 95.5 | 4.5 | 0 | 0 |
| | | 図画工作 | | 演習 | 15 | レポート・出席等 | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 |
| | | 国語 | | 講義 | 20 | テスト・レポート・出席 | 100 | 0 | 100 | 45.0 | 25.0 | 30.0 | 0 |
| | | 算数 | | 講義 | 22 | レポート・出席等 | 100 | 0 | 100 | 90.9 | 9.1 | 0 | 0 |
| | | 生活 | | 講義 | 0 | レポート・試験 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | 社会 | | 講義 | 16 | テスト・レポート・出席 | 100 | 0 | 100 | 43.8 | 31.2 | 25.0 | 0 |
| | | 理科 | | 講義 | 13 | レポート・出席 | 100 | 0 | 100 | 84.6 | 15.4 | 0 | 0 |
| | 家庭 | | 講義 | 15 | 課題作成・テスト | 100 | 0 | 100 | 66.6 | 26.7 | 6.7 | 0 | |
| 体育コース専門科目 | スポーツ経営学 (行政舎) | | 講義 | 22 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 45.5 | 54.5 | 0 | 0 | |
| | スポーツ指導論 | | 講義 | 22 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 50.0 | 50.0 | 0 | 0 | |
| | スポーツ生理学 | | 講義 | 22 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 31.8 | 59.1 | 9.1 | 0 | |
| | 体育学演習 | | 演習 | 22 | 実技試験 | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 | |
| | 実技 I / トレーニング | | 実技 | 22 | 実技試験 | 100 | 0 | 100 | 90.9 | 9.1 | 0 | 0 | |
| | 実技 I / ダンス | | 実技 | 22 | 実技試験 | 100 | 0 | 100 | 90.9 | 9.1 | 0 | 0 | |
| | 実技 I / ユニホック | | 実技 | 22 | 実技試験 | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 | |
| | 実技 I / スキー | | 実技 | 22 | 実技試験 | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 | |
| | 実技 II / ハンド・ミトン | | 実技 | 22 | 実技試験 | 100 | 0 | 100 | 90.9 | 9.1 | 0 | 0 | |
| | 実技 II / ハンド・ボール | | 実技 | 22 | 実技試験 | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 | |
| | 実技 I / ゴルフ | | 実技 | 22 | 実技試験 | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 | |

IV 教育目標の達成度と教育の効果

| | | | | | | | | | | | |
|------------------|--------------|----|----|-------|-----|---|-----|------|------|------|---|
| | 実技Ⅱ／ボウリング | 実技 | 22 | 実技試験 | 100 | 0 | 100 | 68.2 | 31.8 | 0 | 0 |
| | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| レクリエーションインストラクター | レクリエーション概論 | 講義 | 18 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 61.1 | 11.1 | 27.8 | 0 |
| | レクリエーション実技 | 実技 | 18 | 実技試験 | 100 | 0 | 100 | 68.4 | 31.6 | 0 | 0 |
| | レクリエーション現場実習 | 実習 | 18 | 現場の評価 | 100 | 0 | 100 | 61.1 | 38.9 | 0 | 0 |

表IV-5 児童教育学科初等教育専攻（心理コース）の単位認定の状況

(平成17年度卒業生)

| 種別 | 授業科目名 | | 授業形態 | 履修人員 | 主な単位認定の方法 | 単位取得状況 | | | 最終の評価 | | | |
|------|--------------|---------|------|------|-----------|--------|----|------|-------|------|------|----|
| | | | | | | 本試 | 再試 | 計 | 優 | 良 | 可 | 不可 |
| 教養科目 | 歴史学 | | 講義 | 16 | 期末試験 | 100 | 0 | 100 | 52.2 | 40.7 | 6.8 | 0 |
| | 日本国憲法 | | 講義 | 16 | 定期試験 | 100 | 0 | 100 | 25.8 | 55.2 | 19.0 | 0 |
| | 物理の世界 | | 講義 | 9 | レポート提出 | 100 | 0 | 100 | 46.5 | 32.8 | 20.7 | 0 |
| | 生活と化学 | | 講義 | 6 | レポート提出 | 100 | 0 | 100 | 24.5 | 34.5 | 41.4 | 0 |
| | 生活と経済 | | 講義 | 10 | 出題する課題提出 | 100 | 0 | 100 | 87.7 | 12.3 | 0 | 0 |
| | 自然と人間 | | 講義 | 13 | レポート提出 | 100 | 0 | 100 | 87.9 | 10.4 | 1.7 | 0 |
| | 教養ゼミナール | | 講義 | 11 | レポート提出 | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 |
| | 国際理解 | | 講義 | 0 | — | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | コンソーシアム共同授業Ⅰ | | 講義 | 0 | — | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 外国語 | 英語 | | 講義 | 32 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 21.9 | 34.4 | 43.7 | 0 |
| | 中国語 | | 講義 | 0 | — | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 英会話体験実習Ⅰ | | 実習 | 0 | — | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 英会話体験実習Ⅱ | | 実習 | 0 | — | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 英会話体験実習Ⅲ | | 実習 | 0 | — | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 保健体育 | 体育講義 | | 講義 | 16 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 68.7 | 18.8 | 12.5 | 0 |
| | 体育実技 | | 実技 | 16 | 実技試験 | 100 | 0 | 100 | 81.2 | 18.8 | 0 | 0 |
| 専門科目 | 国語 | 国語学概論 | 講義 | 4 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 75.0 | 25.0 | 0 | 0 |
| | 音楽 | 音楽 | 演習 | 12 | 授業中の習得状況 | 100 | 0 | 100 | 41.7 | 58.3 | 0 | 0 |
| | 体育 | 生涯スポーツ論 | 講義 | 0 | 筆記試験 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 図工 | 美術工芸 | 演習 | 1 | 作品の提出 | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 |
| | 算数 | 数学 | 講義 | 14 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 93.3 | 6.7 | 0 | 0 |
| | 生活 | 生活科学 | 講義 | 16 | 筆記試験 | 37.5 | 0 | 37.3 | 6.3 | 31.3 | 0 | 0 |
| | 理科 | 自然科学 | 講義 | 16 | 筆記試験 | | | | | 0 | 0 | 0 |
| | 家庭 | 家政学 | 講義 | 2 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 |
| | 社会 | 社会科学 | 講義 | 0 | 筆記試験 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

IV 教育目標の達成度と教育の効果

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------|--|--|-----------------------|----|---------|------|--------|-----|----------|------|------|------|------|------|------|---|
| 専 門 科 目 | 教育情報処理Ⅰ | | 演習 | 32 | 実技試験 | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 | | | | |
| | 一般心理学 | | 講義 | 6 | 筆記試験 | 50.0 | 50.0 | 100 | 50.0 | 0 | 0 | 50.0 | | | | |
| | 言語表現法(日本語表現) | | 講義 | 3 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 | | | | |
| | 人間関係論 | | 講義 | 3 | レポート提出 | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 | | | | |
| | ボランティア活動 | | 講義 | 16 | 介護等体験 | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 | | | | |
| | 課題研究Ⅰ | | 講義 | 64 | レポート提出 | 100 | 0 | 100 | 50.0 | 50.0 | 0 | 0 | | | | |
| | 課題研究Ⅱ | | 講義 | 16 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 83.3 | 16.7 | 0 | 0 | | | | |
| | 教 職 に 関 す る 専 門 教 育 科 目 | | 教職論 | | 講義 | 16 | レポート提出 | 100 | 0 | 100 | 26.6 | 66.7 | 6.7 | 0 | | |
| | | | 教育原理 | | 講義 | 16 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 68.7 | 25.0 | 6.3 | 0 | | |
| | | | 教育心理学 | | 講義 | 16 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 31.3 | 37.4 | 31.3 | 0 | | |
| | | | 教育の方法と技術 | | 講義 | 16 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 | | |
| | | | 総合演習 | | 講義 | 16 | レポート提出 | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 | | |
| | | | 道徳教育の研究 | | 講義 | 16 | レポート提出 | 100 | 0 | 100 | 68.7 | 25.0 | 6.3 | 0 | | |
| | | | 特別活動論 | | 講義 | 16 | レポート提出 | 100 | 0 | 100 | 87.5 | 12.5 | 0 | 0 | | |
| | | | 生 徒 指 導 | | 生徒指導論 | | 講義 | 16 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 75.0 | 18.7 | 6.3 | 0 |
| | | | | | 教育相談 | | 講義 | 16 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 31.3 | 31.3 | 37.3 | 0 |
| | | | | | 幼児理解 | | 講義 | 12 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 66.7 | 25.0 | 8.3 | 0 |
| | | | 実 習 | | 教育実習(小) | | 実習 | 16 | 実習校の評価 | 100 | 0 | 100 | 25.0 | 68.7 | 6.3 | 0 |
| | | | | | 実習概説 | | 講義 | 16 | 課題レポート提出 | 100 | 0 | 100 | 68.7 | 12.5 | 18.8 | 0 |
| | | | 教 科 教 育 法 | | 音楽 | | 演習 | 16 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 46.7 | 53.3 | 0 | 0 |
| | | | | | 体育 | | 実技 | 1 | 実技試験 | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 |
| | | | | | 図画工作 | | 演習 | 15 | レポート提出 | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 |
| | | | | | 国語 | | 講義 | 16 | 筆記・指導案 | 100 | 0 | 100 | 50.0 | 31.2 | 18.8 | 0 |
| | | | | | 算数 | | 講義 | 16 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 93.7 | 0 | 6.3 | 0 |
| | | | | | 生活 | | 講義 | 7 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 85.7 | 14.3 | 0 | 0 |
| | | | | | 社会 | | 講義 | 14 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 42.9 | 35.7 | 21.4 | 0 |
| | 理科 | | | | 講義 | 8 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 75.0 | 12.5 | 12.5 | 0 | | |
| | 家庭 | | 講義 | 13 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 46.2 | 38.5 | 15.3 | 0 | | | | |
| | コ ー ス 専 門 科 目 | | 家族心理学 | | 講義 | 16 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 25.0 | 31.3 | 43.7 | 0 | | |
| | | | 社会心理学 | | 講義 | 16 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 25.0 | 68.8 | 6.2 | 0 | | |
| | | | 児童心理学 | | 講義 | 16 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 | | |
| | | | 青年心理学 | | 講義 | 16 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 81.3 | 18.7 | 0 | 0 | | |
| 音楽療法 | | | 演習 | 16 | 実践・レポート | 100 | 0 | 100 | 25.0 | 75.0 | 0 | 0 | | | | |
| 臨床心理学 | | | 講義 | 16 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 81.3 | 18.7 | 0 | 0 | | | | |
| 心理学概論 | | | 講義 | 16 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 87.4 | 6.3 | 6.3 | 0 | | | | |
| 手話概論 | | | 講義 | 9 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 66.7 | 33.3 | 0 | 0 | | | | |
| 手話演習 | | | 演習 | 5 | レポート提出 | 100 | 0 | 100 | 80.0 | 20.0 | 0 | 0 | | | | |

表IV-6 児童教育学科幼児教育専攻の単位認定の状況

(平成17年度卒業生)

| 種別 | 授業科目名 | 授業形態 | 履修人員 | 主な単位認定の方法 | 単位取得状況 | | | 最終の評価 | | | | | |
|----------------------|--------------|----------|----------|-----------|-----------|-----------|------|-------|------|------|------|------|-----|
| | | | | | 本試 | 再試 | 計 | 優 | 良 | 可 | 不可 | | |
| 教養科目 | 経済学 | 講義 | 144 | 期末試験 | 100 | 0 | 100 | 62.5 | 37.5 | 0 | 0 | | |
| | 歴史学 | 講義 | 17 | 定期試験 | 100 | 0 | 100 | 58.8 | 4.2 | 0 | 0 | | |
| | 日本国憲法 | 講義 | 147 | レポート提出 | 100 | 0 | 100 | 38.4 | 36.4 | 25.2 | 0 | | |
| | 物理の世界 | 講義 | 7 | レポート提出 | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 | | |
| | 情報基礎 | 講義 | 289 | 出題する課題提出 | 100 | 0 | 100 | 73.4 | 19.0 | 7.6 | 0 | | |
| | 自然と人間 | 講義 | 144 | レポート提出 | 100 | 0 | 100 | 56.9 | 33.4 | 7.6 | 0 | | |
| | 教養ゼミナール | 講義 | 139 | レポート | 100 | 0 | 100 | 92.8 | 2.2 | 5.0 | 0 | | |
| | 国際理解 | 講義 | 0 | — | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | |
| | コンソーシアム共同授業I | 講義 | 0 | — | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | |
| 外国語 | 英語 | 講義 | 286 | 定期試験 | 100 | 0 | 100 | 35.7 | 29.7 | 34.6 | 0 | | |
| | 中国語 | 講義 | 0 | — | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | |
| | 英会話体験実習Ⅰ | 実習 | 0 | — | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | |
| | 英会話体験実習Ⅱ | 実習 | 0 | — | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | |
| | 英会話体験実習Ⅲ | 実習 | 0 | — | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | |
| 保健体育 | 体育講義 | 講義 | 144 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 66.0 | 26.4 | 7.6 | 0 | | |
| | 体育実技 | 講義 | 144 | 実技試験 | 100 | 0 | 100 | 66.6 | 27.1 | 6.3 | 0 | | |
| 専門科目 専門科目 専門科目 | 教職に関する科目 | 教職論 | 講義 | 142 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 31.0 | 53.5 | 15.5 | 0 | |
| | | 教育原理 | 講義 | 146 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 84.2 | 14.4 | 1.4 | 0 | |
| | | 発達心理学 | 講義 | 146 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 54.1 | 27.4 | 18.5 | 0 | |
| | | 教育内容の指導 | 健康Ⅰ | 実技 | 146 | 実技試験 | 100 | 0 | 100 | 48.6 | 45.2 | 6.2 | 0 |
| | | | 人間関係 | 講義 | 83 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 36.1 | 44.6 | 19.3 | 0 |
| | | | 言葉 | 講義 | 79 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 31.6 | 60.8 | 7.6 | 0 |
| | | | 環境 | 講義 | 146 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 36.7 | 39.2 | 24.1 | 0 |
| | | | 表現Ⅰ | 講義 | 292 | 手遊び実技試験 | 100 | 0 | 100 | 36.3 | 46.9 | 16.8 | 0 |
| | | | 表現Ⅱ | 講義 | 146 | 実技試験 | 100 | 0 | 100 | 33.7 | 43.9 | 22.4 | 0 |
| | | | 健康Ⅱ | 実技 | 146 | 実技試験・レポート | 99.3 | 0.7 | 100 | 69.9 | 28.0 | 1.4 | 0.7 |
| | | 教育の方法と技術 | 演習 | 144 | 作品・レポート提出 | 100 | 0 | 100 | 47.9 | 45.2 | 6.9 | 0 | |
| | | 臨床心理学 | 講義 | 146 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 70.6 | 20.6 | 8.8 | 0 | |
| | | 保育総合演習 | 演習 | 147 | レポート・試験 | 100 | 0 | 100 | 71.5 | 19.0 | 9.5 | 0 | |
| 実習概説 | 講義 | 147 | 実習記録簿・課題 | 99.3 | 0.7 | 100 | 63.7 | 24.7 | 10.9 | 0.7 | | | |
| 教育実習(幼) | 実習 | 143 | 実習先の評価 | 100 | 0 | 100 | 30.1 | 58.7 | 11.2 | 0 | | | |
| 音楽 | 幼児音楽 | 演習 | 288 | 実技・歌唱試験 | 100 | 0 | 100 | 21.9 | 67.4 | 10.8 | 0 | | |

IV 教育目標の達成度と教育の効果

| | | | | | | | | | | | | | |
|----------|----------|-------|-----|----------|------------|--------|-----|------|------|------|------|------|---|
| | 図画工作 | 幼児美術 | 演習 | 290 | 作品・課題提出 | 99.7 | 0.3 | 100 | 80.3 | 17.6 | 1.7 | 0.3 | |
| | 体育 | 幼児体育 | 実技 | 294 | 実技試験 | 99.7 | 0.3 | 100 | 51.0 | 35.4 | 13.3 | 0.3 | |
| | 国語 | 国語 | 講義 | 43 | 課題・試験 | 100 | 0 | 100 | 65.1 | 20.9 | 14.0 | 0 | |
| 保育士養成科目 | 社会福祉 | | 講義 | 147 | レポート・試験 | 100 | 0 | 100 | 66.7 | 30.6 | 2.7 | 0 | |
| | 社会福祉援助技術 | | 講義 | 146 | レポート・試験 | 100 | 0 | 100 | 37.7 | 36.3 | 26.0 | 0 | |
| | 児童福祉 | | 講義 | 147 | レポート | 100 | 0 | 100 | 59.8 | 35.4 | 4.8 | 0 | |
| | 保育原理 | | 講義 | 293 | レポート・試験 | 100 | 0 | 100 | 24.3 | 27.6 | 48.1 | 0 | |
| | 養護原理 | | 講義 | 147 | 小テスト | 100 | 0 | 100 | 30.6 | 30.6 | 38.8 | 0 | |
| | 教育心理学 | | 講義 | 145 | 定期試験 | 100 | 0 | 100 | 40.7 | 51.0 | 8.3 | 0 | |
| | 小児保健 | | 講義 | 294 | レポート・試験 | 100 | 0 | 100 | 23.5 | 44.9 | 31.6 | 0 | |
| | 小児保健実習 | | 講義 | 147 | 課題レポート | 100 | 0 | 100 | 61.2 | 20.4 | 18.4 | 0 | |
| | 小児栄養 | | 講義 | 147 | レポート・試験 | 100 | 0 | 100 | 72.8 | 25.2 | 2.0 | 0 | |
| | 精神保健 | | 講義 | 147 | 適時遂行するレポート | 100 | 0 | 100 | 29.3 | 60.5 | 10.2 | 0 | |
| | 家族援助論 | | 講義 | 146 | 課題提出 | 100 | 0 | 100 | 30.8 | 63.7 | 5.5 | 0 | |
| | 乳児保育 | | 講義 | 294 | レポート・試験 | 100 | 0 | 100 | 57.5 | 35.0 | 7.5 | 0 | |
| | 養護内容 | | 講義 | 146 | 小テスト・試験 | 100 | 0 | 100 | 21.9 | 76.7 | 1.4 | 0 | |
| | 障害児保育 | | 講義 | 147 | 小テスト・試験 | 100 | 0 | 100 | 66.0 | 21.8 | 12.2 | 0 | |
| | 保育内容総論 | | 講義 | 146 | レポート・試験 | 100 | 0 | 100 | 17.1 | 47.3 | 35.6 | 0 | |
| | 保育実習指導 | | 講義 | 147 | 課題の提出 | 99.3 | 0.7 | 100 | 87.7 | 7.5 | 4.1 | 0.7 | |
| | 保育実習Ⅰ | | (保) | 実習 | 147 | 実習先の評価 | 100 | 0 | 100 | 25.2 | 60.5 | 14.3 | 0 |
| | | | (施) | 実習 | 147 | 実習先の評価 | 100 | 0 | 100 | 40.1 | 55.8 | 4.1 | 0 |
| | 保育実践活動 | | 講義 | 293 | 作品発表 | 100 | 0 | 100 | 42.0 | 45.7 | 12.3 | 0 | |
| | 保育計画論 | | 講義 | 138 | レポート・試験 | 98.6 | 1.4 | 100 | 8.0 | 38.4 | 52.2 | 1.4 | |
| | 保育内容研究Ⅰ | | 講義 | 6 | 作品と研究発表 | 100 | 0 | 100 | 83.3 | 16.7 | 0 | 0 | |
| | 保育内容研究Ⅱ | | 講義 | 19 | 現場での企画 | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 | |
| | 保育内容研究Ⅲ | | 講義 | 12 | 出席等の総合評価 | 100 | 0 | 100 | 8.3 | 91.7 | 0 | 0 | |
| | 音楽 | 幼児音楽Ⅱ | 実技 | 269 | 実技、歌唱試験 | 100 | 0 | 100 | 20.1 | 71.7 | 8.2 | 0 | |
| | | 幼児音楽Ⅲ | 実技 | 264 | 課題による実技試験 | 100 | 0 | 100 | 31.1 | 56.4 | 12.5 | 0 | |
| | 保育実習Ⅰ | | 実習 | 129 | 実習先での評価 | 99.3 | 0.7 | 100 | 28.0 | 61.2 | 10.1 | 0.7 | |
| | 保育実習Ⅱ | | 実習 | 17 | 実習先での評価 | 100 | 0 | 100 | 41.2 | 52.9 | 5.9 | 0 | |
| 保育ゼミナールⅠ | | 講義 | 147 | レポート発表活動 | 100 | 0 | 100 | 61.2 | 27.2 | 11. | | | |
| 保育ゼミナールⅡ | | 講義 | 147 | レポート発表活動 | 100 | 0 | 100 | 59.2 | 24.5 | 16.3 | 0 | | |

表IV-7 人間福祉学科の単位認定の状況

(平成17年度卒業生)

| 種別 | 授業科目名 | 授業形態 | 履修人員 | 主な単位認定の方法 | 単位取得状況 | | | 最終の評価 | | | |
|-------|----------------|------|------|-----------|--------|-----|------|-------|------|------|----|
| | | | | | 本試 | 再試 | 計 | 優 | 良 | 可 | 不可 |
| 教養科目 | 人間関係論 | 講義 | 21 | 期末試験 | 100 | 0 | 100 | 52.2 | 40.7 | 6.8 | 0 |
| | 日本国憲法 | 講義 | 17 | 定期試験 | 100 | 0 | 100 | 25.8 | 55.2 | 19.0 | 0 |
| | 生活と経済 | 講義 | 5 | レポート提出 | 100 | 0 | 100 | 46.5 | 32.8 | 20.7 | 0 |
| | 生活と化学 | 講義 | 12 | レポート提出 | 100 | 0 | 100 | 24.5 | 34.5 | 41.4 | 0 |
| | 情報基礎 | 講義 | 17 | 出題する課題提出 | 100 | 0 | 100 | 87.7 | 12.3 | 0 | 0 |
| | 教養ゼミナール | 講義 | 68 | レポート提出 | 100 | 0 | 100 | 87.9 | 10.4 | 1.7 | 0 |
| | コンソーシアム共同授業Ⅰ | 講義 | 0 | — | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 外国語 | 英語 | 講義 | 42 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 33.3 | 16.7 | 50.0 | 0 |
| | 英会話体験実習Ⅰ | 実習 | 0 | — | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 保健体育 | スポーツと健康 | 講義 | 16 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 50.0 | 37.5 | 12.5 | 0 |
| | スポーツ実習 | 実技 | 9 | 実技試験 | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 |
| 専門科目 | 社会福祉概論Ⅰ | 講義 | 21 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 38.1 | 47.6 | 14.3 | 0 |
| | 社会福祉概論Ⅱ | 講義 | 21 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 85.7 | 14.3 | 0 | 0 |
| | 老人福祉論Ⅰ | 講義 | 21 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 47.6 | 42.9 | 9.5 | 0 |
| | 老人福祉論Ⅱ | 講義 | 21 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 33.3 | 38.1 | 28.6 | 0 |
| | 障害者福祉論 | 講義 | 21 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 23.8 | 28.6 | 47.6 | 0 |
| | リハビリテーション論 | 講義 | 21 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 81.0 | 19.0 | 0 | 0 |
| | 社会福祉援助技術 | 講義 | 21 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 |
| | 社会福祉援助技術演習 | 講義 | 21 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 81.0 | 19.0 | 0 | 0 |
| | レクリエーション活動援助法Ⅰ | 演習 | 21 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 57.1 | 28.6 | 14.3 | 0 |
| | レクリエーション活動援助法Ⅱ | 演習 | 21 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 57.1 | 38.1 | 4.8 | 0 |
| | 老人・障害者の心理Ⅰ | 講義 | 21 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 33.3 | 28.6 | 38.1 | 0 |
| | 老人・障害者の心理Ⅱ | 講義 | 21 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 57.1 | 19.0 | 23.8 | 0 |
| | 家政学概論Ⅰ | 講義 | 21 | 小論文・試験 | 100 | 0 | 100 | 66.7 | 28.6 | 4.8 | 0 |
| | 家政学概論Ⅱ | 講義 | 21 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 47.6 | 23.8 | 28.6 | 0 |
| | 家政学実習Ⅰ | 実習 | 21 | 課題試験 | 100 | 0 | 100 | 23.8 | 42.9 | 33.3 | 0 |
| | 家政学実習Ⅱ | 実習 | 21 | レポート・実習態度 | 100 | 0 | 100 | 47.6 | 33.3 | 19.0 | 0 |
| | 医学一般Ⅰ | 講義 | 21 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 19.0 | 19.0 | 71.4 | 0 |
| | 医学一般Ⅱ | 講義 | 21 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 9.5 | 19.0 | 71.4 | 0 |
| | 医学一般Ⅲ | 講義 | 21 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 4.8 | 28.6 | 66.7 | 0 |
| | 精神保健 | 講義 | 21 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 19.0 | 47.6 | 33.3 | 0 |
| 介護概論Ⅰ | 講義 | 21 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 61.9 | 14.3 | 23.8 | 0 | |

IV 教育目標の達成度と教育の効果

| | | | | | | | | | | | |
|------------------------|------------|----|---------|------------|------|------|------|------|------|------|------|
| 専門 関 連 科 目 | 介護概論Ⅱ | 講義 | 21 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 23.8 | 61.9 | 14.3 | 0 |
| | 介護技術Ⅰ | 実技 | 21 | 技術試験・レポート | 100 | 0 | 100 | 19.0 | 57.1 | 23.8 | 0 |
| | 介護技術Ⅱ | 実技 | 21 | 技術試験・レポート | 100 | 0 | 100 | 4.8 | 23.8 | 71.4 | 0 |
| | 介護技術Ⅲ | 実技 | 21 | 技術試験・レポート | 100 | 0 | 100 | 0 | 4.8 | 95.2 | 0 |
| | 形態別介護技術Ⅰ | 実技 | 21 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 45.8 | 33.3 | 20.9 | 0 |
| | 形態別介護技術Ⅱ | 実技 | 21 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 81.0 | 9.5 | 9.5 | 0 |
| | 形態別介護技術Ⅲ | 実技 | 21 | 筆記・技術試験 | 100 | 0 | 100 | 61.9 | 38.1 | 0 | 0 |
| | 介護実習Ⅰ | 実習 | 21 | 実習施設の評価 | 100 | 0 | 100 | 9.5 | 57.1 | 33.3 | 0 |
| | 介護実習Ⅱ | 実習 | 21 | 実習施設の評価 | 100 | 0 | 100 | 14.3 | 47.6 | 38.1 | 0 |
| | 介護実習Ⅲ | 実習 | 21 | 実習施設の評価 | 100 | 0 | 100 | 19.0 | 47.6 | 33.3 | 0 |
| | 介護実習指導Ⅰ | 実習 | 21 | 実習日誌・レポート | 100 | 0 | 100 | 52.4 | 33.3 | 14.3 | 0 |
| | 介護実習指導Ⅱ | 実習 | 21 | 実習日誌・レポート | 100 | 0 | 100 | 9.5 | 28.6 | 61.9 | 0 |
| | 介護実習指導Ⅲ | 実習 | 21 | 実習日誌・レポート | 100 | 0 | 100 | 33.3 | 23.8 | 42.9 | 0 |
| | 卒業セミナー | 講義 | 4 | 発表・提出論文 | 100 | 0 | 100 | 50.0 | 50.0 | 0 | 0 |
| | 家族心理学 | 講義 | 16 | 筆記試験・レポート | 100 | 0 | 100 | 87.5 | 12.5 | 0 | 0 |
| | 臨床心理学 | 講義 | 14 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 14.3 | 71.4 | 14.3 | 0 |
| | カウンセリング論 | 講義 | 5 | レポート課題 | 100 | 0 | 100 | 80.0 | 20.0 | 0 | 0 |
| | ケアマネジメント論 | 講義 | 11 | 筆記試験・レポート | 81.8 | 18.2 | 100 | 18.2 | 0 | 63.6 | 18.2 |
| | 地域福祉論 | 講義 | 0 | レポート | 0 | 0 | 100 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 児童福祉論 | 講義 | 6 | レポート | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 |
| | レクリエーション実技 | 実技 | 4 | 発表・実技試験 | 100 | 0 | 100 | 75.0 | 25.0 | 0 | 0 |
| | ボランティア論 | 講義 | 17 | ボランティア活動課題 | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 |
| | データ処理演習 | 演習 | 21 | 練習問題・課題 | 100 | 0 | 100 | 81.0 | 19.0 | 0 | 0 |
| | 介護事務総論 | 講義 | 21 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 52.4 | 19.0 | 28.6 | 0 |
| | 介護事務演習 | 演習 | 21 | 実践・レポート | 100 | 0 | 100 | 38.1 | 28.6 | 33.3 | 0 |
| 音楽療法 | 実技 | 11 | 実践・レポート | 100 | 0 | 100 | 18.2 | 45.5 | 36.3 | 0 | |

表Ⅳ-8 専攻科福祉専攻の単位認定の状況

(平成17年度卒業生)

| 種別 | 授業科目名 | 授業形態 | 履修人員 | 主な単位認定の方法 | 単位取得状況 | | | 最終の評価 | | | | |
|--------------|--------------------|------------|------|-----------|--------|-----|---|-------|------|------|------|---|
| | | | | | % | | | % | | | | |
| | | | | | 本試 | 再試 | 計 | 優 | 良 | 可 | 不可 | |
| 専門 科 目 | 介護 福祉 士 資 | 老人福祉論Ⅰ | 講義 | 10 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 90.0 | 10.0 | 0 | 0 |
| | | 老人福祉論Ⅱ | 講義 | 10 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 60.0 | 40.0 | 0 | 0 |
| | | リハビリテーション論 | 講義 | 10 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 |
| | | 老人・障害者の心理 | 講義 | 10 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 50.0 | 40.0 | 10.0 | 0 |
| | | 家政学概論Ⅰ | 講義 | 10 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 80.0 | 20.0 | 0 | 0 |
| | | 家政学実習Ⅰ | 実習 | 10 | レポート | 100 | 0 | 100 | 50.0 | 50.0 | 0 | 0 |

IV 教育目標の達成度と教育の効果

| | | | | | | | | | | | |
|----------------------------|------------|----|------|-----------|-----|-----|------|------|------|------|---|
| 格 専 門 科 目 | 家政学実習Ⅱ | 実習 | 10 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 90.0 | 10.0 | 0 | 0 |
| | 介護概論Ⅰ | 講義 | 10 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 10.0 | 50.0 | 40.0 | 0 |
| | 介護概論Ⅱ | 講義 | 10 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 40.0 | 60.0 | 0 | 0 |
| | 介護技術Ⅰ | 実技 | 10 | 技術試験・レポート | 100 | 0 | 100 | 90.0 | 10.0 | 0 | 0 |
| | 介護技術Ⅱ | 実技 | 10 | 技術試験・レポート | 100 | 0 | 100 | 20.0 | 50.0 | 30.0 | 0 |
| | 形態別介護技術Ⅰ | 実技 | 10 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 20.0 | 70.0 | 10.0 | 0 |
| | 形態別介護技術Ⅱ | 実技 | 10 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 80.0 | 20.0 | 0 | 0 |
| | 形態別介護技術Ⅲ | 実技 | 10 | 技術試験・筆記 | 100 | 0 | 100 | 70.0 | 10.0 | 20.0 | 0 |
| | 介護実習Ⅰ | 実習 | 10 | 実習施設の評価 | 100 | 0 | 100 | 20.0 | 80.0 | 0 | 0 |
| | 介護実習Ⅱ | 実習 | 10 | 実習施設の評価 | 100 | 0 | 100 | 0 | 70.0 | 30.0 | 0 |
| | 介護実習Ⅲ | 実習 | 10 | 実習施設の評価 | 100 | 0 | 100 | 60.0 | 40.0 | 0 | 0 |
| | 介護実習指導Ⅰ | 講義 | 10 | 技術試験・レポート | 100 | 0 | 100 | 30.0 | 70.0 | 0 | 0 |
| | 介護実習指導Ⅱ | 講義 | 10 | 実習記録と課題 | 100 | 0 | 100 | 60.0 | 30.0 | 10.0 | 0 |
| 専 門 関 連 科 目 | カウンセリング論 | 講義 | 5 | レポート | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 |
| | ケアマネジメント論 | 講義 | 3 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 |
| | 地域福祉論 | 講義 | 3 | 発表内容 | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 |
| | 音楽療法 | 実技 | 8 | 実践・レポート | 100 | 0 | 100 | 75.0 | 25.0 | 0 | 0 |
| | レクリエーション実技 | 実技 | 6 | 実技試験 | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 |
| | ボランティア論 | 講義 | 9 | 授業への取り組み | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 |
| | 医療の基礎 | 講義 | 7 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 |
| | データ処理演習 | 演習 | 7 | 提出課題 | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 |
| | 介護事務総論 | 講義 | 10 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 100 | 0 | 0 | 0 |
| 介護事務演習 | 演習 | 7 | 筆記試験 | 100 | 0 | 100 | 14.2 | 0 | 85.8 | 0 | |

(2) 学科長等がそれぞれの学科について単位方法と評価の実態を記入しなさい。

1) 食物栄養学科

食物栄養学科の単位認定方法・単位取得状況・評価の現状において、担当教員の責任において学則にそって単位認定等が行われている。なお、各種資格取得に要する科目の単位認定は特に慎重に対応しているのが現状である。

2) コミュニケーション学科

コミュニケーション学科の特に専門科目については、講義形式でありながら実践的な技術を伴う科目も少なくない。語学系および情報機器操作を含む科目が多く存在する。語学系科目については、リスニング・スピーキングの場面において既存スキルの差が顕著であり、どうしても筆記試験で点数をフォローする、また、日本語があまり理解できない外国人講師による講義の場合、日本人講師も入ってティーチングスタイ

ルをとるなどして学生の理解向上に努めるよう努力している。情報系科目においては、3年前より高等学校の独立科目として「情報（A・B・C）」が導入されたことにより、平成18年入学生より一気に情報リテラシー・スキルが向上しており、すべての情報系科目において内容の見直しを図るための講師会議を開いている。例えば民間による検定試験の3級～2級レベルの内容を今までは想定してカリキュラムを組んでいたものを、2級～1級に引き上げるなどの対策を講じている。

3) 児童教育学科初等教育専攻

単位認定の方法では、ほとんどの講義の認定方法が筆記試験で、実技は実技試験であり、妥当な認定方法と思われる。単位の取得状況は、一部不可となっている科目もあるが、選択科目であるため卒業要件を満たしている。教員の評価の現状は、全般的に見て「優」の割合が高い。ただ、各教員の責任で厳密に採点した結果であるため問題はないと考える。

4) 児童教育学科幼児教育専攻

児童教育学科幼児教育専攻の単位認定方法は、講義科目に関しては基本的に筆記試験と出席率が主となり、付随してレポート提出等できめ細かく評価している。演習・実技科目については、作品提出、出席率・発表・活動実績、実技試験、レポート提出等でそれぞれの科目の目的にあった適切な評価方法がとられていると考える。

※ 幼児教育専攻は卒業後保育者として専門職に就く者の割合が多いことから、誠実に取り組む姿勢を培うため、単位認定に関しては出席率も重要視している。

単位の取得状況については、ほぼ9割の科目で本試験を受けた学生が単位を取得している。この取得状況は、教科担当教員の熱心な指導と学生が卒業や免許・資格取得に関して真剣に取り組んでいる結果であると考えられる。

担当教員による評価の現状は、優・良・可の比率から見ると科目によって大きな差が現われている。優の評価が9割近い科目から1割を切る科目もあり、内容の違いや担当者の教科目に対する捉え方と学生指導の取り組み方によって差が生じていると考えられる。評価は、科目担当者が責任を負うものであり、それぞれの担当者の裁量に信頼をおいている。

5) 人間福祉学科

人間福祉学科の単位認定の方法においては、筆記試験、レポート・課題、実技、出席状況関係等による評価であるが、どの認定の方法によるかは担当教員によって異なるが、基本的に各担当教員の責任において適切に行われていると思われる。

6) 専攻科福祉専攻

単位認定方法では、講義科目は筆記試験により、実技科目は実技試験やレポートと授業態度・出席状況などを考慮して総合的に評価されている。施設実習は施設での評価をもとに、施設間格差を是正して担当教員が評価しており、いずれも適正なる評価ができていると受け止めている。単位習得状況は、すべて本試験となっており再試験

の状況がわからない。評価の現状をみると、可が極めて少なく優の比率が高い。特に専門関連科目では1教科を除いてほとんど優である。学生の授業態度から高く評価されているが、卒業試験の結果から判断すると、標準より甘く評価されているものと思われる。

（評価項目2） 授業に対する学生の満足度について

（1）各授業について、終了後に「学生の満足度」の調査。

調査時期は平成16年度9月に、全学生532名（1年290名、2年242名）の学生による満足度調査を実施した。

各学科の、特徴が表れている項目を中心に考察する。ただし、専攻科の有効人数は少ないため除外する。4-1『所属する学科・専攻・コースについて』の「現在は所属する学科・コースの学習は、期待とおりにある」は「あてはまる」と「ややあてはまる」を合計すると、児童教育（76.4%）、人間福祉（73.5%）、食物栄養（58.7%）の順に満足度が高い。「就職・進学に有効だと思ってこの学科を選んだ」についても、食物栄養、児童教育、人間福祉は、「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計が60%を超えた。4-2『授業等について』「全般的に授業内容はよく理解できる」は「あまりあてはまらない」と「あてはまらない」の合計が食物栄養以外の学科が、40%以下であった。「現在よりもっと資格が取れるように科目を増やしてほしい」は「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計が高い学科の順に、コミュニケーション（63.8%）、人間福祉（45.6%）、児童教育（37.7%）、食物栄養（25.6%）であった。「自習室が必要である」は同じく「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計では、人間福祉（62.7%）、食物栄養（57.8%）、児童教育（50.9%）、コミュニケーション（46.8%）となった。ただ、食物栄養は「あてはまる」が31.2%と強く望んでいるのが特徴である。4-3『図書館について』「よく利用している」はどの学科も同傾向であるが、コミュニケーションだけが「あてはまらない」が19.1%と少ない。4-4『情報館について』「よく利用している」はコミュニケーションが「あてはまる」で46.8%とほぼ半分であるのに対し、人間福祉は「あてはまらない」が39.4%と利用度が低い結果であった。4-5『教員について』「質問・要望などを教員に話す機会が十分である」が「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計の順序は、食物栄養（56.0%）、コミュニケーション（48.9%）、人間福祉（48.6%）、児童教育（36.5%）であった。「授業以外にもっと教員に接したいと思う」は、同様に「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計では食物栄養（51.4%）、人間福祉（47.1%）、児童教育（46.3%）、コミュニケーション（40.4%）であった。「担任による助言・指導は適切である」は、同様に食物栄養（75.1%）、人間福祉（72.1%）、コミュニケーション（70.2%）、児童教育（60.0%）であった。4-6『施設設備について』「土足が解禁になって、便利になった」は、「あてはまる」が児童教育（74.6%）、人間福祉（60.3%）、食物栄養（59.3%）、コミュニケーション（54.3%）である。「実験・実習・演習の設備・器具は十分である」は、人間福祉の評価が高く（50.0%）、以下食物栄養（41.7%）、児童教育（26.5%）、

コミュニケーション（26.1%）である。4-7『総合的に判断して現在の学生生活に満足している』について全体的に見ると比較的高い評価である。以上の結果を受けて、全教員が全年度の反省を踏まえ自分の授業に対する学生の満足度が上がるよう配慮している。専任教員の間では、絶えず意見交換を行い、学生の授業への取り組みや満足度を上げるようにしている。

（2）担当教員が授業終了の学生の満足度に配慮しているかについて

1) 食物栄養学科

授業について全般的に授業内容を理解できていない学生が多い。十分に理解を深められるよう授業内容および方法を見直す必要がある。しかし栄養士実力試験（A, B, C判定中Bランク）の内容を理解出来るレベルの授業が必要と考える。

2) コミュニケーション学科

調査結果について、学科として緊急かつ誠実に取り組むべき課題は、次の4点が挙げられる。「学科の学習内容について」、「就職・進学に有利だと思ってこの学科を選んだ」、「もっと資格がとれるように、科目を増やして欲しい」、「総合的に現在の学生生活に満足している」。また、他に学生が自由に記述した事柄についても早急に改善すべき重要な課題がある。

3) 児童教育学科初等教育専攻

学習内容、就職、進学、資格等についての項目はいずれも満足度が高かったのに対して、教員についての項目はあまり満足度が高いとは言えない。今後は各教員が学生からの質問、要望を受ける時間をもっと増やすようにして学生とのコミュニケーションをさらに密にするよう心がけたい。

4) 児童教育学科幼児教育

幼児教育において、「学科・コースの学習内容は期待通りである」は満足度が高い。実践的教育に重点を置いている専攻の教育理念が学生に認知されていると言ってい

だろ。更に各教員が実践的教育に対する授業研究を推し進めることの必要性を確信した。また改善、検討しなければならない点は「質問・要望などを教員に話す機会が十分ある」「授業以外にもっと教員に接したいと思う」項目について、資格関係で120単位を取得しなければならない現状ではクラスアワーを設けることも困難である。解決策として、月に一回支援室の時間帯を使い対応するか、時間を決めて研究室を開放する方法を検討している。

5) 人間福祉学科

人間福祉学科の学生はどのような学習をするのかよく知っており、学習内容、資格

取得についても、比較的高い認識を持っている。「質問・要望など教員と話す機会が十分ある」では他学科と比べて多少教員との対話機会等が多い傾向にある。しかし、対人介護技術の習得という学科の特性から考えて、教員との対話の機会はさらに多く取られるべきで教員の側から学生への対話交流を促す手立てを講じる必要がある。

6) 専攻科

学科・専攻については、期待通りであると満足度が高い。授業に関してもほぼ満足していると思われる。クラブ活動について、入部している学生が少ないので比率では評価できない。クラブ活動には関心も期待も少ないが、これは専攻科の特色から止むを得ないことである。専攻科においては、総合的に概ね満足していると捉えられる。

(評価項目3) 退学、休学、留年等の状況について

(1) 過去3ヶ年(平成16年度～18年度)の退学、休学、留年等の数。

1) 食物栄養学科の退学者等一覧表を表9に示す。

食物栄養学科では、平成16年度入学生64名のうち5名(7.8%)、17年度入学生60名のうち2名(3.3%)、18年度入学生80名のうち1名(1.3%)の退学者を出した。休学者は、平成16年度1名、復学者1名、留年者0名である。17・18年度においては、現在まで休学・復学・留年者は0名である。

表IV-9 食物栄養学科の退学者等一覧表

(平成19年2月1日現在)

| | 16年度 | 17年度 | 18年度 | 備考 |
|------------|------|------|------|----|
| 入学者数 | 64 | 60 | 80 | |
| うち退学者数 | 5 | 2 | 1 | |
| うち休学者数 | 1 | | | |
| 休学者の内の復学者数 | 1 | | | |
| 留年者数 | 0 | | | |
| 卒業生数 | 59 | 58 | 79 | |

2) コミュニケーション学科の退学者等一覧表を表10に示す。

コミュニケーション学科では、平成16年度入学生24名のうち2名(8.3%)、17年度入学生39名のうち2名(5.1%)、18年度入学生31名のうち1名(3.2%)の退学者を出した。16～18年度において、現在まで休学・復学・留年者は0名である。

表IV-10 コミュニケーション学科の退学者等一覧表

(平成19年2月1日現在)

| | 16年度 | 17年度 | 18年度 | 備考 |
|------------|------|------|------|----|
| 入学者数 | 24 | 39 | 31 | |
| うち退学者数 | 2 | 2 | 1 | |
| うち休学者数 | 0 | 0 | | |
| 休学者の内の復学者数 | 0 | 0 | | |
| 留年者数 | 0 | 0 | | |
| 卒業生数 | 22 | 37 | 30 | |

3) 児童教育学科（初等教育専攻）の退学者等一覧表を表11に示す。

初等教育専攻では、平成16年度入学生41名のうち3名（7.3%）、17・18年度においては0名である。16～18年度において、現在まで休学・復学・留年者は0名である。

表IV-11 児童教育学科（初等教育専攻）の退学者等一覧表

(平成19年2月1日現在)

| | 16年度 | 17年度 | 18年度 | 備考 |
|------------|------|------|------|----|
| 入学者数 | 41 | 33 | 20 | |
| うち退学者数 | 3 | 0 | 1 | |
| うち休学者数 | 0 | 0 | | |
| 休学者の内の復学者数 | 0 | 0 | | |
| 留年者数 | 0 | 0 | | |
| 卒業生数 | 38 | 33 | 19 | |

4) 児童教育学科（幼児教育専攻）の退学者等一覧表について表12に示す。

幼児教育専攻では、平成16年度入学生157名のうち7名（4.5%）、17年度入学生153名のうち6名（3.9%）、18年度入学生150名のうち7名（4.7%）の退学者を出した。

平成16年度の休学者は2名、17年度の休学者は2名・18年度の休学者は1名である。16年度の復学者は1名である。17・18年度は、現在まで休学・復学・留年者は0名である。

表IV-12 児童教育学科（幼児教育専攻）の退学者等一覧表

(平成19年2月1日現在)

| | 16年度 | 17年度 | 18年度 | 備考 |
|------------|------|------|------|----|
| 入学者数 | 157 | 153 | 150 | |
| うち退学者数 | 7 | 6 | 7 | |
| うち休学者数 | 2 | 2 | 1 | |
| 休学者の内の復学者数 | 1 | 0 | | |
| 留年者数 | 0 | 0 | | |
| 卒業生数 | 150 | 147 | 143 | |

5) 人間福祉学科の退学者等一覧表を表13に示す。

人間福祉学科では、平成16年度入学生29名のうち7名（24.1%）、17年度入学生45名のうち6名（13.3%）、18年度入学生29名のうち1名（3.4%）の退学者を出した。

休学・留年者において、16年度の留年者1名、17年度の休学者1名である。

表IV-13 人間福祉学科の退学者等一覧表

(平成19年2月1日現在)

| | 16年度 | 17年度 | 18年度 | 備考 |
|------------|------|------|------|----|
| 入学者数 | 29 | 45 | 29 | |
| うち退学者数 | 7 | 6 | 1 | |
| うち休学者数 | 1 | 1 | | |
| 休学者の内の復学者数 | 0 | 0 | | |
| 留年者数 | 0 | 1 | | |
| 卒業生数 | 21 | 37 | 28 | |

6) 専攻科福祉専攻の退学者等一覧表を表14に示す。

専攻科福祉専攻では、平成17年度入学生9名のうち2名（22.2%）である。

表IV-14 専攻科福祉専攻の退学者等一覧表

(平成19年2月1日現在)

| | 16年度 | 17年度 | 18年度 | 備考 |
|------------|------|------|------|----|
| 入学者数 | 10 | 9 | 15 | |
| うち退学者数 | 0 | 2 | 0 | |
| うち休学者数 | 0 | 0 | 0 | |
| 休学者の内の復学者数 | 0 | 0 | 0 | |
| 留年者数 | 0 | 0 | 0 | |
| 卒業生数 | 10 | 7 | 15 | |

(2) 退学者の退学理由割合、退学理由の最近の傾向及び退学者、休学者（復学者を含む）及び留年者に対する指導（ケア）の現状について

退学、休学理由としては、全体として退学は、16年度に24名、17年度に18名、18年度は9名である。全学科とも理由は、体調不良、病気療養、学習意欲、金銭的等が挙げられ進路変更といったケースである。休学については、16年度は5名、17年度は4名、18年度は2名である。復学者は、17年度に3名である。留年者においては、16年度は0名、17年度は3名という結果である。

本学では、学科ごと1・2年生ともに担任制を採用している。退学希望のある学生

には、保護者及び学生本人との話し合いを行い、退学手続きをすぐには取らず、できるだけ退学をしないよう説得をする。やむを得ない場合は、保護者も納得のうえ退学させた。

休学者については、担任が継続して連絡をとり、できるだけ復学するように指導をしている。

留年については、17年度の留年者3名である。出席日数不足・試験、実習等の結果が不良によつての科目が多いという事由である。欠席による受験資格が得られない事由においては、各科目担当者による注意や相談を行っているが、それでも欠席が多い事例が跡を絶たない。留年する学生を皆無にするのはなかなか困難である。

(3) 退学、休学、留年等の現状について

1) 食物栄養学科

本学科の場合、やむを得ない事情での退学者がほとんどである。しかし、年々該当する学生が減少していることは、学生の目的意識向上が修学困難とされる諸条件を払拭している可能性も考えられる。今後とも教員がともに支えあって、退学などが出ないような支援を行っていく考えである。

2) コミュニケーション学科

他学科と比較して、決して退学者が少ない方とは言い切れない現状を重く受け止めている。最大の理由は、他学科のような「主たる目的意識」の欠如にあると考えている。例えば食物栄養学科における「栄養士免許」や、児童教育学科における「小免」「幼免」「保育士資格」等、国家試験レベル資格の取得という『専門職意思』に匹敵するモチベーションを今後どのように学生達にもたせ根付かせていくべきか、コミュニケーション学科として取組んでいかなければならない。

3) 児童教育学科初等教育専攻

初等教育専攻では、16年度は3名の退学者があつたが、17年度、18年度ともにゼロである。これは(1)本学が担任制度を設置し、担任が個別に学生指導をするため、学生は担任に相談しやすい雰囲気にあること、(2)担任以外の初等教育教員も学生の相談をうけることが多い(3)クラスにまとまりがあり、学生間の繋がりが密であること(4)初等教育の理念・目的にしたがって入学する学生が比較的多い、などの理由が考えられる。

4) 児童教育学科幼児教育専攻

幼児教育専攻の過去3年間の退学者と休学者の割合を見ると、退学者については3.7%~4.7%といずれも5%以内に止まっている。また休学者は1人ないし2人と最小人数で移行している。この数値については、各学年約150名と多くの在籍者を数える状況から見ると低い値と考える。しかも、保育者へのニーズが高まっている現代社会の現状から、幼稚園教諭免許証と保育士資格を取得すれば将来に憂いがないと漠然と考

進学する学生や、自らが進んで選んだ進路ではなく、親の意思によって幼児教育に進学した学生の割合が多くなっている現実から見ても、決して高い数値ではないと考えている。

さらに退学者や休学者の数値を低くするためには、目的意識を持たない学生に対して、保育に携わる魅力や意識を着実に伝え、保育者としての明確な将来像を喚起していく必要があると考える。

5) 人間福祉学科

人間福祉学科は、他学科と比較して退学率が高い。16年度に7名（24.1%）、17年度、6名（13.3%）の退学者があった。人間福祉学科は、介護福祉士の養成課程であるため資格取得が卒業要件になっている。このことは入学前に説明しており、入学してくる学生は、全員が将来介護職の現場で働きたいという目的意識をもって入学してくる。しかし、介護福祉士（介護実習等）の勉強を進めていく内、自分は介護職には向いていないと考え進路変更をする。これは自らの意思で退学しているので本人の意思を尊重して見守っていききたい。また、学業についていけなく単位が取得できない＝退学に繋がっている。これは学生の学力レベルの低下に原因があるように思われる。休学、留年においても同様な理由である。しかしこの現状を重く受け止め、人間福祉学科として、退学等に関して取組んでいかなければならないと考える。

6) 専攻科福祉専攻

専攻科の退学者は17年度に2名あった。将来、介護の現場で働きたいという強い意志を持って入学してくる学生ばかりではなく、幼児教育を目指していたものの進路に迷いを感じて介護福祉の道に進もうと進路変更してきた者もいる。退学した2名は、この迷いの中から専攻科を選択したのであるが、介護福祉士の勉強を進めていく内に、やはりこの道は自分に不向きだと思い始め、身が入らなくなっていき、無理をしようとして体調に異変が現れた。専攻科は介護福祉士の養成課程であるため、資格取得が修了要件になっている。短期大学は卒業しているので、学生本人は退学することに無念さを感じていないようであり、進路について真剣に考え、自分の進む道を見出せたのであれば、本人の意志を尊重し、見守っていききたいと思う。

18年度も保育関係に就職できなくて専攻科に入学してきた学生がいたが、介護福祉士の勉強にしっかり取組み、退学することなく全員修了できた。17年度との違いは、進学動機はどうであれ、心身ともに健康体であったことである。17年度に退学した学生は腰痛があったり、アレルギーがあるなど介護職には向かない身体だったため残念である。

（評価項目4） 資格取得の取り組みについて

1) 食物栄養学科

食物栄養学科では、①中学校教諭二種免許証②栄養士③フードサイエンティスト④

医療秘書実務士⑤学校図書館司書教諭の資格取得がある。資格取得状況は、表15に示す。

表IV-15 資格取得状況（食物栄養学科）

（平成19年2月現在）

| 卒年度 | 卒業者数 | 中学校教諭 二種 免許証（家 庭） | 栄養士 | フードサイエ ン ティスト | 医療秘書 実務士 | 学校図書 館 司書教諭 |
|-----|------|----------------------------|-----|---------------------|-------------|-------------------|
| 16 | 52 | 5 | 50 | 16 | 23 | 2 |
| 17 | 59 | 12 | 57 | 18 | 26 | 3 |
| 18 | 57 | 5 | 57 | 17 | 31 | 1 |

2) コミュニケーション学科

コミュニケーション学科では、①ビジネス事務士②情報処理士③司書資格がある。資格取得状況は、表16に示す。

表IV-16 資格取得状況（コミュニケーション学科）

（平成19年2月現在）

| 卒年度 | 卒業者数 | ビジネス 事務士 | 情報処理士 | 司書資格 |
|-----|------|-------------|-------|------|
| 16 | 25 | 22 | 20 | 9 |
| 17 | 22 | 20 | 21 | 5 |
| 18 | 37 | 30 | 27 | 10 |

3) 児童教育学科初等教育専攻

児童教育学科初等教育専攻では、①小学校教諭二種免許証②幼稚園教諭二種免許状③学校図書館司書教諭④ビジネス事務士⑤レクリエーション・インストラクターがある。資格取得状況は、表17に示す。

表IV-17 資格取得状況（児童教育学科初等教育専攻）

（平成19年2月現在）

| 卒年度 | 卒業者数 | 小学校教 諭二種免 許状 | 幼稚園 教諭 二種免 許状 | 学校図書 館 司書教諭 | ビジネ ス 事務士 | レクリエーション インストラクター |
|-----|------|--------------------|------------------------|-------------------|-----------------|----------------------|
| 16 | 40 | 38 | 28 | 20 | 8 | 10 |
| 17 | 38 | 38 | 31 | 11 | 13 | 17 |
| 18 | 33 | 32 | 29 | 15 | 13 | 14 |

4) 児童教育学科幼児教育専攻

児童教育学科幼児教育専攻では、①保育士資格②幼稚園教諭二種免許状③司書資格がある。資格取得状況は、表18に示す。

表IV-18 資格取得状況（児童教育学科幼児教育専攻）

(平成19年2月現在)

| 卒年度 | 卒業者数 | 保育士資格 | 幼稚園教諭二種免許状 | 司書資格 |
|-----|------|-------|------------|------|
| 16 | 116 | 115 | 112 | 46 |
| 17 | 149 | 145 | 142 | 48 |
| 18 | 147 | 136 | 138 | 51 |

5) 人間福祉学科

人間福祉学科では、取得可能な資格として、①介護福祉士②介護保険実務士③社会福祉主事がある。また18年度入学生において、園芸福祉士養成講座を履修科目に入れ初級園芸福祉士の受験資格が得られる講座を組み入れた。

資格取得状況は、表19に示す。

表IV-19 資格取得状況（人間福祉学科）

(平成19年2月現在)

| 卒年度 | 卒業者数 | 介護福祉士 | 介護保険実務士 | 社会福祉主事 |
|-----|------|-------|---------|--------|
| 16 | 41 | 41 | 41 | 41 |
| 17 | 21 | 21 | 21 | 21 |
| 18 | 37 | 37 | 26 | 37 |

6) 専攻科福祉専攻の資格取得状況は、表20に示す。

専攻科福祉専攻では、①介護福祉士②介護保険実務士がある。資格取得状況は、表IV4-6に示す。

表IV-20 資格取得状況（専攻科福祉専攻）

(平成19年2月現在)

| 卒年度 | 卒業者数 | 介護福祉士 | 介護保険実務士 |
|-----|------|-------|---------|
| 16 | 10 | 10 | 7 |
| 17 | 7 | 7 | 7 |
| 18 | 15 | 15 | 15 |

(1) 今後導入を検討している免許・資格。

特になし。

(評価項目5) 学生による卒業後の評価、卒業生に対する評価について

(1) 学科等ごとに専門就職(当該学科等で学習した分野に関連する就職)の状況。

平成17年度卒業生の専門職への就職の状況を表IV-21に示す。各学科において、取得した資格を活かし専門職への状況は、就職内定者245名の内、155名(63.3%)である。今回は平成17年度の結果であったが、今後は各年度の調査を行い多くの対象者を継続的に調査する内容に発展できるよう検討していきたい。

表IV-21 全学科の専門就職の状況

(平成17年度卒業生)

| 学科 | 在籍者数 | 就職希数(%) | 内定者数(%) | 栄養士(%) | 事務系(%) | 教育系(%) | 幼・保(%) | 介護士(%) | 進学(%) |
|----|------|---------------|---------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 全学 | 296 | 245 (82.8) | 238 (97.1) | 19 (36.5) | 14 (70.0) | 12 (38.9) | 97 (65.1) | 13 (86.7) | 32 (10.8) |

1) 食物栄養学科

平成17年度卒業生59名の就職状況は、栄養士(専門職)19名(36.5%)、一般企業30名(50.8%)、教育系2名(3.9%)、進学2名(3.4%)、家事等5名(8.5%)、未定者1名(1.7%)である。

2) コミュニケーション学科

平成17年度卒業生22名の就職状況は、一般企業17名(77.3%)、教育系1名(4.5%)、家事等2名(9.1%)、未定2名(9.1%)である。

3) 児童教育学科初等教育専攻

平成17年度卒業生38名の就職先の状況は、教育系12名(31.6%)、福祉系2名(5.3%)、一般企業15名(39.5%)、進学6名(15.8%)、家事等1名(2.6%)、未定2名(5.3%)である。

4) 児童教育学科幼児教育専攻

平成17年度卒業生149名の就職状況は、幼・保(専門職)100名(67.1%)、一般企業20名(13.4%)、進学19名(12.8%)、家事等9名(6.0%)、未定1名(0.7%)である。

5) 人間福祉学科

平成17年度卒業生21名の就職状況は、介護職13名(61.9%)、一般企業1名(4.8%)、進学者4名(19.0%)、家事等2名(9.5%)、未定1名(4.8%)である。

6) 専攻科福祉専攻

平成17年度卒業生7名の就職状況は、介護職6名（85.7%）、進学1名（14.3%）である。

（2）卒業生に対する就職先（専門就職に限らない）及びその他の進路先（編入先等）からの評価とその結果。

全体的に、就職課が中心となつての就職先（専門職に限らない）及びその他の進路先（編入先）への卒業生の追跡調査の実態はなく、今後取り組む予定である。

1) 食物栄養学科

本学科の専門職従事者比率（36.5%）は、全国平均比率（42%）に比し低い。しかし、本学科では複数の資格取得が可能であるので、これらを活かした就職者率は先の栄養士以外で教育系3.9%、医療系19.6%、食品系6.8%なおで、計67.2%に達する。元々事務職希望の学生も多い中、今回の数値は学科教育の特徴を反映できていると考えている。しかし、さらに多くの学生が栄養士など取得資格をいかした職域で就職できるようガイダンスなど学生の啓蒙をする必要性があると認識している。

ただ、地域差はあるが、栄養士という専門職の求人時期が遅いこと、管理栄養士養成施設卒業生の栄養士業務者数の増加など、現実には栄養士免許を活かす事が出来る場面が縮小化してきているので、今後の教育で某かの特化施策をかんがえることと同時に、求人先への積極的な広報の必要性を痛感している。

2) コミュニケーション学科

本学科は「退学、休学、留年の現状」の所でも述べたように、大目標（国家試験レベルの資格取得）が存在しない分、コミュニケーション学科では細かなオフィスワーク向けの民間検定試験を受験することができる科目が多く設定されている。いわゆる「OL志向」の学生がほとんどであるコミュニケーション学科においては、地元一般企業への就職に強い学科というイメージをカリキュラムにも反映し学生募集を強化してきた結果として、他学科に比べて圧倒的に高い一般企業への就職率（77.3%）を示現していると考えられる。

ここ2・3年のスパンで見てもコミュニケーション学科全体の就職率は他学科をうわまわっており、さらに言えば「オフキャンパスワークショップ（インターンシップ）」の導入で、地元企業への事前のアピールが功を奏しているのではないかと想像する。（これについては、今後、検証をしていく必要がある）

3) 児童教育学科初等教育専攻

初等教育専攻では、就職先、進路先からの具体的な評価資料がないため、一般的な記述はできないが、小学校や幼稚園で教員として能力を発揮している者、実業団のスポーツ関係で活躍している者、一般企業、進学で励んでいる者など、各方面からは、好意的に見られていると判断している。

4) 児童教育学科幼児教育専攻

毎年就職課と協力して次年度の求人依頼と卒業生の就業状況調査を兼ね、過去に採用された幼稚園や保育所を重点的に訪問している。訪問先での評価は概ね良好であり、また、勤務年数も長期に渡って継続している卒業生が多かったことから、専攻が掲げている目的人間像「自己教育の可能性を拓く保育者」育成の成果が現れつつあると考える。

5) 人間福祉学科

就職は個人的な事情により就職しなかった例外を除けば、ほぼ100%である。そして約88%が福祉関係に就職している。

就職先の評価については、正確な調査は行っていないが、福祉施設関係の職場に関してのみ現場（県内）への実習訪問の際、卒業生の評価は概ね良好である。その評価を元に教育内容やカリキュラムの検討にも僅かながら結果が反映されていると考える。

しかし専門外の就職・進学者への就職先への訪問等の調査はされてなく、今後は項目内容を検討して調査を実施する予定である。

6) 専攻科福祉専攻

就職先はほとんどが介護施設である。就職先での評価について、正確な調査は行っていないが、実習指導などでの訪問の際に伺った様子では、概ね良好であると受け止めている。ただ、施設によっては卒業生に対する苦情を寄せられる所もあり、実情を調べてみると、働いている現場に問題があるように思えた。一般的に介護の分野は労働環境としての問題点が多々あり、どのような所でも対応できるような、幅広い人間性を養っておくことも必要であると思われる。

現在は行っていないが、卒業生に対する調査を就職先で行い、身につけておくべき知識・技術・態度・感性について、養成教育の見直しをしていきたい。

（3）卒業生に対して「学生時代についてのアンケート（卒業後評価等）」等について。

現在において、卒業生との接触、同窓会等はあまり活発に行われていない。したがって卒業生との接触は限られており連携はあまり取られていない。しかし今後、本学の事務局と卒業生との連携を図れるよう努力していかなくてはならないと考える。

（4）卒業生が社会からどのように評価について。

就職先からの卒業生に対する評価は、「求人票定期採用があるかないか」、また、「充足的採用で本学からしか採用しない」等である。人物的には、明るく、素直で指導しやすいとよく聞く。編入先からの評価は、指定校推薦の枠がある案内がくるとか、

本学学科に関係なく全国から案内がくることで、卒業生の評価は把握できない状況である。しかし今後において、アンケート調査を就職先・編入先をお願いをし、卒業生の評価や問題等を本学の教育改善への材料としていかななくてはならないと考える。

1) 食物栄養学科

本学科の卒業生は、栄養の職域以外でも多くの卒業生が活躍している。これらの卒業生の評価は、種々多様であるものの概ね良好であると判断している。特に、専門職域では、リーダーとして活躍している者も多く、社会的評価は高いと認識している。しかし昨今では、栄養士の実務が調理師と大差ない事が多く、調理技術向上のための教育充実を望む声も聞こえている。

2) コミュニケーション学科

毎年、一部ではあるけれども、同じ製造業者からの求人があることを鑑みると、それなりの評価を受けていると卒業生達を評価したい。ただ、今後は、できるだけ広範にわたる就職先への追跡調査を実施することにより、詳細な評価を蓄積していった、さらなる人材育成のためのカリキュラム改革を念頭においていく必要がある。

3) 児童教育学科（初等教育専攻）

前述した項目と関連するが、学生は社会から期待されている。本専攻は、小学校教員養成機関であるため、社会的責任がある。そのため質のいい教員を育て、社会に送り出す大学として一層の努力が必要であると考えている。

4) 児童教育学科（幼児教育専攻）

開設以来長きに渡って多くの卒業生を保育業界等に送り出してきた歴史と伝統を誇っている。さらに、その中には幼稚園・保育所の施設長や主任を務める者も多く、本学卒業生は高い社会的評価を得ていると考える。

5) 人間福祉学科

最初の1期生を出して（平成14年3月）5年目である。まだ社会の評価を得るには時間を要する。しかし特別に福祉現場からの苦情等は何ら聞こえてこない。そして毎年、多くの福祉関係からの求人があることから見てそれなりの評価を受けていると考える。

6) 専攻科福祉専攻

専攻科福祉専攻では、卒業生の数がまだ30名不足のため、社会での評価というより認知がされていないのではないかと思われる。第1期生の中には、進学して社会福祉士の資格を取得し、福祉現場で活躍を始めている者がいるし、介護福祉士としての経験を年々積み重ねている者がいるので、社会において次第に認知され、良い評価が得られるようになるものと期待している。

◇ 特記事項について

(1) この《IV教育目標の達成度と教育の効果》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、教育目標の達成度と教育の効果について努力していることがあれば記述して下さい。

特記事項なし

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特記事項なし

V 学生支援

(評価項目1) 入学に関する支援が行われていること

(1) 入学志願者に対し、短期大学では建学の精神・教育理念や設置学科の教育目的・教育目標、求める学生像をどのような方法、手段で明示しているか。

入学案内TOKAIやホームページに記載している。

本学の入学案内は、教育目的・教育目標が学科ごとに明記されており、講義内容や学びのポイントの記載により、学生生活がどのように展開されるかがわかりやすい。キャンパスライフの年間スケジュールの記載や、カリキュラム、取得可能な資格と卒業生の活躍現場の様子の記載から、本学の求める学生像が高校生にイメージしやすくしてある。建学の精神は理事長・学長からのメッセージの中に謳われている。

本学のホームページの学園案内を開くと、先ず建学の精神が目にはいる。教育・研究・キャンパスライフ・将来の進路などを開いていくと、教育目的・教育目標がわかり、望ましい学生像などが浮かんでくるものと思われる。

改善点としては、入学案内において、建学の精神が最後のページの理事長・学長からのメッセージの中にしか現れていないので、冒頭に明示するように検討する。

(2) 入学志願者に対し、入学者選抜の方針、選抜方法（推薦、一般、AO選抜等）をどのような方法、手段で明示しているか。

入学志願者に対するの告知方法は多々考えられるが、本学としては以下のような方法を取り入れている。

① 募集要項（別冊参照）

入試種別毎に募集人数、選考方法等を詳細に記載。

② インターネット上のホームページ

大学紹介とともに入試についての説明を掲載。

③ 進路説明会（高校内外の進路ガイダンス）

各高校内で実施される進路説明会、あるいは校外で実施される進路ガイダンスに出来るだけ参加し、入学志願者に直接説明するように心がけている。

④ オープンキャンパス時の個別相談会

年5回のオープンキャンパスを計画実施し、その際に入試関係についての相談に対応している。

(3) 広報及び入試事務についての体制（組織等）、また入学志願者、受験生等からの問い合わせにはどのような体制で応じているか。

広報：主に事務部の渉外部渉外課の職員4人（常勤3人・非常勤1人）が中心となり、全教職員が広報活動に従事している。

教員は、出前講義、講演会、オープンカレッジ（公開授業）、オープンキャンパス（体験授業）、バス見学会、体験学習会などを担当し、渉外課職員は高校訪問、高校内外進路説明会、会場ガイダンス、オープンキャンパス、バス見学会などを企画運営している。

入試関連業務：学長を中心に全教職員が対応している。

入学試験に関する計画・立案は入試委員会が行っている。入試委員会の構成メンバーは学長、専攻科長、学科長、専攻主任・入試問題作成者、事務局長、事務局各部長と渉外部・教学部から選出された教職員である。入学試験は、入試実施要領に基づき、教員が試験監督・面接等の選抜業務を、渉外課職員が会場準備・受付等の業務に当たっている。可否の判定は入試委員会で原案を作成し、可否判定教授会にて決定し、可否通知を発送している。

渉外課は入試が円滑に実施されるように事前準備から当日の入試業務全般、事後の事務処理、可否通知、入学受付事務まで入試関連事務全てを行っている。

入学志願者からの問い合わせへの対応（体制）：志願者をはじめ保護者、高校等などからの問い合わせは全て渉外課にて対応している。かりに渉外課の者が対応できないときは他のものがその内容を聞き置き、後日渉外課の者が回答するという、入試の平等性という観点からこのようなシステムをとっている。なお、問い合わせの方法としてはフリーダイヤル、メール等などの方法も取り入れている。

（4）願書受付から可否通知にいたる入学試験の流れについて、選抜方法ごとにその概要を記述すること。また多様な選抜を公正かつ正確に実施しているか。

指定校推薦：本学が指定する高等学校で、校長の推薦を受けた受験生に対し、面接と書類審査により選考するものであるが、原則として全員合格とし、評定平均値が3.5以上の場合は「指定校推薦特別奨学生」として合格となる。

第1回推薦（A方式）：本学が定めた推薦基準に該当し、出身高等学校長が適当と認めて推薦した者に対し、面接で3段階評価をし、調査書を参考に可否を決める。

第1回推薦（B方式）・第2回推薦：本学が定めた推薦基準に該当し、出身高等学校長が適当と認めて推薦した者に対し、学科試験（国語総合）と面接試験を課し、調査書を参考に可否を決める。

専門学科等推薦（A方式）：専門教育を主とする学科もしくは総合学科を卒業し、各高等学校の推薦基準により、高等学校長が推薦した者に対し、面接試験と調査書で評価し可否を決める。評定平均値が3.5以上の場合は「専門学科等推薦特別奨学生」として合格となる。

専門学科等推薦（B方式）：専門教育を主とする学科もしくは総合学科を卒業し、各高等学校の推薦基準により、高等学校長が推薦した者に対し、面接試験と調査書をそれぞれ50点満点で点数化し可否を決める。

スポーツ推薦：本学が定めた推薦基準に該当し、出身高等学校長が適当と認めて推薦した者に対し、面接で3段階評価をし、調査書と推薦書（戦績）を参考に可否を決める。

スポーツ奨学生：スポーツにおいて全国大会もしくはそれに準ずる大会に出場し、高等学校のクラブ顧問の推薦を受けた者に対し、面接で3段階評価をし、調査書・スポーツ奨学生推薦書・スポーツ種目クラブ顧問推薦書を参考に合否を決める。

一般試験（Ⅰ期・Ⅱ期）：出願資格のある者に対し、学科試験（国語総合）を行い、その結果を重視し、調査書は参考にして合否を決める。学科試験の成績上位者を「一般試験特別奨学生」として合格とする。

社会人入試（A・B方式）：満23歳以上の受験生に対し、面接で3段階評価をし、履歴書・成績証明書・志望理由書を参考に合否を決める。

卒業生リカレント：本学および東海女子大学の卒業生で23歳未満の受験生に対し、面接で3段階評価をし、履歴書・成績証明書・志望理由書を参考に合否を決める。

専攻科：保育士養成施設を卒業し保育士資格を取得した者に対し、面接で3段階評価をし、履歴書・成績証明書を参考に合否を決める。

以上、入学者選抜については様々な選抜方法による試験を行い、多様な資質を持った者を評価できるようにしている。特に専門学科等推薦、スポーツ奨学生試験、および社会人入試等においては、面接試験を課して学力以外の多様な資質を評価し選抜している。なお特別奨学生制度は、成績優秀で向学心旺盛な者を奨学生として認定する制度で、2年間の授業料を半額免除するという学費の減免措置がある。

これら多様な入学者選抜試験を入試委員会作成の実施要領（資料参照）に基づき、全教職員の統一した意志の下に公正かつ正確に実施している。また、合否に関しては学内の申し合わせ（別紙一覧表「選考方法と評価について」参照）にそって適正に判定をしている。

- (5) 合格者もしくは入学手続き者に対し、入学までの間、授業や学生生活についてどのような方法、手段で情報の提供をおこなっているか。

入学一次手続き者に対し、2月下旬に「入学にあたって」の冊子を郵送している。これには入試に合格してから入学するまでの心構えと、入学式からガイダンスの日程・案内が記載されている。その他、学納金について、学生生活を迎えるにあたって、奨学金、提出書類、各種証明書の発行について等を記載し、新入生が夢を膨らませ、安心して入学できるよう配慮している。また、疑問点や不安なことがある場合は質問ができるよう質問票を用意し返信用封筒で送るよう指示している。提出された質問に対しては、それぞれの担当部署が電話にて回答をする仕組みになっている。食物栄養学科・幼児教育学科では資格取得についての案内等を同封し、電話相談日・Eメールを設けて学科で対応できるようにしている。

- (6) 入学後（入学直前を含む）、入学者に対して学業や学生生活のためのオリエンテーション等を行っているか。

入学式当日に担任がガイダンス資料を配付し、翌日から行われるガイダンスについての導入をすることにより学生の自覚を促すようにしている。ガイダンスは2日間の日程が組まれており、1日目は学科ごとに学科長の挨拶、学科教員の紹介のあと、専攻・コース別の教室に入り、担任を中心に関係教員から学生生活を始めるにあたって必要となる教務面・学生生活面の事柄について説明を受ける。2日目には健康診断・クラス写真撮影等を行う。このクラス写真は後日、学生も希望者は購入するが、教員が学生の名前を覚えるのに活用している。その他、悪徳商法の被害にあわないよう消費者センターからの講演を聴いたり、図書館の活用法説明や禁煙指導を受ける。また学生会活動に参加できるよう代議員や大学祭実行委員などの役員を決めたりもする。

スポーツ奨学生、奨学金受給生、アパート下宿生に対しては、該当者だけ特別のガイダンスを行い、心構えや注意事項の確認をしている。

（評価項目2） 学習支援が組織的に行われているか

（1）入学時もしくは学期ごとに学習や科目選択のためのガイダンス等が適切に行われているか。

入学時のガイダンスにおいて、学生便覧、SYLLABUS（授業計画）、開講・履修登録表、時間割表を配付し、担任が説明を行っている。

学生便覧には教務関係として、教務課程の説明・卒業要件・免許資格取得の要件並びに履修要項・履修方法・授業について・試験について・成績評価と単位認定・資格関連の実習について・免許資格の申請について記載されており、それをもとに説明している。

開講・履修登録表は2年間の履修科目の一覧である。各学科にはそれぞれ取得可能な資格が各種あるので、内容を説明し、資格取得の希望によって選択科目を決め開講・履修登録表に記入させる。これを本人と担任が1枚ずつ持つことになっており、学期ごとの単位修得などの指導に役立てている。実際の履修登録はマークシートにより学期毎に行っている。

1週間の時間割表には、教官名・教室番号とともに資格取得との関係から必修・選択の別が分かるようマークを付してあり、学期毎に配付している。

（2）学習や科目選択のための印刷物（学生便覧等を除く）が刊行されているか。

SYLLABUS（授業計画）はインターネットで公開しているので、ネット上で見ることができるが、冊子として印刷したものも年度始めのガイダンスにて配付している。シラバスには、講義概要、授業計画、成績評価方法、テキストの題名・著作名・出版社・価格などが記載されている。

資格取得のための教育実習や栄養士校外実習、保育実習、介護実習などについては、それぞれに実習の手引きを作成し、実習の目的・心得などを記載して対象学生に配付

している。

外部の協会認定資格については、協会が発行している通信を配付している。

(3) 基礎学力不足の学生に対し、補習授業等の学習支援に対する組織的な取組みに努めているか。

学習支援が必要な学生のために、学生ホールの一角に「学習支援室」を設置している。学習支援室では講義でわからなかったことの質問をはじめ、レポートの書き方や、就職筆記試験対策など、何でも相談が出来るようになっている。運営は協力を申し出た教員の都合により担当時間を決め、学習支援室で来室する学生を待つようにしている。平成17年・平成18年の支援室開室状況は下表のとおりである。

表V-1 学習支援室開室日程

| | | 月 | | 火 | | 水 | | 木 | | 金 | | | | |
|---------------|----|---|------|---|----|---|------------|---|-------------|--------------|-------|------|---|------|
| 平成 18 年 | 前期 | 3 | 生活科学 | 4 | 英語 | 3 | 国語一般 | 2 | 就職対策/ 理数 | 2 | 音楽療法 | | | |
| | | | 英語一般 | | | 4 | 栄養一般 | | | 3 | 介護・看護 | | | |
| | 後期 | | | | | 2 | 英語 | 1 | 音楽療法 | 3 | 理数 | | | |
| | | | | | | | | 2 | 国語一般 | 4 | 英語 | | | |
| 平成 17 年 | 前期 | 2 | 英会話 | 2 | 化学 | 放 | 健康・食 | 昼 | 2 | 介護・看護 | 4 | 英語 | | |
| | | 3 | 音楽 | 3 | 英語 | | | | | | | | 3 | 就職対策 |
| | | | 英語一般 | | | | | | | | | | 3 | 就職対策 |
| | 後期 | 3 | 英語 | 3 | 化学 | 3 | 音楽療法音 楽 | 昼 | 3 | 就職対策/ 小論文 | 2 | 就職対策 | | |
| | | 4 | | | | | | | | 3 | ピアノ | | | |

平成16年に開設された当初は支援室の存在そのものがあまり知られていなく、利用者ゼロの時間帯も少なくなかった。支援室は学生ホールの一角をパーティションで区切ったもので、透明のガラス張りの部屋なので落ち着かないし、中が殺風景で温かみがないなどの問題点が出た。

設置場所について検討したが、学生の目に付きやすく利用に便利な場所という条件では、7号館1階が相応しいということで現状のまま定着している。支援室の存在を学生に周知させるため、ガイダンスで設置目的を説明し、支援室担当者日程表を入り口ドアに掲示し利用しやすいようにしている。透明ガラスにレースの目隠しシートを張り、観葉植物を置き、パソコンや書物を設置することにより、幾分かは落ち着きのある室内空間になったものと思われる。

しかし授業でわからなかったことの質問などは、担当教員の研究室に随時行くほうが手取り早いため支援室を利用する学生が少なく、教員も支援室で利用者を待っているより研究室で担当学科の学生に対応するほうが指導能率が良いなどの理由で、支援室担当協力教員数も減少の傾向にある。支援室の運営については再検討の必要があ

る。

学科ごとの専門科目について基礎学力が不足する学生への支援は、それぞれ教科ごとに必要に応じて実施されている。食物栄養では、専任教員の指導日を示し個人指導を実施している。児童教育学科の音楽の指導では、個々の能力に合わせた個人指導の形態をとっており、遅れている学生には夏・冬・春の休暇中に補講を行っている。介護では実習先別に担当教員を決め、時間外に随時指導を受けられるよう配慮している。実習室も授業時間外の使用を認め、納得のいくまで練習ができるような体制をとっている。

(4) 学生の学習上の問題、悩み等に対し指導助言のための取り組みや体制が整備されているか。

クラス担任制をしいており、クラス担任業務のひとつとして、学習に関する指導と助言に当たることになっている。学科により指導時期は異なるが、学期毎に担任による個人面接を行っている。クラス担任による指導と助言が必ずしも有効に機能しない場合は、所属の学科長・専攻主任による指導と助言を受けさせることになっている。

学科としては、所属の教員による学科会議において、担任は学習上および生活上問題のある学生について状況を報告し、問題を共有しながら関係教員全員で対応に当るようにしている。

教員への相談が憚れる場合は、意見箱を利用することも出来る。授業に関する悩みの場合は、教務部長や学科長に伝え、必要に応じて学生本人の意見をさらに聞き対応している。

(5) 進度の早い学生や優秀学生に対する学習上の配慮や学習支援を行っているか。

TOEICやワープロ検定、パソコン検定、漢字検定などへの挑戦を勧めたり、救急救命士やメディカルクラーク等の資格が取得できるよう、その支援をしている。個人的に指導を求め、研究室を訪れる学生にはそれに応えている。

授業の理解度の高い学生には課題を追加するなどの配慮もしている。

(評価項目3) 学生生活支援体制が整備されていること

(1) 学生生活支援のための組織や体制（教員組織、事務組織のいずれも）が整備されているか。

学生の生活支援については主に教学部において行われており、学生課が学生生活全般にわたっての支援を、教務課が学業に関する支援を担当している。また、保健室・学生相談室を設けることにより、肉体的・精神的な健康に関する支援体制も整っている。さらに18年度からセクシュアル・ハラスメントに対応できるよう規定を設け、学生に

は自己防衛ハンドブックにて説明し、必要なときに活用できるような体制をとっている。

教職員の委員会組織として、学生の生活指導、学生生活上の相談、学生が快適に過ごせるよう学内環境を検討するなどのために、学生生活委員会を設けている。委員は各学科・専攻に所属する教職員からそれぞれ1名、教学部から選出された教職員と総務部・渉外部から各1名で構成されており、次の2つの担当部会に分かれ活動している。各担当部会では課題について計画をたて、委員会で審議・実践し、学生生活の支援をはかっている。

① 学生会担当部会

学生会行事として親睦会・大学祭・謝恩会があるが、これらを学生会執行部だけで自主的に進める事は困難であり、担当部会の委員が指導・助言を行っている。親睦会は年度始めに新入生歓迎会として前年度末に計画するもので、その計画にあたり代議員の相談にのっている。大学祭は学生会の一大行事であり大学祭実行委員会を中心に計画・運営されるものであるが、テーマの決定・予算案などの会合には担当部会の委員が参加し、見守りと必要に応じて助言を行っている。また各所属の催し物について進捗状態を把握し、各関係教職員に協力を求めたり、学生の相談にのったり、大学祭を盛り上げ成功させるために指導に当たっている。謝恩会についても会の進行・招待者の調整などの相談に当たっている。

② 生活指導担当部会

①の部会は学生会を陰で支えるように活動しているのに対し、②の部会は教職員が主体的に指導を行う形で、マナー講座・防犯講習の計画実施、学生からの要望受け付け・改善対策、学園環境の改善点検討、健康指導（禁煙指導）、学生寮関係などについて役割を分担し活動している。

マナー講座は平成14年度から開催しており、初年度は「魅力ある女性に」をテーマに、化粧法やヘアスタイリストの実演を行ったが、次年度から就職に役立つ講座ということで、就職課とタイアップし毎年7月に外部講師を招いて開催している。防犯講習は警察官による護身術の実施や悪徳商法の手口についての講演を聞かせている。

学生からの要望は意見箱に寄せられるので、出来るだけ早く回答を出し、委員会の都度、要望・回答の内容を報告して、学生のニーズを把握するとともに、問題点の在りかを認識する手立てとしている。内容によっては委員会で検討し、学科に持ち帰って検討したり、施設設備の改善が必要な場合は学園本部に伺いをあげるなどの対処をしている。

健康増進法が施行された平成17年から大学敷地内全面禁煙とし、禁煙指導を全学を上げて実施しているが、喫煙習慣のある学生が入学時に12%ほどいるため、保健室での禁煙指導とあわせて委員会では喫煙取締りのためのパトロールを行っている。最初は全学内を分担し吸殻を拾い集めることから始めた。拾った吸殻の数を集計し、喫煙者が集まりそうな場所を特定した。2年目からは委員が2～3人のグループになって喫煙者がいそうな場所だけを重点的にパトロールすることになっている。2年目の現在も非常階段で吸殻を見つけることが続いているが、初年度に比べると喫煙者の数はかなり減少している。

学生寮は学寮委員会が管理運営することになっており、学生生活委員長がその構成メンバーとなっているので委員会の開催時には出席している。担当部会としては問題のない限り関わることはないのが現状である。

(2) クラブ活動、学友会、学園行事（学園祭、短大祭等）が活発に行われ、その指導体制も確立しているか。

クラブ活動は併設の東海学院大学と合同で活躍しているものが多く、体育系9、文化系8のクラブ・同好会がある。それぞれに教員が顧問となり支援している。活動の状況は下表の通りである。

表V-2 平成18年度 クラブ活動状況一覧

(人)

| クラブ名 | 全部員数 | 短大生部員 | 活動日 | 活動場所 |
|------------|------|-------|------------------|-----------|
| バドミントン | 18 | 12 | 月～日（木除く） | 短大・四大体育館 |
| バレーボール | 17 | 11 | 火～日 | 短大・四大体育館 |
| ホッケー | 28 | 1 | 月～日（火除く） | ホッケーグラウンド |
| ソフトテニス | 24 | 6 | 火～日 | 短大テニスコート |
| ソフトボール | 25 | 7 | 火～日 | 大学グラウンド |
| 硬式テニス | 9 | 2 | 日～金 | 大学テニスコート |
| 剣道 | 9 | 6 | 月～土 | 体育館 |
| バスケット | 14 | 11 | 火・木16:30～18:00 | 体育館 |
| ワグナーフォーゲル | 10 | 5 | 水(週)・日(月1) | 部室・山岳地帯 |
| ユネスコ学生 | 13 | 13 | 水 | 部室 |
| みるクック | 14 | 14 | 月・金16:30～19:00 | 第2調理室 |
| 児童文化研究会 | 35 | 35 | 金 16:30～ | 531教室 |
| 着付け | 5 | 2 | 木 | 短大礼法室 |
| ブラスバンド | 12 | 3 | 月・水・金16:30～18:00 | 大学331教室 |
| 茶華道 | 7 | 7 | 月15:00～・16:30～ | 短大礼法室 |
| デジタルメディア研究 | 10 | 10 | 月 16:30～ | 情報館 |
| 国際交流 | 6 | 2 | 金 16:30～ | 222教室 |

活動には学生会・教育後援会からの助成金が支給され、特に体育系の競技スポーツクラブには教育後援会から各種機関への加盟・登録費、保険料を実費で全額支給し、全国大会・ブロック大会へ出場の場合は、参加費・交通費・宿泊費等、交付基準にあわせて助成している。その他のクラブ・同好会には、活動の活性化のためにクラブ奨励金が部員数に応じて支給されており、年度末には使途明細を報告することになっている。各種大会における活動結果は、その都度学生課に報告することになっており、学期末の教授会で活動報告をしている。また、試合結果や活動について新聞報道され

た場合は学内に掲示し、健闘を称えている。

学生会は学生会執行部・代議員会・大学祭実行委員会などの組織があり、学生会長を中心に活動している。学生会がより活発に活動できるように、学生生活委員会・学生課が支援している。担当教員は会長・委員長に影でのアドバイスを適確にし、出来るだけ学生主体の活動が出来るよう心がけている。学生会の大きな行事には年度初めの親睦会、大学祭がある。大学祭は大学祭実行委員会が中心となり、東女祭として委員会企画・各学科企画の多彩な催し物とクラス単位で出店する模擬店がある。毎年その年のテーマを掲げており、16年度は「たのしみん祭」、17年度は「粋」、18年度は「ビバ!! 東女」であった。学生の力を結集し、参加者みんなで楽しみながら学生生活の思い出を作る機会となっている。

学園行事としては東海芸術祭を毎年開催している。内容は下表の通りである。

表 V-3 東海芸術祭の内容

| 年度 | 内 容 | 会 場 | 経 費 |
|------|--------------------------------------|-------------------|---------|
| 18年度 | ファンタスティックコンサート 演劇「雨がやむまで待つんだそうです」 | サラマンカホール 東海講堂 | 690,600 |
| 17年度 | 黒坂黒太郎 コカリナコンサート 演劇 「パラレル」 | ぱ・る・る ホール 東海講堂 | 958,280 |
| 16年度 | 高島純 絵本原画展 絵本読み聞かせ | 図書館大ホール | 302,200 |

コンサート開催日は全学休講にして、全学生に参加を呼びかけた。18年度・16年度は本学教員の発表、17年度はプロの演奏者によるもので一部学生が手話で参加した。学園行事としてこのような場を提供することにより、普段身近に接している教員のすばらしい芸術性を新たに感じ取ったり、その道の第一線で活躍するプロの演奏を耳にする貴重な体験ができ教育効果を上げている。また16年度には、「心を育てる講演会」として、年度始めのガイダンス時に鈴木秀子氏の講演会を開催した。いずれも入場は無料で、経費は教育後援会からの助成金で賄っている。

(3) 学生の休息のための施設・空間、保健室、食堂、売店の設置等、学生のキャンパス・アメニティへの配慮は充分か。

休息空間としては学生ホールを7号館1階に設置している。7号館は最も使用頻度が高い教室棟で、バス停からも近く、利用に便利な場所である。お茶やコーヒーなど各種飲み物の自動販売機が5機設置されており、テレビも自由に見ることが出来るため、学生はここでくつろいだり、食事をとったりしている。授業の空き時間には、グループで実習の媒体作りやレポート作成などにも利用している。その他には第2事務局前のロビーにソファを設置し、休息空間として利用している。ここでは周囲が各

種の連絡や催し物の掲示板となっているので、学生生活の情報収集の場として学生が毎日一度は訪れる場所であり、時間にゆとりのあるときはソファに腰を下ろし、友人同士の語らいの場として利用している。

保健室は学生ホールに隣接する3号館1階にある。保健室には保健師1名が常駐し、ベッド3床と治療台が設置してあり、学生の怪我や体調不良の対応に当たっている。ベッドは18年度に新調し、布団・毛布類は17年度に更新してあり、シーツは洗濯替えの予備もあり、いつも快適な状態で用意されている。応接セットもあり、学生は病気のときだけでなく、いろいろな話をしに訪れている。保健室の奥には保健相談室を設け、プライバシーを護りながら精神的な相談にも応じている。また一昨年より禁煙指導を積極的に開始し、喫煙習慣のある学生に受講を呼びかけている。

食堂は5号館1階に設置している。学生寮の食事を賄う給食センターが委託で営業しており、学生食堂は午前11時頃から午後2時頃まで開かれている。メニューは390円の日替わりランチを始め、どんぶり物、麺類など、毎日数種の中から選択できるようになっている。またテイクアウトの弁当も販売している。食堂内の席数は220席、外のベンチ席24席の計244席を用意している。ここでは自宅からの弁当持参者も食堂のメニューを注文する友人と一緒に利用することができ、さらに持込のカップラーメン用のお湯もサービスされている。メニューの種類や味について、学生からの要望が出されれば調理師に伝え、対応できることはすぐに改善するようにしている。

売店は図書館の1階に購買部として、教科書・参考書・文房具などを販売している。授業で使用する教科書を扱っている本屋が営業しているため、営業時間は午前10時から午後4時までとなっている。

学生ホール・保健室・食堂については学生が各自のニーズに応じて適切に利用しており、ほぼ要求を満たしているのではないかと思われるが、改善を要するところもある。その一つは休養室で、現在ある休息空間は学生ホールであるが、騒々しいため、ブランクの時間に休養できるような静かな場所がないことである。もう一つは、購買部が不便な位置にあり、営業時間が短く、朝や放課後には閉まっているため、ほとんど利用できないことである。これは委託業者の営業成績との関係で改善は困難な現状である。

(4) 短期大学が設置する学生寮、宿舎・アパート等の宿舎の斡旋など、適切な支援は行われているか。また通学のための便宜（通学バスの運行、駐輪場・駐車場の設置等）は図られているか。

学生寮は一般学生対象の寮が2棟、収容人数82名、スポーツクラブ生対象が3棟、収容人数98名であり、併設の東海学院大学と共用している。食事は給食センターの委託で朝食・夕食を提供している。入寮率は平成16年度が88.9%、17年度92.8%、18年度97.2%と、年々上がっている。寮監が常時滞在し、健康管理をはじめ寮生の相談にのるなど、共同生活が円滑に進められるよう心がけている。各個室には鍵を取り付け、夜間は警備会社による警備がかかるよう、寮生活の安全性には特に配慮している。各

部屋・廊下に非常用懐中電灯を備え、平成18年度から非常食としてカンパン・飲料水など200食分を保管し、地震等の災害に備えている。

アパートについては、特に斡旋はしていないが、自転車・徒歩で通学できる近隣の入居可能な女性専用の物件を冊子にまとめ「下宿案内」として紹介している。冊子記載の内容について、年に一度大家に問い合わせを行い、情報交換をしている。

本学は路線バスの便がよい場所に立地しているので、以前は公共交通機関を利用すると遠回りになってしまう地域にだけスクールバスを運行していた。それが那加・犬山線と美濃加茂線の2路線で、登下校時間に運行してきた。学生サービスを検討している中で、平成15年に名鉄美濃町線の廃止案が発表されたことにより、学生から岐阜市内のスクールバス運行を望む声が多数聞こえた。そこで通学方法などの調査を重ね、平成16年度より岐阜駅・徹明町方面スクールバスの運行を始めた。朝の通学時は5～10分おきの4本と途中の時間帯を含み往路6本、下校時は3～5分おきの4本と途中の時間帯を含み復路7本運行している。便利になったという声とともに、もっと増便して欲しいとの要望は後を絶たない。平成17年4月から名鉄美濃町線と同様に名鉄揖斐線も廃止になっているので、揖斐・池田方面の学生のために、平成18年度より池田・北方方面スクールバスを運行することになった。さらに平成19年度からは多治見線も新設することになり、5路線となって、1日21便が運行されることになる。

自家用車で通学する学生のために、176台収容できる学生駐車場を大学正面に完備している。利用学生には学生駐車場利用許可証を発行し、任意保険加入の必要性を指導している。自転車通学者は自動車が出入りしない東門を利用するようにしており、東門近くに屋根つきの駐輪場を設置している。所定の場所以外での駐輪を禁止し、事故防止と学内活動の妨げにならないよう配慮している。

交通事故対策として、16年度・17年度版の自己防衛ハンドブックの「マナーと安全編」に、1. 事故を起こさない・事故に遭わないために、2. 万一事故を起こしたら、3. 事例と岐阜県交通事故相談所の連絡先を記載していたが、18年度版の改定により記載されていない。交通事故予防については啓蒙ポスターやガイダンスなどで指導を強化する必要がある。

(5) 奨学金等、学生への経済的支援のための制度は用意されているか。

学外の奨学金制度については、日本学生支援機構奨学金をはじめ、あしなが奨学金、交通遺児育英会奨学金、岐阜県選奨生奨学金などがあり、各団体（県教育委員会、財団法人等）からの募集にもとづき、掲示にて紹介しているが、平成18年度の受給は、日本学生支援機構と富山市教育委員会からだけであった。

日本学生支援機構の奨学金の種類には、無利子で定額の第一種奨学金と、有利子で貸与金額が選択できる第二種奨学金があり、貸与人数は次表のとおりである。

表 V-4 平成18年度 日本学生支援機構等奨学金 取得状況

(人)

| | 第1種奨学金 | 第二種奨学金 | | | | | ※ その他 | 合計 | |
|-----|--------|--------|----|----|----|----|----------|----|----|
| | | 10万 | 8万 | 5万 | 3万 | 計 | | | |
| 1年生 | 21 | 5 | 6 | 16 | 5 | 32 | 1 | 54 | |
| 2年生 | 20 | 6 | 5 | 5 | 2 | 18 | | 38 | |
| 計 | 41 | 50 | | | | | | 1 | 92 |

入学時において貸与月額の初回振込み時に30万円増額して貸与（有利子貸与）できる入学時特別増額貸与奨学金を受給する学生が13人あり、例年に比べ非常に多かった。貸与希望で不採用になった学生が1名あったが、地方の奨学金貸与*で採用された。18年度入学生310人のうち奨学生は54人で、全体に占める割合は17.4%である。

平成16年度より、期間保証制度（一定保証料金を支払うことにより、連帯保証人に代わって保証機関の保証を受けることができる制度）ができ、貸与申し込みがしやすくなったことや、家計支持者のリストラ・失業・転職などの理由による収入の減少や臨時収入（ボーナス）削減などのため、奨学金を受けることで家計を助けたいとの考えから、奨学金をうける学生が増えている。

本学独自の奨学金制度はないが、学生への経済的支援として、入試区分の奨学生制度による学費減免がある。これには特別奨学生制度として成績優秀で向学心旺盛な学生は授業料を半額免除するものと、スポーツ奨学生制度として学業・人物ともに優秀で、かつスポーツにおいて抜群の戦績を修め、入学後も活躍が期待できるものはそのランクに応じ授業料および教育充実費等が全額あるいは半額免除になるものがある。

(6) 学生の健康管理、メンタルケアやカウンセリングの体制は整っているか。

健康管理については、保健室勤務の保健師1名が中心となり、看護師有資格の教員のアドバイスを受けながら担っている。健康診断は1・2年生とも学年始めのガイダンス日程の中で、全員が受診するようにしている。検査内容は、身長・体重・視力・尿検査・血液検査・胸部X線検査・心電図検査・内科検診などで、外部の総合保健センターに依頼している。当日欠席した学生は、校医にて受診するよう指導しているので、100%の受診率である。検査の結果、再検査を要すると判定されたものに対しては、医療機関において精密検査を受けるよう指導している。診断の結果は、学生健康カードに記録し、保健室にて保存されている。

メンタルケアやカウンセリングは学生相談室が中心となって行っている。学生相談室は7号館8階の奥まった場所に位置し、学生の出入りも少なく静かで落ち着きのある空間を用意している。スタッフは心理系教員3名が週3回（月・火・木曜日）、当番制でカウンセリングを担当しているが、緊急を要するケースについては担当教員の研究室で相談に応じている。相談対象は問題のある一部の特別な学生が利用する所とい

うことではなく、教育的視点を尊重し、全ての学生を対象として、学生の様々な悩みに応じていくということを基本として活動している。学生の来談者延べ人数は平成16年度が120名、17年度が122名とほぼ横ばい状態である。相談内容は、修学上の事柄、対人関係、進路、家庭の問題、経済的な悩み、インターネット上のトラブル、性格や心理的な問題など広範囲にわたっている。相談内容によっては、情報の提供や指示的な助言を行って、1回から2回で済む面接もあれば、共感的に理解し、受容的な態度で真剣に話し合いを継続するケースまでさまざまであるが、長期的カウンセリングを求められる相談事例が多い。特に最近の傾向として、摂食障害やうつ傾向、対人不安を訴える学生の相談が目立つようになった。医学的な対応が必要と認められた場合は、校医を紹介し治療を受けさせるとともに、保健室と連携を保ちながら当該学生の心理的サポートに務めている。

広報活動として、学生便覧ならびに学内掲示によって広く相談室の存在を周知させるとともに、講義を通して積極的な呼びかけを行っている。今後の課題として、潜在的な悩みを抱えながらも相談室に来室できない学生への対応があげられる。幸いに本学はクラス担任制をしいているので、担任による個別指導の充実を図るとともに、相談室を担任との密接な連携の下に、当該学生のメンタルケアを行うことが必要であると思われる。

(7) 学生支援のために学生個々の情報等を記録しているか。またそれらの記録は適切に保管・保護されているか。

学生個々の記録としては、学生身上書・学籍簿・学生健康管理カード・進路（就職）登録カードなどがある。

学生身上書は入学時に本人が提出したもので、氏名・生年月日・出身校・本籍地・学生住所・保護者住所・緊急連絡先・家族状況・高校時代の活動クラブ・性格・通学状況が記載されている。在学中は総務部で保管管理されており、記載事項の変更などは総務部で対応している。卒業後は資料室に移し、施錠の上、永久保存している。

学籍簿は学生の取得単位・成績がコンピュータに入力保存され、教務課が管理している。部外者が操作できない教務システムに保存されているので、証明書発行などは決まった手続きにより担当部署で発行している。

学生健康管理カードは、健康診断の結果を記入し保健室で保管している。検査で異常が認められた学生の健康指導はこのカードをもとに実施される。検査機関から検査データの一覧表がフロッピーディスクで学生課に届けられているので、健康診断証明書はこれによって発行している。

進路（就職）登録カードは就職課が作成し、希望に応じた就職ができるよう就職活動の支援に役立てている。

学生個々の情報はこのようにそれぞれ担当する部署で別々に保管されており、トータルデータにはなっていないので今後検討する必要がある。

(評価項目4) 進路支援が行われておること

(1) 過去3ヵ年(平成16年度～18年度)の就職状況を学科等ごとに記載すること。

表V-5 平成16年度～18年度 食物栄養学科の進路状況表

(平成19年1月31日現在)

| | 16年度 | 17年度 | 18年度 |
|---------------------|--------------|--------------|---------|
| a 卒業者数 | 52 人 | 59 人 | 57 人 |
| b 就職希望者数 b/a | 48人 92.3 (%) | 52人 88.1 (%) | 55人 (%) |
| c うち学校で斡旋した就職者数 c/b | 36人 75.0 (%) | 31 59.6 (%) | 人 (%) |
| d うち自己開拓分の就職者数 d/b | 12人 25.0 (%) | 21 40.4 (%) | 人 (%) |
| e 就職未定者 e/b | 人 (%) | 人 (%) | 人 (%) |
| f 進学・留学希望者数 f/a | 1人 1.9 (%) | 2人 3.4 (%) | 人 (%) |
| g 進学・留学者 g/f | 1人 100 (%) | 2人 100 (%) | 人 (%) |
| h 進学・留学準備中 h/f | 人 (%) | 人 (%) | 人 (%) |
| i その他進路決定者 i/a | 人 (%) | 1人 1.7 (%) | 人 (%) |
| j 不明・無業者数 j/a | 3人 5.8 (%) | 4人 6.8 (%) | 人 (%) |

表Vb-6 平成16年度～18年度 コミュニケーション学科の進路状況表

(平成19年1月31日現在)

| | 16年度 | 17年度 | 18年度 |
|---------------------|--------------|--------------|--------------|
| a 卒業者数 | 25 人 | 22 人 | 37 人 |
| b 就職希望者数 b/a | 24人 96.0 (%) | 20人 90.9 (%) | 33人 89.2 (%) |
| c うち学校で斡旋した就職者数 c/b | 15人 62.5 (%) | 17人 85.0 (%) | 人 (%) |
| d うち自己開拓分の就職者数 d/b | 9人 37.5 (%) | 3人 15.0 (%) | 人 (%) |
| e 就職未定者 e/b | 人 (%) | 人 (%) | 人 (%) |
| f 進学・留学希望者数 f/a | 1人 4.0 (%) | 人 (%) | 3人 8.2 (%) |
| g 進学・留学者 g/f | 人 (%) | 人 (%) | 人 (%) |
| h 進学・留学準備中 h/f | 1人 100 (%) | 人 (%) | 人 (%) |
| i その他進路決定者 i/a | 人 (%) | 人 (%) | 人 (%) |
| j 不明・無業者数 j/a | 人 (%) | 2人 9.1 (%) | 1人 2.7 (%) |

表 V-7 平成 16 年度～18 年度 児童教育学科の進路状況表

(平成 19 年 1 月 31 日現在)

| | 16 年度 | 17 年度 | 18 年度 |
|---------------------|----------------|---------------|---------------|
| a 卒業者数 | 156 人 | 187 人 | 180 人 |
| b 就職希望者数 b/a | 139 人 89.1 (%) | 152 人 81.3(%) | 152 人 84.4(%) |
| c うち学校で斡旋した就職者数 c/b | 106 人 76.3 (%) | 117 人 77.0(%) | 人 (%) |
| d うち自己開拓分の就職者数 d/b | 33 人 23.7(%) | 35 人 23.0(%) | 人 (%) |
| e 就職未定者 e/b | 人 (%) | 人 (%) | 人 (%) |
| f 進学・留学希望者数 f/a | 13 人 8.3 (%) | 25 人 13.4 (%) | 18 人 10.0 (%) |
| g 進学・留学者 g/f | 人 (%) | 人 (%) | 人 (%) |
| h 進学・留学準備中 h/f | 人 (%) | 人 (%) | 人 (%) |
| i その他進路決定者 i/a | 人 (%) | 人 (%) | 6 人 3.3 (%) |
| j 不明・無業者数 j/a | 4 人 2.6 (%) | 10 人 5.3 (%) | 人 (%) |

表 V-8 平成 16 年度～18 年度 人間福祉学科の進路状況表

(平成 19 年 1 月 31 日現在)

| | 16 年度 | 17 年度 | 18 年度 |
|---------------------|---------------|--------------|--------------|
| a 卒業者数 | 41 人 | 21 人 | 40 人 |
| b 就職希望者数 b/a | 36 人 87.8(%) | 15 人 71.4(%) | 35 人 87.5(%) |
| c うち学校で斡旋した就職者数 c/b | 28 人 77.8 (%) | 15 人 100(%) | 人 (%) |
| d うち自己開拓分の就職者数 d/b | 8 人 22.2 (%) | 人 (%) | 人 (%) |
| e 就職未定者 e/b | 人 (%) | 人 (%) | 人 (%) |
| f 進学・留学希望者数 f/a | 3 人 7.3 (%) | 4 人 19.0(%) | 2 人 5.0 (%) |
| g 進学・留学者 g/f | 人 (%) | 人 (%) | 人 (%) |
| h 進学・留学準備中 h/f | 人 (%) | 人 (%) | 人 (%) |
| i その他進路決定者 i/a | 1 人 (%) | 人 (%) | 1 人 2.5 (%) |
| j 不明・無業者数 j/a | 1 人 2.4 (%) | 2 人 9.5 (%) | 人 (%) |

表 V-9 平成 16 年度～18 年度 専攻科福祉専攻の進路状況表

(平成 19 年 1 月 31 日現在)

| | 16 年度 | 17 年度 | 18 年度 |
|---------------------|--------------|--------------|----------------|
| a 卒業者数 | 10 人 | 7 人 | 15 人 |
| b 就職希望者数 b/a | 6 人 60.0 (%) | 6 人 85.7 (%) | 15 人 100.0 (%) |
| c うち学校で斡旋した就職者数 c/b | 4 人 66.7 (%) | 5 人 83.3 (%) | 8 人 53.3 (%) |
| d うち自己開拓分の就職者数 d/b | 2 人 33.3 (%) | 1 人 16.7(%) | 人 (%) |
| e 就職未定者 e/b | 人 (%) | 人 (%) | 人 (%) |
| f 進学・留学希望者数 f/a | 3 人 30.0(%) | 1 人 14.3(%) | 人 (%) |
| g 進学・留学者 g/f | 3 人 100 (%) | 1 人 100.(%) | 人 (%) |
| h 進学・留学準備中 h/f | 人 (%) | 人 (%) | 人 (%) |
| i その他進路決定者 i/a | 1 人 10.0(%) | 人 (%) | 人 (%) |
| j 不明・無業者数 j/a | 人 (%) | 人 (%) | 人 (%) |

(2) 学生の就職を支援する組織や体制（教員組織、事務組織のいずれも）が整備され適切に活動しているか。

事務組織として就職課があり、就職課職員 3 名（兼務教員 1 名、事務職員 1 名、非常勤職員 1 名）が配置されている。就職課では就職の手引きを時の情勢にあうよう毎年作成している。また就職ガイダンス等を企画運営し、クラス担任が協力する形で支援を行っている。

就職ガイダンスは、就職するにあたって必要とする知識、心構えを養うもので、12 月、4 月、7 月に実施している。準備期・活動期の時期に合わせた内容で、学科または専攻別に開催している。就職希望調査を行い、それに基づいて就職個人面談を順次行っている。

(3) 就職支援室、就職資料室等が完備され、学生に必要な就職情報等が提供できているか。

就職支援室としては、7 号館 1 階の就職課事務室と同フロアーに位置する就職資料室がある。就職課においては、他事務局と異なり昼休憩時間中も窓口を開放し、いつでも相談等に応じる体制を整えている。また、全面ガラス張りになっているので、近親間が持てる環境ではないかと思われる。就職資料室には過去 5 年分の求人票を業種別・県別にファイルし、わかりやすく配架して、自由に閲覧できるよう開放している。

就職情報等は、全学生に公平・平等を原則に掲示にて提供している。就職手引きには、就職指導について、就職に際してのポイント、就職活動の手順等を記載し、全員に配付し常用させている。

(4) 過去3カ年（平成16年度～18年度）の就職状況について、就職率及び就職先を学科長等はどのように受け止めているか。

食物栄養学科の17年度の状況は、大学斡旋の就職者が前年度の15%減、逆に自己開拓者が15%増となった。この傾向は、当該学科に対する社会的認知度および評価に問題があるのではないかと危惧する。これは、学科の存亡に関わる重要課題と認識し、今後就職課との連携を含め、力を入れた取り組みの必要性を痛感する。しかし、学生の自己開拓率が他学科に比し極めて高いことを考えると、本学科の学生は自らの進路を自らの意志と努力で切り開いていこうとする積極性と資質を有する優秀な人材が多いと考えられる。この姿勢は、実社会で高く評価されると考える。

コミュニケーション学科は、オフィスワーク（ビジネス実務・PCスキル等）に主眼をおいたカリキュラム構成を確立しており、また、ほとんどの学生の就職先が事務職であることもあいまって、16年度および17年度は4学科中トップに位置している。18年度についても、1月31日現在の数値を適用しているため最終的な判断はできないが、上位にランクされることはまちがいないと思われる。したがって、もともと対外的にも就職率が高いと評価される本学において、上記の実績を残しているコミュニケーション学科については、就職率において問題はないとあってよかろう。就職先については、先に述べたように、もともとコミュニケーション学科は学生の就職先傾向にかんがみ、実践的なオフィスワークに対応したカリキュラム構成にシフトしてきており、事務職系統に就くケースがやはり圧倒的に多い。それにつぐのは販売系であるが、実人数にして毎年3人前後である。18年度も最終的にはそれに準ずる数値になると予想している。その他に分類されている、どちらかといえば特異な就職先として、16年度は、記念公園運営スタッフ、小学校保健相談員、市立中央図書館司書。17年度は、機械製造会社設計アシスタント、教育系インストラクター。18年度は防衛省航空自衛隊等があげられる。今後のコミュニケーション学科の取り組みとしては、主な就職先での学科卒業生の意見聴取（追跡調査）を実施し、現行カリキュラムのさらなる現場対応を図っていくことを考えている。

児童教育学科の平成16年度～平成18年度の就職状況を見ると、近年の厳しい求人状況にも拘らず、3年間通じて何れも80%を越し、短期大学としては高い就職率を示していると考えられる。さらに、就職先も児童教育学科の専門性を生かし幼稚園、保育所、福祉施設、小学校等の専門職に就職希望者の90%以上の学生が就いている。専門性と就職が一致する点では、医師・看護師に次ぐものがあると自負している。また、全国平均より高い就職率は、就職課とクラス担任が一体となって学生の就職活動を支援していることと、社会にとって有為な人材を育てることに力を注いでいる成果と捉えている。

人間福祉学科の就職状況に関しては、就職活動において、就職課と担任教員が個人

面談等を行い、学生への進路支援に当たっている。進路状況表において16年度の就職希望者は約88%、17年度は71%、18年度は88%の者が専門職（介護職）に就職している。一般の就職希望は少なく、卒業までに大部分が内定している。これは入学時より専門職に就く希望が明確になっているため就職率は高い。また、約9%の者が毎年、四年制大学に進学している。社会福祉士の資格も取得したい傾向もある。その他就職者、不明・無業者において約5%の者がいる。フリーター志向や就職を希望しない学生も徐々に増加している傾向もある。学科としては、就職ガイダンスや講演会で得た知識・技術を学生にしっかりと身につけさせ、1年次から就職活動に効果的に活かせるように随時就職活動への意識や実践をフォローし、成果に結びつけるよう努力する必要がある。

専攻科は社会人入学生が多い年度と新卒生だけの年度とでは、就職状況が大きく異なる。社会人入学生は向上心が強く、進学して社会福祉士の資格取得を目指したり、さらに深く福祉の勉強をしたいとする学生が多い。新卒生は福祉の道に進む者もいるが、保育士と介護福祉士の資格を活かして保育現場に就職する者が多い。いずれにしても専門分野に就職する率が高いので、取得した資格が十分に活かされていると思う。

(5) 過去3ヵ年（平成16年度～18年度）の進学（4年制大学、専門学校等）および海外留学の実績について、その支援はどのような方法、体制で行ったか。

四年制大学・専攻科・専門学校等への進学について、募集要項が届いているものに関しては就職課掲示板にて情報を提供している。推薦書が必要な場合は、担任が推薦状を作成している。本学併設の四年制大学への編入学については学内で説明会を行い、進学を促している。専攻科についても教職員からの説明のほか、専攻科生自身による体験談を聞かせるなど進学への関心を持たせるよう積極的に働きかけている。その結果進学者は、16年度20人(7.0%)、17年度32人(10.8%)、18年度22人(6.7%)が進学している。

在学中の留学については留学生委員会を設置し、イギリス姉妹校への春・夏・冬の3ヶ月留学、7週間研修、ヨーロッパ研修旅行について参加者を募り、再三説明会を実施して、安心して留学が出来るよう支援をしている。卒業後の海外留学については、ポスター掲示をする程度である。

表V-10 平成16年度～18年度 進学・留学状況表

| | 16年度 | 17年度 | 18年度 |
|--------|------|------|------|
| 進学者数 | 20 | 32 | 23 |
| 四年制大学 | 12 | 12 | 13 |
| 短期大学 | 1 | | 1 |
| 専攻科 | 5 | 15 | 7 |
| 専門学校 | 2 | 5 | 2 |
| 海外留学者数 | 0 | 0 | 0 |

(評価項目5) 多様な学生に対する特別な支援が行われていること

(1) 過去3ヵ年(平成16年度～18年度)の留学生・社会人・帰国子女・障害者・長期履修学生の受け入れ状況を示し、その学習支援、生活支援はそれぞれどのような方法・体制で行っているかを記述すること。

なお、学生数はいずれの年度も5月1日時点とする。

表V-11 多様な学生の受け入れ状況(平成16年度～18年度)

| | 16年度 | 17年度 | 18年度 | 計 |
|---------------|------|------|------|----|
| 留学生 (人) | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 社会人 (人) | 11 | 9 | 10 | 20 |
| 帰国子女 (人) | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 障害者 (人) | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 長期履修学生 (人) | 0 | 0 | 0 | 0 |

本学で定める社会人とは、入学年度の4月1日現在満23歳以上であることと定義している。入試の段階で社会人試験の入試区分があり、社会人入学の学生は、授業料・教育充実費・施設設備費を2年間半額免除するという制度で経済的支援を行っている。社会人入学の学生は向学心が高く、研究室へ質問に来ることが多いので、必要に応じ個人指導を行っている。

留学生については、平成13年度に中国からの留学生を、学生生活面・経済面での支援を行ったが、以後受け入れていない。希望者があれば受け入れは可能である。受け入れに関する事項は留学生委員会で検討することになっている。

障害者対応として車椅子対応のトイレ、玄関フロアの段差をなくすなどのバリアフリー化を取り入れつつあるが、視覚障害者の対応はできていなく、受け入れられない状況である。

【特記事項について】

(1) この《V学生支援》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば成績不良者への支援、長期欠席者への援助、学生に対する表彰制度等、学生支援について努力していることがあるか。

① 就職のための資格取得、就職試験対策

就職のための資格としては、ワープロ検定と自動車運転免許が有力である。全ての

学科のカリキュラムに情報処理に関する科目を設置し、ワープロ検定試験は学内で受験できるようにしている。検定は実力に合わせて受験させ、少なくとも3級以上合格を単位認定条件とし、上級合格を目指し支援している。自動車運転免許については、自動車学校入学相談・受付を毎週2日、昼休み時間に提携自動車学校により実施してもらい、自動車学校の送迎バスは学内に乗り入れられるなど、便宜を図っている。その他、漢字検定、秘書検定、メディカルマークの受験も学内で実施している。各学科においては専門分野の資格が取得できるカリキュラムを用意している。

2年生学年始めのガイダンスに就職対策講座を組み込み、2年生が一堂に集まって就職専門業者リクルートの講演を聴き、就職に対する意識を高めるとともに、最新の情報を得る機会を設けている。さらにここでは適性検査を実施したり、就職活動に欠かせない履歴書の書き方の説明も行っている。また、就職のためのマナー講座を外部より講師を招いて実施している。

特設就職対策講座は希望者を募り、5限目に開講している。平成16年度までは前期は2年生対象、後期は1年生対象に開講していたが、17・18年度は就職活動時期が早まっている関係から、1・2年生対象に前期のみの開講となっている。18年度の就職対策講座日程は下表のとおりである。

表V-12 就職対策講座日程

| 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|---------|-------|-------|-------|-------|
| 7月10日 | 7月11日 | 7月12日 | 7月13日 | 7月14日 |
| 数的・判断推理 | 適性検査 | 自然分野Ⅰ | 人文分野Ⅰ | |
| 7月17日 | 7月18日 | 7月19日 | 7月20日 | 7月21日 |
| | 社会分野Ⅰ | 社会分野Ⅱ | 自然分野Ⅱ | 人文分野Ⅱ |

② 意見箱の設置

学生生活をよりよいものにするために、大学のシステムや環境面に対する要望や提案を学生から聞こうということで、平成14年から意見箱を設置した。設置場所は学生課がある第2事務局入り口で、施錠のできる郵便ポストを利用した。

投函された意見については全て何らかの回答をすることにし、意見とともに掲示にて発表することになっている。回答は学生生活委員の生活指導担当部会が受け持ち、初年度は担当部会のメンバーが集まって回答内容を検討した。しかし意見が投函される都度、不定期に担当部会を開く事は困難で、回答を出すまでに日数を要するため、15年度からは生活指導担当部の意見箱担当委員が回答を受け持つことにした。担当委員は要望の内容により、関係者と相談し、対策を考え、できるだけ早く対応するように努めている。

学生生活委員会はほぼ毎月開催されるので、1か月分の投函された意見の内容について報告し、学生のニーズや問題点を把握し、委員会の検討課題として取り上げてきた。

これを教授会で報告することにより、全教員の共通認識になることが期待できる。

③ ホスピタリティルームの設置

学生のマナー向上のためにマナー教育用の教室としてホスピタリティルームを18年度に設置した。教室には受け付けカウンター、応接セット、事務机、電話、ビデオ、食器戸棚等を備え、別室は12畳の畳敷きに座卓を備えている。事務室・和室での応接実習として、ビジネス実務演習や教養ゼミなどの授業で活用している。

④ 卒業時における学長表彰制度

在学中に、学術・文化・芸術・スポーツ等の各分野において、全国的、国際的に特に優れた功績のあった学生を、卒業式に学長が表彰するものである。学科長・クラブ顧問の推薦を受け、主任教授会で審議し、教授会で決定することになっている。この学長表彰制度は権威あるものとして運用されているので、17・18年度には推薦はあったが規定に合わず表彰されなかった。そこで今後は学生会活動などで特に活躍した学生を表彰するという制度の導入について検討している。

VI 研究

(評価項目1) 教員の研究活動が展開されていること

(1) 教員の研究活動(論文発表、学会活動、国際会議出席等、その他)は成果をあげているか。

本学専任教員の過去3カ年の研究業績の概要を表のように学科別に示した。

表VI-1 平成16年度～18年度 専任教員の研究実績表

| 学科名 | 氏名 | 職名 | 研究業績 | | | | 国際的 活動の 有無 | 社会的 活動の 有無 | 備考 |
|-------------------------|------------|------|------|-----|--------|-----|------------------|------------------|----|
| | | | 著作数 | 論文数 | 学会等発表数 | その他 | | | |
| 食物栄 養 | 杉山道雄 | 学長 | 2 | 2 | 2 | 13 | 有 | 有 | |
| | 山澤和子 | 教授 | 2 | 1 | 30 | 2 | 無 | 有 | |
| | 平光美津子 | 教授 | 7 | 3 | 1 | 4 | 無 | 有 | |
| | 尾木千恵子 | 講師 | 2 | 3 | 1 | | 無 | 無 | |
| | 鷺見孝子 | 講師 | | 4 | | | 無 | 有 | |
| | 石原加代子 | 助手 | | 4 | | | 無 | 有 | |
| | 古賀裕子 | 助手 | | | 8 | 4 | 無 | 有 | |
| | 内田美佐子 | 助手 | | 3 | | | 無 | 無 | |
| コミュ ニケー ション | 今井昌彦 | 教授 | | 1 | 3 | 3 | 無 | 有 | |
| | 辻悦生 | 教授 | | | | | 無 | 無 | |
| | 下内充 | 助教授 | 2 | | 1 | 3 | 無 | 有 | |
| | Mark Borja | 講師 | | | | | 無 | 無 | |
| | 熊崎雅夫 | 講師 | 1 | | | | 無 | 有 | |
| | 大野佳代子 | 特任教授 | | | | 1 | 無 | 無 | |
| 児童教 育・初等 教育専 攻 | 天野博江 | 教授 | | | 4 | | 無 | 有 | |
| | 伊藤功子 | 教授 | | 3 | | | 無 | 有 | |
| | 小林和典 | 助教授 | 1 | | | 7 | 無 | 有 | |
| | 尾藤伸治 | 講師 | | | | | 無 | 有 | |
| | 大森由美子 | 教授 | | | 13 | 5 | 無 | 有 | |
| | 神谷かつ江 | 教授 | | 11 | | 4 | 無 | 有 | |
| | 木戸久仁子 | 助教授 | | | | | 無 | 有 | |
| 幼児教 育専攻 | 若杉雅夫 | 教授 | | 3 | 1 | 17 | 無 | 有 | |
| | 篠田美里 | 教授 | | 4 | 3 | 3 | 無 | 有 | |

| | | | | | | | | | |
|-------------|-------|-----|---|---|---|---|---|---|--|
| | 長谷部和子 | 教授 | | 7 | | | 有 | 有 | |
| | 松尾良克 | 教授 | | 2 | | | 無 | 有 | |
| | 杉山喜美恵 | 教授 | | 5 | 7 | | 無 | 有 | |
| | 三羽佐和子 | 助教授 | | 2 | 1 | | 無 | 有 | |
| | 瀬地山葉矢 | 講師 | | 4 | | | 無 | 有 | |
| | 生寫亜樹子 | 講師 | 2 | 1 | 3 | 1 | 無 | 有 | |
| 介護福祉 | 桑原信治 | 教授 | | 2 | | 1 | 無 | 有 | |
| | 木戸美代 | 講師 | | | | | 無 | 有 | |
| | 曾我千春 | 講師 | 2 | 1 | | 3 | 無 | 有 | |
| | 森川洋 | 講師 | 1 | 1 | | 6 | 無 | 有 | |
| 専攻科 福祉専攻 | 本間恵美 | 教授 | | 3 | 1 | | 無 | 有 | |
| | 木俣光江 | 講師 | 1 | | | | 無 | 有 | |
| 教養 | 安藤雅夫 | 教授 | | 2 | 1 | 2 | 有 | 有 | |
| | 神谷真弓子 | 教授 | | | | | 無 | 有 | |
| | 寺嶋昌代 | 教授 | | 4 | 3 | | 無 | 有 | |
| 図書館 | 児玉孝乃 | 助教授 | | 3 | | 3 | 無 | 有 | |

(2) 教員各個人の研究活動の状況が公開されているか。

- a 教員の研究活動は、毎年発行の『東海女子短期大学紀要』の巻末に「東海女子短期大学 研究・活動報告一覧」に記載してある。この研究・活動一覧は、著書、論文、研究発表、講演、社会活動などを個人別に記載してある。
- b『東海女子短期大学紀要』2007 年で第33 号を発刊した。掲載論文数は、2004 年度が10 本、2005 年度が11 本、2006 年度が12 本である。発行部数は、約350 部であり、本学教職員、非常勤教員に配布し、全国の希望する図書館(182 箇所、2006 年4月現在)に発送している。
- c「東海女子大学・東海女子短期大学 学術交流集会(以下 学術交流集会)」東海女子短期大学・紀要編集委員会および東海女子大学・研究支援委員会のメンバーが中心となる「学術交流集会委員会」が企画運営している。学術交流集会は、教員、学生、卒業生の研究成果を学内の理系、文系を超えた交流にするためだけでなく、学外にも広く発信する趣旨で、大学祭の日曜日に市民に無料で開放している。2004 年より開始し、短期大学の発表者は、2004 年(10 月31 日)が7名中1名、2005 年(10 月30 日)が4名中2名、2006 年(10 月29 日)は、7名中2名であった。
- d 科研費申請書類作成講習会東海女子短期大学・紀要編集委員会と東海女子大学・研究支援委員会が共同で、科研費について、補助金申請書類の作成などをわかりやすく支援する講習会が毎年開かれている。

e FD 講習会第1回のFD 講習会が2006年12月20日に開かれ、「授業改善の取り組み」、「学生の私語対策」、を議論した。

(3) 科学研究費補助金等の申請・採択、研究費の外部からの調達は実績があがっているか。

過去3カ年の科学研究費補助金の申請・採択等過去3カ年の科学研究費補助金の申請件数と採択件数を表にまとめた。

表VI-2 外部研究資金の申請・採択状況(平成16年度～18年度)

| 外部資金 調達先等 | 16年度 | | 17年度 | | 18年度 | |
|--------------|------|----|------|----|------|----|
| | 申請 | 採択 | 申請 | 採択 | 申請 | 採択 |
| 科学研究費補助金 | 2 | 1 | 1 | 1 | 3 | 0 |

(4) 教員あるいは教員グループの担当授業科目に関する研究や教育実践及びその成果についての報告が奨励されているか。

a 食物栄養学科

「ちびっ子食農教育実践事業」:当学科が中心となり企画したもので、「幼児食農教育実践プログラム」を本学附属幼稚園で実証し、岐阜県下の幼稚園等への普及を図り、食農教育の実践を推進する。

b 幼児教育学科

- ・ 保育実習に必要な養成カリキュラムの検討－保育士(岐阜県・愛知県)の意識調査について－2001年3月東海女子短期大学紀要27号
- ・ 子育て支援プログラム「子育て親育ち学生の心の育成」－あそびの森の試み－2006年3月東海女子短期大学紀要32号
- ・ 子育て支援プログラム「あそびの森」実践報告〈1〉2006年3月
- ・ 子どもの遊びのイベント化の可能性についての調査研究、岐阜県産業文化振興事業団地域文化研究所・東海女子大学・東海女子短期大学共同研究

(評価項目2) 研究活動の活性化のための条件整備が行われていること

(1) 教員の研究に係る経費の支出は充分か。また研究経費についての規程が整備されているか。

「旅費規程」で学会等での出張では年間6万円を上限とし、教員本人が発表する場合には1

回につき1万円を加算する、と定めている。

海外学会発表などでの出張では年間1回までを限度とし、渡航費、滞在費を規程の金額内で支給する、ことになっている。

(2) 教員の研究成果を発表する機会（研究紀要の発行等）は確保されているか。

先の「教員個人の研究活動の公開」で記述したように、年1回の発行の「東海女子短期大学紀要」にて、教員の研究成果を発表する機会が提供されている。本学の投稿規程によって、2編まで発表可能である。

(3) 教員の研究に係る機器、備品、図書等は充分か。

図書については、表に示すように、各学科ごとに予算が決められている。視聴覚教材(ビデオなど)は、図書費とは別途に予算が配当されている。教員には、図書の長期貸し出しが認められ、雑誌の研究室別置を認めている。

表VI-3 図書費

| | 平成16年度 | 平成17年度 | 平成18年度 |
|-------------------|-----------|-----------|-----------|
| 図書費(全体) | 1,383,786 | 2,143,376 | 1,193,403 |
| 各学科予算が全体に占める割合(%) | 81 | 93 | 97 |
| 視聴覚資料 | 796,162 | 985,448 | 431,477 |
| 雑誌・追録等 | 3,062,513 | 2,818,416 | 958,785 |

(注)平成18年度は、前期のみ

(4) 教員が研究を行うにふさわしい教員室、研究室または研修室が整備されているか。

「平成18年度 学生便覧」172頁～176頁にあるように各教員にはそれぞれの研究室が設置され、個人の研究活動の場を提供している。また、実験系の先生には実験室、音楽、美術関係の先生にはピアノ室、美術室が提供されている。

(5) 教員には研究日（研修日）等、教員が研究を行うに十分な時間の確保に配慮がされているか。

専任教員には、週1日の自宅研修日が確保されている。「東海女子短期大学 教員の勤務に

関する細則」で、夏期、冬季、春期の休業日を自宅研修日とすることが出来る、と規定されている。

◇ 研究についての特記事項

(1) 以上の評価項目以外に研究について努力している事項。

介護福祉学科では、学生による卒業発表形式の「事例研究発表会」(2006年は2月23日)が行われている。この中で、教員は個々の学生を研究面で支援する一方、教員自身の学会活動へつながる努力をしている。

(2) 特別の事由や事情があり、以上の評価項目及び評価の観点の求めることが実現(達成)できない事項。

特になし。

VII 社会的活動

(評価項目 1) 社会的活動への取組みが推進されていること

(1) 社会的活動についての位置づけが明確にされているか。

本学は、地域との共生・社会的貢献を短期大学の重要な責務と捉え、公開講座委員会をこの地域の大学としては最も早い時期（平成5年）に設置した。毎年多数の公開講座を開講して、多くの聴講者を無料で受け入れ、先ず生涯学習の観点から社会的活動に本格的に取り組み始めた。その後、地域社会のニーズに応えるための組織を順次改変開設し、現在本学の社会的貢献活動は、大きく三つの組織が中核となって展開されている。第一に、公開講座から基をなす地域社会の教育・文化の向上に資するための生涯学習センター、第二に、今、社会に強く求められている子育て支援業務の一翼を担うための子育て支援プログラム「あそびの森」、第三に、本学の教育の目的でもある「教養ある有為な女性の育成」を達成する一環として、学生の主体性を培い、且つ社会貢献に寄与するための東海女子大学・短大ボランティアセンター、以上の組織が三位一体となって、地域社会に根を下ろし着実に実績を積み上げ、社会的貢献活動の理念の支柱となっている。

(2) 社会人の受け入れに対して意欲的か。

本学では、地域社会への寄与の一環として社会人入試制度を平成6年から実施している。受け入れにあたっては、社会人の持つ学問に対する真摯な姿勢と明確な問題意識、同時に、一般学生や教職員に対する教育的刺激を考慮して、授業料半額免除等の特別優遇制度を設けて入学を奨励し広く門戸を開放している。さらに、平成16年度入学試験から卒業生リカレント制度(入学金等免除・学費の減免処置有)を実施し、本学および東海女子大学卒業生に再教育の場と機会を与えている。

平成16.17.18年度の社会人ならびに卒業生リカレント入試での入学実績を下記表に示す。

表VII-1 社会人・リカレント入学者数

| 入試年度 | 社会人 | リカレント | 総計 |
|-------|-----|-------|----|
| 平成16年 | 11 | 0 | 11 |
| 平成17年 | 9 | 1 | 10 |
| 平成18年 | 8 | 1 | 9 |

(3) 地域社会に向けた公開講座、生涯学習授業、正規授業の開放等を実施しているか。

1) 生涯学習センターの取り組み

先に示したように本学では、平成5年より本学教員の教育研究の成果を広く社会に

開放し、地域社会の教育・文化の向上に資することを目的とし、公開講座委員会を立ち上げ無料の公開講座を毎年実施してきた。公開講座の回を重ねるごとに、受講者の期待は高まり要望も多様化するに至って、卒業生や地域住民に最新の学問・情報を伝え、生涯学習の機会と場をさらに充実するため、平成14年4月に東海女子短期大学生涯学習センターを開設した。

東海女子短期大学生涯学習センターは「喜び」をテーマに、学ぶ喜び、出会う喜び、集う喜び、成長する喜び、そして生きる喜びを受講者の方々に実感していただき、一人一人が喜び輝くことが、家庭を地域を社会を国を世界を良くする基盤となることを願っている。講座内容は、歴史ある公開講座のほかに、多様化する受講者の要望に応えるべく資格取得・検定対応講座、リカレント講座、エクステンション講座など多種多様な講座を年間延べ50回以上準備し生涯学習講座の充実に努めている。また、平成17・18年には、岐阜県高等教育機関地域連携推進事業費補助金の助成を受けた公開講座（各年テーマに沿って5講座）を開催し好評を博している。その他当センターの講座は、岐阜市の生涯学習長良川大学リカレント課程・大学公開講座や各務原市の木曾川アカデミーと提携して認定書を交付し、地域住民の生涯学習に対する意欲を高めている。

平成16.17.18年度の東海女子短期大学生涯学習センターの講座数と受講者数の実績を次の表に示す。

表VII-2 生涯学習センター講座・受講者数（年度別）

| 年度 | 公開講座（無料講座） | | | |
|-------|------------|--------|------|---------|
| | 公開講座数 | 講座数(延) | 受講者数 | 受講者数(延) |
| 平成16年 | 1 | 1 | 218 | 218 |
| 平成17年 | 5 | 5 | 491 | 491 |
| 平成18年 | 11 | 14 | 1062 | 1386 |
| | 有料講座 | | | |
| | 講座数 | 講座数(延) | 受講者数 | 受講者数(延) |
| 平成16年 | 9 | 56 | 91 | 646 |
| 平成17年 | 15 | 92 | 263 | 1714 |
| 平成18年 | 40 | 211 | 681 | 3650 |

上の表が示すように、本学生涯学習センターが開催する講座は年々着実に地域の人々に浸透し、本センターのテーマでもある「一人一人が喜び輝く」ことが、受講された方それぞれの生き甲斐や充足感に繋がり、そのことが広く地域社会を活性化する一助となっていることと確信している。

生涯学習センターの課題

公開講座数ならびに受講者は増加しているが、さらに発展するためには、教職員全体が生涯学習を通しての社会貢献が大学としての大きな使命であることの共通認識を計っていくことが必要である。また、団塊世代がリタイアする時代を迎え、その世代にアピールできる講座、3万人に及ぶ卒業生が求めている講座をリサーチし、時代のニーズに応ずることができる生涯学習センターの講座を企画する必要がある。

2) 正規授業の開放

本学は、卒業生ならびに社会人の就学意欲に応えるため、昭和44年に聴講生制度を設け、受け入れ可能な科目に限って正規授業を開放した。その後、社会の変化ならびに聴講生の要望に応えるため、平成に入って科目等履修生制度に改め、履修した科目を単位認定し成績・単位修得証明書を交付している。平成16年～平成18年の科目等履修生は、延べ12名が31科目の授業を履修した。

科目等履修生以外に本学では、平成13年度後期から国際ネットワーク大学コンソーシアム共同授業（岐阜県が企画、県内15の大学・短期大学が参加する単位互換授業）に加盟し、コンソーシアム共同授業についてシラバスに記載して受講を奨励し、正規授業の開放も行っている。平成14年度からは、卒業要件単位として認定されている。

(4) 地域社会の行政、商工業、教育機関、文化団体等と効果的な交流活動を行っているか。

本学は教員の教育研究の成果を広く社会に開放することと共に、教員の教育研究の裾野を広げ社会にとって有為な研究活動の発展を願い、地域の行政ならびに各機関等と積極的に連携している。連携内容は委託事業・委員や共同研究、イベント参加など多岐にわたっている。取り組みを積み重ねることで本学に対する地域社会の信用と評価は高まり、年毎に交流活動の事業数は増加している。

平成16年～平成18年の主な実績に関して次に表記する。

表VII-3 行政、商工業、教育機関、文化団体等と効果的な交流活動（年度別）

| 年度 | 事業名 | 連携機関 |
|-------|---|------------------------------|
| 平成16年 | オンリーワン 私たちの芸術祭 | 岐阜市社会福祉協議会 |
| | 岐阜地域産学官連携交流会 | 岐阜市、岐阜地域大学・高専 |
| | 介護技術講習会 | 日本介護福祉養成協会 |
| | 大学リフレッシュ課程2004 | 各務原教育総合メディアセンター |
| | 間伐材利用施設整備事業補助金(遊具部門) 遊具施設を子育て支援活動で開放 | 岐阜県・各務原市・岐阜県森林協同組合 |
| | 国際ネットワーク大学コンソーシアム共同授業 | 岐阜県環境生活部人づくり文化課 |
| | 東海女子短期大学生涯学習センター 講座互換 | 岐阜市生涯学習長良川大学 各務原市木曾川アカデミー |
| | 岐阜県産きのこを使ったアイデア料理 | 岐阜県林政部委託事業(H16～18) |
| 平成17年 | 日韓国際児童画フェスティバル | 国際児童画協会 |
| | オンリーワン 私たちの芸術祭 | 岐阜市社会福祉協議会 |
| | 介護技術講習会 | 日本介護福祉養成協会 |
| | 岐阜地域産学官連携交流会 | 岐阜市、岐阜地域大学・高専 |
| | 第18回岐阜県子どもと親の青空広場 | 岐阜県児童館連絡協議会 |

| | | |
|---------|---------------------------------|------------------------------|
| | 国際ネットワーク大学コンソーシアム共同授業 | 岐阜県環境生活部人づくり文化課 |
| | 子どもの遊びのイベント化の可能性についての調査研究 | 岐阜県産業文化振興事業団 地域文化研究所 |
| | 東海女子短期大学公開講座 「東海から元気・発信！」5講座 | 岐阜県高等教育機関地域連携推進事業費補助金 |
| | 東海女子短期大学生涯学習センター 講座互換 | 岐阜市生涯学習長良川大学 各務原市木曾川アカデミー |
| 平成 18 年 | オンリーワン 私たちの芸術祭 | 岐阜市社会福祉協議会 |
| | 子育て支援 happy day | 岐阜市女性センター |
| | 介護技術講習会 | 日本介護福祉養成協会 |
| | 岐阜地域産学官連携交流会 | 岐阜市、岐阜地域大学・高専 |
| | 国際ネットワーク大学コンソーシアム共同授業 | 岐阜県環境生活部人づくり文化課 |
| | ちびっ子食農教育実践事業 | 岐阜県農政部農政課 |
| | フードフェスティバル出展 | 各務原市国際交流課 |
| | 第一回畜産加工調理体験教室 | 社団法人 岐阜県畜産協会 |
| | 子どもと一緒にスローフードを見直す | 地域と共同の研究センター |
| | 東海女子短期大学公開講座 「現代をどう生きるか」5講座 | 岐阜県高等教育機関地域連携推進事業費補助金 |
| | 東海女子短期大学生涯学習センター 講座互換 | 岐阜市生涯学習長良川大学 各務原市木曾川アカデミー |
| | 岐阜県産食肉の部位別アイデア料理 | 岐阜県畜産協会委託事業 |

表に示された交流事業等のほかに、外部機関から委託された委員や依頼された講演会・研修会講師ならびにオリンピックコーチを始めとするスポーツ指導者派遣等に関しても、本学教員の教育研究の成果を広く社会に開放し寄与する一環と捉え、積極的に協力する姿勢を示している。外部機関への教職員派遣件数は、平成16年度53件、平成17年度71件、平成18年度95件と年々増加傾向にある。このことは、本学の活動が地域社会に広く周知されてきたことを表していると同時に、学内全体で社会的貢献活動に取り組む機運が高まっていることをも示している。

（評価項目2） 学生の社会的活動を促進していること

（1） ボランティア活動等を通じて地域社会に貢献しているか。

1) 東海女子大学・短期大学ボランティアセンターの活動

ボランティアセンターは、学生の主体的ボランティア活動をサポートし促進をはかることで人間的成長を促し地域の社会貢献に寄与することを目的とし、短期大学が中心となって平成13年4月に開設された。主な活動内容は、情報提供、活動の相談・支援、ボランティアの登録(随時)・調整を行っている。これまでの参加ボランティア内容は、

施設見学、研究会出席、施設の地域交流会、バザー、イベントの補助、清掃活動など広範囲に渡っている。平成16年度～平成18年度の3年間で280名の学生がボランティアセンターに登録し、様々な社会的貢献活動に携わっている。さらに、開設初年度から東女ボランティア通信を毎年5～6刊発行し、ボランティア募集情報や継続活動情報・学習会報告等を記載することで、ボランティア活動の情報開示ならびに学生の主体的な社会貢献活動に対する意識・意欲の向上に努めている。センター開設から6年間のボランティア通信の総発行号数は34号に上る。

2) その他の社会活動

ボランティアセンター以外での取り組みとしては、児童文化研究会「ピノキオ」(サークル)が、地元の小学校、保育所、公民館、図書館などで絵本の読み聞かせやパネルシアターなどのボランティア活動を地道に行っている。また、大学祭実行委員が大学祭バザーの収益金の30パーセントを、毎年岐阜新聞・岐阜放送社会福祉事業団に寄付している。その他学生個人による募金活動も加わり、ボランティアセンターを中核として学生の主体的社会貢献活動は多岐に渡って活発に行われている。

(2) 学生の社会的活動(地域活動、地域貢献、ボランティア活動等)に対して積極的に評価しているか。

児童教育学科幼児教育専攻では教育目標達成の一環として、学生の子育て支援活動ならびに地域の幼稚園や保育所等の福祉施設を訪問するボランティア活動をカリキュラムに組み込み、特色ある専門科目として学生の心の育成の柱としている。また、介護福祉学科においても専門科目の中にボランティア論を組み込み学生のボランティア活動を評価している。さらに、学生便覧にボランティア活動を奨励する項目を特別に設け、学生自らが社会的貢献活動に参加する意欲を喚起している。

(評価項目3) 国際交流・協力への取り組みの努力がみられること

(1) 留学生の受け入れ及び留学生の派遣(長期・短期)に対して意欲的か。

建学の精神「国際的視野を備えた社会性及び創造性と行動力豊かな女性の育成」に則り、本学は昭和50年イギリスのケンブリッジに、東海女子短期大学ケンブリッジ校を開設し、当時としては数少ない日本の学校法人が直接経営する海外語学研修校として、多数の語学留学生(ケンブリッジ校留学)を送り出してきた。また、昭和58年には、海外語学研修の派遣、外国人留学生の受け入れ、その他の派遣・留学に関する事項を審議する東海女子短期大学留学生委員会を設置し、国際交流・協力に取り組むための基盤を整備した。

本学の建学の精神を顕在化するイギリスのケンブリッジ校語学研修留学生の派遣に関しては、昭和53年から開始し、以来凡そ30年間途切れることなく実施している。また、学生便覧にもケンブリッジ校留学のプログラムを記載し、語学研修制度についての周知に努めている。その他、留学参加者には国際理解(教養科目)ならびに英会話

体験実習（外国語科目）として単位認定するとともに、特に語学能力の高い学生については特別奨学生（CAE学費免除・渡航費免除）として優遇し留学を奨励している。

（２）海外教育機関等との密接な双方向的交流を継続しているか。

海外教育機関との連携については、開学から7年目の昭和45年に米国コロラド州デンバー市テンプルビューエルカレッジ（現コロラドウィメンズカレッジ）と姉妹校の盟約を結び、留学生の交換並びに教員の相互訪問を行った。本学は海外教育機関との交流という点で、この地域の大学の先駆的存在となっている。その後、昭和54年に米国ニューヨーク ファッション工科大学と姉妹校の盟約を結び、本学教員が工科大学で研修生として学び、更なる専門性の向上と国際性を培った。また、昭和59年にハワイ州立大学とも姉妹校の盟約を結び語学研修団を派遣した。

現在下記表に示した米国の6大学と姉妹校の盟約を結び交流を行っている。

表VII-4 海外姉妹校一覧（年度別）

| 提携年月日 | 海外姉妹校 |
|-------------|---|
| 昭和45年2・16 | 米国・コロラド州デンバー市、テンプルビューエルカレッジ (現コロラドウィメンズカレッジ) |
| 昭和54年8. 10 | 米国・ニューヨーク州、ファッション工科大学 |
| 昭和59年8. 22 | 米国ハワイ州立大学 |
| 昭和59年8. 23 | 米国ハワイ・ロア大学 |
| 昭和59年11. 27 | 米国ホバート・アンド・ウィリアム・スミス大学 |
| 昭和62年8. 11 | 米国ゴールデン・ステート大学 |

（３）教職員の留学、海外派遣、国際会議出席等は活発か。

留学、海外派遣、国際会議出席等に関しては、建学以来その精神を顕在化するため、教職員の海外研修派遣を毎年実施し積極的に取り組んできた。

平成16年度～平成18年度の海外派遣、国際会議出席については、世界野禽フォーラム（メキシコ グアダナラダ市）・オーストラリア国際協議会（日本バドミントン協会）・カンボジア中等理科教育改善計画・カンボジア高校理数教科書策定支援プロジェクト等の学術・国際協力・スポーツ面で幅広く教員の派遣を行っている。特にスポーツ部門では、アテネオリンピック ホッケーチームコーチ始め、バドミントンの分野でも国際競技会に数多く派遣している。

◇ 社会的活動についての特記事項

（１）以上の評価項目以外に社会的活動について努力している事項。（例えば、高大連携など他の教育機関との連携への取組み、その他の社会的活動、日本語教育体制等）

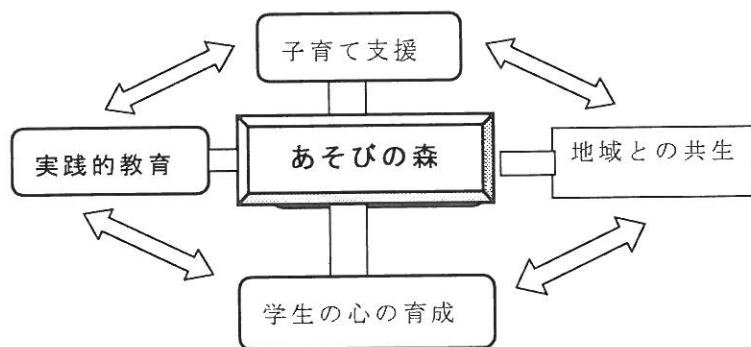
1) 子育て支援プログラム「あそびの森」

子育て支援は、保育の今日的課題として次世代育成支援の中核をなしている。本学児童教育学科では幼児教育専攻を中心に平成15年度から地域との共生をテーマとして、短期大学の理念・特性を生かした子育て支援のあり方と、いかに支援業務を学生育成に繋げるかについて試行錯誤を行い、平成16年4月、実行可能な子育て支援教育プログラム「あそびの森」を作成した。また、同時期に本学園では、今日の教育のニーズに対応した教育改革を目指し、四大と短大合同の教育プロジェクトチームを平成16年4月より立ち上げた。プロジェクトチームでは様々な改革案が立案答申され、その中で短大幼児教育専攻が作成し提案した子育て支援に関する教育プログラムが実施プロジェクトとして承認され、全学的支援の元に平成16年10月から実施する運びとなった。

「あそびの森」の概要

この子育て支援プログラムの特色は、本学の保育実習室を核として、「あそびの森」と銘打ち毎月第2土曜日もしくは第4土曜に、未就学児とその親に遊びを提供し、遊びの支援には授業の一環として学生が参加するところにある。学生が、実践的体験を積みながら、親と子に関わる中で自然に人間的成長を遂げ、更に、地域の子育て支援にも貢献できる内容となっている。「あそびの森」の理念は、「子育て親育ち・学生の心の育成」である。親は子と遊びを共有することで、その心を深く理解し親自身も成長を遂げることが出来る。また、子どもは親と遊びながら温かさや優しさを感じ、人やものと触れ合って遊ぶ楽しさを知り、豊かに心を耕す。更に、学生は遊びの支援を通して、実習では経験が出来ない親と子の繋がりを間近に体験する。そのことは学生の心の育成に大きな影響を与える。この試みは、子育て支援に関する社会貢献のみならず、学生が保育者として現場に就いたとき、子育て支援に関する業務に必ず生かされると考えている。

「あそびの森」のコンセプト



図VII-1 「子育て・親育ち・学生の心の育成」

「あそびの森」の実施について

プログラムの実施にあたって、遊びの支援などに関わるボランティアの学生は、児童教育学科幼児教育専攻（1、2年 276名）全員とし、実施に関わる業務を円滑に行えるように、プログラムの内容についての講義を、幼児教育専攻の特色となっている一

年半に渡るゼミ（総合演習・保育ゼミⅠ・保育ゼミⅡ）の中に組み込んだ。ここで学んだ子どもや保護者に対する言葉掛けや援助のあり方を「あそびの森」で生かすことになる。そのほか実施の準備段階として、出席カードの製作や保育実習室を遊びの場として子どもが活動しやすいようにするための危険防止の工夫や室内装飾などもゼミの学生が製作した。更に、乳児のための託児室「おねむさんのへや」、子ども用トイレなども保育実習室に隣接して設け、遊びの間の託児や授乳などに対応できるように施設を整えた。

「あそびの森」のプログラムのテーマは各ゼミ（8ゼミ）の教員が中心となって担当し、未就学児が親と一緒に遊びを楽しめることを考慮するとともに、造形遊びやリズム遊び、運動遊びから絵本の読み語りなど多彩な内容になるように心掛けた。実施にあたっては、一つのプログラムにつき2～3ゼミで担当しているので、毎回40名ほどの学生が準備や当日の受付・案内・託児ならびに遊びの援助を行っている。遊びの援助は、原則として1組の家族に1人の学生があたるように配慮している。

平成16年度後期のプログラム実施の実績は、10月30日（土）のオープニングイベントから始まり、平成17年3月12日（土）を締めとした7プログラムと、地元幼稚園2園が参加した特別イベント「あそびの交流」を含めた全8プログラムについて、初年度にもかかわらず延べ409名の参加者を得、遊びを提供することが出来た。また平成17年度のプログラムから「子育てに関する懇話会」を企画し、子育て相談の場をも提供した。更に子育て支援を全学的に取り組む第一歩として、食物栄養学科と提携したプログラムを実施し、食育の面からも子育て支援に取り組み、年毎に発展的変貌を試みている。

「あそびの森」の実施状況は短期大学のホームページに毎回公開しており、また新聞紙上でも取り上げられ、本学の取り組みは広く社会に周知されている。

平成16年度後期～平成18年度までの「あそびの森」延べ参加者数を年度別に下記表に示す。

表Ⅶ-5 「あそびの森」年度別参加者数等

| 年度 | プログラム数 | 参加者人数(延べ) | 学生ボランティア人数(延べ) |
|--------------|--------|-----------|----------------|
| 平成16年度 後期 | 8 | 409 | 200 |
| 平成17年度 前期・後期 | 11 | 904 | 286 |
| 平成18年度 前期・後期 | 12 | 1078 | 312 |

※平成17年度より予想を超える参加申し込みがあり、希望に応えるためプログラムを午前・午後の二度に渡って実施している。

2) 「保育を語る会」

幼児教育専攻では現任者研修の一環として、平成18年度4月より、あそびの森(7号館保育実習室)にて「保育を語る会」を毎月第4土曜日に実施している。教員を中心に幼稚園・保育所(園)・施設などに勤務している人たちや卒業生等が集まって保育の楽しみ、嬉しさ、悩み、情報などを気楽に話し合っている。語る会では、保育現場

で日々子どもたちと向き合っている保育者が、日ごろの悩みや思いを情報交換することでより良い保育に繋がることを願っている。

3) 社会的貢献活動を専門科目に組み込む

保育内容研究Ⅱ「ボランティア活動」

幼児教育専攻では、平成14年度から実施された改正保育士養成課程の大きな柱である大綱化科目の設定にあたって、保育の今日的な課題(子育て支援能力)と現在の学生気質・資質の両面から捉え、柔軟性と幅広い人間性を兼ね備えた人材育成を目的に、コミュニケーション能力と自己表現力・自己学習能力ならびにボランティア精神を培う中核科目として保育内容研究Ⅱ「発表活動」を新設した。

保育内容研究Ⅱ「発表活動」の概要は、学生が創作した劇や手遊び・楽器演奏等を幼稚園や保育所で発表し、地域の保育現場と交流を深め相互連携を図ることにある。平成17年度から科目の内容をよりの確に表すため、保育内容研究Ⅱ「発表活動」を保育内容研究Ⅱ「ボランティア活動」に名称変更した。

平成16年度～平成18年度までの「ボランティア活動」での訪問先を次に示す。

表VII-6 訪問先(年度別)

| 平成16年度 | 平成17年度 | 平成18年度 |
|--|-------------------------------|-------------------------------|
| 各務原中屋保育所 | 各務原中屋保育所 | 各務原中屋保育所 |
| 各務原西保育所 | 東海第一幼稚園 | 各務原幼稚舎 |
| オンリーワン私たちの芸術祭 岐阜市社会福祉協議会主催 | オンリーワン私たちの芸術祭 岐阜市社会福祉協議会主催 | 岐阜市子育て支援イベント HAPPY DAY |
| 東海第二幼稚園 | 東海第二幼稚園 | 各務原蘇原西保育所 |
| ※「ボランティア活動」の依頼は年々増えており、地元の保育現場等に本学の活動が認められ、地域社会との連携を深めていることをこの表が示している。 | | オンリーワン私たちの芸術祭 岐阜市社会福祉協議会主催 |
| | | 岐阜南図書館 |
| | | 岐阜市まどか幼稚園 |
| | | 東海第二幼稚園 |

4) 高大連携

本学は高校生の進路選択の一助として、適性の認識と希望する分野・学科・コースに対する理解を高めることを目的とした出前講義・模擬授業(進路別ガイダンス)・バス見学ツアー(短期大学施設見学と体験授業実施)等の依頼があれば積極的に受け入れている。

平成17年度と平成18年度の2年間の体験授業ガイダンス等の参加件数は約150回に及ぶ。この実績は、教職員が一体となって高大連携に積極的に取り組んでいることを表している。

5) 図書館の一般開放

本学図書館は平成6年に、それまで短期大学と東海女子大学にそれぞれ置かれていた図書館を統合する形で、両大学に付設する施設として新設し開館した。設置に当たっ

では、「集う、交わる、語らう」をスローガンに、両大学の学生、教職員といった学内関係者の利用、生涯学習社会に学外者の利用を視野に入れ、取り組むこととなった。それは、図書館の施設面にも反映されている。

一般的に従来の図書館では、資料の収蔵、閲覧、検索、貸し出しを主要な機能としていたが、図書館新設に当たっては、視聴覚機を備えたセミナー室や多目的ホールを併せ持つ施設が構想理念となった。

図書館の一般開放は、設置の基本理念を具現化するため、新設開館から5年後の平成11年より本格的に実施している。また、施設の一般開放についても「東海女子大学・東海短期大学附属図書館大ホール・大セミナー室の施設使用規則」を平成16年度に制定し平成17年4月から施行されるようになった。

以下に、平成16年度～平成18年度の図書館一般開放の実績を示す。

○図書館利用状況

表VII-7 学外者年間入館者数について（単位：人）

| | 開館日数 | 学外者 | 1日平均 |
|--------|------|-------|------|
| 平成16年度 | 266日 | 966 | 3.6 |
| 平成17年度 | 265日 | 1,349 | 5.1 |
| 平成18年度 | 213日 | 922 | 4.3 |

（平成18年度は平成19年1月20日現在数）

表VII-8 学外者館外貸出利用状況

| | 利用状況 | | 1日平均 | |
|--------|------|-----|------|-----|
| | 人数 | 冊数 | 人数 | 冊数 |
| 平成16年度 | 149 | 371 | 0.6 | 1.4 |
| 平成17年度 | 183 | 445 | 0.7 | 1.7 |
| 平成18年度 | 252 | 750 | 1.2 | 3.5 |

（平成18年度は平成19年1月20日現在数）

表VII-9 年間情報サービス（参考事務）処理件数

| | 利用状況 | | 計 |
|--------|------|----|---|
| | 受付 | 依頼 | |
| 平成16年度 | 7 | 0 | 7 |
| 平成17年度 | 4 | 5 | 9 |
| 平成18年度 | 3 | 2 | 5 |

（平成18年度は平成19年1月20日現在数）

表VII-10 学外者「図書館利用カード」登録数の推移

| | 人数 |
|----------|-----|
| 平成 16 年度 | 4 1 |
| 平成 17 年度 | 8 1 |
| 平成 18 年度 | 6 5 |

表VII-11 図書館ホールの多目的利用状況

| | 利用内容 | 主催 |
|--------|----------------------------|-------------|
| H16 年度 | 角田育代 ヴァイオリン演奏会 | 友愛キリスト教会 |
| H17 年度 | 試写会「森の学校」 | 「森の学校」上映委員会 |
| | 日韓国際児童画フェスティバル | 国際児童画協会 |
| | 講演「東海から元気を発信する」 | 東海女子短期大学 |
| | 演劇「パラレル」(東海:芸術祭) | 東海女子大学・短期大学 |
| H18 年度 | 演劇「雨が上がるのを待つんだそうです」(東海芸術祭) | 東海女子大学・短期大学 |

(3) 特別の事由や事情があり、以上の評価項目及び評価の観点の求めることが実現(達成)できない事項。

(評価項目3)、(1)「留学生の受け入れ及び留学生の派遣(長期・短期)に対して意欲的か」に関しての、留学生の受け入れについて、本学は日本人と異質の文化的背景、思考を持つ外国人留学生を特別入試制度(社会人・帰国子女・外国人留学生)や特別聴講生制度を設け、積極的に受け入れる施策を進めてきた。だが、設置されている学科・専攻が外国人留学生のニーズと一致しないためか、現在までの受け入れ人数は若干名である。また、平成16年度～平成18年度の受け入れについては、実績を上げていない。この状況を受け、特別入試制度の外国人留学生枠は社会人枠にシフトしているのが現状である。しかし、本学の建学の精神に基づき、希望があれば積極的に留学生を受け入れる態勢を整えている。

今後、外国人留学生を募るには、学納金優遇処置を含む受け入れ条件の整備と、日本語教育の充実を図る必要があると考えている。

VII 管理運営

（評価項目 1） 理事会等の学校法人の管理運営体制が確立していること

（1） 学校法人の運営全般に理事長のリーダーシップが適切に発揮されているか。

学校法人神谷学園の業務決定最高機関として理事会があり、理事長は学校法人代表者として位置づけられている。また、学校法人の運営に関する重要事項の議決及び理事会の諮問事項の審議を行う機関として評議員会が置かれている。

本法人は、大学、短期大学と2つの幼稚園などを統轄し、一体となった運営を行っている。

理事長は、理事会において、理事である大学学長、短期大学学長より本学の運営状況、重要事項についての報告を受け、必要に応じて業務内容を確認・指示している。また、理事長は、本学に係る重要事項について適宜、理事と協議し必要に応じて指示を行っている。

更に、本学にも毎日来学し、学長や事務職員と面談すると共に、極力現場の教職員とも、意見交換の場を設け、教職員の状況把握に努めている。それにより、理事長は学校法人運営全般を統括・管理するとともに、本学の運営管理に適切なリーダーシップを発揮している。

（2） 理事会は寄附行為の規定に基づいて開催され、学校法人の意思決定機関として適切に運営されているか。

「学校法人神谷学園 寄附行為」において、理事会は第6条から第18条に規定されており、理事8名、監事2名で現員の役員を構成している。理事長が業務を総理し、理事長が法人の代表権を有している。

学校法人の最高意思決定機関として、適切に運営されている。過去3ヶ年の理事会開催状況は以下の通りである。

表 VIII-1 理事会の開催回数

| 年 度 | 開催回数 |
|--------|------|
| 平成16年度 | 9回 |
| 平成17年度 | 9回 |
| 平成18年度 | 10回 |

※ 過去3ヶ年の各回の理事会の議事内容は別添資料編に記載

（3） 監事は寄附行為の規定に基づいて適切に業務を行っているか。

監事の選任及び業務については、「学校法人神谷学園 寄附行為」第6条、第8条、第10条、第15条に規定しており、規定に基づいて適切に業務運営を行っている。

平成17年度会計年度に係る監査については、平成18年5月に実施した。

本学園の平成17年度における計算書類（資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表並びに付属明細書）・同年度財産目録について監査し、学校法人会計基準に準拠しており、本学園の財政状況・経営状況は適正に表示されているものと認めた。

尚、健全な財務処理に基づく、運営が行われるよう公認会計士との間で打合せ会も開催した。

また、法人の業務監査については、各監事は理事会に出席し、理事から業務執行状況について報告を受けた。このことに基づき、寄附行為に規定された違背、不正行為や法令違反の有無等を適宜監査した結果、その事実がないことを確認し、その旨の監査報告書が提出された。

（4）評議員会は寄附行為の規定に基づいて開催され、理事会の諮問機関として適切に運営されているか。

評議員会については、「学校法人神谷学園 寄附行為」第19条から第25条まで規定しており、理事会の諮問機関として適切に運営されている。過去3ヶ年の評議員会開催状況は以下の通りである。

尚、評議員は現員 21名である。

表Ⅷ-2 評議員会の開催回数

| 年 度 | 開催回数 |
|--------|------|
| 平成16年度 | 7回 |
| 平成17年度 | 7回 |
| 平成18年度 | 10回 |

※ 過去3ヶ年の各回の評議員会の議事内容は別添資料編に記載

（5）理事の構成に著しい偏りがないか。

本学寄附行為においては、第6条に「この法人に次の役員を置く。」として、理事7人以上10人以内、監事2人以上3人以内と規定している。現員の理事数は8名であるが、その内訳は、学内理事4名、学外理事4名である。理事の任期も4年間となっており、4年に1度は任期満了による理事の選任が審議されている。

（評価項目2） 教授会等の短期大学の運営体制が確立していること

（1）短期大学の運営全般に学長のリーダーシップが適切に発揮されているか。

短期大学運営上の重要事項は、教授会において審議され決定されている。また、行事等の校務運営や各種委員会の開催結果なども教授会の報告事項となる。教授会の運

営方法等については、細則の教授会規程によって定められており、学長が議長を務めることになっている。さらに日々の決裁事項についても、学長がすべての書類に目を通すことになっており、学長は、事務局部長および各学科長のサポートのもと、適切にリーダーシップが発揮できる制度になっている。また、実際の大学運営にあたっても適切にリーダーシップが発揮されている。

(2) 教授会は学則等の規定に基づいて開催され、短期大学の教育研究上の審議（諮問）機関として適切に運営されているか。

本学は、学則第4章および細則に「教授会」に関する規程を設けており、本学の重要な事項を審議するための機関として機能している。また、その構成員は、講師以上の専任教員と規定されているが、事務局課長以上の職員と図書館長・図書館事務長も常時出席することになっており、大学運営の最重要審議機関として適切に運営され、意思決定機関となっている。

下記表Ⅷ-3は平成18年度の教授会開催状況である。

表Ⅷ-3 平成18年度 教授会開催状況

| 年 | 月 | 日 | 主 な 議 案 | 出席者数 | 定数 |
|----|---|----|---|------|----|
| 18 | 4 | 4 | [人事事項] 1. 教職員の人事異動について 2. 各種主任の委嘱について 3. 各種委員会委員の委嘱について [審議事項] 1. 学籍関係の異動について 2. 学則・細則の一部変更について [報告・連絡事項] 1. 委員会報告 平成17年度 第3回教務委員会 平成17年度 第3回自己評価等検討委員会 2. 平成17年度卒業生進路状況 3. 平成18年度入学式について 4. 平成18年度年度始め行事について 5. 行事予定について 年間行事予定、4月・5月行事予定 6. 平成18年度CAE3ヶ月留学 春季プログラム参加者の公欠について 7. 親睦会について 8. 平成18年度学園改革プロジェクトについて | 37 | 41 |
| 18 | 5 | 17 | [審議事項] 1. 学籍関係の異動について [報告・連絡事項] 1. 委員会報告 第1回 生涯学習委員会 第1回 学生生活委員会 第1回 教育実習等委員会 第1回 入試委員会 第1回 留学生委員会 2. 平成18年5月1日現在学生在籍者数 3. 平成17年度卒業生進路状況 | 37 | 41 |

| | | | | | |
|----|----|---|--|----|----|
| | | | 4. 5月・6月行事予定 5. 消防計画について 6. 各種教育実習期間中の講義について 7. 「あそびの森」平成17年度実施計画報告 | | |
| 18 | 7 | 5 | [審議事項] 1. 学則・細則の一部改正について [報告・連絡事項] 1. 委員会報告 第1回 紀要編集委員会 第1回 教務委員会 第1回 自己評価等検討委員会 第1回・第2回 芸術祭委員会 第1回 図書館委員会 第2回 学生生活委員会 第2回 生涯学習委員会 第2回 入試委員会 2. 夏季集中講義・研修計画について 3. 7・8・9月行事予定 4. 教職員健康診断について 5. クラブ活動状況について 6. 介護技術講習会報告 7. ちびっこ食農教育実践事業の概要 | 37 | 41 |
| 18 | 9 | 6 | [審議事項] 1. 学籍関係の異動について [報告・連絡事項] 1. 委員会報告 第3回・第4回 芸術祭委員会 第3回 学生生活委員会 第2回 自己評価等検討委員会 第2回 留学生委員会 2. オープンキャンパスの報告 3. 夏期休暇中行事 クラブ活動成果 4. 就職対策講座について 5. 前期試験とその処理について 6. 9月・10月行事予定 7. 国民の祝日「昭和の日」の制定について 8. 卒業アルバム用個人写真撮影所の変更について | 36 | 41 |
| 18 | 10 | 4 | [審議事項] 1. 学籍関係の異動について [報告・連絡事項] 1. 委員会報告 第3回 入試委員会 第2回 紀要編集委員会 第3回 生涯学習委員会 第5回 芸術祭委員会 第4回 学生生活委員会 第3回 留学生委員会 2. 第1回 進路状況等報告 3. 10月・11月・12月行事予定 4. ボランティアセンターの現状について | 37 | 41 |
| 18 | 11 | 8 | [審議事項] 1. 平成19年度 入学試験の合否判定について 指定校推薦試験 第1回推薦試験 (A方式・B方式) 専門学科等推薦試験 I期 (A方式・B方式) 専攻科指定校試験 専攻科試験 I期 | 36 | 41 |

| | | | | | |
|----|----|----|---|----|----|
| 18 | 11 | 29 | <p>[審議事項]</p> <ol style="list-style-type: none"> 平成19年度 入学試験の合否判定について スポーツ奨学生試験 スポーツ推薦試験 第2回推薦試験 専門学科等推薦試験Ⅱ期 社会人試験Ⅰ期 卒業生リカレント試験Ⅰ期 専攻科試験Ⅱ期 | 38 | 41 |
| 18 | 12 | 6 | <p>[審議事項]</p> <ol style="list-style-type: none"> 学籍関係の異動について 学則・細則の一部改正について <p>[報告・連絡事項]</p> <ol style="list-style-type: none"> 委員会報告 第4回 入試委員会 第3回・第4回 紀要編集委員会 第5回・第6回 学生生活委員会 第6回 芸術祭委員会 第2回 教務委員会 第3回 自己評価等検討委員会 第2回 図書館委員会 第2回 進路状況等報告 冬季・春季 集中講義・研修について 12月・1月行事予定 実習についての公欠のお願い 「文部科学大臣からのお願い」について | 36 | 41 |
| 19 | 1 | 24 | <p>[人事事項]</p> <ol style="list-style-type: none"> 平成18年度 年度途中人事について <p>[審議事項]</p> <ol style="list-style-type: none"> 学籍関係の異動について <p>[報告・連絡事項]</p> <ol style="list-style-type: none"> 委員会報告 第5回 入試委員会 第7回 芸術祭委員会 第4回 生涯学習委員会 第7回 学生生活委員会 第5回 紀要編集委員会 第3回 進路状況等報告 後期試験とその処理について 年度末行事要項について 2月・3月行事予定 CAEヨーロッパ研修旅行参加者に関するお願い 卒業式の総代選出について | 38 | 41 |
| 19 | 2 | 5 | <p>[審議事項]</p> <ol style="list-style-type: none"> 平成19年度 入学試験の合否判定について 一般試験Ⅰ期 社会人試験Ⅱ期 卒業生リカレント試験Ⅱ期 専攻科試験Ⅲ期 | 35 | 41 |

| | | | | | |
|----|---|---|--|----|----|
| 19 | 3 | 7 | <p>[人事事項]</p> <p>1. 平成18年度 年度途中人事について</p> <p>[審議事項]</p> <p>1. 平成19年度 入学試験の合否判定について 一般試験Ⅱ期 社会人試験Ⅲ期 卒業生リカレント試験Ⅲ期 専攻科試験Ⅳ期</p> <p>2. 学籍関係の異動について</p> <p>3. 細則の一部改正について</p> <p>4. 平成18年度卒業認定について</p> <p>5. 平成18年度学長表彰について</p> <p>[報告・連絡事項]</p> <p>1. 委員会報告 第8回 学生生活委員会 第2回・第3回 教育実習等委員会 第6回 紀要編集委員会 第8回・第9回 芸術祭委員会 第4回 留学生委員会</p> <p>2. 第4回 進路状況等報告</p> <p>3. 後期クラブ活動成果</p> <p>4. 学生相談実績</p> <p>5. 保健室利用状況</p> <p>6. バイオサイエンス研究センター概況</p> <p>7. 平成18年度卒業証書授与式について</p> <p>8. 年度末に係る留年者・休学者への指導について</p> <p>9. 3月・4月行事予定</p> | 37 | 41 |
|----|---|---|--|----|----|

(3) 学長もしくは教授会のもとに教育上の委員会等が設置され、規程に基づいて適切に運営されているか。

本学には、次に挙げる12の委員会が、細則の規程のもと設置され運営されている。各委員会の委員長は、一部の委員会を除き専任教育職の委員から互選により選出され、事務局と協力体制のもと適切に運営されている。委員会の結果はすべて教授会で報告され、学則改正や入学者選抜など重要事項については審議の上、決定される。本学が組織する12の委員会の種類、概要、組織および平成18年度委員会の開催状況は以下の通りである。

1) 教務委員会

「委員会設置規程」に基づき、学則及び諸規則、学科・課程・教育課程、学生の学業成績、学生の入学、休学、復学、転学、退学、除籍および卒業、また教育実習等を除く教務に関する事項について審議する。副学長及び専攻科長・学科長・一般教養・専攻の主任ならびに図書館長、事務局長、事務局各部長と教学部から選出された教職員で構成される。また、学長は常時出席する。

表VIII-4 平成18年度教務委員会開催状況

| 年 | 月 | 日 | 主 な 議 案 | 出席者数 | 定数 |
|---|---|---|---------|------|----|
|---|---|---|---------|------|----|

| | | | | | |
|----|----|----|--|-----|-----|
| 18 | 5 | 24 | 1. 委員長互選 2. 実習不適格者について 3. 今年度前期学習支援室時間割について 4. キャンパス・ハラスメントの防止に係る規程等の制定について 5. 芸術祭委員会規定の一部改正について | 1 1 | 1 1 |
| 18 | 11 | 22 | 1. 学外実習参加の条件について 2. 平成18年度後期コンソーシアム共同授業及び単位互換履修状況について 3. 今年度後期学習支援室時間割 4. 平成19年度行事予定について 5. 介護福祉士の資格取得に関する法の改正方針について 6. 同窓会名簿の管理について 7. 指定校特別奨学生が進級時の成績による学納金免除の見直しについて 8. 学則・細則の一部改正について | 1 3 | 1 1 |

2) 入試委員会

「委員会設置規程」に基づき、学生募集、入学試験に関する計画及び処理の日程、合否判定会議の原案作成、その他入学試験にかかわる重要事項について審議する。学長、副学長及び専攻科長・学科長・一般教養・専攻の主任・入試問題作成者並びに事務局長、事務局各部長と渉外部・教学部から選出された教職員で構成される。

表Ⅷ-5 平成18年度入試委員会開催状況

| 年 | 月 | 日 | 主 な 議 案 | 出席者数 | 定数 |
|----|----|----|---|------|-----|
| 18 | 4 | 26 | 1. 平成18年度 入試結果 2. 春のオープンキャンパス報告 3. 入学生アンケート報告 4. 夏のオープンキャンパスについて | 1 6 | 1 6 |
| 18 | 6 | 28 | 1. 入試時の遅刻の取り扱いについて 2. 指定校推薦依頼について 3. オープンキャンパスについて | 1 6 | 1 6 |
| 18 | 9 | 6 | 1. 専門学科等推薦入試の選考方法について 2. 入学試験実施にあたっての確認事項 3. オープンキャンパスについて | 1 5 | 1 6 |
| 18 | 10 | 4 | 1. 平成20年度 入試日程(案)について 2. 平成19年度オープンキャンパス日程(案)について 3. 進学相談会について | 1 7 | 1 6 |
| 18 | 12 | 6 | 1. 単位未履修の受験生への対応について 2. 平成20年度 入試制度について 3. 春のオープンキャンパスについて | 1 7 | 1 6 |

3) 学生生活委員会

「委員会設置規程」に基づき、学生の課外活動・集会・行事、課外研修（国内語学研修・スキー研修等）、奨学・援助、健康管理、学生寮、その他学生の福利厚生及び指導に関する事項について審議する。専攻科・学科・一般教養・専攻・コースに所属する教職員からそれぞれ1名並びに教学部から選出された教職員と総務部・渉外部より各1名で構成される。

表VIII-6 平成18年度学生生活委員会開催状況

| 年 | 月 | 日 | 主 な 議 案 | 出席者数 | 定数 |
|----|----|----|--|------|----|
| 18 | 4 | 19 | 1. 委員長互選 2. 役割分担について 3. 親睦会の反省について 4. 平成18年度第1回代議員会開催予定について 5. 「禁煙」・「学生駐車場利用許可証申請について」等の掲示 | 13 | 14 |
| 18 | 5 | 31 | 1. 学生会担当部会報告 2. 親睦会の反省について 3. 意見箱について 4. 防災訓練・マナー講座・下足箱・学生駐車場の取締りについて | 13 | 14 |
| 18 | 7 | 19 | 1. マナー講座の反省 2. 大学祭について 3. 禁煙パトロールについて 4. 下足箱について 5. 学生駐車場の取締り実施以降の状況について 6. 意見箱について | 13 | 14 |
| 18 | 9 | 27 | 1. 大学祭について 2. 禁煙パトロールについて 3. 意見箱について | 13 | 14 |
| 18 | 10 | 18 | 1. 大学祭について 2. 学生駐車場の取締りについて 3. 意見箱について | 13 | 14 |
| 18 | 11 | 15 | 1. 大学祭の反省について 2. 平成19年度学生会役員進選出について 3. 学生駐車場の取締り結果について 4. 来年度の禁煙指導について 5. 意見箱について | 13 | 14 |
| 19 | 1 | 10 | 1. 美化活動についての確認 2. 「自己防衛ハンドブック」について | 13 | 14 |
| 19 | 2 | 21 | 1. 学生会役員について 2. 親睦会について | 13 | 14 |

4) 図書館委員会

「委員会設置規程」に基づき、図書館運営、研究用図書の購入・利用に関する事項について審議する。図書館長及び専攻科・学科・一般教養・専攻並びに教学部及び図書館の教職員からそれぞれ1名で構成される。

表VIII-7 平成18年度図書館委員会開催状況

| 年 | 月 | 日 | 主 な 議 案 | 出席者数 | 定数 |
|---|---|---|---------|------|----|
|---|---|---|---------|------|----|

| | | | | | |
|----|----|----|--|---|---|
| 18 | 5 | 31 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 委員長互選 2. 平成17年度資料購入費執行状況について 3. 平成17年度図書館利用状況について 4. 平成18年度資料購入費執行計画について 5. 平成18年度図書館利用者講習会の実施について 6. 「いりーぶり」について 7. 長期休業中における特別休館について 8. 図書館施設の予約状況について 9. 寄贈本について | 9 | 7 |
| 18 | 11 | 29 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 平成18年度前期資料購入費執行状況について 2. 図書館施設利用状況について 3. 「いりーぶり」について 4. 寄贈図書について 5. 新刊図書長期貸出及び複数購入について | 8 | 7 |

5) 教育実習等委員会

「委員会設置規程」に基づき、教育実習等（中学校・小学校・幼稚園の教育実習、保育所・その他の施設の保育実習、栄養指導臨地訓練の校外実習、介護実習、企業体験実習）の専門的な研究、実習所の選定と連絡協議、実習等の計画と指導、その他実習に関する事項について審議する。副学長・事務局長及び専攻科・学科・専攻・コースに所属する教職員からそれぞれ1名と並びに本学附属幼稚園長、教学部から選出された教職員で構成される。

表VIII-8 平成18年度教育実習委員会開催状況

| 年 | 月 | 日 | 主 な 議 案 | 出席者数 | 定数 |
|----------|--------|----------|--|--------|----|
| 18 | 4 | 26 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 委員長、副委員長互選 2. 平成18年度教育実習等実施について 3. 不適格者について | 10 | 9 |
| 19 19 | 1 2 | 17 24 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 平成18年度教育実習等の反省について 2. 平成19・20年度教育実習等実施期間について 3. 学外実習に関する学生便覧の記述について | 7 9 | 9 |

6) 紀要編集委員会

「委員会設置規程」に基づき、紀要の発行に関する計画の立案、紀要の編集等についての全学的な調整、その他紀要の発行に関する重要事項について審議する。専攻科・学科・一般教養・専攻・教学部の教職員からそれぞれ1名で構成され、開催時の議題の内容に応じて委員長から要請がある場合、図書館長は適時委員会に出席する。

表VIII-9 平成18年度紀要編集委員会開催状況

| 年 | 月 | 日 | 主 な 議 案 | 出席者数 | 定数 |
|----|---|----|--|------|----|
| 18 | 5 | 17 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 委員長互選 2. 紀要32号についての報告及び反省 3. 紀要33号について 4. 編集作業分担について | 6 | 6 |

| | | | | | |
|----------|----------|----------|---|--------|---|
| 18 | 9 | 13 | 1. 紀要第33号の執筆申込者について 2. 印刷所の選択について 3. 今後の編集予定 4. 学術交流会について | 6 | 6 |
| 18 18 | 10 11 | 11 16 | 1. 印刷業者の選定について 2. 紀要第33号の提出期限原稿 3. 今後の編集予定 4. 科研費申請書類作成講習会 5. 2006年度学術交流集会 6. レフリー制について 7. 委員会の名称変更及び規定改正について | 4 5 | 6 |
| 19 | 1 | 10 | 1. 研究・活動報告一覧について 2. 校正の状況及び編集予定 | 6 | 6 |
| 19 | 2 | 28 | 1. 校正の進行状況について 2. 送付先について | 6 | 6 |

7) 芸術祭委員会

「委員会設置規程」に基づき、東海芸術祭の企画・立案、準備・運営、東海芸術祭 美術デザイン展の推進協力、その他芸術祭に関する事項について審議する。東海女子大学及び東海女子短期大学の委員で構成され、本学委員は、副学長及び専攻科・学科・専攻・コースに所属する教職員、並びに事務局長及び事務局各部に属する教職員からそれぞれ1名で構成される。

表VIII-10 平成18年度芸術祭委員会開催状況

| 年 | 月 | 日 | 主な議案 | 出席者数 | 定数 |
|----|----|----|---|------|----|
| 18 | 5 | 24 | 1. 委員長互選 2. 平成18年度の芸術祭の内容 | 9 | 10 |
| 18 | 6 | 21 | 1. 平成18年度の東海芸術祭の内容について 2. 芸術祭委員会規定について | 8 | 10 |
| 18 | 7 | 12 | 1. 平成18年度の芸術祭の内容について | 8 | 10 |
| 18 | 7 | 26 | 1. 平成18年度の芸術祭の内容について 2. 当日の授業の扱いについて | 8 | 10 |
| 18 | 9 | 13 | 1. 当日の授業の扱いについて 2. 学生、教職員、一般の観客動員について 3. スクールバス手配について 4. チラシ・ポスターの配布について | 8 | 10 |
| 18 | 10 | 25 | 1. 芸術祭当日のスケジュール 2. 学生の参加状況 3. スクールバスの運行について 4. 会場の座席について 5. 公演について 6. 収支報告 7. 来年度の芸術祭について | 9 | 10 |
| 18 | 12 | 6 | 1. 今年度芸術祭の報告事項・反省点等について 2. 来年度の芸術祭について | 11 | 10 |
| 19 | 1 | 24 | 1. 来年度芸術祭について | 9 | 10 |
| 19 | 1 | 31 | 1. 来年度芸術祭について 2. 来年度委員長、副委員長について | 9 | 10 |

8) 留学生委員会

「委員会設置規程」に基づき、海外語学研修の派遣、外国人留学生の受け入れ、そ

の他派遣・留学に関する事項を審議する。副学長及び専攻科・学科・専攻・コースに所属する教職員からそれぞれ1名、並びにコミュニケーション学科から選出された教職員2名と本学ケンブリッジ校事務局長、事務局長及び教学部・渉外部から選出された教職員それぞれ1名で構成される。

表Ⅷ-11 平成18年度留学生委員会開催状況

| 年 | 月 | 日 | 主 な 議 案 | 出席者数 | 定数 |
|----|---|----|--|------|----|
| 18 | 5 | 10 | 1. 委員長互選 2. 平成18年度CAE留学予定 3. 平成17年度CAE留学生の成績について | 7 | 7 |
| 18 | 7 | 19 | 1. CAE留学プログラム変更について 2. CAE留学生の成績 3. 各プログラムの応募状況 | 7 | 7 |
| 18 | 9 | 27 | 1. 新プログラムにともなう単位認定について 2. 各プログラムの進行状況について | 5 | 7 |
| 19 | 2 | 21 | 1. 各研修プログラム進捗状況について | 6 | 7 |

9) 自己評価等検討委員会

「自己評価等検討委員会規程」に基づき、自己点検・評価項目の設定、点検・評価項目の具体的実施方法と体制の整備、評価結果に基づく改善案の作成、21世紀の展望に立つ将来構想案の作成、その他本学に関する重要な事項について審議する。理事長、学長、副学長、専攻科長・学科長および一般教養・専攻の主任ならびに図書館長、事務局長、事務局各部長及び教学部から選出された教職員1名で構成される。

表Ⅷ-12 平成18年度自己評価等検討委員会開催状況

| 年 | 月 | 日 | 主 な 議 案 | 出席者数 | 定数 |
|----|----|----|--|------|----|
| 18 | 5 | 24 | 1. 副委員長互選 2. 第三者評価への対応について | 12 | 12 |
| 18 | 7 | 19 | 1. 第三者評価への対応について | 13 | 12 |
| 18 | 11 | 22 | 1. 自己点検・評価報告書の作成方法について 2. 今年度後期授業アンケート実施方法等について 3. 卒業予定者向け学生生活に関するアンケートの実施について | 13 | 12 |

10) 生涯学習委員会

「生涯学習委員会規程」に基づき、地域社会への貢献を目的とし生涯学習や資格取得に関する講座の企画・立案及び実施する各種講座の統括と運営を行う。生涯学習センター長、統括責任者、学科長、一般教養・専攻の主任、事務局長、事務局各部長及び教学部から選出された教職員1名で構成される。

表Ⅷ-13 平成18年度生涯学習委員会開催状況

| 年 | 月 | 日 | 主 な 議 案 | 出席者数 | 定数 |
|----|---|----|---|------|----|
| 18 | 4 | 19 | 1. 平成17年度生涯学習センター収支報告 2. 平成18年度春講座について | 12 | 11 |

| | | | | | |
|----|----|----|--|----|----|
| | | | 3. 平成18年度公開講座（秋）案について 4. 平成17年度秋講座分析 5. 平成18年度生涯学習センター課題について 6. 生涯学習センター広報体制について | | |
| 18 | 6 | 21 | 1. 平成18年度春講座状況報告 2. 平成18年度秋講座案について | 10 | 11 |
| 18 | 9 | 13 | 1. 講演会について 2. 平成18年度春講座状況報告 3. 平成18年度秋講座申し込み状況 4. 平成18年度秋講座役割分担 5. 公開講座アンケート結果について | 13 | 11 |
| 18 | 12 | 20 | 1. 平成18年度春講座収支報告 2. 平成18年度秋講座状況報告 3. 平成18年度公開講座状況報告 4. 平成19年度春講座一覧 | 12 | 11 |

1.1) 人権委員会

「人権委員会規程」に基づき、人権に関する認識の徹底と指導、キャンパス・ハラスメントをはじめ人権侵害の防止及び排除のための措置、人権侵害の実態調査及び情報収集、人権侵害に起因する問題が生じた場合の処分・処置の原案の作成、相談員の任務にかかる具体的事項、相談員の行った対応についての確認及び検討、調査委員会の設置、その他人権に関する重要な事項について審議する。副学長、事務局長、教学部長、学科長もしくは学長の任命するもので構成され、また、少なくとも女性が半数を占めるよう組織される。

1.2) バイオサイエンス研究センター運営委員会

「東海女子大学・東海女子短期大学バイオサイエンス研究センター規程」に基づき、管理運営、事業計画、その他必要な事項に関して審議する。東海女子大学及び東海女子短期大学の専任の教員のうちから選出された各1名、所長、センター研究部門から各1名、その他委員会が必要と認める者で構成される。

(評価項目3) 事務組織が整備されていること

(1) 短期大学の事務部門の規模は適当か。また事務職員の任用は適切に行われているか。

東海女子短期大学の事務組織は別紙組織図のように、総務部に4名、教学部に16名（寮監4名含む）、渉外部に8名、図書館に5名が配置されている。人数の配置は適切であると考えられるが、事務職33名中、教員との兼務者が9名、非常勤職員が5名、派遣社員5名、寮監4名と専任事務職10名は、けっして多くはない。これは、平成20年度に予定される短大部への名称変更と、それにとまなう事務局再編が予定されているため、臨時的職員の割合が高くなるのは、やむを得ない状況と考える。

また、任用については、教職員任用規程に則り、適切に行われている。

(2) 短期大学の事務部門は事務諸規程等を整備し、それらの規程に基づいて適切に業務を行っているか。

本学は昭和42年に東海女子短期大学事務分掌規程を制定し、その後実態に応じ改正し、現在に至っている。また、個々の事務分担は、毎年4月に課ごとに分担表を作成し総務部が管理している。学生には便覧に記載し、ガイダンスで周知が図られているが、学生満足度調査の結果から、わかりにくい部分があることが判明した。各課の窓口に業務内容を明示する案内を設けるなど、改善を図っている。

(3) 事務処理のための事務室、情報機器、施設・備品等は整備されているか。

本学事務局は、1号館1階玄関横に第1事務局があり総務部及び渉外部渉外課が設置されている。第1事務局から通路をはさみ、奥に第2事務局があり教学部が設置されている。他にも7号館1階に渉外部就職課、図書館2階に図書館事務室、情報館2階に情報館事務室があり、それぞれ十分な広さを備えている。また、事務用パソコンは1人1台が割り当てられ、そのほとんどがOSにウィンドウズXPを使用し、各パソコンは学内LANで結ばれている。入試や学生情報を一括管理するサーバーは、専用のコンピュータ室に設置され、入室者を限定し管理されている。ほとんどの事務室にコピー機、FAX等が整備されている。

(4) 決裁規程に従って決裁処理が適正に行われているか。また公印や重要書類・データの管理、防災対策、情報システムのセキュリティ対策は適切か。

1) 決裁処理

本学のすべての起案文書は、学校法人神谷学園文書取扱規程に則り、各学科や事務局各部課より総務部長・学長の決裁を経て、法人本部事務局長・理事長の決裁を得るシステムになっている。

2) 公印管理

公印は学校法人神谷学園公印取扱規程に則り管理する。短大では、総務部長および教学部長が管理し、業務終了後はキャビネット内に収納し施錠している。

3) 重要書類・データの管理

文書については、学校法人神谷学園文書取扱規程第5章文書の整理及び保管や学校法人神谷学園文書保存規則、さらに学校法人神谷学園における個人情報の保護に関する規程に則り、厳重に管理されている。

4) 防災対策

法令に定められた防火設備の点検等を除き、本学の主な防災対策を挙げると以下のとおりである。

①2年に1度、地震や火災を想定した全学避難訓練を実施している。これは、学生への予告なしに授業中に緊急放送を入れ、授業を中止し避難させるものである。各教室

には避難経路が明示され、それに沿って行動する。（学生寮については毎年実施している）

②学生には、入学時に自己防衛ハンドブックが配布され、近い将来起こると予想されている東海地震を念頭に地震防災対策を周知させている。

③事務局においては、緊急持ち出し箱を用意し、緊急時に持ち出す重要書類（学籍簿等）が事前に決められている。

④昭和時代の電子化以前の学籍簿については、現在電子化の作業を進めているところである。

5) 情報セキュリティ対策

学内パソコンからネットへのデータ流失を防ぐため、学生情報を管理する学内LANはネットへの接続を許可しておらず、パソコンをネット接続機と分けて管理している。また、教職員・学生情報について、印刷は最小限に留め、データの学外への持ち出しを禁じている。事務局のすべてのパソコンに最新のウイルス対策ソフトをインストールし、ウイルス・スパイウェア対策にも万全を期している。

（5）事務職員及びその組織は学生から支持され信頼されているか。

平成16年度に学園改革プロジェクトの命を受け、全学的に学生満足度調査を実施した。その結果、「事務局職員の言葉遣い・態度は適切である」の項目については比較的高い評価を得た。したがって、事務局の学生への対応は問題ないと考える。しかし、アンケート結果の中には、「利用しやすい体制でない」と回答した学生の割合が37%と、対応を迫られる項目もあった。大きな理由は前述（3）のところで述べたように事務局が分散し、用件により事務局間を行き来することが必要になることなどが考えられる。その後、以下のような改善を行った。

①用件によりできるだけ1つの窓口の対応だけで済むように業務分担の見直しを行った。

②カウンターに業務内容を明示し、わかりやすい窓口にした。

③就職活動アンケートを実施し、学生支援対策を充実させた。

この他、以前から「意見箱」を設置し、学生の意見を業務に取り入れられないか、常に検討している。

（6）事務部門にSD活動等を行う組織を設け、日常的に業務の見直しや事務処理の改善に努力しているか。具体的には事務職員の能力開発、事務能力の向上のため内部研修、外部への研修が活発に行われているか。

今日、大学事務職員の役割も変化し、大学の組織としての意思決定とその執行を支える人材の育成の必要性が叫ばれるようになった。こうした意味での本学の取り組みは、十分ではなく、組織を設けて実施するには、至っていない。しかし、平成16年に発足した学園改革プロジェクトチームの中でも、「カリキュラム調整」・「新学科設置」・「事務局一体化」・「人事」の各プロジェクトは、事務職員が中心的役割を

果たしており、SD活動の意義を十分備えたものであるといえる。

なお、以下に平成17年度・平成18年度の事務職員の研修会等の参加状況を記載する。

表VIII-14 平成17・18年度事務職員対象研修会参加状況

| 研修期間 | 職名 | 研修名等 |
|--------------|----------|-------------------|
| 17.5.31～6.1 | 渉外課長 | 経常費補助金事務研修会 |
| 17.5.16 | 教学部長 | 東海北陸学生指導研修会 |
| 17.5.24 | 図書館長補佐 | 私大図書館協会西地区部会東海会議 |
| 17.6.23 | 総務課員 | 私学共済事務担当者会議 |
| 17.7.20～7.22 | 学生課主任 | 学生指導研究会東海地区研修会 |
| 17.9.7～9.9 | 就職課長 | 私立短大就職担当者研修会 |
| 17.8.25～26 | 渉外部次長 | 岐阜県学生就職対策研修会 |
| 17.8.25～26 | 就職課長 | 岐阜県学生就職対策研修会 |
| 17.11.25 | 教学部次長補佐 | 東海北陸地区学生指導研究会 |
| 18.5.13～9.30 | 総務課員 | 労働衛生管理者講座 |
| 18.5.23 | 教学部次長 | 補助金事務説明会（入門編） |
| 18.5.23 | 総務課員 | 補助金事務説明会（入門編） |
| 18.6.7 | 渉外課主任 | 入試選抜教務研修会 |
| 18.6.7 | 教学部長 | 認証評価研究会 |
| 18.6.26 | 就職課長 | 雇用対策懇談会 |
| 18.7.4～7.6 | 図書館司書 | 初任者研修会 |
| 18.9.4～9.6 | 渉外部次長 | 私立短大就職担当者研修会 |
| 18.8.3 | 総務課主任 | 岐阜県私立短大協会事務担当者研修会 |
| 18.8.3 | 学生課主任 | 岐阜県私立短大協会事務担当者研修会 |
| 18.8.3 | 総務課員 | 岐阜県私立短大協会事務担当者研修会 |
| 18.8.23 | 教学部長 | 同和問題研修会 |
| 18.8.24 | 教学部次長補佐 | 厚生補導研修会 |
| 18.8.24～25 | 渉外部次長 | 岐阜県学生就職対策研修会 |
| 18.8.24～25 | 就職課長 | 岐阜県学生就職対策研修会 |
| 18.9.13 | 総務課員 | 全国労働衛生週間講習会 |
| 18.9.27 | 総務課員 | 禁煙指導者研修 |
| 18.10.21 | 渉外課課長補佐 | 入試広報担当者セミナー |
| 18.12.19 | 図書館事務長補佐 | 地域人権問題講習会 |

(評価項目4) 人事管理が適切に行われていること

(1) 学校法人は教職員の就業に関する規程(就業規則、給与規程等)を整備し、それらを教職員に周知するとともにそれらの規程に基づいて適正に処理しているか。

教職員の就業に関する規程「就業規則」「給与規程」等を整備の上、全教職員に配布し周知徹底している。なお、5時限目の授業に対応する時差出勤や労働基準法改正にともない福利厚生面で改正が必要になったため、平成19年4月改正に向け、必要な手続きがとられているところである。

(2) 学校法人(理事長、理事会)と教職員は、互いの立場を尊重しつつ協力する体制が整っているか。

理事長は、毎回の教授会に出席し、必要に応じ理事会の方針や開催結果を説明する。また、1号理事でもある学長は、理事長を補佐する立場でもあるため、理事長・理事会と教授会の橋渡し役を務める。平成20年度から東海女子短期大学は、東海学院大学短大部に名称変更し、学科の再編が行なわれているところであるが、この決定の経緯は、決して理事会の一方的なものではなく、学科長・部長クラスで組織された、短大将来構想プロジェクトで十分な議論が行われた後、答申を参考の上になされた決定である。この決定後の教授会では、理事長より丁寧な説明があり、全教職員の理解を得ることができた。そういった経緯からも、互いの立場を尊重しつつ、協力する体制であるといえる。

(3) 教員と事務職員が互いの立場を尊重しつつ緊密に連携する雰囲気が醸成されているか。

項目3の(1)の事務部門の欄で述べたように、事務職員33名中教員との兼務者が9名と双方の考え方が理解できる立場の者が事務組織の中に多い。これは、教員と事務職員の兼務者は職務が多忙になる傾向があり、問題がなくはないが、教員と事務職員の関係を良好に保つことに役立っている。

(4) 教職員の健康管理、就業環境の改善、就業時間の順守等は配慮されているか。

1) 教職員の健康管理については、毎年、全教職員に対して学内で健康診断を実施し、受診結果の内容についても看護資格を有する保健室担当職員が相談・指導等のアフターケアを行っており、健康管理上の配慮は、十分なされているといえる。

2) 就業環境について、かつて残業が目立った部局には、優先的に派遣社員を配置し、改善された。土曜休業にともない5時限目を導入したが、事務局は時差出勤により対応した。時期的に残業が避けられないケースは、申請により残業手当を支給することになっている。

◇ 管理運営についての特記事項

(1) 以上の評価項目以外に管理運営について努力している事項。

1) 教職員の人事考課の導入

本学園は、平成16年度に法人企画室の主導で、給与規程を大幅に改正し、年齢と職位で給与が決まる制度に移行した。これは一方で公平すぎるが故の不公平を生む事態となることを予想し、同時に教職員の人事考課導入を検討した。平成16年度に設置された学園改革のプロジェクトでは、人事考課の導入を検討する人事プロジェクトが、メンバーに元企業の人事担当者2名を加え設置された。半年間の検討を経て作成された人事考課表は、平成16年度末より試験導入の運びとなった。教員については、人事考課がなじまない部分がないとは言えないが、学科長を一次考課者とし結果のフィードバックを含め、2年間実施したところである。人事考課の導入は、なれ合いになりがちな事務局職員の関係を見直し、また自己評価をすることにより、教員・事務職員ともスキルアップを目指すよい機会となった。平成18年度は、分析・検討期間として休止したものの、今後あらためて教員・職員とも実施していく予定である。

2) 教員の職位の外部評価

大学の教員は、設置基準が示す職位にそれぞれが位置づけられるが、大学や学科の新設等の機会が無ければ、文部科学省の設置審議会による教員審査は行われぬ。1)の項目で述べたように、平成16年度の給与規程の大幅改定の際、現在の教員の職位が適正かどうか問題になった。そこで、全教員にあらためて文部科学省様式の履歴書・研究業績書を提出してもらい、外部機関に職位の審査を依頼した。結果は一部の教員に問題があったものの、概ね問題がないことがわかり格下げ等の事態は免れた。そうしたことから、毎年教員の昇格候補者については、外部機関の意見も取り入れ検討することにしている。これは、公平性の観点だけでなく、大学が位置づける職位の妥当性からも重要と考える。したがって、この方法は、今後も継続していく予定である。

(2) 特別の事由や事情があり、以上の評価項目及び評価の観点の求めることが実現(達成)できない事項。

特になし

IX 財務

(評価項目1) 財務運営について

(1) 「中・長期の財務計画」を策定しているか。

学校法人神谷学園「中期財務計画」参照（3月中に完成予定）

本学園では大学、短期大学あがでの改組転換を計画し、平成20年度開設を目標に文科省、厚労省に認可手続き中であり、これに基づき作成した。

なお完成年度は23年度であり、当面それまでの計画とし、途中の推移を見ながら次の計画に進んで行く方針である。

(2) 毎年度の事業計画及び予算決定に至る過程、手続きについて

毎年1月下旬までに各部門（大学、短大、幼稚園）から提出される事業計画に基づき法人本部においてヒヤリングを行い予算案を作成し、3月下旬に行われる理事会に翌年度の事業計画、予算を上程し承認を得るようにしている。

(3) 決定した予算の伝達方法、予算執行に係る経理、出納の業務の流れについて

整備している規程名

学校法人神谷学園経理規程

〃 資産運用管理規程

〃 勘定科目取扱要領

予算決定後に短大へ決定の内容を伝達しこれに基づき、案件毎に稟議手続きにより理事長承認を得た上で予算の執行をしている。なお当初予算外のものが発生した場合においては随時稟議手続きにより、理事長承認を得た上で予算の執行をしているが、これらにより予算の補正手続きが必要となった場合は補正予算を組み理事会の承認手続きを得るようにしている。

また、年間10回前後開催される評議委員会、理事会において直前月までの月次報告を行い年度途中の財務状況について関係者への周知を計るようになっている。

(4) 過去3ヵ年(平成15年度～17年度)の公認会計士監査状況、公認会計士の監査と監事の連携、及び公認会計士から指摘を受けた事項とその対応について

公認会計士と監事の連携

公認会計士により、年14回～19回程度監査が行われている。過去3ヵ年の監査状況は表IX-1のとおりである。公認会計士は監査の方針、結果(途中経過報告含む)について期中監査、期末監査の際に監事に報告している。

監事は収支報告及び財務諸表について、関係法令等に準拠し、適正に処理されているか等について公認会計士より聴聞を行い疑問点等あれば関係帳票類を閲覧する等して監査をしている。

公認会計士からの指摘事項

公認会計士から特段指摘を受けた事項はない。

(5) 財務諸表の公開は今までどのように行ってきたか。また私立学校法第47条第2項に基づき、財務情報の公開をどのように実施しているか。

財務情報の公開は平成15年度分より学内報の“Kamiya Gakuen News Letter”に掲載し、大学、短大、本部の各受付カウンターに置き希望者が各自、自由に閲覧し、持ち帰ることが出来るようにしている。

平成15年度分 H. 16.12.28 発行 News Letter No.2 掲載

平成16年度分 H. 17.12.20 発行 News Letter No.3 掲載

平成17年度分 H. 18.12.20 発行 News Letter No.4 掲載

私立学校法第47条第2項に基づく財務諸表の公開については平成16年度分以降に本部において閲覧できるようにしている。希望者には、「学校法人神谷学園財務書類閲覧規程」に基づき「財務書類等閲覧申請書」に必要事項記入の上閲覧できることとしている。また、現在ホームページでの掲載を検討中であり、出来るだけ早い時期に実施したいと考えている。

(6) 寄附行為に基づきどのような基本方針で資金等の保有と運用をしているか。

基本方針は“元本回収の確実性の確保”であるが同時に“支払準備資金としての流動性の確保”を考慮すると共に、昨今の低金利時代がまだまだ続くと考えられる状況から、定期預金のみならず、有価証券での運用も上記2点を考慮の上、資金運用の効率性を高めるよう努力している。

整備している規程名

学校法人神谷学園資産運用規程

(7) 寄附金・学校債の募集を行っているか。

寄附金・学校債の募集を行っていない。

(評価項目2) 財務体質の健全性と教育研究経費について

(1) 過去3ヵ年(平成15年度～17年度)の資金収支計算書・消費収支計算書の概要

別表参照

(2) 平成18年3月31日現在の貸借対照表の概要

別表参照

(3) 財産目録及び計算書類(資金収支計算書、資金収支内訳表・人件費支出内訳表・消費収支計算書・消費収支内訳表・貸借対照表・固定資産明細表・基本金明細表)について

別表参照(平成15年度、16年度、17年度分)

(4) 過去3ヵ年(平成15年度～17年度)の短期大学における教育研究経費比率(消費収支計算書の教育研究経費を帰属収入で除した比率)

別表参照

(評価項目3) 施設整備の管理について

(1) 関係規程

- ・ 学校法人神谷学園固定資産及び物品管理規程
- ・ " 経理規程
- ・ " 第5章.固定資産会計
- ・ " 第6章.物品会計
- ・ " 勘定科目取扱要領
- ・ " 年度末棚卸実査要領
- ・ " 特別研究費支給規則
- ・ " 文書保存規則
- ・ 東海女子短期大学施設の使用に関する管理規程
- ・ " 体育施設管理規程
- ・ 東海女子短期大学講堂兼体育館使用に関する内規
- ・ 東海女子大学、東海女子短期大学附属図書館の大ホール、大セミナー室の施設使用規則
- ・ スポーツ寮施設利用に関する規程

(2) 火災等の災害対策等、以下の危機管理対策についての現状

「東海女子短期大学防災規程」に基づき対応策をとっているが個々の対応については以下の通りである。

① 火災等の災害対策

火災等の災害や避難対策については消防計画を策定し、それに基づき対応しているほか、教職員に緊急時の連絡網を作成、学生便覧に防災規程を記載する等により、緊急時に対応できるようにしている。また、災害発生時の学生等への周知については、インターネット上に携帯電話用の緊急サイトを整備している。

消防用設備等については、消火栓・火災報知設備・消火器等が適切に整備され、消防法に基づく点検を6ヶ月に1回実施し消防署長に報告している。また、年2回のボイラー点検整備、毎月のエレベーター点検整備等、災害を未然に防ぐための対策を実施している。

学生の送迎等に使用されるバスについては車両の検査はもとより、消防法の観点から消防署員による検査も定期的にも実施している。

② 防犯対策

学内の各所にタイマー付の照明や人感センサー付のスポット照明を配置し、夜間の防犯対策としているほか、特に必要と思われる施設には警備会社による機械警備を依頼している。また、学生寮全室に懐中電灯を整備し防災・防犯に役立てている。

③ 学生、教職員の避難訓練等の対策

寮学生を対象とした避難訓練等、年1回以上の避難訓練を実施しており、消防署と連携することにより、各消防設備使用方法の実践や消防士による講演も実施している。また、全ての教室に災害発生時の避難経路図を掲示しており、避難経路の周知に努めている。

④ コンピュータのセキュリティ対策

コンピュータのセキュリティ対策については、「学校法人神谷学園事務系情報システム管理規程」を策定し、サーバや端末機の管理を始め、施設に関する物理的な対策、プリンタによる印刷物の管理等に至るまで明確に規定し、それに基づいて下記のとおり適切な運営をしている。

学籍・成績等の個人情報を取扱うことができるコンピュータについては、インターネット系統とは物理的に配線を別系統とすることにより外部（インターネット）との接続を遮断している。インターネットに接続が可能なコンピュータについてはOSのセキュリティホールを塞ぐための更新を自動的に実施しているほか、授業及び事務局で使用するコンピュータにはインターネット接続の可否を問わずウィルス対策ソフトを導入しており、常に最新の状態に保つことによるセキュリティ対策を実施している。

なお、個人情報については、個人情報の保護に関する基本方針に基づき適正に利用及び保護されている。

⑤ 省エネ及び地球環境保全対策

空調設備については、効率の良い省エネタイプの機器への順次切り替え、空調機の効率維持のため定期的な配管の点検及び修繕、適切な温度の設定等の対策をしている。また、空調機の切り忘れを防ぐため、主要な教室等の空調機については集中管理が可能となっている。

照明器具については、点灯時間・点灯頻度等を考慮し蛍光管と電球を使い分けているほか、高効率タイプのランプを使用することにより省エネに努めている。また、授業終了時の消灯を心がけており、教職員に省エネの意識を徹底している。

地球環境保全対策としては、備品等の廃棄の際にはできるかぎりリサイクルが可能な処理方法を業者に依頼しているほか、リサイクルペーパーの導入を検討している。

⑥その他

学生に自己防衛ハンドブックを配布し、防災・防犯に対する意識啓発のみならず、様々な事案に対しての指導を実施している。

X 改革・改善

（評価項目1） 自己点検・評価活動の実施体制が確立していること

（1）自己点検・評価のための規程及び組織を整備し、定期的に自己点検・評価を行っているか。

平成3年の「短期大学設置基準の改正」に伴い、本学は平成4年5月に「東海女子短期大学自己評価等検討委員会規程」を定め、自己点検・評価を実施し教育研究水準の向上を図る組織を整備し、平成11年、14年及び今回の平成18年に自己点検・評価報告書を作成した。

しかし、委員会規程には点検周期が明記されていないので、第三者評価に即した規程の見直しを検討することが必要である。

（2）定期的に自己点検・評価報告書が公表されているか。

今回を含めた過去3回の報告書は、全国の大学・短大に配布しているが、厳密な意味での公表とは言い難いので、今後、公表の方法等を検討する必要がある。

（評価項目2） 改革・改善のためのシステム構築への努力がみられること

（1）自己点検・評価活動には出来るだけ多くの教職員が関与するよう配慮されているか。

平成20年度に第三者評価を迎えるに当たり、平成17年度より準備段階に入り、各学科長・専攻長・各部長が主要メンバーである自己評価等検討委員会を中心に問題点の抽出及び改善に向けての方策が検討され各学科・専攻・各部署の全教職員が従来以上に深く関与することができる体制となってきた。

しかしながら、各人の認識については若干の温度差があるのは否定できないので、平成20年度評価を機に足並みをそろえ、共通認識にて評価を受けたい。

（2）自己点検・評価の成果を出来るだけ活用するよう配慮しているか。

今回の報告書を含めた過去3回の報告書は、全国の短大に配布し、厳密な意味での公表とは言い難いので、今後、方法等を検討する必要がある。

（評価項目3） 相互評価（独自に行う外部評価を含む。以下、評価の観点も同じ）への取り組みに努力していること。

（1）前の第三者評価から今回までの間に相互評価を実施したか。

平成10年に、京都市にある華頂短期大学との間で、相互評価の協定書を取り交わしたが、平成14年に華頂短期大学（学校法人華頂学園）が仏教大学（学校法人浄土宗教教育資団）と法人合併するのに伴い、協定が白紙に戻り、それ以来、他大学との相互評

価はなされていない。

しかしながら、独自の外部評価としては、平成18年7月25日に「財団法人日本開発構想研究所」によるコンサルティングを受け、また、今回の報告書をもとに同「財団法人日本開発構想研究所」に外部評価を依頼する予定である。

(2) 相互評価のための規程及び組織を整備し、定期的に相互評価を行っているか。

相互評価及び外部評価をするための規程は整備されていないので、定期的に外部評価を受ける規程を検討中である。

(3) 相互評価の成果を出来るだけ活用するよう配慮しているか。

平成20年度に第三者評価を受ける予定なので、外部評価による成果を下に、極力指摘された問題点の改善に取り組み、自己評価等検討委員会を中心に活用するつもりである。

◇ 改革・改善についての特記事項

(1) 以上の評価項目以外に改革・改善について努力している事項。(例えば、教員及び職員に対する研修の実施など)

自己評価等検討委員会が中心となり、改革・改善の立案や企画等を行っているが、平成18年度には第1回FD(授業改善)が企画され、学長が講師となり実施した。今後も毎年FD(授業改善)の企画をする予定である。

(2) 特別の事由や事情があり、以上の評価項目及び評価の観点の求めることが実現(達成)できない事項。〈将来計画の策定(自由記述欄)〉

平成20年度には学園の改組に伴い、本学は併設の東海学院大学の短期大学部となり、既存の4学科1専攻・1専攻科の中で、3学科が学部化及び廃止され、1学科1専攻・1専攻科のみの体制となる予定である。また、今後の改組も流動的で未確定の要素もある。

したがって、中期・長期の計画策定する上での困難さを痛感している。

東海女子短期大学・平成 18 年度版・自己点検・評価報告書について

(評価)

報告書そのものは基本的に各項目にわたってよく点検されており、各学科・専攻の教員も「Ⅱ 教育の内容」「Ⅲ 教育の実施体制」「Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果」から授業への取組みに対して教職員が真剣に取り組んでいる様子が伺える。ただ結果として資料(過去7年間の改廃状況、入学者数、定員充足率)に見られるように、コミュニケーション学科、初等教育専攻、介護福祉学科は厳しい状況に置かれている。この原因、理由について、報告書においてももう少し分析しておく必要がある。「Ⅱ 教育の内容」の項に見られる学生による授業評価結果からは専任教員、非常勤教員とも高い得点をマークしている。授業評価が高いという結果であるにもかかわらず、食物栄養学科、幼児教育専攻以外には学生が集まらなくなっている。それはなぜだろうか。「Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果」の評価項目2としてあげている「授業に対する学生の満足度について」の調査結果を読むと、そこに低迷する学科、専攻の学生が来なくなっている理由、原因が隠されているようにも見える。改組転換など将来計画も視野に入れ、改善に役立てたいところである。

全般的に細目にわたって点検された報告書であるが、以下の2点について、今後検討すべき課題としてあげておきたい。

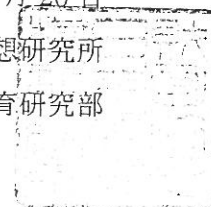
一つは大学審のときから指摘されてきた「成績評価」についてである。報告書の「Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果」に記載されている各学科・専攻ごとの成績評価が教員、分野によって相当のばらつきが見られものの、ほぼ履修生の100パーセントが「優」という結果も目立っている。大学生の学力低下が叫ばれている昨今にあっては、この成績評価の付け方を、学内でもっと検討していただく必要がある。またシラバスにおいても科目によって評価基準について多少ルーズな記載が見られる。

もう一つは専任教員の研究業績である。「Ⅵ 研究」の記載からは、過去3カ年に論文発表あるいは学会発表が見られないという方々が結構おり、研究をすることで成果を授業に反映させる、社会に還元していくという流れをつくっていただく必要がある。FDの課題でもある。今後の自己点検・評価を期待したい。

以上

平成 19 年 3 月 20 日

財団法人 日本開発構想研究所
高等教育研究部



東海女子短期大学
2006年版 自己点検・評価報告書

発行日:平成19年3月30日発行

編 集:東海女子短期大学自己評価等検討委員会
発 行:東海女子短期大学
〒504-8504 岐阜県各務原市桐野町2
TEL:(058)382-1148・(058)246-0490
FAX:(058)383-5455
印 刷:合同印刷株式会社
